大リニューアル!! テーマは「アメリカ」と「世間」だ!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

アメリカはうまいぞ!!

enterbrain MOOK

2008

126

880yen

所ジョージ×所英男／高山善廣のアメ車
町山智浩とステロイド映画／青木真也、アメリカを語る
ダナ・ホワイトとTシャツ屋／ターザン山本は生きていた!
秋山成勲とマイケル・ジャクソン／ラバーガードとマリファナ
武藤敬司とマサ斎藤と監獄ロック／日米150年間の不平等な関係

MMA超大国が日本に与える光と影——!!

アメリカ、いいかもしんない

2008 No.126 CONTENTS

kamipro

表紙写真／タイコウクニヨシ

大リニューアル、第一弾のテーマはこれだ!!

〝正義〟と〝闇〟の国 アメリカ

ファンタジーを超える
〝リアル・アメリカ〟にシビれろ!

HELLO AMERICA!!

kamipro Special

vs SEKEN

Columns

格闘技超大国の光と影にどう向き合うか?

日本を知るために アメリカを知ろう!!

ジェイソン・“メイヘム”・ミラーの写真／ハリウッドにて坂井ノブが撮影

ヘロ〜〜〜、アッメリ〜カ!!!!（懐かしの髙田延彦PRIDE統括本部長調）。

こんにちは〜、編集長のジャン斉藤です。今月号から、『kamipro』は大リニューアルをいたしました。何がどう変わったかといえば、毎号何かしらのテーマをいくつか設定して、そこからプロレス・格闘技界の現状や、はたまた〝闘いの本質〟、〝人間のあり方〟といったことまでを探っていこうと考えてます。いわゆる〝特集主義〟ってヤツですね。

そのためG1クライマックスやハッスルGPなどの試合結果、大会前煽りを主目的としたインタビューといったものは、ますます携帯サイト『kamipro Hand』や、本誌オフィシャルウェブサイトの『kamipro.com』にお任せすることになります。

今号から、そういうものはたぶん『kamipro』本誌には載らないと思います。載ってないんじゃないかな。ま、ちょっとは覚悟しておけ（さだまさしの『関白宣言』調）。もちろん、ターザン山本!があの夢香姫のさまざまな疑惑について語るといったようなブラック・ビューティフルな企画は、本誌の専売特許のままですので、ご安心を。

さて、今月号のテーマの一つは、いまの日本マット界が決して避けては通れない格闘技大国「アメリカ」です。強くて、凄くて、おもしろくて、そのために歪んで、病めるアメリカ合衆国を、80ページにも渡って特集します。余談ですが、スケボーに乗った写真の男は、ジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーです。

どうしてアメリカなのか――。いまさら言うまでもなく、アメリカという国の光と影は、これまで日本マット界にあらゆる影響を与えてきました。

たとえば、WWEのカミングアウトという大津波によって、日本のプロレス界はこの期に及んで〝呪い〟を解けないままだったりします。

一方、MMAにおいては、ここ数年のアメリカのイメージは日本の格闘技界や格闘技ファンにとって〝恐怖〟でしかなかった。PRIDEを消滅に追い込み、UFCの日本中継はなんの前触れもなく中断。有名ファイターは次々に日本を離れてアメリカへ渡る。我々には「ギブミー・チョコレート！」と叫ぶ間もなかったのです。

日本を知るためにアメリカを知る。

今年の10月よりWOWOWのUFC中継が再開されることもあって、〝日本マット界のこれから〟を考えるうえでも、しっかりとアメリカに向き合う時期が来たと本誌は考えます。無視したり必要以上に恐れたり、逆に「アメリカではこうなんだから……」なんて迎合するより、いかにして利用するか知恵を絞ろうぜ！　ということですね。

だから、ただただマニアックなMMAの情報が載っていたり、一方的に羨望の眼差しをアメリカに送ったりする特集ではありません。

それは、シカゴのバーにマサ斎藤をイメージしたカクテルが生まれた理由だったり、6歳児がMMAを始める環境があるアメリカに太刀打ちできるのかを考えたり。はたまたラバガードとマリファナを一緒に味わえてしまうインタビューもあったり、ダナ・ホワイトを通してアメリカの横暴さを感じたり……。

もしかしなくても、それぞれの記事はアメリカという巨大国家の一面にしかすぎません。今回の特集でわかることといえば、アメリカという国のわからなさだったりするでしょう。

わからないことが、わかる。

それは、アメリカという〝底が丸見えの底なし沼〟を感じることでもあります。

秋山成勲は、自身の韓国でのスターぶりを「マイケル・ジャクソン」と評しました。そのボンヤリとした、かつ時代遅れな表現に失笑をもらした方もいらっしゃるでしょう。しかし、おそらく我々のアメリカ観も、あまりにもアメリカという国が身近すぎて、秋山のマイケル観同様にボンヤリとしているんじゃないのか――。

そのボンヤリとしたマイケル・ジャクソンという霧を払ったときに、初めて日本マット界が向かう道が見えてくる！と本誌は考えます。

"遊びの達人"所さんが所くんに人生の楽しみ方を伝授!

アメリカ人になっちゃおう!

リニューアル記念、スペシャル対談! 格闘技界と芸能界のダブル所さんのそろい踏みがここに実現! アメ車マニアで、アメリカの雑貨が大好き、そしてライフスタイルもアメリカン。そんなアメリカ特集にピッタリな所さんの仕事場兼遊び場である世田谷ベースに、所くんと一緒におジャマしてきました!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／タイコウクニヨシ

HELLO AMERICA!!

ル所さん"スペシャル対談

TOKORO TOKORO

所英男×所ジョージ IN 世田谷ベース

GAYA BASE

リニューアル記念"ダブル

HIDEO T
GEORGE
IN SETAGA

ジョージ （奥から現われて）あれ〜、もう来てたの。
英男 あ、おひさしぶりです！
ジョージ ひさしぶりだね。前に会ったとき「ウチに遊びに来れば？」とは言ったけど、なかなか来づらい？
英男 やっぱり僕には敷居が……。
ジョージ 敷居なんか高くないよ。だって、普段はたいがいこのへんウロウロしてるよ。近所の人たちとも話したりして。
英男 あ、そうなんですか？
ジョージ そうだよ。でも、所くんは照れ屋だからな〜。
英男 ああ、はい（笑）。
ジョージ で、今日はこの対談をして、格闘技以外の所英男を見てもらおうという魂胆？
英男 いや、『ｋａｍｉｐｒｏ』さんに対談を組んでいただいたんで、ぜひ、お願いしたいな、と思って。
ジョージ あ、雑誌社の人が、見る層を広げたい、売り上げ部数を伸ばしたいって魂胆か（笑）。
英男 いやぁ、それは……（笑）。
――そういう魂胆でございます（笑）。もともとお二人が知り合うきっかけはなんだったんですか？
ジョージ それは名字が同じだったからだよね。俺は芸名だけど、「あ、同じ名前なんだ」っていうのでまず見る対象になって。で、テレビで観てたら年末に凄くいい試合をしてたんですよ。
――ホイス・グレイシー戦ですかね。
英男 はい。観ていただいたみたいで。
ジョージ それで我が家は大興奮してね。「ヤツはやるなあ！」って。
――「所はやるなあ」と（笑）。所選手なんかは、苗字が「所」ということで、子どもの頃から、所ジョージさんのことは意識されてたんじゃないですか？
英男 よくあだ名で言われたりとかしました。
――「ジョージ」とか呼ばれてたんですか？
英男 はい。それは、「所」という名字の人は、みんなが通る道だと思います（笑）。
――全国の所さんが通る道ですか（笑）。
ジョージ でも、同じ名前の人が活躍すると、ちょっと嬉しくなるよね。それは俺も彼の試合を観てそうだったから。
英男 ありがとうございます！
ジョージ あと、その頃、さまぁ〜ずと深夜にやってた『所萬遊記』って番組で「格闘家の入場テーマを作ろう。誰のでも引き受けますよ」っていうのをやってて。ちょうどその頃に彼が活躍し始めたときだったから、じゃあ、所英男の曲を作っちゃおう！っていう、そんな流れですよ。
英男 いやあ、あの曲を作っていただけたとき、ホントに「所」っていう名字でよかったなあって（笑）。
ジョージ 普通、入場曲ってあり物を使うよね？
英男 そうですね。オリジナルの人はあんまりいませんね。
――しかも、わざわざ有名な方が自発的に作ってくださるなんてことは、めったにないことですからね。
ジョージ でも、そんなに一生懸命作ったわけじゃないよ。
――ダハハハハ！ そうでしたか（笑）。

TOKORO
E TOKORO
TAG AYA BASE

「ジョージ」って呼ばれるのは、名字が「所」の人がみんな通る道ですね（笑）（英男）

ジョージ 「入場曲ってこんなんだろ？」って（笑）。で、彼には詞になる要素がいっぱいあったから。たとえば、アルバイトしてたとか、コンビニ弁当食べてた人がポンッと出てきたとか。あとは、もともとはクリーニング屋さんを目指してたとか、いろんな背景があるでしょ。だから歌にしやすかったというのもあるし。彼はその背景がおもしろいんだよね。
――フリーターが、急にスターになっちゃったわけですからね。
ジョージ だから、いまだに言われてるじゃん。「闘うフリーター」とか。もう格闘家として立派にやってて、フリーターのわけないのに（笑）。それでも、まだ昔の清掃アルバイトの映像かなんかが流れたりして「もう、やってないだろ」とか思いながら観てるんだけど（笑）。
英男 でも、あの曲を作っていただいた反響はもの凄く大きかったですね。ようやく、周りが事の重大さに気づいたというか……。
――格闘家だから凄いというより、所ジョージに曲を作ってもらえるようなヤツだったんだ、凄い！みたいな（笑）。
英男 そうですね（笑）。
ジョージ でも、格闘技界ではセンセーショナルだったんじゃないの？ 名もないって言ったら申し訳ないけど、名もない青年がいきなり脚光浴びてね。
――普段、あまり格闘技を観ない人も惹きつけるものはありましたね。
ジョージ でしょ？ どうしても応援し

ちゃうよね。彼は自然なんだろうな。いまは毎日のように練習してるんでしょ？
英男 そうですね、はい。
ジョージ お兄ちゃんは、一緒に練習したりするの？
英男 いや、兄はもうほとんどやってないですね。
——所さんは、所選手のお兄さんとも面識あるんですか？
英男 リバーサルジムに何度か来ていただいてるんで、そのときに。
ジョージ そう、番組で行ってね。ただ、あそこは道が覚えづらいよね。大きい道路に面してればポッと寄れるんだけどね。「たしかこのへん入ってくんだったよなあ？」とかってなると、なかなかね。でも、ここだったらわかりやすいから、ちょくちょく遊びに来たらいいんだよ。
英男 なんか、恐れ多いと思ってたんですけど、今度はぜひ（笑）。
ジョージ ま、ここに遊びに来たところで、何を話すというわけでもないけどね。まあ、仲間とガヤガヤできればいいんじゃない？
——所選手がここ世田谷ベースに来られたのは二回目ですか？
ジョージ たしかそうだよね？
英男 はい。前に来たときは、まだここができたばかりで、モノが全然なかったときだったんですけど、今日来たら、いろんなものがあるから凄いなって。
ジョージ これでも一回モノがあふれて、ずいぶん処分したんだけどね。もう、モグラの穴みたいなもんで、片づけても別の場所に溜まるだけだから、一回処分して。
英男 でも、ガレージとか、凄くカッコいいですね。
ジョージ 絵柄がいいでしょ？ たとえば「じゃあ番組作るから、スタジオにそれだけの絵柄を集めましょう」とかは不可能だよね。
——そうでしょうね。あれだけの、こだわりの小物を全部集めるっていうのは。
ジョージ うん、不可能。ここにある、いろんなもののレプリカとか、昔ふうのものとか、実際に揃えるのは大変だと思いますよ。しかも、どんどん増えてるしね。
——常に進化するスタジオみたいな感じでもあるんですね（笑）。もともとこういった小物や雑貨だったり、アメリカンカルチャーに興味を持ったのはいつ頃からなんですか？
ジョージ それはもう昔からですよ。学生の頃だから15～16歳ぐらいからじゃない？ そう考えたらもう40年ぐらいそんなことやってる。
英男 そうなんですか。
ジョージ でも、これはべつにアメリカっぽいものを集めてるわけじゃなくて、好きなものを集めたらこうなっただけなんだけどね。日本のものやヨーロッパのものもたくさんあるし。僕はアメリカのものじゃないと嫌だとか、そういうことはないですよ。
——アメリカものが目立つだけというか。
ジョージ だから、いまおもしろがってるのは、外に停めてあるシーマ。いま、あれに乗ってるのね。で、シーマはシーマでも12年落ちのシーマなの。12年落ちのシーマって意味ないじゃん。
——なぜ、そんな型落ちなのか（笑）。
ジョージ 最近のシーマを買うならわかるでしょ、でもあれがいいのよ。「なんであんなの乗ってんの？」って目で見られたいね。「みんなはポルシェとか乗ってれば？ 俺はこの12年落ちのシーマに乗るから」って。あれ、査定が15万円ぐらいだからね（笑）。
英男 そんなに安いんですか（笑）。
ジョージ 普通、みんないい車をほしがるじゃない。そこに「12年落ちぐらいのシーマはどう？」っていう提案なんだけどね。ガソリンが上がったでしょ？ リッター200円近くするじゃないですか。
英男 ガソリン代はかなりキツいです。
ジョージ だから最近、みんな車に乗らなくなったでしょ。そうじゃなくて、12年前に500万円したシーマを15万円で買って、あとの485万円はガソリン代で使おうと思えばいいじゃん。なかなか485万円ぶん、ガソリン使わないよ。で、12年落ちのシーマでも、あれはあれでおもしろいし、乗り心地もいいしね。所くんは、何が趣味なの？
英男 僕、趣味がないんですよ。だから、このあいだ試合が終わって、しばらく休みを取ったんですけど、あまりに趣味がないんで、ずっと家でゴロゴロしてて。
ジョージ じゃあ、普段はゴロゴロしてるか練習してるかなの？
英男 いまはそういう状況ですね。で、夜は友だちと飲みに行くぐらいで。
ジョージ 飲みに行ったときは何を話してるの？

HIDEO TO
GEORGE T
IN SETAGAY

大晦日にテレビで観て「所はやるな」って我が家は大興奮で応援してましたよ（ジョージ）

英男　とくに実のある話は……。

ジョージ　してないんだ（笑）。何かものを作るとかはしないの？

英男　そういうのもないですね。

ジョージ　たとえば東急ハンズとかロフトとか、大工センターとか行くと、いろんなものが売ってるじゃん。ああいうとこに足を運ぶとおもしろいかもよ。

英男　そうなんですか。じゃあ、とりあえずハンズとか行って……。

ジョージ　おもしろいよ、ああいうとこ行くと、いらないもの買っちゃったりするじゃない。でも、いらないもの買っちゃうことが大事で、いらないからって買わないのは遊びにならないもん。で、買っちゃったからにはなんとか使う方法を考える。たとえば、フライパンを買ったとするじゃん。でも、自分は料理をしないから使わないって、棚にしまったらダメ。

英男　どうしたらいいんですか？

ジョージ　料理をしないなら、壁に飾っても、風でものが飛ばないようにする重しに使っても、なんでもいいのよ。見た目がカッコいいなら。フライパンは料理のもの、これはこれのものって決めつけてるから遊ばなくなっちゃう。台所のものを茶の間に持ってきたり、茶の間のものをデスクに持ってきたり、なんでもいいんだよね。そうすると遊びが広がると思うよ。

英男　なんとなく、わかる気がします。

――所選手の部屋も、べつに集めてるわけじゃなくても、ムダなものはけっこうありますよね？（笑）。

英男　ああ、ムダなものはけっこう溜まってますね。

ジョージ　じゃあ、ムダなものが好きなんじゃん。

――以前、所選手が住んでた自宅におじゃまさせてもらったとき、狭い風呂なしアパートなのに、なぜか冷蔵庫が3つもあるんですよ（笑）。

ジョージ　いいじゃない（笑）。

英男　ちょうど同じ時期に二人から冷蔵庫をもらっちゃって、自分のも含めて3つになっちゃったんですよ。

ジョージ　そのとき、冷蔵庫を冷蔵庫として使うんじゃなしに、色を塗ってゲタ箱にするとかさ、何か入れてギャラリーにするとか、「冷蔵庫の中にこんなものが！」っていうのが、楽しいよね。

英男　僕の場合は、何にも使わず、ただ置いてただけでしたけど（笑）。

ジョージ　それじゃダメだな。わざわざ、何かをするのが楽しいんだよ。だから、お茶を飲むのでも「ペットボトルのお茶でいいや」って、これはダメ。お茶はちゃんと器で飲まないとお茶とは認めないから。

自分のことをアメリカ人だと思えば なんだってアメリカになるんだよ（ジョージ）

英男　ダメなんですか。

ジョージ　ダメだね。「何、それで済まそうとしてんの？」って。山に行ったりしたときは、ペットボトルのお茶でいいけど、普段の生活はそんなに緊迫してないんだから、ちゃんと湯飲み茶碗にお茶を注ぐべきだと思う。それを省いちゃったら生活はつまんない。

――なるほど、せっかくのお茶タイムがもったいない、と。

ジョージ　そう。ペットボトルで飲んだほうが早いだろうけど、そんなもので済ませるほうが時間がもったいないんだよ。人生がもう一回あるなら、一回目はペットボトルでお茶飲んで、携帯電話かけて、の繰り返しでもいいけど、人生は二回ないから。それなら、ちゃんとした器でお茶を飲み、普通の電話にしか出ない人生のほうが楽しいよ。だから、僕はケータイ持たないから。

英男　そうなんですか。僕はいつもペットボトルなんですけど、なんかもったいない気がしてきました。

ジョージ　もったいないよ。所くんだって、試合をするとき、わざわざ入場の音楽かけて、アナウンサーに名前を呼ばれて、ゴング鳴らして闘うでしょ？　でも、闘うだけなら、ただ出てきて相手と闘うだけでいいじゃない。でも、それじゃもったいないんだよね。せっかく闘うなら、音楽かけて、お客さんに応援されながら闘うほうが楽しいじゃない。

英男　確かにそうですね。でも、それを日常に持ってくるのは凄いですね。

ジョージ　いろんなことが面倒くさいよ。でも面倒くさいのがおもしろいからね。なんでもスムーズにいくとつまんないもん。手応えないじゃん、なんか。だからギクシャクしてるほうがおもしろい。

――寄り道が楽しい、みたいな感じなんですかね。

ジョージ　寄り道、回り道を楽しむんだよね。だから、買い物もわざわざロスまで行ったりするんだけど、それもただビバリーヒルズに行ってとか、定番のところだけじゃ、画が同じだから、あんまり興奮しない。やっぱり車でいっぱい移動して、ロングビーチのほうに行ったり、いっぱりウロチョロしないと、おもしろいものは売ってないから。

――そうやってドライブしながら、おもしろいものを探していくのが楽しいという。

ジョージ　そうだよ。ロスって凄く広いからさ、ウロチョロするって言っても、福島から長野県の松本ぐらいまでをウロチョロするようなもんだから。そうやって、福島でおいしいラーメン屋を見つけたり、温泉に入ったり、お土産のおまんじゅうがおいしかったりすると楽しいじゃん。全部、東京で済ませることだってできるんだけどさ、途中のパーキングで汚れた便所で用を足したりしながら見つけるから楽しいんだよ。

――なるほど。そして、ここにある小物たちは、所さんがそうやって一個ずつ探してきたものばかりなわけですね。

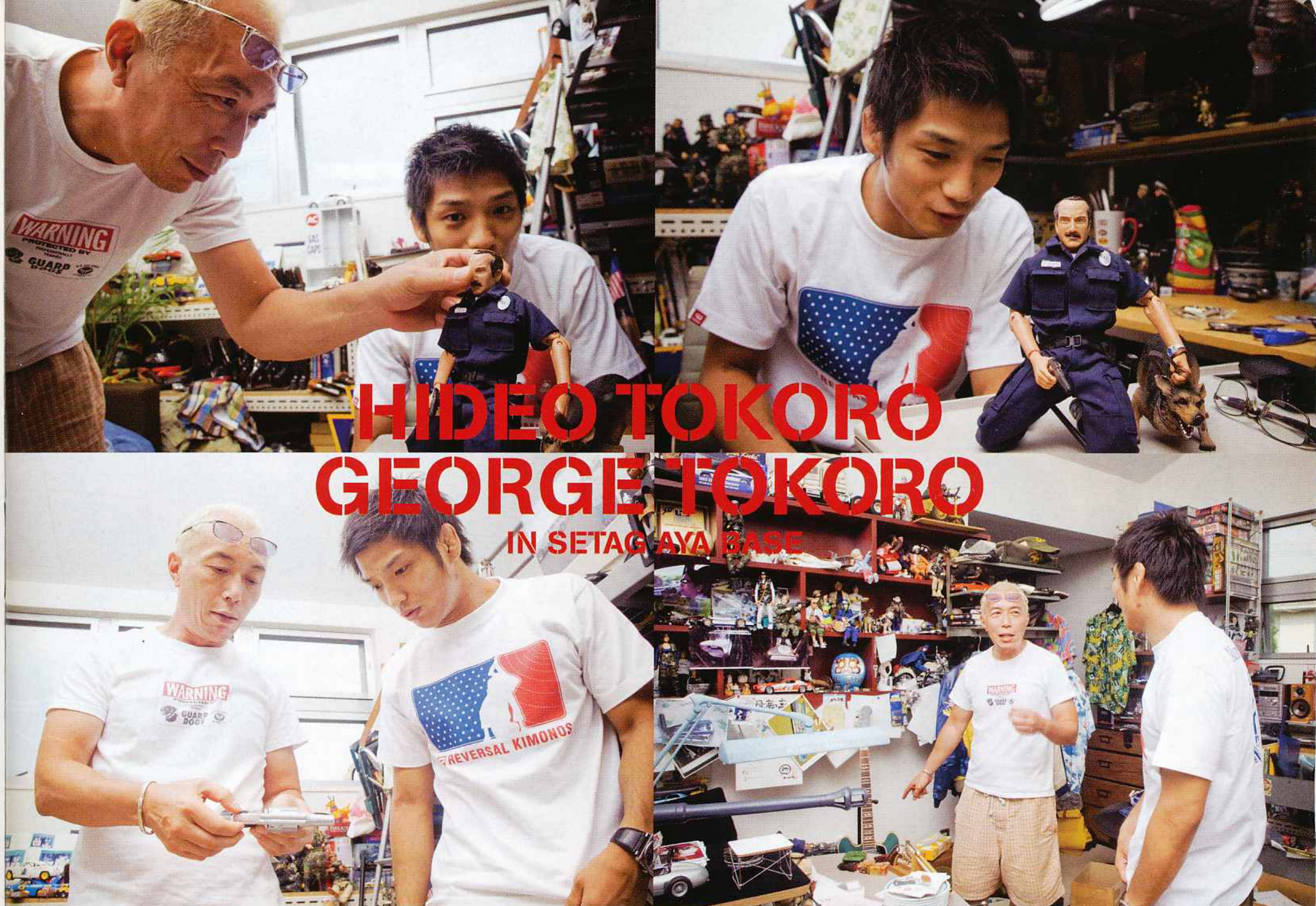
ジョージ　やっぱり、すぐに手に入るものよりも、手間ひまかけたもののほうが大事に使うしね。

――で、今日の対談の一つのテーマとして、所さんにそういったアメリカンカルチャーの楽しみ方を教わろうというのがあるんですけど。

ジョージ　そんなの、自分をアメリカ人だと思えば、なんだってアメリカなんだよ。

――自分をアメリカ人だと思うことですか（笑）。

ジョージ　アメリカのものを周りに置いたからって、自分が日本人のままじゃ、日

HIDEO TOKORO
GEORGE TOKORO

IN SETAG AYA BASE

HIDEO TOKORO
GEORGE TOKORO
IN SETAG AYA BASE

所さんの仕事場兼遊び場である世田谷ベースには、所さんこだわりのコレクションが満載。一階のガレージにはアメ車のオープンカーをはじめとしたクルマやバイクがズラリと並び、二階は半分が事務所で、半分が所さんの遊び場&作業場。ここには所さんが自分で組み立てたフィギュア、オモチャ、雑貨、ギターが所狭しと並んでいる。まさに男の子、究極の"秘密基地"だ!

本人がアメリカのもの使ってるだけ。自分がアメリカ人になったと思って暮らすということが、一番アメリカなの。アメリカ人だって寿司食うじゃん。意外とアメリカ人って、メイド・イン・ジャパン好きなんだよ。だから、自分がアメリカ人だと思ってたら、お茶飲んでたってアメリカだし、12年落ちのシーマ乗ってるときもアメリカなの。

――なるほど(笑)。

ジョージ　なんでもいいんだよ。みんなはアメリカのものがアメリカだと思ってるけど、逆ですよ。だから最近、芸能人とか都会の人が農業みたいなことやって、おもしろがってるじゃん。それは自分を農家だと思ってないからやってるんだよ。これが逆に農家の気持ちだったら、きれいなパーティに行きたいとか、東京のいいホテルで食事をしたいとか思うわけ。

――自分を都会人だと思ってるから、農業をちょっとやったりするんですか。

ジョージ　俺なんかは考え方が都会の人だから農家やりたいの。だから、わざわざ「農業」って書いてある帽子とか被るわけ。農業やってる人は「農業」って帽子被りたくないんだもん。

――わざわざアピールしませんよね(笑)。では、所さんは日本人だからアメリカのものが好きというより、アメリカ人になっちゃおうって感じだったんですか?

ジョージ　なっちゃおうっていうか、俺はアメリカ人だと思う。

――アメリカ人であることに気づかされただけですか(笑)。

ジョージ　だから、俺は日本の屏風とか美術品も好きなんですよ。でも、日本人なら屏風は伝統にのっとって平板にして飾るけど、日本好きのアメリカ人は絵として壁に飾っちゃうからね。

――屏風を絵画として飾っちゃう、と。

ジョージ　そっちのほうがカッコいいんだもん。だから日本人でも、いま若い人は屏風なんて置く人いないじゃない。モノトーンだとか言って白黒の家に住みたいとか言ってるけど、そうじゃないんだよ。屏風を置いたりするのが素敵なんだよ。その屏風の置き方も間違ってるけど、自分の好きなように置くわけ。それは、自分がアメリカ人だから。

――所選手、口数が少なくなってますけど、言ってることわかりますか?(笑)。

英男　自分がアメリカ人になった気持ちになると、すべてアメリカとして、楽しめるってことです……よね?

ジョージ　所くんも、わざわざ自分を格闘家だってアピールしないでしょ?　普段は「それで勝てんの?」って言われるんじゃない?

英男　おばさんとかに「ホントに格闘技やってるの?」って言われますね。

ジョージ　それは、自分が本当の格闘家だからだよ。だから、俺もアメリカ人だから、わざわざアメリカのものが好きだとかアピールするつもりはないの。だって、アメリカ人がアメリカのものが好きなのはあたりまえなんだから。それより、アメリカ人が12年落ちのシーマに乗ってたほうがおもしろい(笑)。

――なるほど。では、所選手は普段、全然格闘家らしくないですけど、それは本物の格闘家だから、とも言えるんですね。

ジョージ　そうですよ。自分から「俺は格

闘家だ」とか「ストイックだ」とか、そういうこと言うのはダサいもん。格闘家が練習するのはあたりまえでしょ？

英男 そうですね。

ジョージ だったら、そこは省いて、涼しく飄々といて、リングで熱いっていうのがカッコいいじゃん。そこが所くんのカッコよさだよ。

英男 いやあ、そんなふうに言ってもらえるなんて……ありがとうございます！

―所選手は全然、自分の良さに気づいてませんでしたか？（笑）。

英男 もっと格闘家らしくしないとダメなのかな、と思ってたんですけど、これでよかったんだなって（笑）。

―では、所さんのほうから、これから所選手に期待することとかありますか？

ジョージ 期待なんかしてないよ。勝つとか負けるとか、それは所くんの問題で、俺はそれを観て楽しんでる。勝ったらうれしいし、負けたら負けたで「ああ、負けちゃった」って悔しがるだけだから。でも、格闘家は大変だよね。俺にはそういうのがないもん。1年を通して「あ、これは大変」っていうのがないからね。

英男 そうなんですか⁉

ジョージ うん。

英男 でも、ビートたけしさんと番組をやられたりとか、大変じゃないんですか？

ジョージ 人と会ったりするのは、ちょっと気を使ったりはしますよ。このあいだも『崖の上のポニョ』で声優やらせてもらったんだけどさ、宮崎駿さんとか、目上の人に会うときはちょっとは気を使うけど、宮崎駿さんに勝とうとか、そういう気はないから。

―なるほど（笑）。

英男 でも、芸能界でその位置まで行くのは大変でしたよね？

ジョージ いや、全然大変じゃないよ。好きでやってるんだからさ。格闘技は体力とか技とか練習しなきゃいけないけど、俺らはないもん、そんなの。

二人とも好きでやってるから楽しめる 好きだからこそ次に向かえるんだよ

僕も趣味を持つために、とりあえず帰りに東急ハンズに寄っていきます（笑）

―所選手も格闘技が好きだからここまでやってきた感じですよね？

英男 はい、一応。

―一応（笑）。

ジョージ じゃあ二人の意見をまとめると、好きでこれをやってるから楽しめるし、結果がどうあれ、好きだから次に向かえる、と。だから、これで一生食っていかなきゃいけないんだとか、そういうプレッシャーがないから、いいんじゃないの？ 将来はやっぱりクリーニング屋さん継ごうとかさ（笑）。

英男 そうかもしれないです（笑）。

ジョージ 俺らでも「これで食っていかなきゃいけないんだ。今回のCDは絶対売れないとダメだ」なんていうのがあると、もう次に行けないじゃん。いいんだよ、そこそこなんだよ、俺らは。好きだからやってるし、好きだからそこそこ認めてもらえたらうれしいっていうね。だから、仕事してて「大変だな」とか思ってる人は、転職したほうがいい。向いてないことに努力とかしないでいい。仕事はいっぱいあるんだから、自分が楽しい次の仕事に行きなさいって思います。

―では、お二人はいまの仕事に向いてるってことですね。

ジョージ 向いてるね、じつに。毎日、楽しいからこそやっていけるんだから。

―所選手、どうですか。今日は人生の楽しみ方が少しわかりましたか？

英男 はい。今日は帰りにちょっと、東急ハンズに寄っていきたいと思います（笑）。

ジョージ まあ、ヒマなときは、またおじさんのとこに遊びに来なさい。ま、何をするってわけじゃないけどね。

英男 はい。ありがとうございます！

【08年8月8日／都内・世田谷ベースにて収録】

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。02年より『ZST』で中心選手として活躍。05年7月、『HERO'S』初参戦で修斗ライト級"絶対王者"と呼ばれたペケーニョを破りブレイク。今年からフェザー級に転向し、打倒KIDに名乗りを挙げた。170cm、64kg。

ところ・じょーじ■1955年1月26日、埼玉県出身。シンガーソングライターにして、日本を代表するバラエティタレントの大御所。『所さんの目がテン』、『所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ』をはじめ、冠番組は多数。芸能界を代表する多趣味の持ち主でもある。

——08年上旬、公私ともにアメリカに生活の拠点を移されたシウバさんにアメリカンライフについて聞きたいと思います！

シウバ　ああ、アメリカンライフは本当に素晴らしいよ。

——早くもこっちになじんでるみたいですねえ。

シウバ　そうさ。ワイフとも息子とも一緒に生活しているし、ここで英語も習ってる。

——シウバさんが住んでいるのはラスベガスなんですよね？

シウバ　ここには友だちもたくさんいるし、それにカジノに行ったり、ショッピングをしたり、食べ物の種類も豊富だし、毎日が楽しいんだ。あと、ジャパニーズドンブリも食べられるからね。

——ドンブリ、ですか？

シウバ　ビーフドンブリのことだよ！　ガハハハハ!!

——ああ、牛丼のことでしたか（笑）。

シウバ　あの店はレストランの従業員も全員日本人だし、味つけやスープまで、何もかもが日本と同じで素晴らしい。もちろん、アメリカンフードもイケてるぜ。ステーキ、ハンバーガー、みんな大好きだね（ニッコリ）。

——映画や音楽はどうです？

シウバ　息子がテレビでよくアニメを観てるけど、オレもアニメは大好きだよ。『ウォーリー』とか、『スパイダーマン』とかな。それに、こっちではブラジル映画も観られるんだ。オレが好きなのは『シティ・オブ・ゴッド』なんだ。

——ああ、それは日本でも放映されましたよ！　最近は続編の『シティ・

カジノもある！　映画もある!!　そして、ドンブリもある!?

アメリカはサイコーだ!!

ランペイジか？　グリフィンか!?　12月のビッグマッチについても直撃！

ヴァンダレイ・シウバ

PRIDEからUFCへ移籍して早8ヵ月。その後、アメリカへと生活の拠点を移し、本格的にアメリカでの暮らしを送っているヴァンダレイ。家族とともに渡ったアメリカの地は、ヴァンダレイにどんなものをもたらしているのか。アメリカンライフな写真とともに、ヴァンダレイのアメリカ満喫インタビューをお届けします！

聞き手／石井史彦　写真／フェルナンド・ラモス

HELLO AMERICA!!

生活の拠点はここアメリカにある
3カ月前にジムをオープンしたし

オブ・メン』も劇場公開されました。

シウバ 本当かい？ あれはとてもいい映画だよ。

——とはいえ、やっぱり何かカルチャーショックもあったんじゃないですか？

シウバ 一番のショックは車が安すぎることだ！

——ブラジルより安いんですか⁉

シウバ そうさ。それでオレたちの生活はかなり快適になったよ（※ブラジルは税金が高く、車に対する税金は30パーセントで世界一。なんと日本の3倍以上‼）。ワイフにも買ってあげたら喜んでくれたし、それはいい驚きだったな。ガハハハハ！

——へぇ〜。ちなみに、英語での会話も問題なさそうですね。

シウバ ここに来て1年だけど、オレの英語はよくなっているし、それにワイフも一緒に英語を勉強していて彼女の上達も早いんだ。もう、彼女はオレの先生みたいなもんだよ（笑）。

——ご家族もアメリカンライフを満喫している、と。

シウバ 12歳の娘はいまはまだブラジルにいるんだけど、5歳の息子はここで柔術と柔道のトレーニングを始めたんだ。といっても、まだ遊んでいるようなもんだろうけど。ただ、みんな強いヤツは柔術や柔道をやってる人間だろ？ やっぱり強く育ってほしいからね。

——早くもシウバ二世を育成してるんですね（笑）。

シウバ そうだ（ニッコリ）。でも、ホントにいまはジャンプしたり、ランニングしたり、フィジカルなトレーニングをやっているみたいだけどね。まあ、息子が通う柔道のクラスにはたくさんの子どもがいて楽しそうに練習しているよ。子どもは好奇心旺盛だからな。

——アメリカの生活にすっかり腰を下ろされてるようですが、もうブラジルには戻らない感じですか？

シウバ うーん。いまはここに住みたいと思っているよ。ブラジルにはたまに娘に会いに戻るけど、生活の拠点はここにある。3ヵ月ほど前に自分のジムもオープンしたしね。

——あ、そうだったんですね。

シウバ ラスベガスにあって、ブラジリアン柔術やムエタイのコーチもいる。ベガスにいるボクサーもいるしね。1万スクエアフィートのジムなんだ。

——メチャクチャ広いですね！

シウバ ケージもあれば、マシーンも豊富だ。大きな柔術用のマットもあるし、オレ自身にとってもいい環境だよ。

——やはりアメリカで成功を収めたい気持ちは強い、と。

シウバ そうだね。UFCは最も大きなMMAプロモーションだから、もっとオレのアグレッシブなファイトを見せたいし、もっとみんなに認めてもらいたい。

——いまの環境は、日本で闘っていたときよりフィットしてますか？

シウバ イエス。オレが日本で闘うときは、日本に住んでいなかったからかもしれないけど。ただ、日本との関係はずっと続いていて、前回もオレのジムにタカノリ・ゴミ（五味隆典）が訪ねてきてくれたり、日本からプロの選手も何人かトーニングしにきたこともあるよ。そういう関係はこれからも永遠に続いていくしな。

——練習環境も含めて快適だ、と。

シウバ いいと思うよ。シュートボクセはオレが長いあいだすごしてきた場所だけど、いまのオレはアメリカにいてコーチも変えたし、パートナーも変えている。それに、ここではベストな柔術ファイターともコンタクトをとれるからな。いまオレはホナウド・ジャカレイ、デミアン・マイアやほかにもトップの柔術ファイターと練習をしているんだ。彼らは素晴らしい技術を持っているよ。

——なるほど。では、PRIDEとUFCとではどうでしょう。何か違いはありますか？

シウバ いや、そこは似ていると思うな。PRIDEがこの業界のトップに立っていたとき、彼らの宣伝能力は素晴らしかった。日本のどんなところで試合をするにしてもファンはオレを待っていてくれたし、PRIDEは最高のイベントだった。UFCもPRIDEと同じようによくしてくれているよ。

——アメリカでも道を歩いているとファンが群がってきたりします？

シウバ スターのように扱ってくれるよ（ニッコリ）。でも、そういう面では日本でのほうが凄かったなあ。オレは日本では7年間も闘ってきたけど、アメリカではまだ1年しか経っていないからね。でも、いろんな人が徐々にオレのことを知ってくれるようになってきてるし、みんなアグレッシブに闘うオレのファイトスタイルが好きみたいだな。

——では、今度はシウバさんの試合について聞きたいのですが、12月のUFC出場が決まってるんですよね？

シウバ ああ。まだ相手が決まっていないけどな。ランペイジ（クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン）との再戦もありえるかもしれないなあ。

——ランペイジですか！

シウバ フフフ。いいカードだろ？ 彼がチャンピオンではなくなったとはいっても、フォレスト・グリフィンとの試合は素晴らしい内容だったし、またチャレンジャーとして彼らしい試合を見せてくれると思うよ。

——あの名勝負がまた観られると思うとワクワクしますね。……ところで、ランペイジが逮捕されたのは知っています？

シウバ まあ、ランペイジはあのとおり、いつもアブノーマルだからな！ ガハハハハ！

——PRIDE時代からの長い付き合いですもんね（笑）。

シウバ うん。事件については詳しく知らないが、心身ともに安定した状態になってまたオクタゴンに戻ってきてほしいね。悪い例として有名になるんじゃなくて、オクタゴンでまたいい姿を見せてほしいよ。彼は一流のファイターなんだから。

——シウバさんは優しいですねぇ。そのランペイジに勝ってUFCライトヘビー級のチャンピオンになったフォレスト・グリフィンについてはどう思いますか？

シウバ 彼はとても冷静な男だな。グラウンドもスタンドも強いコンプリートファイターだ。肉体的にも優れている。

——グリフィンはかつてのチームメイトだった（マウリシオ・）ショーグンにも勝ちましたよね。やっぱりグリフィンを倒したいという気持ちはありますか？

シウバ 正直言ってわからないね。グリフィンがランペイジと闘う前、彼はオレと練習していたんだ。彼はオレのことをよく知ってるし、オレも彼を熟知している。ただ、闘うことについて興味はあるし、オファーがあればノー・プロブレムだけどね。

——なるほど。では、どんなカードが組まれるか、いまから楽しみにしています。これからもアメリカンライフ満喫してくださーい！

シウバ サンキュー！

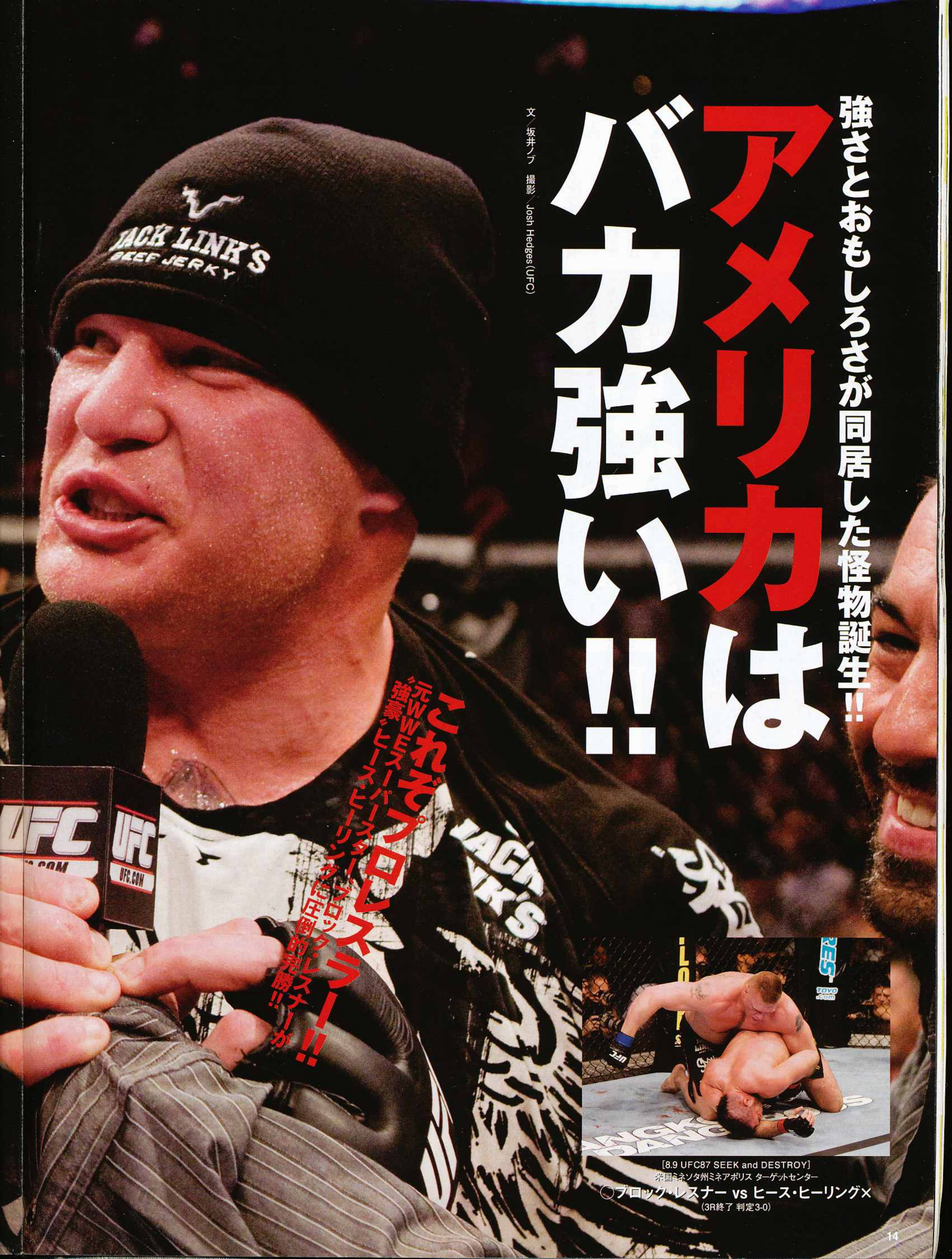
【08年8月9日／米国・ミネソタ州ミネアポリス・ターゲットセンターにて収録】

WANDERLEI SILVA■1976年7月3日、ブラジル出身。元PRIDEミドル級チャンピオン。07年12月にUFCに移籍。12・29「UFC79」チャック・リデル戦では、敗れはしたものの、血だらけながらもゾンビのように前に向かう勇姿を見せ、一気にアメリカファンを魅了。5・24「UFC84」キース・ジャーディン戦では移籍後初の勝利となり、あまりにアグレッシブなファイトスタイルに会場は大爆発！ 12月にはさらなる大一番を迎える予定。182センチ、93キロ。

強さとおもしろさが同居した怪物誕生!!

アメリカはバカ強い!!

文／坂井ノブ　撮影／Josh Hedges(UFC)

これぞプロレスラー!!

"元WWEスーパースター"ブロック・レスナーが"強豪"ヒース・ヒーリングに圧倒的完勝!!

［8.9 UFC87 SEEK and DESTROY］
米国ミネソタ州ミネアポリス ターゲットセンター
○ブロック・レスナー vs ヒース・ヒーリング×
（3R終了 判定3-0）

HELLO AMERICA!!

ブロック・レスナーは元WWEスーパースターである。カート・アングルや故エディ・ゲレロやアンダーテイカーと激闘を繰り広げ、わずか1年そこそこでWWEヘビー級王座のベルトも巻いた正真正銘のトップだった。それが、いまはUFCヘビー級戦線で大活躍している。アメリカにおけるWWEとUFCのあいだには、日本のファンが感じる以上の隔たりがあるにもかかわらずだ。

アメリカでは、そもそもプロレスと総合格闘技はずっと別物として扱われてきた。日本のプロレスは総合格闘技と地続きなのだが、アメリカンプロレスは過剰なエンターテインメントであり、ドラマやバラエティ番組であり、つまりは完全なるショーだ。その主人公の座を降りて、わざわざ総合格闘技をやろう（それ以前にはNFLでミネソタ・バイキングス入団に挑戦した）というのはレスナーが相当な変わり者だからだろう。

参戦発表された当初は反発も大きかった。UFCのファンもプロレス的な味つけは求めておらず、当初はレスナー参戦に懐疑的だったが、今年2月のUFCデビュー戦でレスナーは圧倒的な強さと憎たらしいほどのキャラを発揮しながらフランク・ミアに敗れたものの、PPV契約件数は急上昇！　この一試合でレスナーは自分の強さと商品価値を証明してみせた。

そして、今回のヒース・ヒーリング戦。真価が問われる一戦で、レスナーはレスナーにしかできない凄い試合をやってのけた。まず、入場時から観客を煽りまくり大歓声を集めた時点で、ほかのどのファイターよりも大物感を漂わせていた。試合開始早々にジャンピングキックで突っ込み、返す刀で放った右ストレートでヒーリングが吹っ飛んで後方に回転。そこにアメフトさながらの頭から突っ込むタックルでグラウンドに持ち込んでいく。まるでアメコミのヒーローのような圧倒的なパワーだ。このあと、5分3ラウンドにわたって強くて、おもしろくて、そしてちょっと慎重なレスナーのワンマンショーが始まる。

スタンドに戻っても、レスナーはアマレスとアメフト仕込みの荒々しいタックルでヒーリングを金網まで吹っ飛ばし、テイクダウンするとバックに組みつき硬い拳をヒーリングの顔面に叩き込む。マウントポジションやサイドポジションをとっても、極めにはいかずアッサリとバックに戻ってしまうのはご愛嬌。関節技には深入りしないで有利なポジションをキープすることで手堅く勝ちを狙ったのだろう。アマレスが身体に染み込んでいるから、バックのほうが相手をコントロールしやすい感じだった。それにしても、バックからヒザで相手のわき腹に叩き込むヒザ蹴りは、数年前に新日本プロレスで見られた技なのだが破壊力が桁違いだ。

試合終了間際にはバックマウントを取りながら手を挙げて観客に勝利をアピールし、残り時間5秒のところでわざと立ち上がり、向かってきた相手を嘲笑うという非常識なパフォーマンスまで飛び出した。このへんは試合終了直前でヘッドコーチに頭からゲータレードをぶちまけて、最後は時計を流して終わるアメフト流だったのだろうか。

さらに終了後はヒーリングに向かって投げ輪のパントマイム！「テキサス・クレイジーホースを乗りこなしたぜ」とロデオのパフォーマンスで勝利をアピールした。

レスナーはミネソタ大学時代にアマチュアレスリングで全米王者になるという輝かしい経歴の持ち主で、格闘家としての素養が充分にある。しかし、単なるアマレスラーなら、あんなにタチの悪いパフォーマンスはやらない。プロとしての底意地の悪さ、そして圧倒的な強さに裏打ちされた自信のなせる業だ。レスナーのバカ強い姿は、日本のプロレスラーが総合格闘技のリングで目指そうとして誰もできなかった理想的な姿である。今後、目指すはアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが持つUFCヘビー級のベルト。これは楽しみだ!!

ウェルター級
世界頂上決戦!
GSPvsBJ・ペン、
12.27ラスベガス
で実現へ

HELLO AMERICA!!

日本では“未知の階級”が世界で一番おもしろい!

復帰間近の郷野聡寛が語る“気が遠くなる”ウェルター級の現実!

日本のMMA界ではなじみが薄く、ある意味“未知の階級”とも言えるウェルター級。しかし、海の向こうUFCでは王者GSPを筆頭に強豪がひしめき合い、一部では“神の階級”と呼ばれ、一番おもしろい階級と言われているのだ。今回は10.18『UFC89』で復帰戦が決まっている郷野に8.9『UFC87』でのウェルター級タイトルマッチを中心に話を聞いてみた!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／山口比佐夫　試合写真／Josh Hedges（UFC）

——早速ですが、『UFC87』でのウェルター級タイトルマッチ、GSPことジョルジュ・サンピエールvsジョン・フィッチ戦の率直な感想を聞かせてください!

郷野　……（なぜか無言）。

——ど、どうしたんですか、郷野さん!

郷野　いや～、ハッキリ言って気が遠くなりましたね。

——気が遠くなるぐらいGSPが強かったってことですか?

郷野　そうッスね。そのレベルの高さに気が遠くなって（笑）。だって、ジョン・フィッチも全然弱いはずがないし。

——ですよね。正直、日本ではウェルター級はライト級やミドル級に比べて注目度は低いですけど、UFCではウェルター級は“神の階級”なんて言われるぐらいの激戦区で、フィッチは今回勝てばホイス・グレイシーを抜いてUFC9連勝という新記録を達成していたぐらいの強豪選手ですからね。

郷野　あ、そうだったんですか。フィッチって、いままでの勝ち方がそんなに底が見えるような闘いをしないで勝ち上がってきてるんで、どんな試合になるのかなって思ったら、序盤からほぼ圧倒と言っていいほどのGSPペースで。

——そうでしたよね。郷野さんはケガがなければ今年の3月にフィッチと闘うはずでしたけど、もしその試合で勝ってたら今頃GSPとタイトルマッチで闘っていたかも……。

郷野　（さえぎって）いや～、そんなこと考えられないですねぇ。ホントに気が遠くなったんで（苦笑）。だって、フィッチ相手に一回タックルを切られたぐらいで、あとは全部テイクダウンしてたと思うんですけど、レスリングがそれぐらい強くて、打撃も高い能力がありますし、寝技も充分すぎるぐらい強いじゃないですか。まったく相手にコントロールさせないっていうか。それでいて手足も長い。ホントに穴がないですよね。

——確かに。それは気が遠くなりもしますよね（笑）。

郷野　相手の穴を突く闘い方をする俺としては、小さなほころびすら見えなかったですから……。もう、どこに隙間を見つければいいのかまったく見えない。

——でも、UFCのウェルター級で闘っていくということは、最終的にチャンピオンのGSPのもとまでたどり着かなきゃいけないわけですよね。

郷野　そうッスね。これで気が遠くなって、気が遠くなりっぱなしでイヤになったら引退するしかないですから。まあ、GSPはいま自分が立ってるステージの頂上なわけで、選手としては、そこを目指すのが当然なんだけど、正直言って現時点では距離も遠いし、気も遠いですね。

——試合後はライト級王者のBJペンが年末のラスベガス大会でGSPへの対戦をアピールして、階級を越えた頂上決戦が実現しそうな感じですけど。

郷野　その試合が実現したらホントにMMAのメガマッチですよね。いまUFCがこれだけ隆盛を見せて、昔からアメリカで根づいているボクシングとけっこう比較されてるとは思うんだけど、ボクシングのメガファイトと比べて、そのメガファイトがどれぐらい張り合えるのかは興味がありますね。

——試合内容はもちろんですけど、PPV件数も凄いことになりそうですよね。

というか、すでに年末大会のメインカードが内定しているのが凄いし、それが日本では“未知の階級”なんですよねぇ。

郷野　そうッスね。オスカー・デラホーヤvsフロイド・メイウェザーや、フロイド・メイウェザーvsリッキー・ハットンっていうメガマッチが去年あったんですけど、それと比べてどうなるのかなって

ウェルター級最強はどっちだ!?
GSP、BJ・ペン全戦績

ジョルジュ・サンピエール全戦績（2008年8月現在）

2008.8.9『UFC87』ウェルター級タイトルマッチ
○vsジョン・フィッチ（5R終了 判定3-0）

2008.4.19『UFC83』ウェルター級タイトルマッチ
○vsマット・セラ（2R 4分45秒 TKO）

2007.12.29『UFC79』ウェルター級暫定王者決定戦
○vsマット・ヒューズ（2R 4分54秒 腕ひしぎ十字固め）

2007.8.25『UFC74』
○vsジョシュ・コスチェック（3R終了 判定3-0）

2007.4.7『UFC69』ウェルター級タイトルマッチ
×vsマット・セラ（1R 3分25秒 TKO）

2006.11.18『UFC65』ウェルター級タイトルマッチ
○vsマット・ヒューズ（2R 1分25秒 TKO）

2006.3.4『UFC58』
○vsBJ・ペン（3R終了 判定2-1）

2005.11.19『UFC56』
○vsショーン・シャーク（2R 2分53秒 TKO）

2005.8.20『UFC54』
○vsフランク・トリッグ（1R 4分09秒 チョークスリーパー）

2005.4.16『UFC52』
○vsジェイソン・ミラー（3R終了 判定3-0）

2005.1.29『TKO19』
○vsデイブ・ストラッサー（1R 1分52秒 キムラロック）

2004.10.22『UFC20』
×vsマット・ヒューズ（1R 4分59秒 腕ひしぎ十字固め）

2004.6.19『UFC48』
○vsジェイ・ヒエロン（1R 1分42秒 TKO）

2004.1.31『UFC46』
○vsカロ・パリジャン（3R終了 判定3-0）

2003.11.29『TKO14』
○vsピート・スプラット（1R 3分40秒 チョークスリーパー）

2003.1.25『UCC12』
○vsトーマス・デニー（2R 4分45秒 TKO）

2002.10.11『UCC11』
○vsトラヴィス・ガルブレイス（1R 2分03秒 TKO）

2002.6.15『UCC10』
○vsジャスティン・ブラックマン（1R 3分23秒 腕ひしぎ十字固め）

2002.1.25『UCC7』
○vsアイヴァン・メンジバー（1R 4分50秒 TKO）

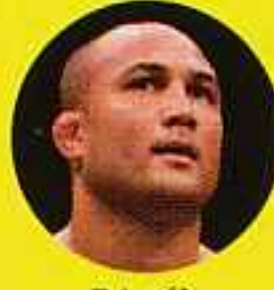
［GSPが下した強豪ファイターたち］

ショーン・シャーク

マット・セラ

マット・ヒューズ

ジェイソン・ミラー

フランク・トリッグ

BJ・ペン

BJペン全戦績（2008年8月現在）

2008.5.24『UFC84』ライト級タイトルマッチ
○vsショーン・シャーク（3R終了時 TKO）

2008.1.19『UFC80』ライト級王者決定戦
○vsジョー・スティーブンソン（2R 4分02秒 チョークスリーパー）

2007.6.23『TUF 5』
○vsジェンス・パルヴァー（2R 3分12秒 チョークスリーパー）

2006.9.23『UFC63』ウェルター級タイトルマッチ
×vsマット・ヒューズ（3R 3分53秒 TKO）

2006.3.4『UFC58』
×vsジョルジュ・サンピエール（3R終了 判定1-2）

2005.7.29『K-1GP』総合格闘技ルール
○vsヘンゾ・グレイシー（3R終了 判定3-0）

2005.3.26『HERO'S』
×vsLYOTO（3R終了 判定0-3）

2004.11.20『ROTR6』
○vsホドリゴ・グレイシー（3R終了 判定3-0）

2004.5.22『K-1 ROMANEX』
○vsドゥエイン・ラドウィック（1R 1分45秒 肩固め）

2004.1.31『UFC46』ウェルター級タイトルマッチ
○vsマット・ヒューズ（1R 4分39秒 チョークスリーパー）

2003.10.10『ROTR4』
○vs五味隆典（3R 2分38秒 チョークスリーパー）

2003.2.28『UFC41』ライト級王者決定戦
△vs宇野薫（5R終了 判定1-1）

2002.9.27『UFC39』
○vsマット・セラ（3R終了 判定3-0）

2002.5.10『UFC37』
○vsポール・クレイトン（2R 3分23秒 TKO）

2002.1.11『UFC35』ライト級タイトルマッチ
×vsジェンス・パルヴァー（5R終了 判定0-2）

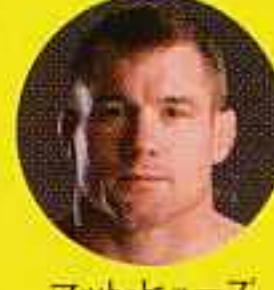
2001.11.2『UFC34』
○vs宇野薫（1R 0分11秒 KO）

2001.6.29『UFC32』
○vsディン・トーマス（1R 2分42秒 TKO）

2001.5.4『UFC31』
○vsジョーイ・ギルバート（1R 4分57秒 TKO）

［BJが下した強豪ファイターたち］

ショーン・シャーク

マット・セラ

マット・ヒューズ

五味隆典

宇野薫

ヘンゾ・グレイシー

郷野に続き三崎も米国本格上陸!? 9.20ストライクフォース参戦!

三崎和雄の9.20ストライクフォース・プレイボーイマンション大会参戦が正式決定! 対戦相手はニック・ディアスやクリス・ライトルらを下しているジョー・リグス。同月28日にスタートする『戦極』ミドル級グランプリの行方とともに注目だ!

世界のワオ木さんが観た GSPvsジョン・フィッチ

[8.9 UFC87 SEEK AND DESTROY]
米国ミネソタ州ミネアポリス ターゲットセンター
○ジョルジュ・サンピエール vs ジョン・フィッチ×
（5R終了 判定3-0）

ウェブサイト『kamipro.com』の好評連載『週刊ワオ木真也』に掲載された『UFC87』観戦記より、GSPvsフィッチのウェルター級タイトルマッチの感想を抜粋してお届け!

「UFCのフィッチ対GSPを観たよ。まずは選手紹介♪ フィッチは自慢のレスリング能力で上を取ってパウンドとパスガードの圧力で相手を攻略するスタイル。片足タックルからくぐっての水車落としは絶品♪ そしてとにかくタフ。UFC8連勝って実績でわかるように超人。ディエゴ・サンチェス選手、チアゴ・アウベス選手らトップレベルの選手から勝利を挙げてるんだから超人の中の超人。GSPは神の階級と言われるウェルター級の頂点。神様の中の神様。打撃も寝技も投げもすべてできる危険極まりない選手。対戦相手として考えたときに一番嫌なのはレスリング能力が高いということ。打撃に目が行きがちだけれどもレスリングがしっかりとできる選手。そんな両選手の試合。戦前予想として勝敗を分けるのはテイクダウンの攻防とワオ木は予想した。お互い圧力負けせずに前に出てテイクダウン。フィッチ選手としては下になってもタックル&スイープから泥臭くテイクダウンしていきたいところだろう。お互いに自分のKFC(根性・ファイティング・チャンピオンシップ)に持ち込みたいはず。実際、試合が始まるとGSPが圧倒。テイクダウンで主導権を握ってパンチでダウンを何度も奪う。あんだけ攻められても立ち向かうフィッチも凄い。フィッチのタックルを切って逆にテイクダウンを奪い、自分からもテイクダウンを奪う。GSPのレスリング能力は本当に凄い。試合は大差でGSPの勝ち。でもフィッチも凄い。そんな試合だったす」

いうのがちょっと気になりますねぇ。

——ちなみに、2年前にGSPとBJペンが対戦したときはGSPが判定2—1で勝ってるんですけど、いまやったら結果はどうなると思います？

郷野　その試合を観てないんで、なんとも言えないですけど、GSPの圧勝にはならないだろうし、また競った展開でGSPが勝つんじゃないですかね。

——やはり勝者はGSPですか。それぐらい、GSPのファイターとしての完成度は群を抜いていると？

郷野　まあ、BJペンもそうなんですけどね。二人とも気が遠くなるぐらいのところにいるんで。正直、そこまでの距離が遠すぎて、俺からはその二人の差がどれぐらいあるのか見えないっていうのが正直なところですね。

——GSPもペンも二人とも凄い、と。

郷野　試合に向けて練習を始めているとはいえ、まだ本調子にはほど遠いんで。それもこれだけ気を遠くさせている要因ではあると思うんですけど。まあ、次の試合で勝って、そのあとに距離をどう感じるかですよね。いまはちょっと、次の試合すら不安なぐらい出来がよくないんで。頂上のことは全然わからないです（笑）。

——10・18『UFC89』英国バーミンガム大会で対戦が決まっているダン・ハーディーとの復帰戦はメインカードの枠に入ってるみたいですから、当然WOWOWでも放送されるでしょうし、郷野さんがいかに大変な階級で闘っているかっていうのが日本のMMAファンにも少しは届くと思います。

郷野　俺の試合だけじゃ届かないと思うけど（笑）、そのうちGSPとBJペンの試合もWOWOWで放送すれば俺のツラさがわかるんじゃないかな。そのおもしろさとレベルの高さが伝わればいいなぁとは思いますね。……本当なら、景気のいいことを言って一発サービスしたいっていう気持ちもあるんですけど、まだいまはサービス精神も発揮できないようなコンディションの悪さなんで。

——現時点では、コンディションはまったくよろしくない、と？

郷野　いまのコンディションでは菊田さんがクーラーをつけてくれないクソ暑いグラバカジムでのプロ練ですら、まったくもってついていけませんから（笑）。

——グラバカは菊田さんの方針でクーラーは禁止みたいですからね。

郷野　そうなんですよ。いまはホントにグラバカの夏を乗りきることで精一杯です（笑）。

——アメリカを制する前に東中野の夏を制さないといけないわけですね（笑）。

郷野　そうッスね。まあ、いずれはGSPという山の頂が見えるところまでたどり着きたいと思ってるんで、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします！

【08年8月10日／電話取材にて収録】

HELLO AMERICA!!

アメリカの枠に収まらない男

ダナ・ホワイト「UFCはWWEを超える!」

大会の前評判、実際の内容ともに大盛況となった今回の『UFC87』! その大会直後にMMA界を大股で練り歩くダナ・ホワイトUFC代表の独占インタビューに成功! 今宵もジャイアン節がうなりをあげる!

聞き手・撮影／石井史彦　試合写真／Josh Hedges（UFC）

今回もすこぶる快調! 世界に向けてジャイアニズム宣言!

——代表！　今回も独占インタビューに応じていただき感謝してます。

ダナ　ふふん。こう見えて私は日本と『kamipro』が大好きなんだよ。

——そうですか（笑）。まず、ロレンゾ・フェティータがステーション・カジノの経営から離れ、UFCに専念することになったそうですが、具体的にどのような業務を担当するんですか？

ダナ　ロレンゾには海外でのビジネスに関して担当してもらってるんだ。実際に動き出してからまだ3週間程度だけど、早くも驚くほど見事な展開を見せてくれてるよ。さすがは私のビジネスパートナーだ（笑）。

——今後は東南アジアを含め、世界各国進出するとも発表されてましたね。

ダナ　米国市場はもちろんだけど、今後は二人でもっと海外市場にも本腰を入れて力を入れてく予定だ。

——日本のファンからは「いつになったらUFCを生で見られるんだ？」という声もありますが、何かプランは？

ダナ　日本のプレスから毎回その質問をされるが、こっちは同じ答えしかない。もちろんUFCとしては日本に進出したいってね。ただ、そのためには我々を邪魔しようとする〝一部の人間〟と距離をとらなければならないんだよ。

——〝一部の人間〟とは……？

ダナ　いまは言えないな。日本のファンには悪いけどもう少し時間がかかりそうだ。

——なるほど。日本ではWOWOWでUFC放送も再開されてますが……。

ダナ　おっと、その件に関してもノーコメントだ。

——どうして？

ダナ　ノーコメントと言ったらノーコメントだ！　まだ正式な大会放送は始まってないからな。

——そうですが。ところで代表はK―1の創設者である石井和義氏のことはご存知ですか？

ダナ　マスター・イシイのことはもちろん知ってるさ。「He is a man!」だよ。

——「おまえ、男だ！」と（笑）。石井氏は8月8日に刑期を終えて出所してる情報もあるんですが、格闘技界にとっていい流れが生まれると思いますか？

ダナ　格闘技の世界にどんな影響があるかはわからないけど、UFCにとって日本進出の時期が早まることを期待したいね。まぁ、我々も日本に関してはいろいろな動きをしてるのは事実だけど、誰もその内容は知らない。いまは何も話せないんだ。

——そこをなんとか……？

ダナ　ダメなものはダメだ！

——了解です（笑）。それでは日本のMMAイベントであるDREAMや『戦極』についてお話を聞きたいんですが？

ダナ　DREAM？『戦極』？　そんな団体のことなど知らないから、コメント出しようがないな。はい、次の質問。

——はい（笑）。では、『アフリクション』の旗揚げ戦に関しては？

ダナ　観てないが、「Tシャツ・ガイ（Guy）」のことか？　MMAのイベントをやったらしいけど凄い赤字だったらしいじゃないか。ふふん。今後も開催するらしいが莫大なお金をドブに捨てるだけだ。まじめに本業に専念してTシャツだけ売ってればいいんだよ！　さあ、次の話題だ。

——大会前のカンファレンスではランペイジが来てましたね。先日、彼は当て逃げと無謀運転で逮捕されましたが、あの事件は何が原因かご存知ですか？

ダナ　ランペイジは試合で減量したあとの急激なリバウンドの影響もあって、心身ともに疲れきっていたんだ。そして一般的には「ドリリアン」と言われる症状にかかってしまい、あのようなことが起きてしまった。でも、いまはもう回復してまったく問題ない状態だ。

——では、今後の試合や契約に関して支障はない、と？

ダナ　そのとおりだ。ただ病気にかかった、そしてそれが全快したっていうことだけだよ。大騒ぎするようなことではない。

——今夜はBJペンが、メインで勝利したGSPに対戦を表明してましたが、この試合の実現の可能性は？

ダナ　BJはGSPを応援するために会場に来てたんだ。そして両者ともこの試合を望んでいる。私もぜひ観たいし、ファンも期待しているカードだからなんとか実現させようと思ってるよ。

——時期的にはBJペンの次戦が予定されている12月27日のラスベガス大会での実現が噂されてますが？

ダナ　それはやはりドリームカードにふさわしい場を用意しないとな。

——両者は階級が違う王者同士なわけですが、BJがGSPのベルトに挑戦するかたちになるんでしょうか？

ダナ　いや、ベルトは関係ない試合になると思う。ベルトを懸けなくたって充分に価値のあるカードだからな。

——セミではブロック・レスナーが凄まじいポテンシャルを発揮しましたね。

ダナ　今夜のブロックのパンチを観ただろ？　まるでジョークのように一発でヒースが一回転して、試合後には顔が見るも無残なくらいに変形していた。デビュー3戦目にしてすでにトップと肩を並べるレベルにいるんだから信じられないよ。モンスターだし、エンタティナーだ。いいか、今日、俺は確信した。UFCはWWEを超える。それは間違いない！

——よっ、ダナ・ホワイト！（笑）。

ダナ　そんな歴史的な一日をすごせて、おまえら日本のプレスもさぞかし満足だったろう。今日はここまでだ！

【08年8月9日（現地時間）／米国ミネソタ州ミネアポリス・ターゲットセンターにて収録】

今大会の立役者であるGSPとレスナー。ダナにとっては世界進出のうえで欠かせない“コマ”となる。ちなみにダナはレスナーを「2年以内に世界でベストファイターとなることは間違いない」と大絶賛！

WOWOW放送スケジュール
【UFC79～UFC88ダイジェスト編】

［HV］＝ハイビジョン放送

8月25日(月) 午後10:00［HV］
UFC79 チャック・リデル vs ヴァンダレイ・シウバ
UFC79 マット・ヒューズ vs ジョルジュ・サン・ピエール
UFC78 長南亮 vs カロ・パリジャン

9月8日(月) 午後10:00［HV］
UFC81 ティム・シルビア vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
UFC81 フランク・ミア vs ブロック・レスナー
UFC80 BJ・ペン vs ジョー・スティーブンソン

9月15日(月・祝)午後10:00［HV］
UFC82 アンデウソン・シウバ vs ダン・ヘンダーソン
UFC82 岡見勇信 vs エヴァン・ターナー
UFC83 マット・セラ vs ジョルジュ・サン・ピエール

9月22日(月) 午後10:00［HV］
UFC84 ヴァンダレイ・シウバ vs キース・ジャーディン
UFC84 ティト・オーティズ vs LYOTO（リョウト）
UFC84 BJ・ペン vs ショーン・シャーク

9月29日(月) 午後10:00［HV］
UFC86 クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン vs フォレスト・グリフィン
UFC87 ブロック・レスナー vs ヒース・ヒーリング
UFC87 ジョルジュ・サン・ピエール vs ジョン・フィッチ

［お問い合わせ］WOWOW TEL.03-5414-8111

保釈後のランペイジ独占インタビュー収録!!

ランペイジが逮捕!!

UFCトップスター“成功の裏側”

撮影／黒田史夫　聞き手／石井史彦　文／大川義之

7月15日（火＝現地時間）、アメリカのカリフォルニア州で、UFCを揺るがす重大な〝事件〟が起きていた。その事件の当事者は10日前までUFCライトヘビー級王者だったクイントン〝ランペイジ〟・ジャクソンである。

この日、ランペイジはハイウェイで車同士の接触事故を起こし、そのまま逃走。警察官の制止も聞かず暴走を続け、当て逃げと危険運転の疑いで逮捕されたのだ。MMAの知名度が高まりつつあるアメリカで、このニュースは大きく注目され、アメリカ大手の報道機関は、こぞってヘッドラインニュースで〝UFCの前世界王者逮捕！〟と報道したのだった。

逮捕後の検査の結果、ドラッグとアルコールについてはまったく問題はなかった。同様にランペイジの精神状態についても調査が行なわれたが、これはプライバシー法により公表が控えられている。事件の刑罰は8月15日から始まる裁判であきらかにされるが、裁判の争点は、やはり事故当時のランペイジの精神状態が正常であったかどうかである。

では、実際に当時の彼の精神状態はどうだったのだろうか？　まず、ランペイジが運転していた車の両サイドには、本人の名前と顔写真がデカデカとプリントされており、事故を起こしたあとに逃走する車としては最も不向きなもの。この車で警察の制止も聞かずに逃亡し続けたジャクソンが、はたして正常だったかどうか──。

逮捕される前日には、ランペイジ自身がメディアのインタビューでグリフィン戦の敗戦によって、非常に落ち込んでいることを語っている。またUFCのダナ・ホワイトも、グリフィン戦後のランペイジについて「彼は試合後、4日間も飲料水と栄養ドリンクだけですごすという、バカげた断食まがいのことをしていた。激しい試合の直後で精神的にも肉体的にひどく疲れていたんだろう」と答えている。

もちろん、本誌はここでランペイジの行動を肯定するつもりはない。事件については、アメリカ合衆国の裁判所が判断を下すべき問題である。ただ、ここではメガビジネスとして成長しつつあるMMAの功罪について指摘しておきたい。

ランペイジが起こした事件の翌日、ダナはUFCのトップファイターの精神的なキツさについて語っている。

「スターダムに登るということ、そして大きな敗戦を経験するということは、大きな圧力を受けるものなんだ。グリフィン戦前後のランペイジは、そうしたものの犠牲になっていたと思う。この業界が成長し続ければ、ファイターはさらに有名になる。有名になるということは容易なことではないんだ」

もともと、ランペイジは突如、熱心なキリスト教信徒に変身してスピリチュアル発言をしたり、リング上から携帯電話で恋人にプロポーズし、試合の結果次第でサポートチームを何度も替えるなど、自分を管理し、支えてくれる者を必要とするタイプの人間だ。

現在、ランペイジはUFCのトップスターとなって大金を手にし、どこに行ってもちやほやされるようになった。MMAに限らず、どこの世界でも短期間に大きな栄華を極めた者は、本来の自分を見失ないやすいものである。

UFCの成長とともにアメリカで大ブレイクしたチャック・リデルもまた、私生活で同様の悩みを抱えている。07年3月、ダラスのテレビ番組に生出演したリデルは、まどろみながらろれつの回らない姿を電波に晒してしまい、各方面から薬物かアルコールの影響下にあるのではないかと指摘された。彼もまたUFCのトップファイターになった功罪に悩まされているのだ。

こうした問題は、アメリカ社会の中で急激にメガビジネスとして成長しつつあるMMAにとって避けては通れないものである。MMAビジネスのピラミッドの頂点に立つUFCに対し、アメリカのメディアも警告を発している。

「選手の危機管理について、ズッファ社はファイターや経営陣の意識を転換させる時期に来ている。アメリカのトップスポーツはアスリートのプライベートマネージメントに関する強力なサポートスタッフを備えている。NFLプレイヤーでさえ、シーズンオフには毎年60件以上、警察沙汰になる問題が起きているように、それが常に機能するわけではない。だが、サポート体制の強化は確実にファイターに恩恵もたらすだろう。すでにUFCファイターは、名声と金銭によって押し潰される機会にあふれている」（7月18日Yahoo! SPORTS掲載記事）

MMAにおいて富と名声を得ることは、ファイターにとって一つのゴールであるかもしれない。しかし、実際はそれを得た瞬間、彼らにはオクタゴンの外でまた別の新たな闘いが始まるのである。

今回、オクタゴン外でも〝大暴れ（RAMPAGE）〟してしまったランペイジは、もともと「暴力的だ」という批判の強かったUFCのパブリックイメージを大きく傷つけてしまった。だが、そんなランペイジが8・9『UFC87』に来場するという報を我々は耳にした。敬虔なクリスチャンの彼だけに、さぞかし神妙にしているだろうと思ったのだが……。以下は『UFC87』前日に会場で見つけたランペイジへのミニインタビュー。

──ランペイジさん、こんにちは！

ランペイジ　（超ゴキゲンな様子でレコーダーを奪い取り）イェーイ！　ジャパーン!!　みんなに会いたいぜぇ！　日本に戻りたくてたまらないよ！　ロッポンギガールズにも会いたいぜぇぇぇ！　イェーイ！　ロッポンギッ！　ロッポンギッ!!　イッチバーーーーン！　またロッポンギに行くぜ！

──事件のあととは思えないノリノリぶりですね！

ランペイジ　（ギロッ！）ん!?　なんか言ったか？

──あっ、いえ！　なんでもありません！　えーと、いまのコンディションはどうですか？

ランペイジ　とてもいいぜ！　そう見えるだろ？　ガハハハハハ!!

──次の試合はいつ頃になりそうですか？

ランペイジ　（急に小声になって）そいつはまだわかんねぇな……。ただ、練習は続けてるよ。

──マサ斎藤さんばりに、刑務所の中でトレーニングしてたから体調もいいと？

ランペイジ　ん？　マサ？　オマエは何を言ってるんだ？

──あ、なんでもありません！

ランペイジ　それより、もうすぐオレの新しいジムがオープンするんだぜ。日本のみんなによろしく伝えてくれ！

──それは素晴らしいですね。日本のファンもあなたに会いたがってますよ。

ランペイジ　オ〜、サンキュー！　いいか、みんな！　会いたいのはオレも同じ気持ちだ！　そいつを忘れてくれるなよ！　ヘイ、ジャパン！　アイシテマス！　アリガットーゴザイマス!!　バイバイッ！

やっぱり、ランペイジはランペイジ。こちらが拍子抜けするほど、底抜けに明るい姿を見せてくれたのだった。ひとまず安心したが、格闘技の世界は彼の性格のように浮き沈みがつきもの。彼が自らの内面と向き合って勝利し、再びオクタゴンに復帰してくることを望む。

HELLO AMERICA!!

MMAのトレンドを作り出すアメリカは
街でたとえるなら渋谷、UFCは109かな

海の向こうには"トレンディ格闘家"がいっぱい!

青木真也のアメ(MMA)リカ流行通信

世界最高峰のリングが消滅しようが、MMAの首都がアメリカに移転しようが、日本には"DREAMの大黒柱"ワオ木さんがいる! そのワオ木さん、じつは観る側としてもけっこうな格闘技マニアで海外MMA事情にも精通してるとか。世界が注目するグラップラー・ワオ木さんは、はたして大国アメリカをどう捉えているのか? 読めない英字新聞を手に、アメリカ気分でワオワオ語ってもらいました!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/乾晋也

青木　今日は〝負け犬〟になんの取材ですか?

——じつは今回はアメリカの大特集をやるんですよ。

青木　いいですねえ~、〝格闘技専門誌〟って感じじゃないですか!

——いやいや、とはいっても、単なるアメリカのプロレス・格闘技特集じゃないですよ。マイケル・ジャクソンとかドラッグとかアメ車なんかを通してアメリカを楽しむんです。

青木　なるほど、『Kamipro』らしいな~。で、ボクは何を語りましょうか?

——青木さんには格闘技しかないでしょ!(笑)。

青木　な~んだ! でも、それしか語れないですからね(笑)。

——よろしくお願いいたします! まず、青木さんにとってアメリカのMMAってどういうイメージがあるんですか?

青木　まずはケージ(金網)ですね。それとヒジ。あとフィジカル!

——なるほど。アメリカにあって日本にないものはありますか?

青木　なんだろ? ……チョンマゲ?

——MMAと関係ないじゃないですか! それに江戸時代の話だし(笑)。

青木　(無視して)アメリカにあって日本にないものねえ……、あ! 立ち技や寝技、すべてを一つの場所で練習できる〝メガジム〟的な練習環境がないですよね、日本には。

——聞くところによると、アメリカの練習環境って、かなり恵まれてるらしいですねぇ。

青木　あれは凄い!! だってマットスペースがあって、ウェートスペースがあって、で、ケージでしょ、リングでしょ、サンドバッグもある。あれだけの設備が整ったジムは日本にはないですね。あと単純に競技人口が多いですから、その中で揉まれて強くなりますよ。

——いろんなタイプの選手がいるわけですもんね。いまMMAの最先端はアメリカっていう認識が広まりつつありますけど、そこはどう思いますか?

青木　いや、アメリカはトップっていうよりも、MMAの新しいトレンドを作り出している感じですよ。

——MMA流行最先端地区、それがアメリカ。

青木　アメリカがトップではないと思うんですよ。そうだな~、街でたとえるならばアメリカは渋谷ですね。UFCが109みたいな。

——そこに行けば流行ファッションがわかると?

青木　そう! キレイなカリスマ店員もいて。おのぼりさんでも、ちゃんと109で買い物すれば流行についてけるっていう。まあ、ボクは出かける必要のないオシャレさんなんですけどね。ククク。

——ちなみに日本を街でたとえると?

青木　日本ね~……。

——上野?

青木　渋いなあ(笑)。どこだろう、横浜かなあ? 都心からは離れているけど、いいものが揃っているし、デートスポットに最適みたいな。そして強い外国人がたまにデートに来るみたいな感じで。

——まさにエディ・アルバレスは彼女同伴で来てますもんね(笑)。オシャレさんを自認している青木さんとしては、もちろん流行に後れないように、目を皿のように情報収集をしてるわけですか?

青木　そうです! 最先端のファッションに後れないように『CanCam』とか『ViVi』とかチョー読んでますよ。この場合は『GONG格闘技』とか『Fight&Life』になるんですけどね(笑)。

——あれ? 『kamipro』は?

青木　『kamipro』はなんなんでしょうね~。まぁ、チョー個性的なファッション誌でいいんじゃないですか?(笑)。

——遠回しにバカにしていただきありがとうございます。ところで、青木さん、アメリカでは青木さんへの対戦要求が相次いでいるみたいですよ。よっ、人気者!

青木　誰とでもやってやりますよ! まぁ、たぶん俺のほうが強いですけどねー(自信マンマンで)。

——トレンドの話でいうと、青木さんだって発信してるじゃないですか。いま世界に誇れる日本人は〝SHINYA AOKI〟ですよ!

青木　またまた~。そうやって調子に乗らせようとして~。

——あ、バレました?(笑)。

青木　ていうか……調子に乗りたい!!

——ダハハハハ! え~、その前にですね、次のページからアメリカを主戦場とするMMAファイターについて語ってください!

青木　OH、YEAH~!

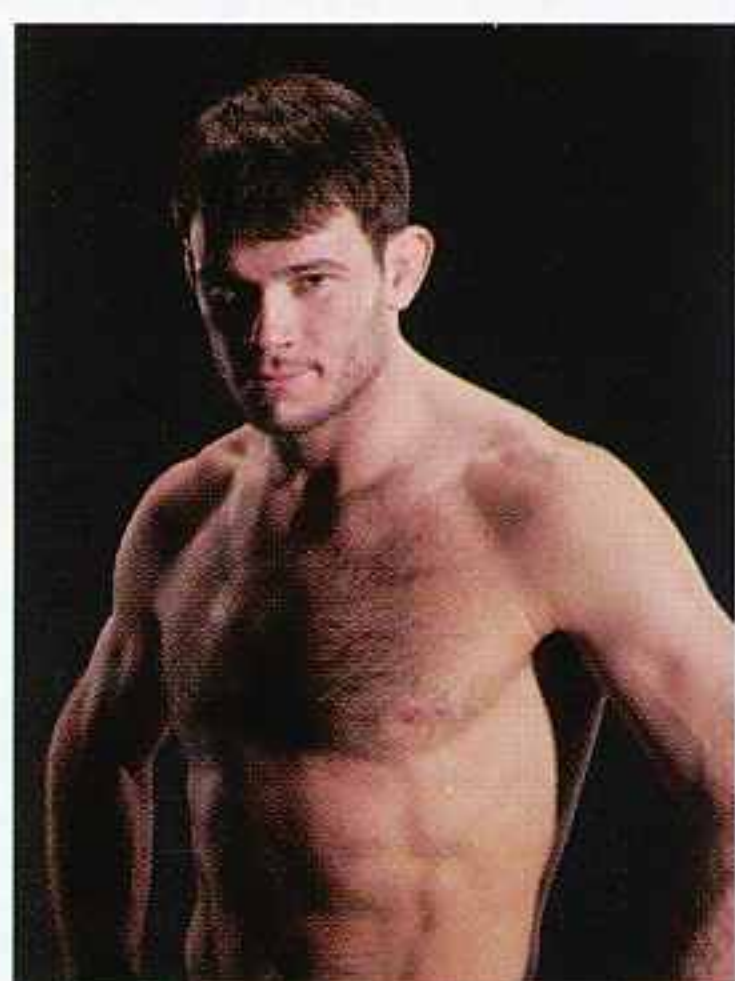
【08年7月31日/都内・DEEPジム近くのインド料理店にて収録】

HELLO AMERICA!!

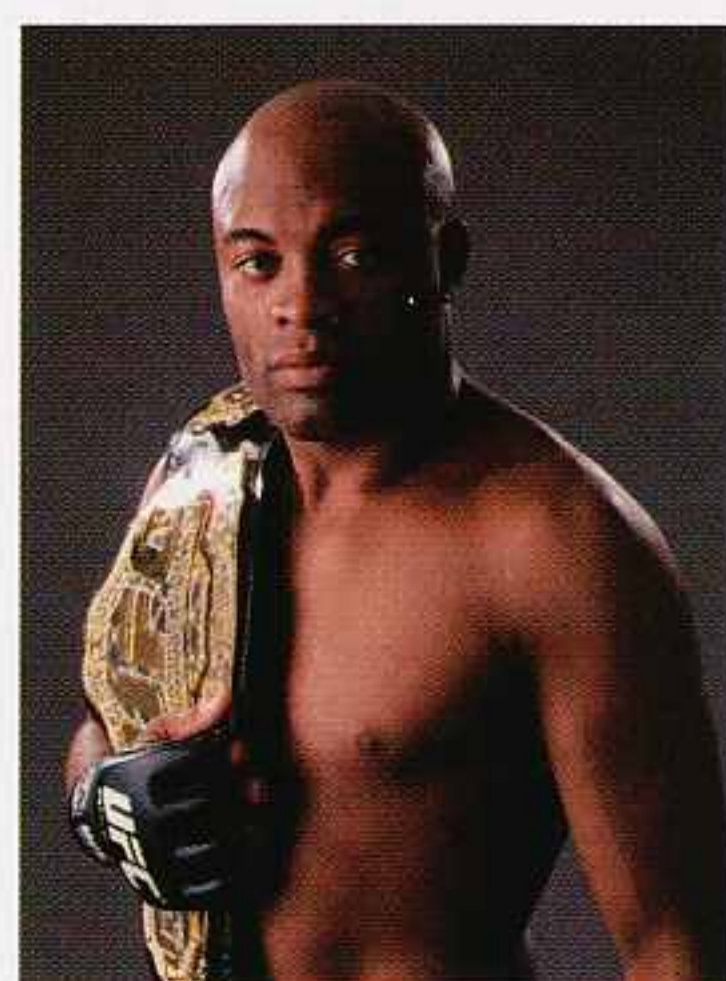
日本でおなじみの選手からまだ見ぬ強豪まで!
格闘ヲタクのワオ木さんが批評

海外MMAファイター名鑑

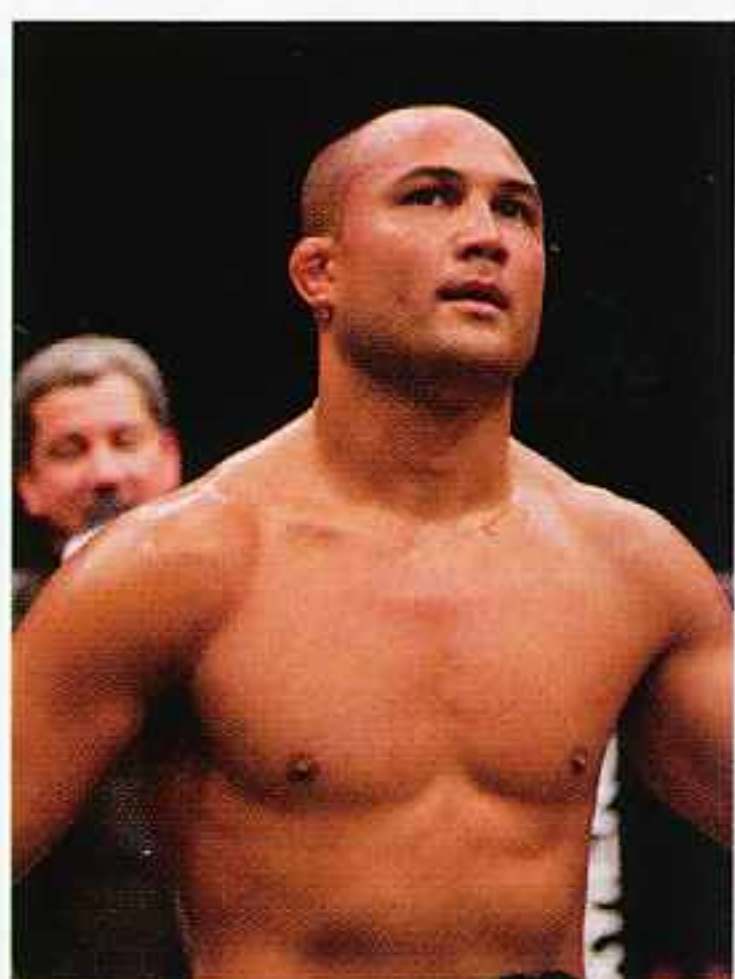
ここではいま注目の外国人ファイターをワオ木さんが解説批評! ロマンあふれる闘いを信条とするワオ木さんならではの視点で、最前線で活躍する選手たちをぶった斬り! この選手たちをチェックしとかないと"トレンド"に乗り遅れちゃうぞ!?

写真/Josh Hesges(UFC)、Tom Casino(EliteXC)、Daysy Rosas、Affliction、乾真也

FORREST GRIFFIN
フォレスト・グリフィン
190cm/93kg [アメリカ・ジョージア州出身]

ワオ木度

UFCじゃスターですね、ライトヘビー級のチャンピオンにもなって。だけどボク的にはあんまり伝わってくるものがないんですよ。試合が固いというか地味というか……イマイチ(笑)。日本のファンのウケはよくないかもしれないけど、最初から5ラウンド上等のタフな選手だと思って観るとおもしろいかも。技術的にはオールラウンダーで、うまさを感じさせます。

ANDERSON SILVA
アンデウソン・シウバ
188cm/84kg [ブラジル・パラナ州出身]

ワオ木度

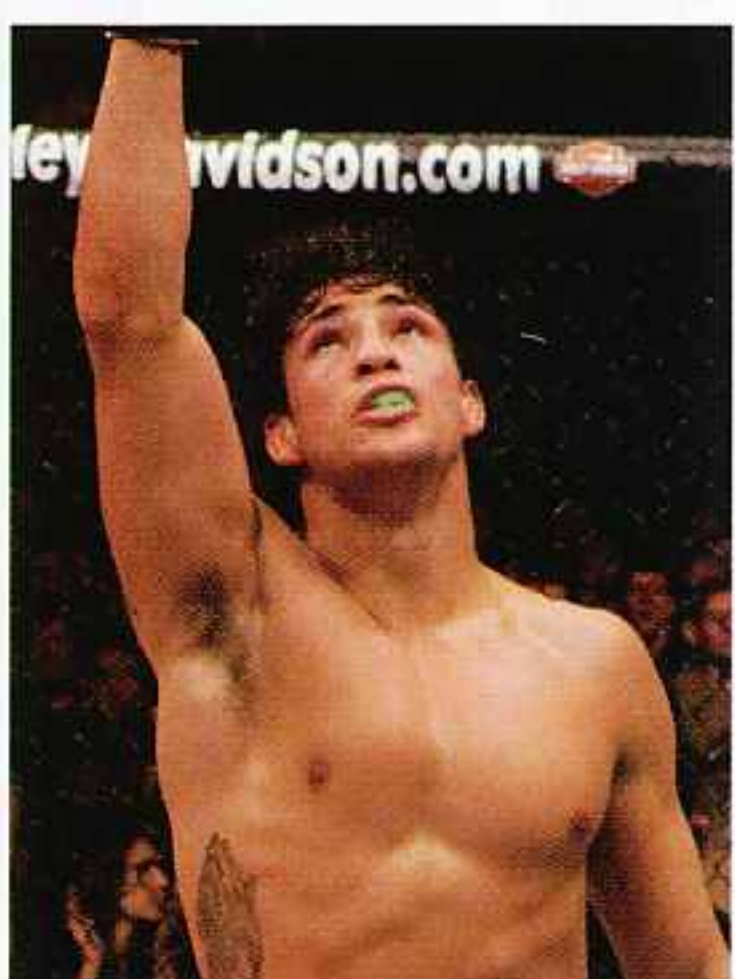
MMAにおける打撃の最先端を体現する選手ですね。しかも、テイクダウンされても下から対応できるから厄介! PRIDEで負けてるイメージもありますけど、その後にケージレージでキャリアを積んでUFCで成り上がって。いまやミドル級じゃ2つ3つ抜けた存在だと思います。ちなみにボクと同じ元修斗ミドル級王者だから、ボクの先輩にあたるわけです、エッヘン!

B.J.PENN
BJペン
175cm/77kg [アメリカ・ハワイ州出身]

ワオ木度

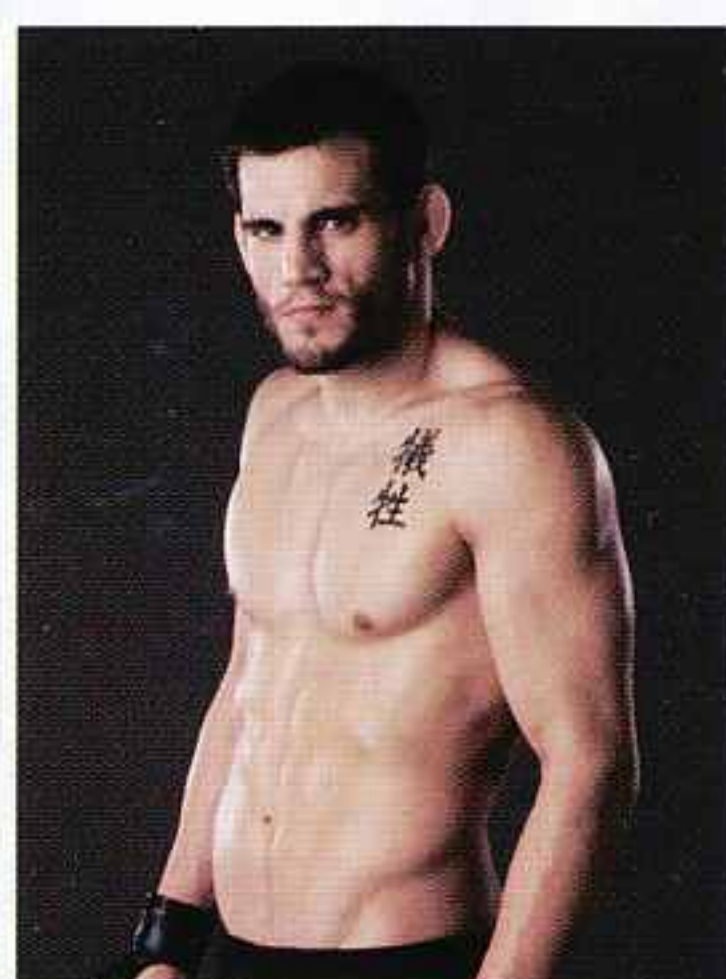
ペンもヤバいよな~。ボクシングに柔術にレスリング、なんでもござれで。もともとハウフ・グレイシーの弟子で、ムンジアル初の非ブラジル人チャンピオンなんですよね。宇野薫選手にも2回勝ってるし。あ、でもボクも勝ってるか!(とってつけたように)。もしペンと闘うなら寝技で勝負したいですね。きっとファンタスティックな試合になると思います!

GEORGES ST-PIERRE
ジョルジュ・サンピエール
178cm/77kg [カナダ・ケベック州出身]

ワオ木度

GSPはヤバい! 打撃系って思われがちだけど、レスリング技術が半端じゃないんですよ。だってあのマット・ヒューズを軽々とテイクダウンするんですよ?あとキックの連携も絶妙だし。前は荒さも目立ったけど、いまは勝ちに徹するスタイルになりましたね。アンデウソンが打撃の突出した完成型だとすれば、GSPはすべてにおいて完成してる印象です。

DIEGO SANCHEZ
ディエゴ・サンチェズ
178cm/77kg [アメリカ・ニューメキシコ州出身]

ワオ木度

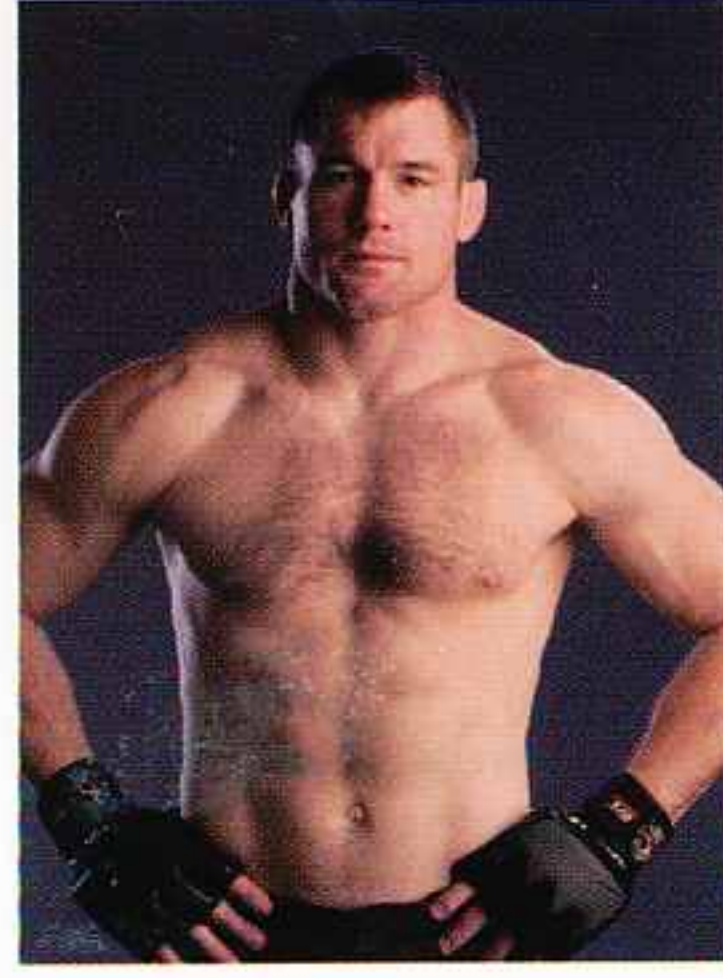
この選手も向こうのスターですね。人気先行型って言われてたけど全然そんなことないと思いますよ。だってマルセロ・ガルシアとアブダビで競り合ってるし。とにかくグラップリングが強いですけど、勝ちにこだわって固いんですよね。時折、スタンドで格闘ゲームでいうところのコンボみたいな連携も見せるんですけどね~。

JON FITCH
ジョン・フィッチ
183cm/77kg [アメリカ・インディアナ州出身]

ワオ木度

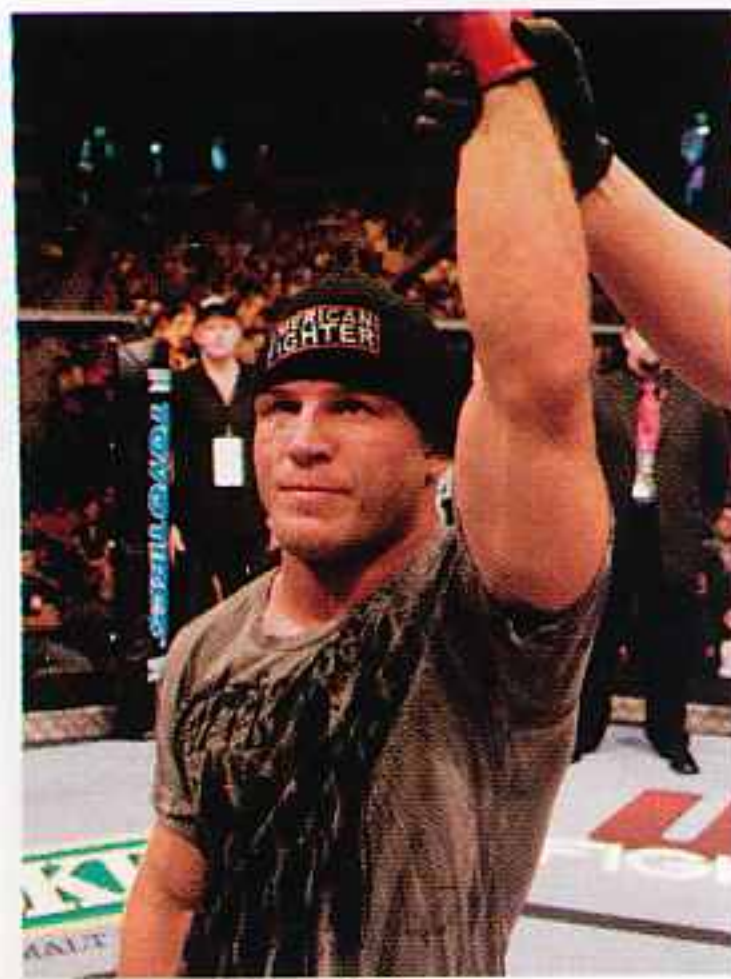
ムチャクチャ固いスタイルです、合掌! ボクシングもレスリングもうまいし、フィジカルもあって強い選手なんですけど、勝ちにこだわりすぎ! 観るほうは長期戦覚悟って感じですね。フィッチは"KFC"に持ち込むと強いです。"KFC"はケンタッキーフライドチキンじゃないよ、根性ファイティングチャンピオンシップです(笑)。

THIAGO ALVES ARAUJO
チアゴ・アウベス
175cm／77kg［ブラジル・セアラー州出身］

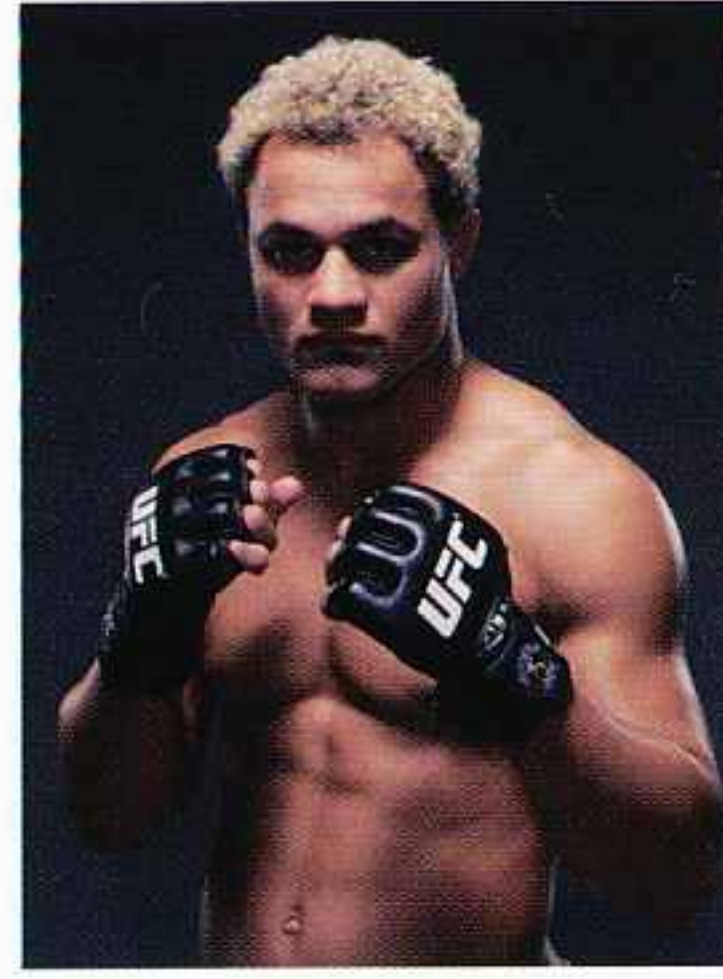
ワオ木度

アウベスはヤバい！……ボク、ヤバいばっか言ってる？（笑）。アウベスは弘中邦佳選手に死刑執行みたいなハンパない勝ち方しましたね。ジョン・フィッチに負けてるし、一昔前まではそんなにたいしたことないかなって思ってたんですけど、そんなんことなかった！　最近マット・ヒューズにも勝って。ATTだからJZカルバンと練習してるんですよね、侮れないです。

MATT HUGHES
マット・ヒューズ
175cm／77kg［アメリカ・イリノイ州出身］

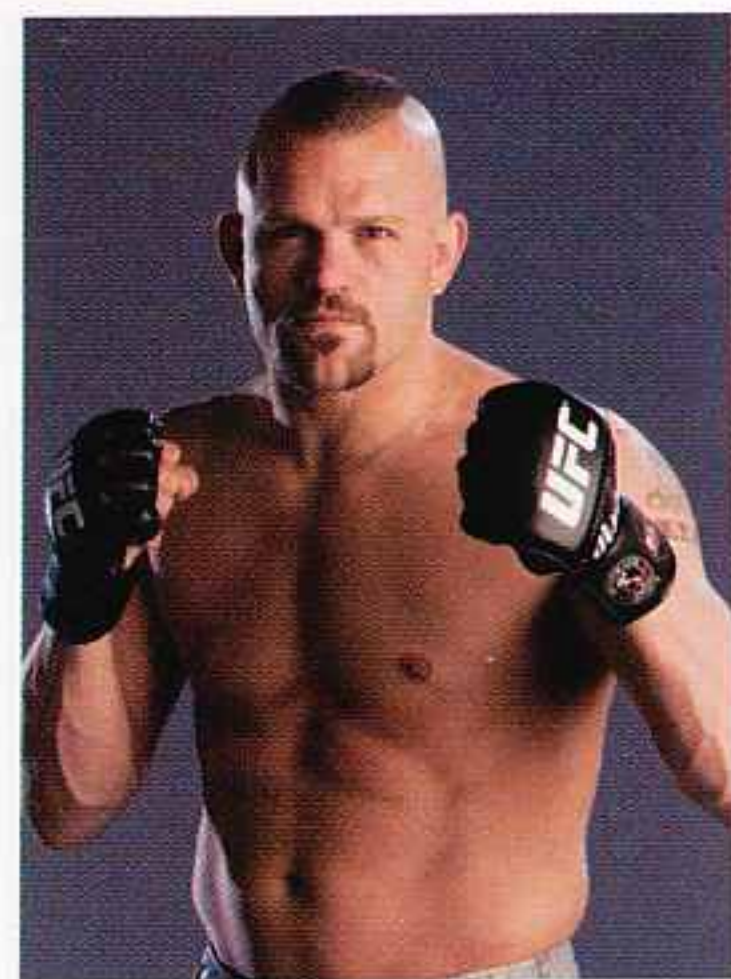
ワオ木度

最近はかつての勢いがちょっと落ちてきてるかな～、2年前ぐらいは体力の凄さが際立ってて、メチャクチャ強かったんですけど。GSPとは2回試合をやって、その初戦で負けてから失速しましたね。そこからロマンが失なわれた感じがします。１回の負けでこんなに選手って変わるのかなって思いました……格闘技って怖い!!

SEAN SHERK
ショーン・シャーク
168cm／70kg［アメリカ・ミネソタ州出身］

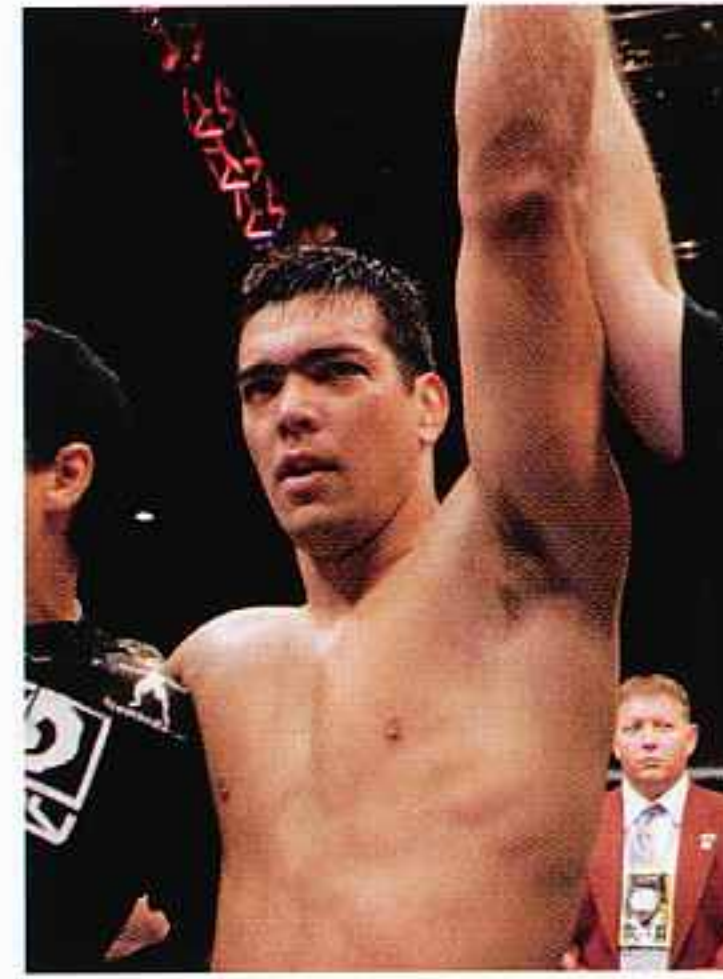
ワオ木度

シャークは見方によってはおもしろいって感じかな、その頑張りに注目すれば楽しめるっていうか。イメージとしては“ミスター判定”。じつは地味に『PRIDE武士道』にも出てるんですよね。レスリングキャリアが長いこともあって、タックルでテイクダウンする技術はホントにすばらしいです。そこは石田光洋選手を彷彿とさせるかもしれない。

JOSH KOSCHECK
ジョシュ・コスチェック
178cm／84kg［アメリカ・ニューヨーク州出身］

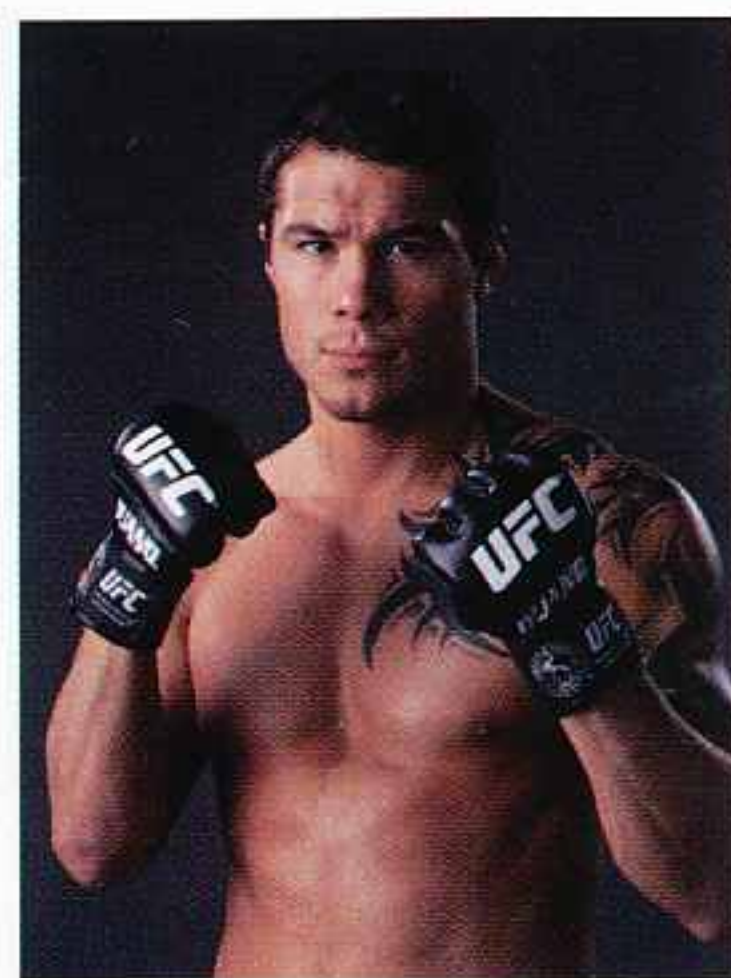
ワオ木度

“ミスター・アウトボクシング”ってイメージですね。それイコール試合が固いってことですけど（笑）。それでもあえて見どころを言うなら、レスリング＆ボクシングの技術ですね。でも、ボクはあんまり好きなファイターじゃないです、正直言って。でも、彼はディエゴ・サンチェズに勝ったんですよね、固い同士で闘って。だから実力はあります。

CHUCK LIDDELL
チャック・リデル
188cm／90kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

ワオ木度

パンチのテクニックがグンバツですよね！　サークリングをうまく利用して。ケージの使い方も知りつくしてるし。でも、アメリカでの異常人気は理解できないな～、ボクはそこまで魅力を感じないです。単純に国民性の問題なのかなぁ？　まぁ、ファイトスタイルが老獪っていうかうまいのは確かです。だけど、やっぱりあそこまで人気が出るのはわからない！

LYOTO CARVALHO MACHIDA
リョウト・マチダ
185cm／99kg［ブラジル・バイーア州出身］

ワオ木度

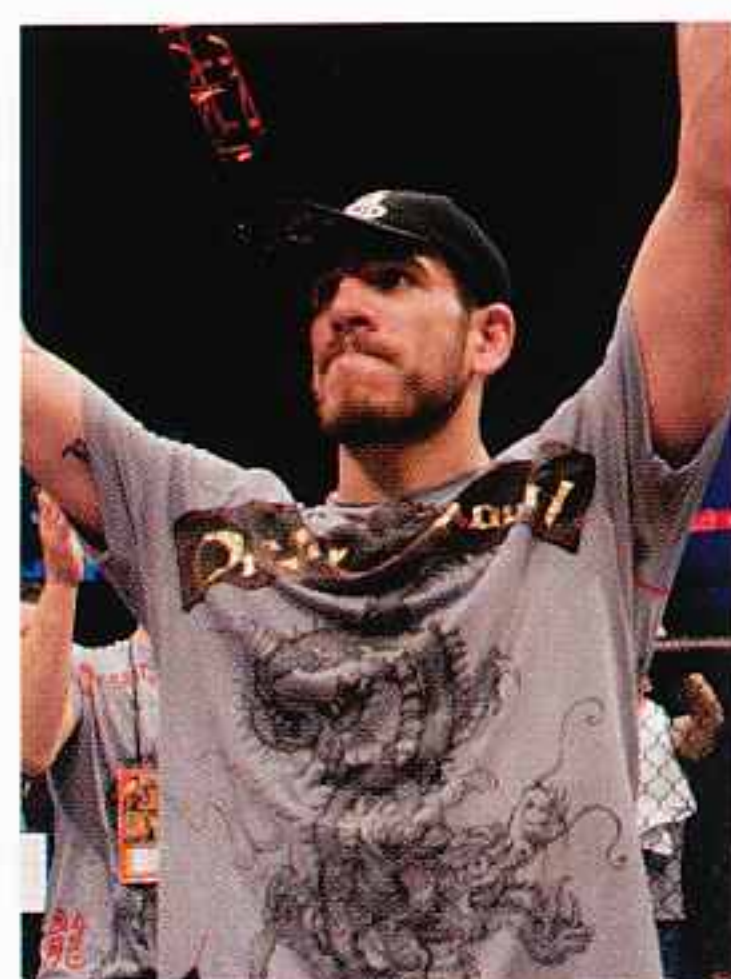
この選手も“ミスター・アウトボクシング”かな。アレ、そんな選手ばっかり？（笑）。でも強いんだよなぁ～、無敗なんですよね。ソクジュにも勝ってるし、パンチも寝技もポテンシャルが高いと思います。ギャンブルしないファイトスタイルだからちょっと退屈かな。でもそこが彼のよさだから変えちゃいけないと思います。そのままの君でいて！（笑）。

ROGER HUERTA
ロジャー・フエルタ
175cm／70kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

ワオ木度

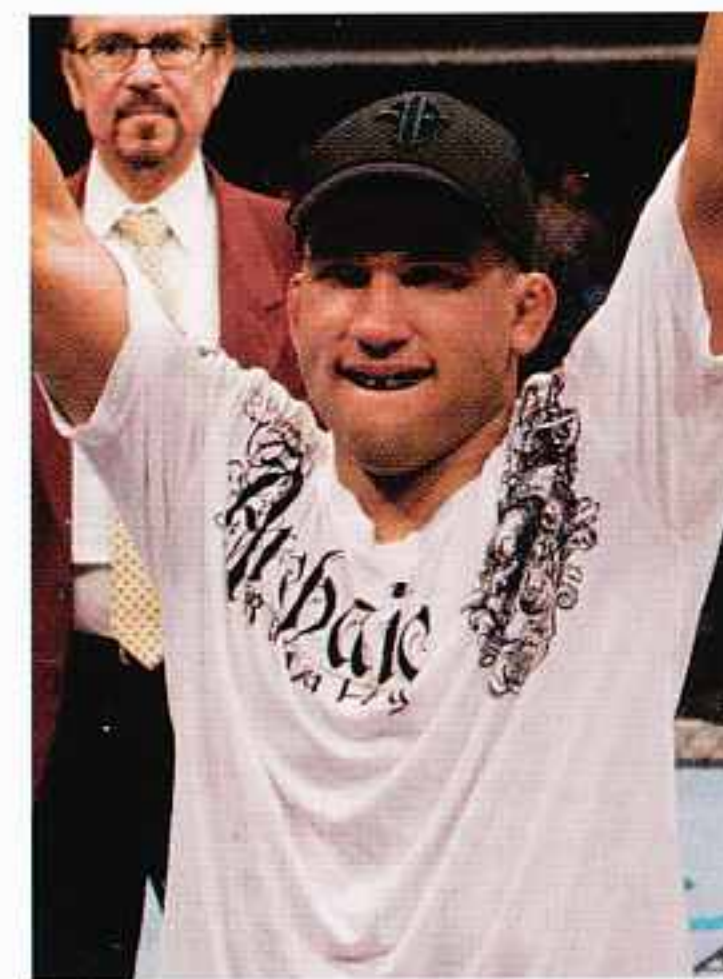
試合がおもしろすぎ！　超アグレッシブファイター！　ワオワオしてて大好き！　彼はボクのことをなんかよく言ってくれてるんですよ、たしか同級生だし。相思相愛！（嬉しそうに）。立っても寝てもアグレッシブなんで、見てて気持ちいい選手ですよね。この選手とBJペンの試合は観てみたいな～、同じ階級として気になる存在です！

RICH FRANKLIN
リッチ・フランクリン
185cm／84kg［アメリカ・オハイオ州出身］

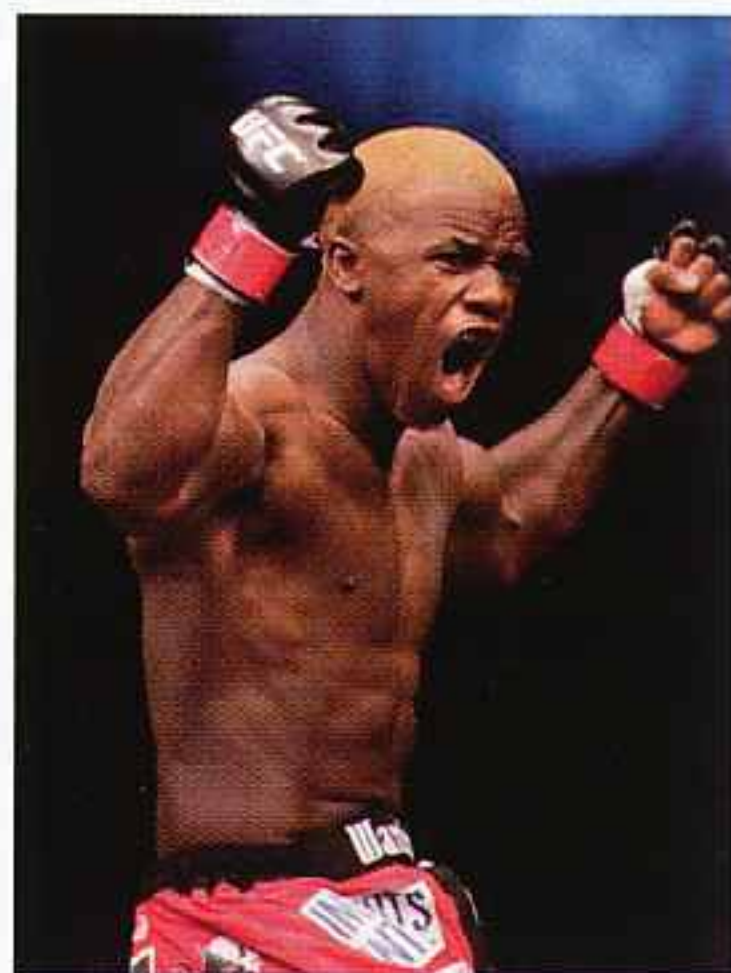
ワオ木度

元UFC世界ミドル級王者ですけど……アンデウソンにヒザ蹴りでKOされてるイメージしか思い浮かばない。2回やって2回ともヒザで負けたしな～。岡見勇信選手にも勝ってるし、もちろん弱い選手じゃないと思うんですけど、印象に残るタイプじゃないかも。やっぱり負けた試合のインパクトが強すぎて……褒めるところがあんまり見つからない！

KENNY FLORIAN
ケニー・フロリアン
178cm／77kg［アメリカ・マサチューセッツ州出身］

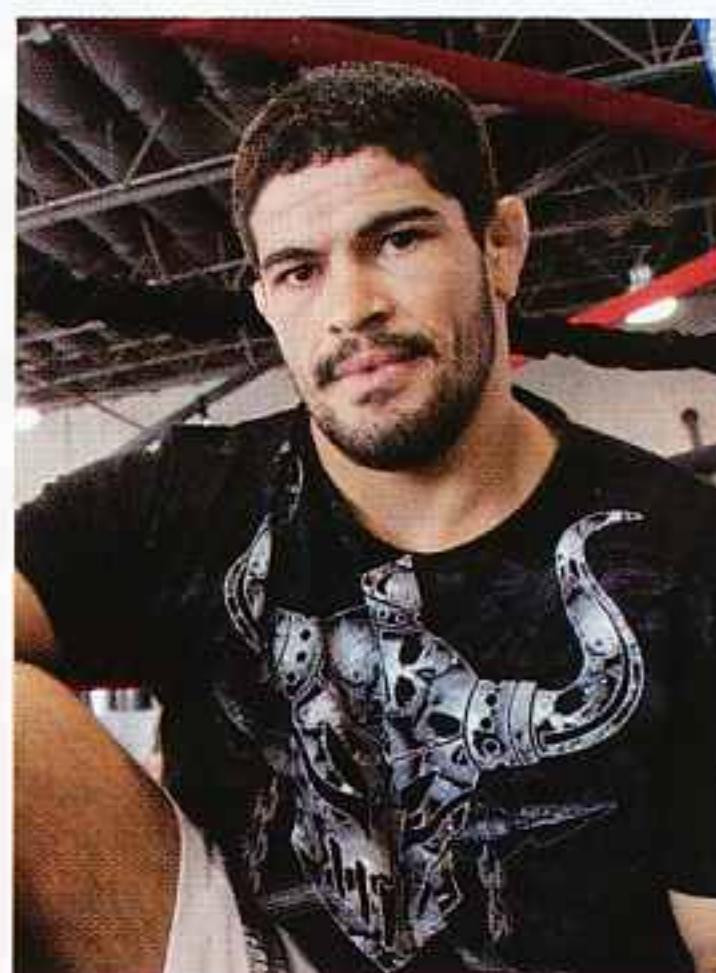
ワオ木度

最高！　この選手はボストンBJJっていうグレイシー系列のチームで、グラップリング技術を磨いてきたんですよね。で、ヒジも使えてパウンドワークもうまいし、かなりの実力者だと思いますよ。ショーン・シャークとのライト級王座戦のときも勝ちかけてたし。やっぱり軽い階級の試合のほうが、自分と比較して観れるから楽しいですね！

TYSON GRIFFIN
タイソン・グリフィン
168cm／70kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

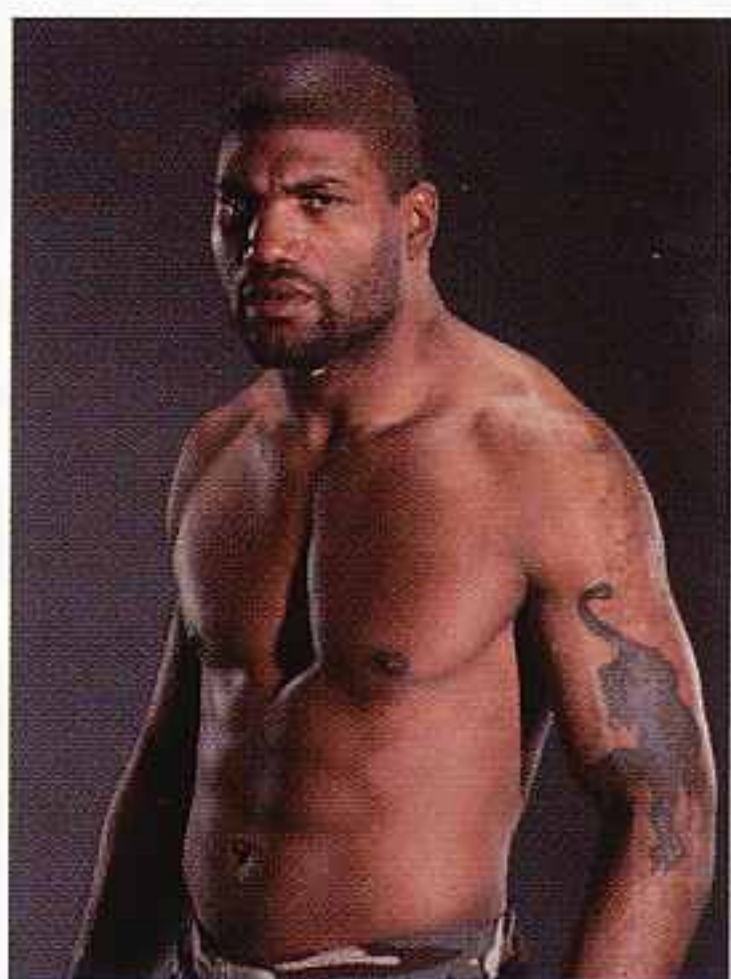
ワオ木度

マイク・タイソンのニックネームを取って“リトル・アイアンマン”で呼ばれてるんですよね。唯一、ユライア・フェイバーにも勝ってるし、相当にやりよると思いますよ。ニックネームに名前負けしてない。でも、この前やったマーカス・アウレリオとの試合はヤバいくらいつまんなかったな～（シミジミと）。強いけど固い闘い方をしますよね。

MELVIN GUILLARD
メルヴィン・ギラード
175cm／70kg［アメリカ・ルイジアナ州出身］

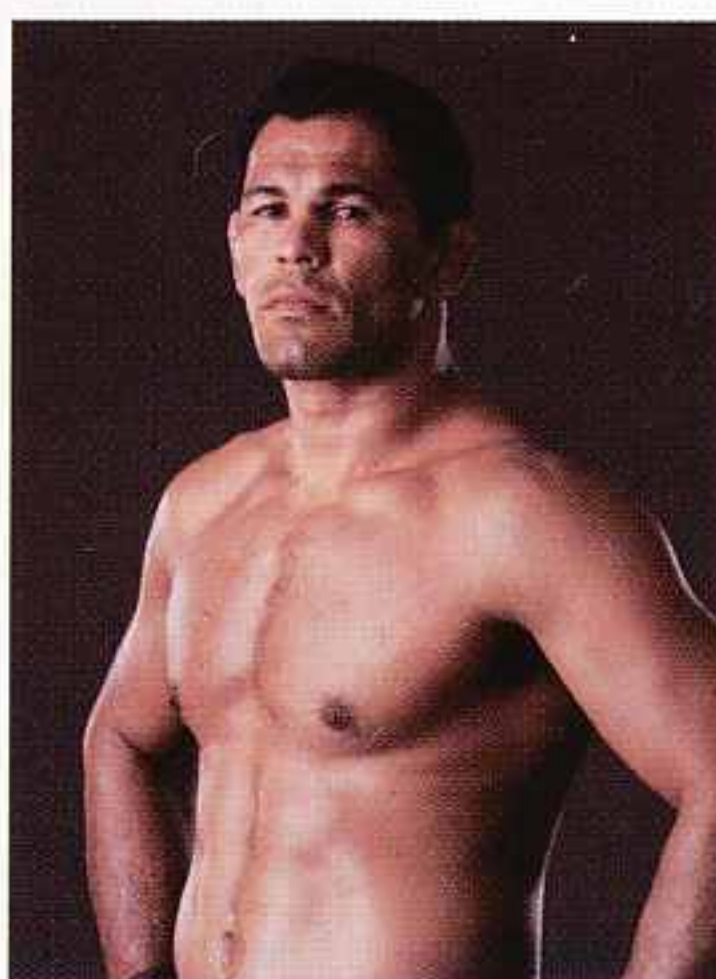
ワオ木度

ライト級のストライカー系の中で最近ボクが注目してる選手です。ぶっ倒すかぶっ倒されるかの試合をする、おもいきりのいいファイターなんです。オラオラ系だから日本でもウケると思いますよ。昔はウェルター級だったんですよね。07年は連敗してたけど、今年は連勝して調子上げてきてるし。「元気があってよろしい！」って感じの選手です！

ROUSIMAR"TOQUINHO" PALHARES
ホジマー・"トキーニョ"・パルハレス
173cm／83kg［ブラジル・ミナスジェライス州出身］

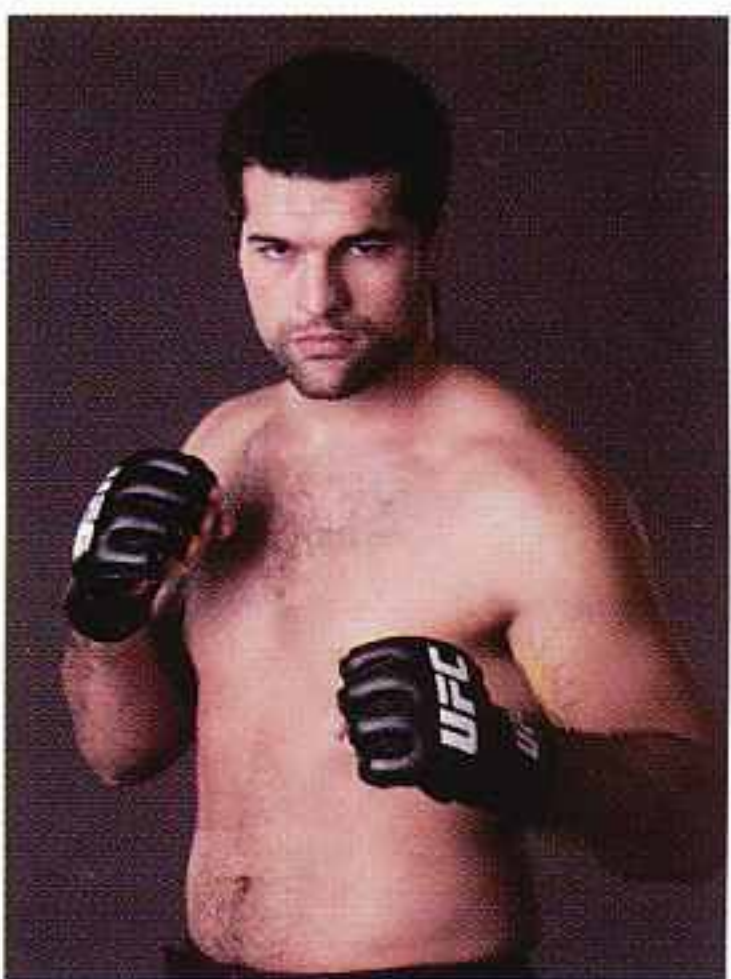
ワオ木度

ホジマーは強いでしょ〜。また意外と若いのが怖いですね、顔は老けてるけど（笑）。先日のアイヴァン・サラベリー戦は固くて強くて、いかにもBTTって感じで。固いのは「判定上等！」って心構えだからでしょうね。でも、それでもファンタスティックな極めも見せるから素晴らしい選手だと思います！　これから台頭してくるんじゃないですか？

QUINTON"RAMPAGE" JACKSON
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン
185cm／93kg［アメリカ・テネシー州出身］

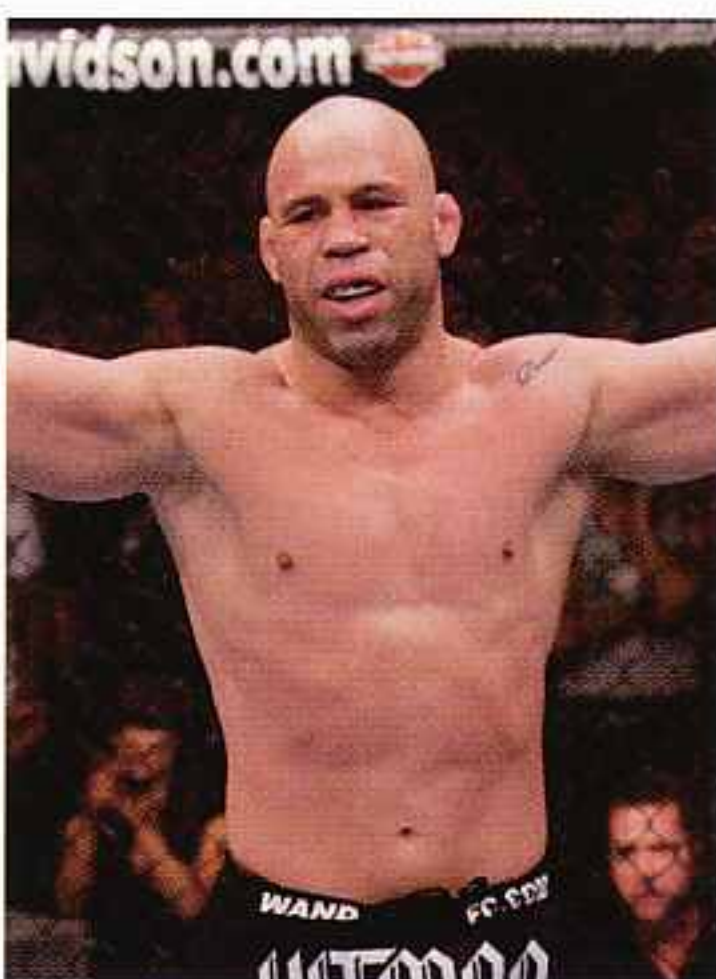
ワオ木度

文句なしに強いんだけど、最近はよくも悪くもボクシングに特化しすぎてるんじゃないかな〜。なんかもっと幅を広げてほしい気がします、レスリング&パウンドとか。試合でタックルにすらいかないんだもん。UFCの判定基準的にはグラウンドよりもスタンドが重視されるからいいんでしょうけど……。あれ、それだとボクはUFCじゃ不利なのか??（汗）。

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
191cm／105kg［ブラジル・リオデジャネイロ州出身］

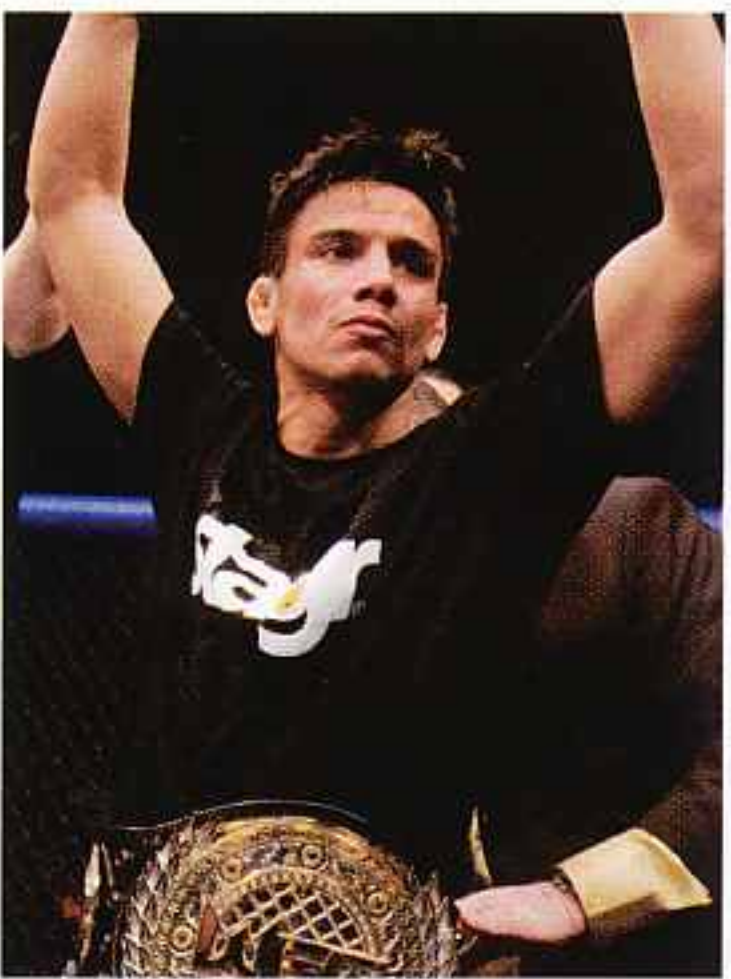
ワオ木度

いまさら語るにないでしょ、そりゃ強いでしょ！　同じ寝技師として見たら、ヘビー級だし軽量級に比べれば技術の荒さはありますけど、ファンタジックな試合をさせたらあの階級じゃ屈指なんじゃないですかね。ティム・シルビア戦も「ファイト・オブ・ザ・ナイト」に選ばれてましたし。寝技もさることながら、ノゲイラはボクシングがお上手！

MAURICIO SHOGUN RUA
マウリシオ・ショーグン
182cm／103kg［ブラジル・パラナ州出身］

ワオ木度

踏みつけが禁止されたPRIDEラスベガス大会の試合を観てたら、ショーグンはUFCに一番適応するかと思ったんだけどな〜。なのに初戦でフォレスト・グリフィンにああいう負け方して。ショーグンが2回勝ってるアリスター・オーフレイムが、いまあれだけ勢いあるのも皮肉ですね。まぁ、彼はこの約1年のブランクが次にどう出るかって感じです。復活劇に期待！

WANDERLEI SILVA
ヴァンダレイ・シウバ
182cm／93kg［ブラジル・パラナ州出身］

ワオ木度

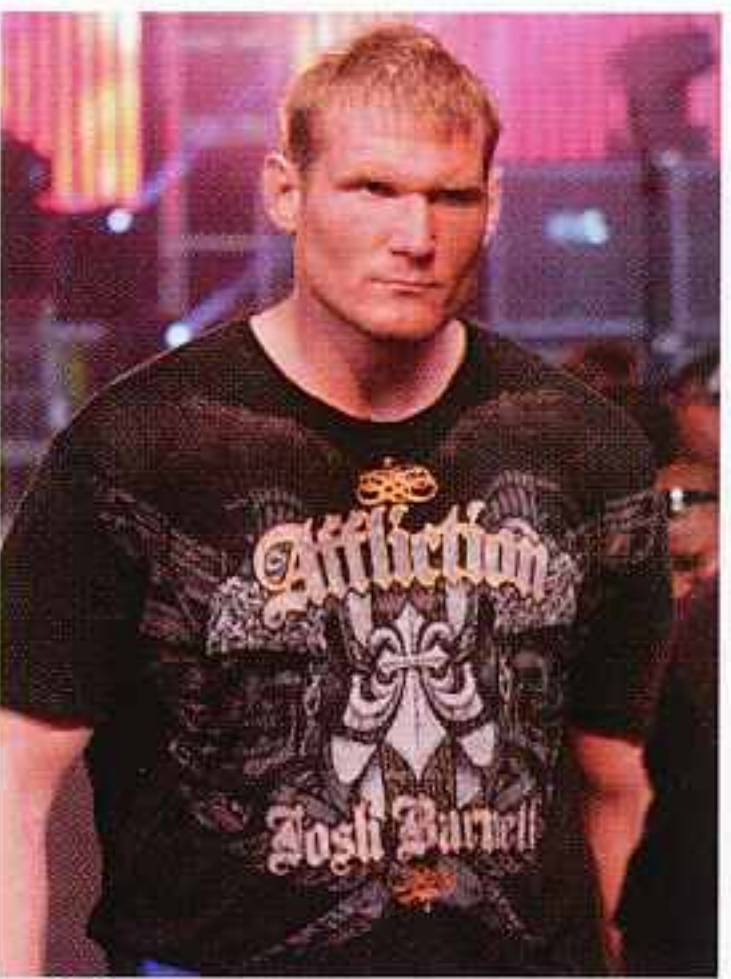
ボク的にはキース・ジャーディン戦は負けると思ったんですよ（笑）。でも内容が大味すぎ！　ていうか"踏みつけないヴァンダレイ"ってどうなのかな？　彼はUFCよりも日本に戻ってくるのが最良だと思いますよ。日本なら踏みつけOKの特別ルールとか作れそうだし。選手のよさを出すっていうのが日本のよさだったりします！

MIGUEL TORRES
ミゲール・トーレス
175cm／61kg［アメリカ・インディアナ州出身］

ワオ木度

この選手はカーウソン・グレイシー最後の弟子なんですよね。で、ホントにファンタスティックな試合をやりよるんですよ！（興奮気味に）。寝技はもちろん、ミドルもバンバン蹴って、なおかつパンチもいける。試合スタイルはややボク的ですね。ミゲールが山本"KID"徳郁選手と試合したら、これはスウィングすると思いますよ！

URIJAH FABER
ユライア・フェイバー
168cm／66kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

ワオ木度

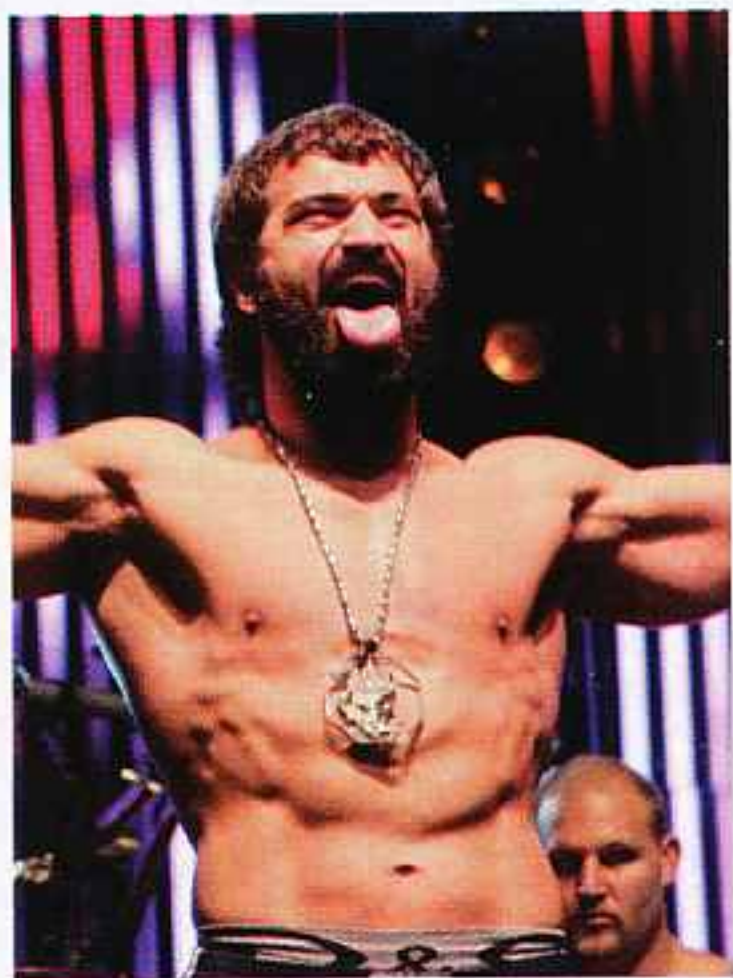
ユライアは強いよ。ギロチンがうまいですね、あとヒジ。DREAMで山本"KID"徳郁選手との試合が期待されてますけど、ルール的にどうかなって思うんですよね。ヒジなしルールでよさが発揮できるのかなって。試合で倒されてバック取られても、向き直ってヒジで相手をKOする選手ですからね。三沢光晴と一緒ですよ！　アメリカの小さな三沢さん（笑）。

JOSH BARRNETT
ジョシュ・バーネット
191cm／111kg［アメリカ・ワシントン州出身］

ワオ木度

なんだろうな〜……いい意味で"ビジネスマン"ですよ。あと、『戦極』ポーズの人。でも、ちゃんと実力あると思います。キャッチレスリングが大好きで、柔術が嫌いな人ってイメージはありますね。ただ、どっちもそんなに変わりはないと思うんだけどなぁ。ていうか、ボク的には「キャッチレスリングって何？」って小一時間くらい話をしたいです（笑）。

EMELIANENKO FEDOR
エメリヤーエンコ・ヒョードル
182cm／103kg［ウクライナ・ルガンスク州出身］

ワオ木度

ヒョードルは……もう強すぎておもしろくないです（笑）。あんま興味ないですね、強すぎてロマンを感じない。ヒョードルに勝てるヤツ？　佐伯（繁DEEP）代表ぐらいじゃないですか？（笑）。もしヒョードルに勝つとしたら、向かい合ったときにヒョードル以上の圧力がないとだめでしょうね。そうじゃないと勝機を見出すのは難しい気がする。

ANDREI ARLOVSKI
アンドレイ・アルロフスキー
193cm／109kg［ベラルーシ・ミンスク出身］

ワオ木度

いいっすよね、ワイルドでカッチョイイ！　元UFCチャンピオンだし、普通に強さを感じさせます。一言で表わすと"ティム・シルビアをヘッドスライディングさせた男"かな。バチーンとブン殴ってあの巨体をふっ飛ばして（笑）。サンボ出身だからなのか、関節技もちゃんと知ってるし。でも、やっぱりヒョードルにはかないません！（断言）。

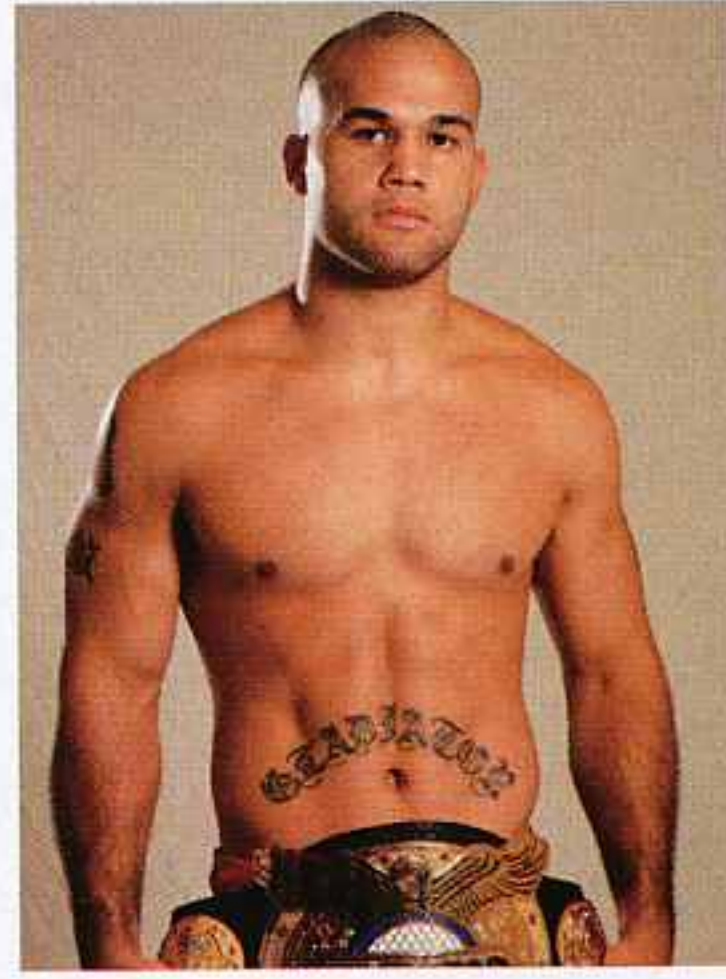
RANDY COUTURE
ランディ・クートゥアー
185cm／93kg［アメリカ・ワシントン州出身］

ワオ木度

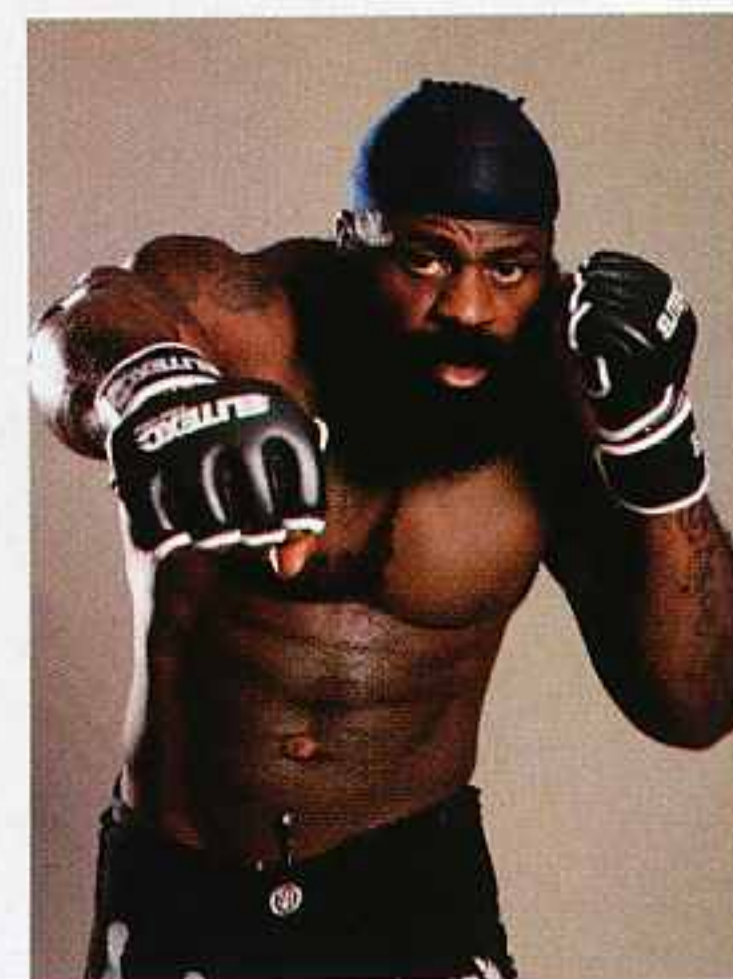
あの歳で対戦相手に体力勝ちするのは凄い！　「よっ、鉄人！」て感じです。ランディはクリンチワークがうまい。ケージ際で相手の脇を差して押し込んで、相手が巻き返してきたタイミングでヒジをズバッ！　みたいな。テクニックが老獪ですよね。でもヒョードルには勝てないでしょ、金網でも。ヒョードルは存在自体が必殺技ですから（笑）。

JAKE SHIELDS
ジェイク・シールズ
180cm／79kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

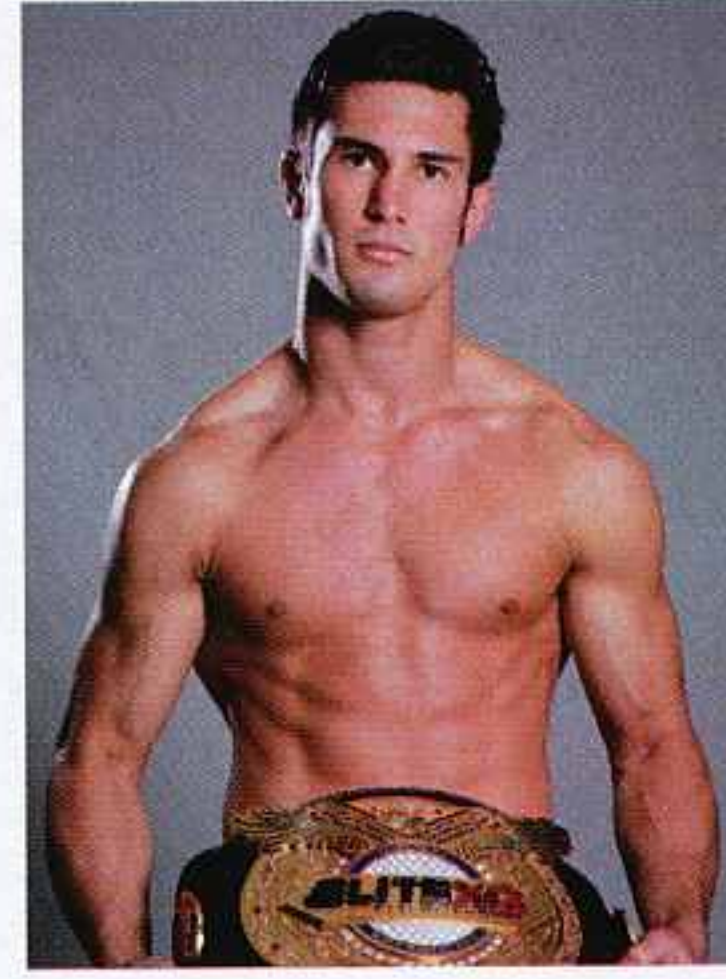
ワオ木度

最高だと思います！この選手は第6代修斗ミドル級チャンピオンなのでボクの先輩にあたるんですよね。ボクが2回勝ってる菊地昭選手（引退）に負けて王座陥落したんですけど、その頃と比べていまは格段に強くなってると思いますよ！　また、シーザー・グレイシーの弟子なんですよね。グレイシーってところがロマンがあるよね〜（シミジミと）。

ROBBIE LAWLER
ロビー・ローラー
180cm／84kg［アメリカ・アイオワ州出身］

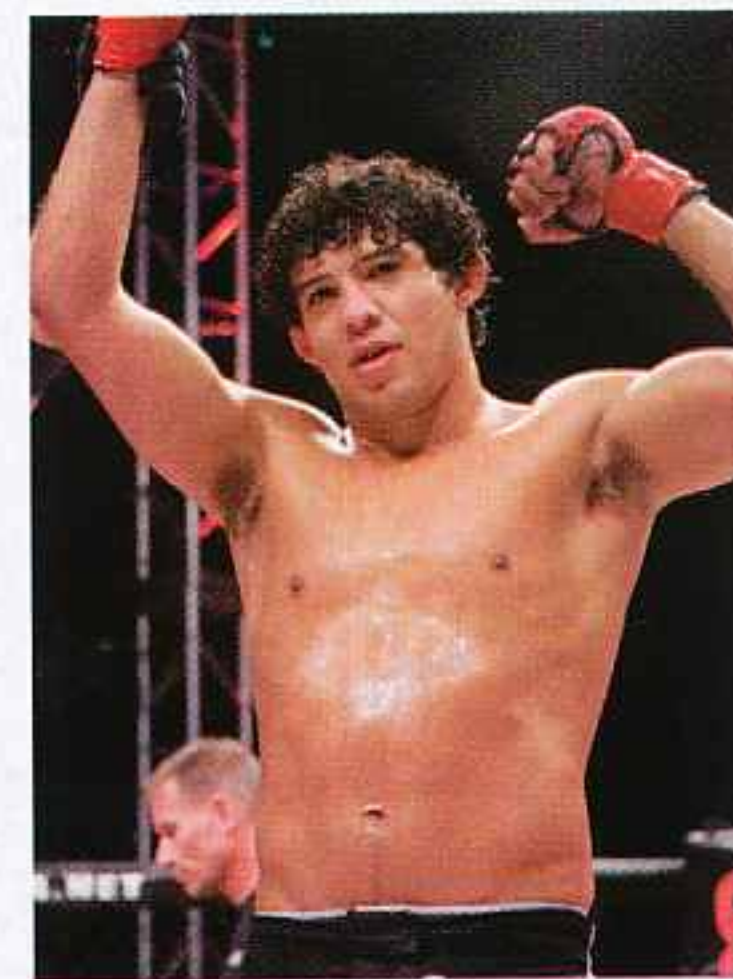
ワオ木度

この前のエリートXCのテレビマッチで、各方面から「唯一MMAファイターだ」ってヨイショされてたみたいですけど、実際に力あると思います。ボクはハワイでの試合を観たことあるんですけど、パンチが強い印象がありますが。PRIDEラスベガス大会にも出場してKO勝ちしてますけど、そのときは島田レフェリーがグリコポーズで止めに入ったのを覚えてます（笑）。

KIMBO SLICE
キンボ・スライス
188cm／110kg［バハマ・ナッソー出身］

ワオ木度

……どうでもいいんじゃないですか？（笑）。ホント、どうでもいいと思いますね。地上波だか知らないですけど、この選手がMMAでプッシュされるっていうのは、まさに"ファッション"の象徴だと思いますもん。よろしくない意味で"アメリカ"って感じがしちゃうから、ワオ木的には"なし"の方向でお願いします！（笑）。

KJ NOONS
KJヌーンズ
178cm／72kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

ワオ木度

日本でも名前が知られてる選手だとイーブス・エドワーズに勝ってる選手ですね。彼はストライカー系でパンチが巧みなんです。自分が下がりながら、真っ直ぐの超キレイな右ストレートを打ったり。たとえるなら修斗で活躍してるリオン武選手みたいなファイターですね。職人タイプっていうか、当てカンに関しては天才かもしれないです。

GILBERT MELENDEZ
ギルバート・メレンデス
175cm／69kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

ワオ木度

『やれんのか！』で石田選手に負けてからちょっとスランプっぽいですね、最近はジョシュ・トムソンにも負けて。スタイル的にチェンジが必要なのかも。もちろん強いとは思うんですけど。ていうか、いまってメレンデスみたいなスタイルの選手が多いですよね、ワン、ツーからタックル！　みたいな。そこからもう一歩突き抜けるのが難しいんだよね〜、コレが。

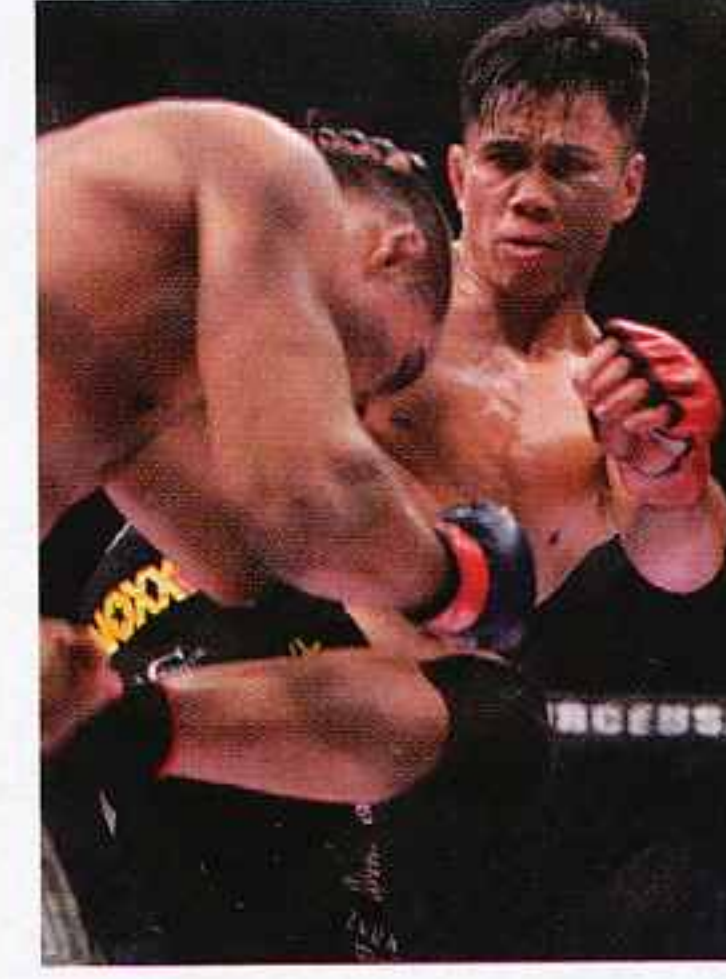
JOSH THOMSON
ジョシュ・トムソン
178cm／70kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

ワオ木度

ナイスな選手ですね！　ちょっと前まではグラウンドでガッチガチで固かったんですけど、この前のギルバート・メレンデス戦を観たら、すべての技術においてレベルが上がってると思いました。蹴れるし、倒されても必ず自分が相手の上になろうっていう基本どおりの動きをやってて。この選手もじつは『PRIDE武士道』に上がってるんですよね。

RODRIGO DAMM
ホドリゴ・ダム
168cm／70kg［ブラジル・リオデジャネイロ州出身］

ワオ木度

単純に強いと思いますよ。この前の『戦極』の試合でも打ち合いでやられかけてたのに、最後に逆転勝ちしてましたから。そういう選手は技術とともにメンタルも強いってことだし。ボク的には評価高いですね。『戦極』のライト級GPに出るんですよね？　ライアン・シュルツよりは上だと思いますけど、GPで優勝するのはもちろんわれらが北岡悟です！（笑）。

CUNG LEE
カン・リー
178cm／83kg［アメリカ・カリフォルニア州出身］

ワオ木度

横蹴りとか変則的な動きが達者ですよね。でも、正直ボクは魅力を感じない。この選手もちょっと"ファッション"が入ってるっていうか、意識的に周りがスターにしようとしてる感じがするんで。三崎和雄選手と試合したらおもしろいんじゃないですか？　三崎選手に説教を食らわしてほしいです！　「目を見ろ！おまえに伝わったはずだ！」って（笑）。

HELLO AMERICA!!

アメリカはハリウッドの夢を見る

エンターテインメント帝国アメリカの総本山ハリウッド。
誰もが憧れる聖地に、0ビンス・マクマホンはその名を刻んだ。
世界最大のプロレス団体ＷＷＥが〝紡ぎ込まれている〟という、
そのアメリカの肥沃エンターテインメント文化の深淵に触れてみよう。

聞き手／坂井ノブ

映画進出や俳優転向といえば、ここ数年はプロレスラーの〝あがり〟を意味してきた。しかし、その風潮に突然、異変が生じた。〝鉄人〟ランディ・クートゥアーと〝怪人〟キンボ・スライスという現在のアメリカのＭＭＡ業界で抜群の知名度を誇る両巨頭が相次いで映画出演を決めたのだ。最近は『ＲＥＤ　ＢＥＬＴ』というＭＭＡをテーマにした映画も公開されて話題になっているという。アメリカのエンターテインメントにおける成功イコール、ハリウッド進出という方程式はＭＭＡ業界にも受け継がれているようだ。

しかし、我々は誰か大事な人物を忘れてはいないだろうか？　何十年も前からハリウッドに強力なパイプを持ち、エンターテインメント業界に君臨してきた男のことを。そして、リングからスクリーンへと舞台を移す魔法を確立した男のことを。

そう、その男の名はビンス・マクマホン。

ＷＷＥの世界で「ＹＯＵ　ＡＲＥ　ＦＩＲＥＤ！」と絶叫してレスラーを思いのままにコントロールする悪のオーナー役を演じるビンスだが、プロレスだけにとどまらない経営手腕で、かねてから映画産業に取り組んできた。

いまや人気俳優のザ・ロック（現在はドゥエイン・ジョンソンに改名）をハリウッドに送り込んだだけでなく、ジョン・シナやケインを起用した映画を製作したりと何年も前から映画に進出している。７月にはＷＷＥは自前の映画部門「ＷＷＥ　ＦＩＬＭＳ」をリニューアルして、「ＷＷＥ　ＳＴＵＤＩＯＳ」として新たに映画やテレビやインターネットのコンテンツ制作に力を入れることを発表したばかり。プロレス・格闘技の世界からハリウッドを夢見る者たちへの大きな道しるべを築いたと言えるだろう。

ＷＷＥは世界１００ヵ国以上で放映される世界最大のプロレス団体だ。今年１月に日本支社もオープンして日本でも本格的にビジネス展開を開始している。ＷＷＥ日本支社代表エド・ウェルズはアメリカにおけるＷＷＥをこのように説明する（以下カッコ内の発言はすべてエド代表）。

アメリカ大好き!

『WWE Summer Slam Tokyo Viewing Party 2008』

東京・品川 ステラボール

9月7日(日) 開場13:00／開始14:00

ゲストにWWEディーバのマリアとビクトリアを迎えて500名限定のパブリック・ビューイングを開催することが決定! 今年4月の『WRESTLEMANIA』のパブリック・ビューイングも大好評だっただけに、お申し込みはお早めに!

入場料金

3,500円(税込み)

お問い合わせ

WWE JAPAN パブリック・ビューイングパーティ係
03-5456-6053(平日10:00～17:00)
WWE日本語公式WEBサイト http://wwe.co.jp/
WWEモバイル http://m.wwe.co.jp/

アメリカのエンターテインメント業界で最高の名誉であるハリウッドのウォーク・オブ・フェイムに名を連ねたビンス・マクマホンは全身で喜びをアピールした。

WWEを観ればアメリカがわかる!!

「WWEはアメリカのエンターテインメント文化、ポップカルチャーの中に紡ぎ込まれているものです。知らない人はいないし、誰もがWWEが大好きです。私自身は小学生の頃から観てました」

「紡ぎ込まれている」という表現にはじつにリアリティがある。アメリカ人にとってのWWEがこれほどまでに巨大なものとして存在している以上、ハリウッドがそこに目をつけない理由はない。

「アメリカにとってのハリウッドとはなんでしょう? それはアメリカのエンターテインメント文化の背骨です。WWEはハリウッドの一部なのです。ビンス・マクマホンは今年、ウォーク・オブ・フェイムの中に手形が入りました。さらに先月には長年の功績を評価されてPROMAX／BDA(※注)という権威あるエンターテインメント業界の団体から〝LIFETIME ACHIEVEMENT AWARD〟という賞を授かりました」

リアルにアメリカンドリームを体現するビンスがWWEを完全にアメリカで定着させた秘訣は、試合を見せるだけでなく、バックステージでのドラマや試合に至るまでの因縁をドラマ仕立てで丹念に描写したことにある。スポーツとしてのプロレスではありえないことが起こるのは、90年代にビンスが〝我々はエンターテインメントである〟とカミングアウトした強みだろう。

「我々は意識的にプロレスや格闘技とは考えず、スポーツ・エンターテインメントだということを念頭に置いています。日本でもコアなプロレスファンも引きつけつつ、ドラマ好きのファンを引きつけていきたいですね。プロレス団体や格闘技団体は競争相手だと思っていなくて、『24』は『LOST』や『HEROES』がライバルだと思ってます。ただ、リングの中をおろそかにしてるわけではなく、そこには自信がありますよ」

WWEこそがアメリカ文化を象徴するコンテンツである、という自負に裏打ちされたエド代表の言葉は非常に力強い。最後に今回の特集テーマ・アメリカについて聞いてみた。アメリカを好きになるには、どうしたらいいのだろう?

「まずは第一にWWEの番組を観ることです。第二にライブでWWEを体感することです。冗談めかして言いましたが、WWEにはアメリカの雰囲気と空気が集約されています。9月7日にはアメリカからWWEスーパースターを招いて東京でパブリック・ビューイングイベントを開催するので、そこでぜひ本場の空気を感じてもらいたいですね」

ED WELLS■米国ミシガン州デトロイト生まれ、ミシガン大学でアジア研究と日本語の学位を習得、卒業後はアメリカン大学(ワシントンDC)と立命館大学で修士課程を修了。MTV、バイアコムなどでライセンスビジネスで多くの実績を残す。08年1月よりWWE JAPAN代表として日本市場における事業開発、マーケティング、ブランド管理、ライセンス事業、ライブイベントなどすべてのビジネス戦略を統括する中心人物。

※注:PROMAX／BDA とは、世界65カ国以上からテレビや電子メディア関連の団体・個人4000人が加盟する国際的な権威ある機関。

HELLO AMERICA!!

これさえ知れば、
きっとあなたも勝者になれる！

須藤元気

アメリカ修行経験者にして成功者が語る

アメリカをうまく利用する方法

アメリカ、凄い、凄〜い！という状態が続いている昨今のマット界だが、その〝凄さ〟を逆に利用してしまう手はないものか。今回はその必勝法を探るべく、実際にアメリカのジムで修行を積み、プロデビューをはたしたアメリカ利用体験者の須藤元気にインタビューを試みた。プロモーター、選手、それからミュージシャンに至るまで、元気先生にその利用法をたっぷりうかがったので、新書、もしくはHowTo本を手にしているようなつもりでお読みください！

聞き手／松下ミワ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

プロデビュー前に須藤元気が渡米した本当の理由とは？

——今回の『kamipro』はアメリカ大特集ということで、実際にアメリカで修行されたことのある元気さんには、アメリカの利用法というテーマでお話をうかがいたいと思います。

須藤　よろしくお願いします。

——まず、元気さんの実体験からアメリカの利用法を探りたいと思うんですが、そもそもアメリカに飛び立った理由とは？

須藤　利用法ということになるかはわからないですが、もともと僕は高校時代にプロ格闘家を志したんですけど、見てのとおり身体も大きくないですし、普通にリングに上がるのでは、一山いくらで終わってしまうなと思ったんですね。そこで考えてたどり着いた結論が、ニッチ戦略だったんです。

——ニッチ戦略、といいますと？

須藤　要するに隙間産業的なものです。道場で鍛えてデビューということもできるんでしょうが、僕の場合はその道を選んでしまったらずいぶん回り道だと考えたんです。

——まず新弟子生活がありますし。

須藤　僕はそのぶん練習したかったですし。ちゃんと個性を売りにしたかった。それは何かというと、当時、格闘家でタトゥーが入ってる選手はいなかったんですよ。僕はもともとミュージシャン志望というのがあったので、タトゥーを入れたいなと思ってたさなか、格闘家で入れてる人がいなかった。じゃあタトゥーを入れてデビューしようと思ったんです。

——どういうキャラで売り出すのか考えていたんですね。

須藤　それと同時に入場パフォーマンスも、これも音楽の影響なんですけど、電気グルーヴとかレッチリ（レッド・ホット・チリ・ペッパーズ）のライブパフォーマンスを見て、総合で足りないのはエンターテインメント性だと思ったんですね。真剣勝負なんですけど、プロレス的な要素を取り入れることが大事だ、と。

——デビュー前からそこまで計算してたんですか。

須藤　でも、そのためにはアメリカに渡る必要があったんです。だって、普通にパンクラスに入ったら、頭丸めて、ちゃんこ作ってという感じで、どうしても封建的な部分は避けられないですよね。道場の練習生がタトゥー入れたら先輩にシメられるのは目に見えてるじゃないですか（笑）。

——間違いないですよね（笑）。

須藤　だから、アメリカから逆輸入するかたちでパンクラスに的を絞ったんです。当時、パンクラスにはケン・シャムロックとかバス・ルッテンとか、そういった選手が上がってたじゃないですか。だから、その人たちがいる道場を調べたんです。なぜかというと、日本に参戦してる選手がいるジムに行ったほうが、そこにはもうルートがあるわけですから。

——もう、そこはスムーズに行けますもんね。

須藤　で、ルッテンがいたビバリーヒルズ柔術クラブは西海岸で日本とも近い。で、オレッグ・タクタロフとかマーク・ケアとかマルコ・ファスとかもいて、ここに行けば新弟子時代をすごすことなくパンクラスでデビューできるんじゃないかと思って行きました。

——ホントに利用してますねぇ。

アメリカを攻略する前にまず日本の現状を知ろう！

——アメリカ利用法をうかがう前に、いまアメリカMMA界が勢力を増す中で、元気さんは日本の現状をどう見てますか？

「タトゥーを入れてデビューしようと思った。そのためにはアメリカに渡る必要があったんです」

How to use The United States of America.

「僕だったら、エンターテインメント性とマニアックな部分を融合させたいと思ってますね」

須藤　日本はほかの国と比べて少し早いんですよねえ、ブームの到来が。民放で放送してますし、格闘王国と言える立場だと思うんですが、ただ、アメリカや韓国なんかでも海外のMMA人気が出てきてるじゃないですか。そこと比較すると、日本がいま衰退期に入ってると言えますよね。

――衰退期ですか……。

須藤　いや、どんなものにも必ず春夏秋冬があるんです。導入期、成長期、成熟期、衰退期。これは株式なんかでもそうですけど、必ずその4つの流れがあるんです。で、僕が総合格闘技を始めた当時は導入期だったんですよ。UFCが開始された時期ですからね。

――選手がジャンルとともに成長するにはピッタリの時代ですね。

須藤　で、僕が渡米してデビューしたときにちょうど成長期に入るんです。そして成熟期に入ったときにK－1MAXができたんですね。いつがピークかというと、大晦日にテレビ3局で格闘技が放送されたときなんです。あのときに僕はこれから衰退期がくるなと思ったんですよ。

――03年の大晦日はあらゆる意味で転換期ですしね。

須藤　ただですね、ここで衰退期だから終わってしまうというのではなく、もう一回導入期を作ると格闘技はまた盛り上がるんですよ。

――ほう。それは可能なことなんですか？

須藤　可能です。どうすればいいかというと、階段のような波にしていけばいいんです。いかに衰退期を短くして、この波自体を上げていくか。衰退期にさしかかったとはいえ、導入期から比べると高さはあるわけですから、「格闘技って何？」という純粋な導入期にはならないんですよ。だから、いまの格闘技が衰退期にあるからといって、決して悲観することはないと思います。

なぜUFCはこれほどまでに勢力を伸ばし続けるのか

――そのグラフで考えると、アメリカMMAのグラフはどういう状態なんでしょう。

須藤　正直、アメリカと日本の格闘技の導入期は変わらないんですよ。でも、なぜアメリカが勢いを増してるかというと、つまり、利権が分散してないんですよ。

――UFCの一極集中ということですか。

須藤　いま日本が衰退期なのは利権が分散してるからなんです。たとえばK－1とPRIDEが対立していた時期がありましたが、これも利権がポイントでした。自分たちが手がけたほうがお金になる、と。でも、一方アメリカではUFCというのは絶対的な王者なんですよ。

――ほかのプロモーションを圧倒していますね。

須藤　一極集中の中で、下に枝があるんです。だからブレないんです。あの八角形の中を目指すために、選手も小さい舞台で試合をしてるんですよ。そう考えると、日本はDREAMと『戦極』の二つに分かれるんじゃなくて、完全に一つになってたら衰退期は止まってましたよね。衰退期って感じる前に格闘技はまだ盛り上がってるなって感じただろうし、視聴率にしてももっと数字を獲ってたと思います。

奇想天外な寝技で毎試合ファンを驚かせる青木。青木の試合には、アメリカのファンも釘づけだと元気先生は予想する。

――ただ、ライバルがいるほうがジャンルが盛り上がるという考え方もありますよね。

須藤　いや、ライバルといっても、いまの日本にはそこまで選手がいないんですよ。人材不足なんです。枠の中にいる選手が足りないし、まだまだ育ってきてないんです。なぜかというと、それはトップダウン型だからなんです。

――トップダウンといいますと？

須藤　いままで日本の格闘技は、格闘家じゃない人たちを引っぱり込んで試合をする場面があったので、選手一人一人のメンタリティというのがしっかり育ってない。もちろんみんな頑張ってるんですけど、トップの人とかが「出ていいよ」というのを待ってる状態なんですね。一方、アメリカは完全にボトムアップ型なんですよ。

――叩き上げの選手ばかりだ、と。

須藤　日本もK－1がやってるときは地道に積み上げてきたんですが、5年前ぐらいから格闘家じゃない人たちが闘うほうがおもしろかったわけじゃないですか。それで数字が獲れてしまうわけですし。でも、このトップダウンも非常に大切なんですよ。だからいま大事なのは、トップダウンとボトムアップを両方やることなんですね。それによってこの業界は安定していくと思うんです。

いまMMAプロモーターがアメリカを利用する方法とは

――そのアメリカが勢力が増している中で、日本MMA界に影響があるとすると、ファイトマネーの高騰もあって、トップファイターを日本に呼べなくなるのではないかという懸念があります。

須藤　いまの社会はやはり物質至上主義ですし、資本主義ですからね。そう考えると、ここまでUFCが巨大化したのは仕方のないことです。ただ、一番重要なのは、選手が日本のリングに魅力を感じるか感じないか。いかに、日本のリングに上がりたいと思われるようになるかです。その魅力はPRIDEという舞台にはあったんですよ。そういった魅力的な部分、UFCにないオリジナルの部分を打ち出すのがいいと思いますね。

――たとえば元気さんがDREAMのプロモーターだったら、どうやってファイターを惹きつけようと思いますか？

須藤　UFCにない部分ですから、僕はエンターテインメント性とマニアックな部分を融合させたいと思ってますね。これは本当にDREAMに提案しようと思ってるので、まだ

具体的には言えないんですが、日本という「和」の部分を活かした特別ルール、特別な舞台を作るということですね。これは、非常に大晦日向けだと思うんですが……（といって、具体策を熱弁！）。
——なるほど、なるほど。
須藤　もっとおもしろがれる要素を入れたほうがいいと思いますね。そういったものプラス、逆に格闘技ファンが支持するようなコアなカードをぶつけるんです。
——たとえば青木真也vsJZカルバンのようなカードを。
須藤　そう。青木vs川尻、宇野vs川尻、そういった日本人同士のシビアな対決ですよね。そういうカードをちゃんと用意していれば、エンターテインメント性をMMAに落とし込みやすいんですよ。
——一方だけではバランスが悪いわけですね。

五味隆典、青木真也で考えるアメリカMMAの利用法

——次は選手個人のアメリカ利用法というテーマです。たとえば、いま『戦極』で闘ってる五味選手がアメリカを利用するにはどうすればいいでしょう？
須藤　う〜ん。五味の個性はもう完成されてますからね。
——とくに利用する必要はありませんか（笑）。
須藤　UFCは逆に五味みたいな選手が多いんですよね。バチバチ殴って、ジャンケンポンで殴って、お互いどっちが先に当たるかという闘い方ですからね。それだったら、逆に青木選手がUFCに出るほうがいい。だって、ああいうスタイルはUFCにはいないじゃないですか。フットチョークをUFCで披露したりしたら、もうたいへんなことになると思いますよ！（笑）。
——ジャパニーズ・ニンジャ、ライジング・サン！　って感じなんですかね（笑）。
須藤　そこで重要なのは、日本のカルチャーを大事にしながらも、広い視野でアメリカの要素を吸収することなんですよね。それも白か黒かの世界ではなく、グレーゾーンなんですよ。日本のカルチャーを持ちつつ、世界を見ていく。
——それは……、難しそうですね。
須藤　要するに、音楽でいえば、ジェロなんかがそうですよね。ヒップホップみたいな格好をしてるけど演歌を歌うという、あまりにもナンセンスなことをしているからウケるんです。それと同じで、日本人が和を意識しながら流暢な英語で売り出すというのはいいんじゃないですか？　そうでないと、アメリカにはアジア人なんていっぱいいますから、普通の個性なんですよ。もちろん実力があってのことなんですけど。
——イロモノ的要素だけじゃいけない。そこはどのジャンルでも問われるんですね。
須藤　日本人のアーティストで英語で歌って受けてる人はいますけど、やはり音がいいですからね。マッド（カプセルマーケッツ）とか素晴らしいですもん。しかも、シャウトしてるから発音は関係ないし。そう考えると、坂本龍一さんなんかもメロディなんですよ。本当にクリエイティブに作りこむ。そこが必要ですね。

アメリカを完全攻略する〝絶対条件〟を身につけよ！

須藤　で、ここまで話しましたが、結局、アメリカを攻略するには、まずはもっと言葉の壁を取り払わないとダメですよね。
——いま日本人でUFCに出ようとしている選手も、英会話を勉強している人は多いと聞きます。
須藤　英語のパワーというのはやはり凄くて、もちろん日本でも英会話教室の需要が高まってるし、じつはヨーロッパでもいま英語を共通語にしようというような風潮になってるんですよ。
——そうなんですか？
須藤　当初EUでは、英語とフランス語とドイツ語を共通語にしようという動きだったんですが、それだとやっぱりコストがかかるんですよ。そこで、英語を共通語にしようという動きが出てきたときに、あの誇り高きフランスが折れたんですよね。フランス語じゃなくていいって。
——フランス、凄いですね！
須藤　そう。そうやって譲る一方で、でも自分たちのカルチャーには誇りを持っている。そういう部分がいいんですよ。
——なるほど。
須藤　だから、世界に広がっていくのはいいんですけど、日本の文化も大事にする、バランスをとるのが大事だと思います。だから、結局、利用法、攻略法といっても、一つの方法だけじゃないし、白か黒かじゃないということだと思います。

【08年8月4日／都内・ルノアール日本橋高島屋前店にて収録】

「重要なのは、日本のカルチャーを持ちつつ世界を見ていく」

How to use The United States of America.

五味の試合はアメリカンスタイルだと元気先生。確かに、ガンガン殴りまくる五味のスタイルは日本人離れしている。

すどう・げんき■1978年3月8日、東京都出身。海外修行のために98年に渡米。99年に帰国すると、その後はパンクラスを経てK-1、HERO'Sなどのメジャー団体で活躍。その実力もさることながら、変幻自在なファイトスタイルや特異な入場でファンを魅了した。06年『Dynamite!!』を最後に現役を引退。現在はDREAMの解説者を務めている。

Two Mayhem

Ryo Chonan Jason Miller

Crazy Talk Session in Hollywood

Text by Nobu Sakai

—Does Chonan's English progress?
Jason : Chonan's English is getting better. Day by day.
Chonan : My English is BAKA English.
Jason : Me too.My Japanese is BAKA NIHONGO.
Chonan : But, your Japanese is better than Ryan.
Jason : I have a radio show on every Monday. It's "Mayhem Monday".
—What program is it?
Chonan : It's part of The Jason Ellis Show. Jason Ellis is a professional Skateborder.
Jason : Sometimes,Chonan comes to studio.
—What do you speak?
Jason : I speak with the listener.50% fighting.50% Woman.SUGOKU BAKA radio show!!
—Now,we are talking in a cafe at Hollywood. Do you often come to this cafe?
Chonan : Jason takes caré of his body. He eats Organic food.
Jason : It's good for my body.I like this café because ONNANOKO KIREI!! GAHAHAHAHA!! CHOTTO MATTE!! ZUZUZUZUZUZUZ!!!!!! (Drinking frozen shake). Oh,my god!! Awesome!! Awesome!!
—headache?
Chonan : BAKA!! You're drinking too quickly.
Jason : DAIJOBU I can see pretty girls when looking at the street. But,Japanese girls are good. American girls are TAMAKEMONO!!
Chonan : You mistake. NAMAKEMONO.
Jason : MACHIGAETANE!!
Chonan : You are stupid.
—Chonan's next match has been decided.
Jason : Yeah, Chonan will win by KO at first round.
Chonan : I do.
—Do you drink together?
Jason : Yes!! When Chonan drinks,his face become red. And he becomes a crazy.
Chonan : When I drink too much,I don't remember anything. You are my limiter.
Jason : When Chonan drinks,I'm not mayhem.You are mayhem!! GAHAHAHA!!

PRIDE買収からMMA完全制圧まで

HELLO AMERICA!!

アメリカ横暴の象徴？“ジャイアン”ダナ・ホワイト語録

「アメリカこそナンバーワン!」「俺たちこそがルール!」そんな、アメリカの横暴ぶりは、国際社会でも散見されるが、それを格闘技界で地でいっているのがUFCであり、ダナ・ホワイトだ! 「おまえのモノは俺のモノ。俺のモノは俺のモノ」というジャイアニズムあふれる精神で、これまでさんざん、“俺節”を展開してきたダナ。ここでは、そんなダナ語録をPRIDE買収前から現在まで、たっぷりと集めてみた。この男、やっぱり怪物だ!

構成／堀江ガンツ

近い将来、UFCがPRIDEを飲み込むこともあるかもしれないな（ニヤリ）

➡06年7月27日『kamipro』102号
シウバがPRIDEのTシャツを着てオクタゴンに登場。チャック・リデル戦をアピールして、UFCとPRIDEの交流がまさにこれから始まるか、というときにこの言い草。やっぱり最初からその気だったんじゃん！

PRIDEがアメリカ開催に漕ぎ着けたのはご立派だ。だが、ヤツらはこれによって大金を失なうだろうな

➡06年10月21日『kamipro』105号
PRIDEが初のラスベガス大会を開いた日に、超上から目線でその実績を評価。この余裕がムカつく！

ボードッグの社長は犯罪者だ

➡06年10月21日『kamipro』105号
まだ、巨大資本ボードッグが脅威だと思われていたときの発言。事実とはいえ、競合会社の社長を「犯罪者」呼ばわりするのは凄すぎ！　日本にたとえたら、「○○○の×××は犯罪者だ！」っていうようなもんだ。恐ろしい！

ゲンキ・スドーに『TUF』に出演してもらいたい

⬇06年10月21日『kamipro』105号
まだ、日本に進出する気マンマンだった時代の発言。須藤元気をリアリティショー『TUF』に出演させるのはいいアイデアだが、ダナは日本で『TUF』が放映されてないのも知らなかった。全然、日本を重要視してないじゃん！

ボードッグ・イズ・ジョーク！

ジョーク同士が集まってもUFCやPRIDEにはなれない。よりジョーク度が増すだけだ

➡07年4月21日『kamipro』111号
ロレンゾ氏によるPRIDE買収と時を同じくして発表された、エリートXC、FEGを中心にケージレージ、ストライクフォースなどを加えたアライアンス。これをダナは「ジョークが集まったジョーク連合だ」と一蹴。その言葉を裏づけるように、ケージレージ、ストライクフォースなどは、早々と「アライアンスを組んだわけじゃない」と表明するなど、ズンドコぶりを露呈した。

PRIDEのトップファイター、全員を手に入れようか（ニヤリ）

⬆07年2月3日『kamipro』108号
ミルコ・クロコップを獲得したあとのコメント。この時点では、まだPRIDEは存続していたが、2カ月後にUFCオーナーがPRIDEを買収。ホントにPRIDEファイターの大半を手に入れてしまった……。この欲ばり！

我々はこれまで多くのファイターをミリオネアにしてきた

➡06年10月21日『kamipro』105号
「でも、てめえが一番、搾取してんだろ！」とはティト・オーティズの弁。

ファンに言っておこう。ネットを見るのはやめなさい

➡06年10月21日『kamipro』105号
何気に噂話を気にするダナ。とくにネットメディアの〝飛ばし記事〟にはイライラしているようで、「我々はしっかりしたメディアにだけ取材許可を出す」とネットメディアを閉め出した。というわけで、UFCでは『ターザンカフェ』で取材申請をして、プレスで入場し、試合も観ずにバックステージで「ダナ！　俺の彼女、34歳！」なんてことは起こらないのだ。

⬅06年10月21日『kamipro』105号
資産100億円を誇るカルビン・エアーがオーナーとあって、その資金力から、この時期までは驚異に思われていたボードッグ。ダナもその警戒心からか、ボードックに関しては容赦ない徹底口撃を展開！　一時は決めゼリフのように「ボードッグ・イズ・ジョーク！」と叫んでいた。なお、カルビン・エアーのインタビューが掲載された『kamipro』を見たダナは、「こんなヤツを載せてるおまえらはどうかしてる！」と断罪。

PRIDEは素晴らしい組織だし、素晴らしいファイターが揃っている。だから活動停止やその名前が失なわれるようなことがあってはならない

07年3月PRIDE買収時のコメント⬆
PRIDE買収直後は、こんなことを言っていたダナ。しかし、次々とPRIDEの契約をUFCに書き換え、見事にPRIDEの名前を消滅させた。言ってることとやってることが全然違うよ!

借りがあるのはK—1のほうだろ? ホイスの取り引きでいくら払ってやったと思ってるんだ?

➡07年4月21日『kamipro』111号
FEG谷川代表が、以前、K—1と契約中のホイス・グレイシーをUFCに貸し出したことを持ち出し「UFCに男気があるなら、マット・ヒューズを貸してほしい」と表明するも、ダナは高額のレンタル料をFEGに支払ってることから「貸しがあるのはこっちのほう」と反撃。「どうせ大失敗するんだから、いまから中止したほうがいいんじゃないか?」と、よけいなお世話なアドバイスを送る始末。

ジョシュはUFCを助ける気はないが、法外な金だけはほしいという非常識なヤツだ

➡07年4月1日『kamipro』113号
ティト・オーティズ、フランク・シャムロックと並ぶダナの3大天敵であるジョシュに対してのコメント。このほかにも「こいつの実績はミルコに3度も負けたこと」や「中堅選手のクセして金だけはトップクラスを要求する銭ゲバ」など、言いたい放題。

セーム・シュルト? 何年も前にUFCから脱落した人間が世界チャンピオンとは驚きだな(笑)

➡07年4月1日『kamipro』113号
「PRIDEファイターはほしい選手がたくさんいたが、K—1(FEG)には山本KIDを除いて、興味があるヤツが一人もいない」とうそぶいたダナ。"K—1絶対王者"セーム・シュルトの名前を振ってみると、「UFCから脱落したヤツが世界チャンピオン」と皮肉ると、「キックボクシングでは、強いのかもしれないから、そっちの世界で生きていったほうがいいだろう」と嫌味なエール。

10万人興行? ジョーク連合にふさわしい、じつにくだらないジョークだ!

⬆07年4月21日『kamipro』111号
ロサンゼルスのメモリアル・コロシアムで10万人興行をぶち上げた『Dynamite!! USA』。ダナはこれを「くだらないジョーク」と一蹴した上で、「あのフリーク・ショーだと10万枚のタダ券をバラまいてもガラガラだろうな」と、ある意味、鋭いマーケットリサーチを表明!

タダ券で5万人を集めるのではなく、金を払ってチケットを購入したファンを2万人集める。それがUFCのやり方だ!

➡07年4月1日『kamipro』113号
この時期、すっかりおなじみとなっていた『Dynamite!! USA』への嫌味な発言。ある意味、有言実行。

これらのスーパーカードを1年以内にすべて実現させることを約束しよう

⬆07年4月21日『kamipro』111号
シウバvsリデル、ダンヘンvsランペイジ、マット・ヒューズvsマット・セラ、シャークvsBJペン、山本KIDvsユライヤ・フェイバーなどを挙げた上での発言。このほとんどを実現させているのは驚きだが、KIDvsユライヤと、ヒョードルvsランディは実現させられていない。

日本のファンがUFCやPRIDEをテレビで観たいなら、日本のテレビ局に手紙を書くべきだ

➡07年4月1日『kamipro』113号
PRIDEを買収したものの、なかなか日本で地上波を獲得できないイラ立ちから、なんとファンからのお便り攻勢という、草の根かつ原始的な手法を提唱! いまからでも遅くない、みんなでテレビ局に手紙を書こう!

私たちはすでに大金を投入しているんだ。地上波でないとダメだね

➡07年9月7日『kamipro』115号
日本でのテレビ放映について「地上波でしかもUFCとPRIDEの両方放送」という、高いハードルを設定したズッファ。「どうだ、UFCとPRIDEを放送させてやるぞ。うれしいだろう」という見事な殿様商売の結果、ちっとも話がまとまらなかったのはご存知のとおり。ようやく今年の10月からWOWOWの放送再開が決定したが、ダナの口から正式発表がいまだにないのは、やはり不本意なのか?

大金をかけて獲得しても、その後のプランが何もないのがK—1の特徴だ。彼らは金を無駄遣いするのが本当に好きなんだ

➡07年9月7日『kamipro』115号
「だから山本KIDをこっちによこせ！」ということが言いたい発言。決して曙さんのことを言ってるわけじゃありません！

私のかわいいファイターたちがクソみたいな団体で闘うのを見ていられないからだよ

⬆07年9月7日『kamipro』115号
独占契約にこだわる理由を解説。スター選手が他団体で価値を落とされるのを懸念しているのだろうが、ミルコがDREAMに出るのはいいのだろうか……。

ヒョードルがランキング1位とは『MMA WEEKLY』みたいなメディアのセンスがおかしいからだ

➡08年2月2日『kamipro』120号
忌々しいヒョードルが、ヘビー級のランキング1位、さらにはパウンド・フォー・パウンドと呼ばれていることに、ダナのイラ立ちは頂点に達し、『MMA WEEKLY』を名指しで批判！「あいつら、俺と討論してみろよ」と、プレスパスも出さないくせに大人げなく挑発した。

大金がもらえて五味にとってはいいことだ。俺にはどうでもいい話だ！

➡08年2月2日『kamipro』120号
それまで「五味は素晴らしい」「UFCにぜひ上がってもらいたい」と言っていたダナだったが、『戦極』と契約したことで態度を一変。「我々が提示した金額よりはるかに上の金がもらえて五味にとっては良かっただろう。彼はBJペンや、ショーン・シャークとの闘いに背を向けたんだ」と、嫌味ったらしくコメントした。

クレイジー・ロシアンどもとまともに付き合おうとしたヤツらがバカだっただけだ

⬅08年3月15日『kamipro』115号
モンテ・コックスCEOの『M—1グローバル』が、一度も大会を開催せずに空中分解したことについてコメント。ロシア側とモンテ側、両方を同時に腐す、見事な悪口ぶりだ。

テレビショッピングみたいなもんだ！

⬅08年3月15日『kamipro』115号
エリートXCに続き、ストライクフォースまで3大ネットワークの一つ、NBCで放映が決定。しかし、これに対してダナは「あれは金を払って枠を買っているだけ。テレビショッピングみたいなもんだ！」と、絶妙なたとえで断罪。それまで「ストライクフォースは小さな町で頑張ってるよ」と、見下しつつエールを送っていたが、これには「いい迷惑だ！」とボロクソ。

プロエリートはいいように使われて、用済みになったら売り飛ばされて終わりだ

⬆08年3月15日『kamipro』121号
エリートXCが3大ネットワークの一つ、CBSで放映されることが決定。地上波進出に出遅れた感のあるUFCだが、「エリートXCはCBSに買収されたようなもんだ」と、ちょっと苦しい毒舌。

DREAMとかいう妙なイベントが立ち上がったようだが、目障りになれば、また潰してやる

⬆08年3月15日『kamipro』121号
『やれんのか!』開催時は「せいぜい頑張ってくれ」と、一応エールを送っていたダナだが、本格的にDREAMがスタートすると、いきなりキラーモードに豹変。いまでは、DREAMについて完全ノーコメント状態となっている。

シアンどもめ！

つまらない試合をさせたらティトにかなうヤツはいない。ミスター・ガッカリの称号を与えてやるよ

➡08年12月27日『kamipro Special 2008 SPRING』
年末ということで、本誌はダナが選ぶ『MMA大賞』を選定してもらった。そこでダナは、犬猿の仲であるティト・オーティズを「年間で最もガッカリさせてくれたファイター」に選定! ついでにミスター・ガッカリの称号も授与してくれた。

ジョーク・オブ・ザ・イヤーはヒョードルだ!

➡08年12月27日『kamipro Special 2008 SPRING』
2007年、さまざまなファイター、イベントを「ジョーク認定」してきたダナ。そんなダナが選ぶ、2007年最もジョークだった男、『ジョーク・オブ・ザ・イヤー』に見事輝いたのは、やっぱり我らが皇帝、エメリヤーエンコ・ヒョードル! ダナがここまで言うのは、もの凄く意識している証拠であり、ある意味、勲章と言えるだろう。

Tシャツ屋に何ができる!

⬆08年5月24日『kamipro Special 2008 JULY』
ボードッグ、M－1グローバル、エリートXCに次いで、またもやUFCにキバを剥いた新イベント『アフリクション』に対し、早速、毒ガス噴射。それにしてもダナは、ボードッグ=犯罪者、M－1=クレイジー・ロシアンなど、ニックネームセンスが何気にバツグンだ。

ヒョードルvs ティム・シルビアは、俺の考えを変えさせるものはあった。だが、パウンド・フォー・パウンドはアンデウソン・シウバだ!

⬆08年7月19日 UFN試合後
これまで「ベスト5にも入らない」「世界一過大評価されたファイター」など、ダナが徹底的にボロクソに言ってきたヒョードルが、ノゲイラをKO寸前まで追いつめた元UFC王者ティム・シルビアを、わずか37秒でKO! これにはさすがのダナも「俺の考えを変えさせるものはあった」と、ヒョードルの実力をしぶしぶ認め、「だが、パウンド・フォー・パウンドはアンデウソン・シウバだ」と苦しい強がりを言うだけだったが、この数日後になると「長年、退屈な試合を続けてたティムに勝っただけ」と、アッサリ前言撤退。そう簡単には挫けてくれないのだ。

俺が日本に行ったら殺されそうだな(笑)

➡08年12月27日『kamipro Special 2008 SPRING』
常日頃から「日本大好き」アピールをしているダナだが、PRIDEを潰し、UFCの放映にも動かないなど、やってることは反日同然。さすがに日本のファンに自分がどう見られているかは、わかっているようだ。

ランディとヒョードルの試合はいつまで経っても見られないことをみんなに伝えてくれ

➡08年3月号『GONKAKU』
UFCを離脱し、ヒョードル戦を実現させたいランディ・クートゥアーと、契約が1試合残っていることを盾にそれを許さないUFC。裁判はまだ続いているが、結審前に勝手に「実現しないと」アナウンス!

俺の仕事は憎まれ役だ。そういう人間が必要だし、俺はその役割を受け入れている

➡08年5月2日『ESPN The Magazine』
「このビジネスのプロモーターは俺だ。プロモーターはいつでも悪者でなければいけないのさ」と、自らの毒舌キャラをきっちりと仕事として理解しているダナ。このあたりが、さすがなのだ。

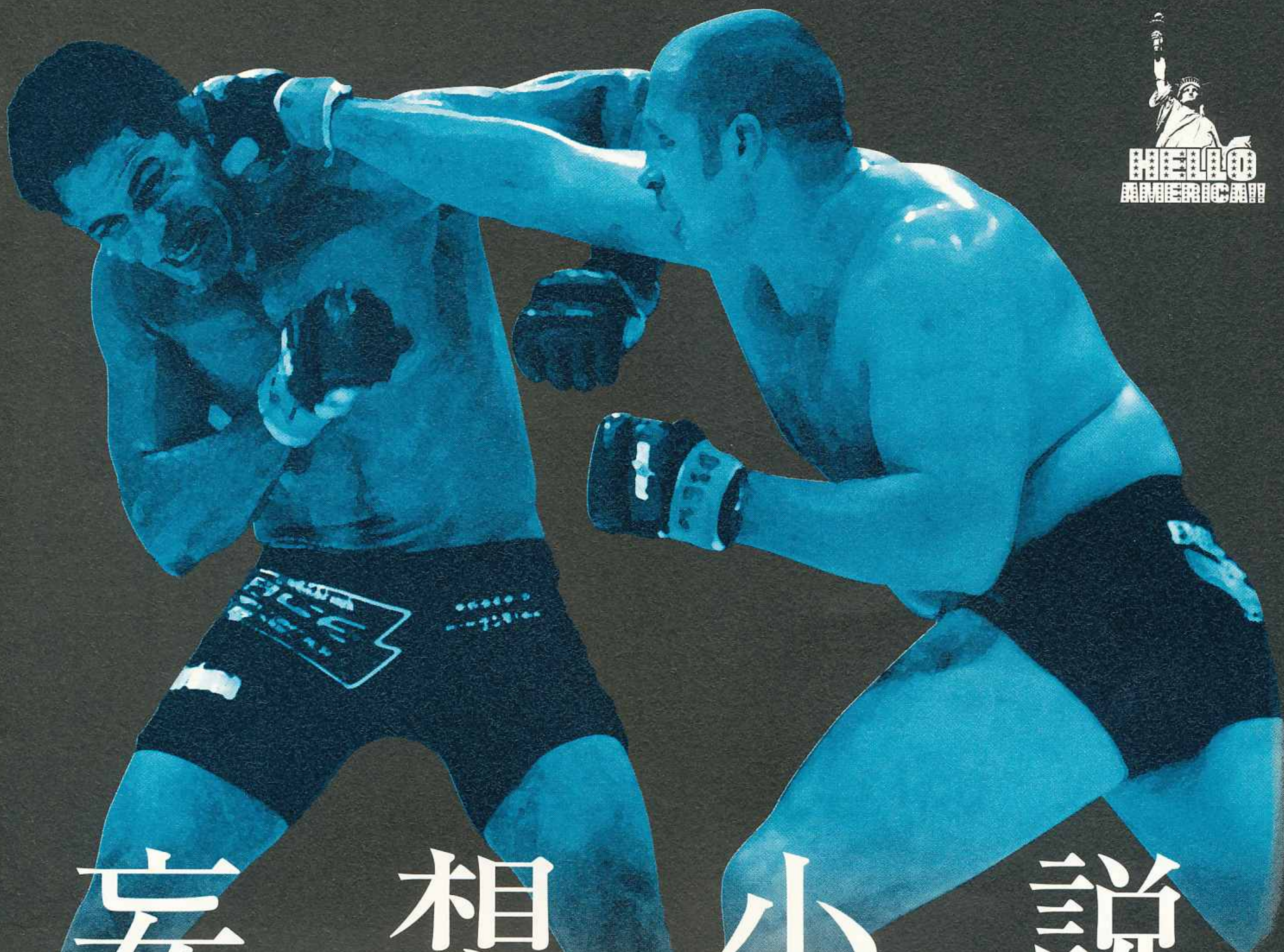
キンボなら65キロのユライア・フェイバーでも勝てるよ

➡08年5月31日 エリートXC初の地上波放送終了時
エリートXCのCBS地上波全国放送で、大々的に宣伝された"YouTubeが生んだ怪物"キンボ・スライス。このアメリカ版"ボブ・サップ現象"的な、キャラ先行のモンスター路線に対し、ダナは「ジョークそのもの」「あんなのがMMAだと思われたら迷惑」と、徹底的にこき下ろした。

ミルコと契約したのはPRIDEを潰すためだった

⬆08年8月『MMAConvert.com』
PRIDE末期に、ミルコを高額ファイトマネーで引き抜いたUFC。しかし、ミルコはオクタゴンでスランプに陥り連敗。一時、UFC離脱となってしまったわけだが、ダナはなんと「ミルコはUFCへビー級で活躍してもらおうと思ったわけではなく、PRIDEを潰すために契約した」と発言。確かに、このミルコを皮切りに、PRIDEからUFCへの流れは加速したが、こんな後出しジャンケン的なことを堂々と言えてしまうのも、さすがジャイアンなのだ。

⬇08年3月15日『kamipro』121号
「ボードッグ・イズ・ジョーク!」と並ぶ、ダナの毒舌決めゼリフ。それにしても"ジャイアン"ダナ相手に一歩も引かないM－1ワジム代表もさすがだ。

クレイジー・ロ

妄想小説 PRIDE vs UFC

～もしフジショックがなかったら～

**MMAの表舞台がアメリカに移行する中、PRIDEとHERO'Sがまさかの合体をはたしDREAMが誕生――。
いまの日本を取り巻くMMAの環境は、PRIDEが“世界最高峰のリング”として
我が世の春を謳歌していた3年前には誰も想像しえなかった状況だ。
もし、フジテレビがPRIDE放映から撤退しなかったら？ もし、あのままPRIDEが存続していたら？
いったいそこにはどんな世界が広がっていたのだろうか？**

文／橋本宗洋

２００８年夏、日本総合格闘技界は歴史的な転換期を迎えている。これまで世界最高峰の闘いが行なわれてきたのはＰＲＩＤＥのリングであり、総合格闘技の中心地は日本だったのだが、徐々にＰＲＩＤＥが衰退し、それに伴なって日本の総合格闘技シーンは勢いを失なっていったのだ。そんな状況をもたらしたのは、総合、いやＭＭＡの新たな〝首都〟、アメリカだった。

ここ数年間で最初の危機は２００６年、『週刊現代』によるスキャンダル報道だった。スポンサー離れ、最悪の場合フジテレビの中継打ち切りも危惧されたこの問題は、しかし関係者の尽力により事なきを得る。桜庭和志のＨＥＲＯ'Ｓ移籍という事件こそあったものの、ＰＲＩＤＥはそれまでと同じく、前へ向かう姿勢を崩さなかった。

この年の7月からは、噂されていたとおり『ＰＲＩＤＥ武士道』のゴールデンタイム中継もスタート。第一回放送となる名古屋レインボーホール大会は、フジテレビが総力を結集する『27時間テレビ』内で放送されるという破格の扱いだった。ここから五味隆典をはじめとする中量級ファイターが、一般的知名度を上昇させていく。従来のＰＲＩＤＥでは無差別級ＧＰ、『武士道』ではウエルター級ＧＰ。両輪がともにゴールデンタイムで中継されることで、ＰＲＩＤＥはさらなる発展を遂げたかに見えた。

だが、じつはこのときすでに〝危機〟は忍び寄っていたのだ。言うまでもなく、アメリカにおけるＵＦＣの大ブレイクである。無料視聴できるス

パイクTVで放送されたリアリティショー『TUF』を呼び水に、アメリカでは急速にMMAが浸透していた。会場は常に超満員、PPVの購入件数もうなぎ上りで、その数はじつにPRIDEの10倍近くに達した。となればスポンサーも増え、トップ選手は1試合で1億円を超える金額を手にするようになっていた。この年の5月には、ホイス・グレイシーがUFCに再登場を果たす。対戦相手はウェルター級王者として無敵を誇っていたマット・ヒューズ。この試合はヒューズの圧勝に終わる。"伝説"をオクタゴンに呼び戻し、その上で"いま"が勝利する。ヒューズvsホイス戦は、UFCが持つ勢いをそのまま体現する試合だと言ってよかった。

ただ、そんなUFCの脅威に気づくファンは決して多くなかった。目の前で行なわれているPRIDEの激闘に心を奪われ、海の向こうの出来事に危機感を募らせる暇などなかったのだ。

もちろん、PRIDEもアメリカを大きなビジネスチャンスの場として捉えていた。2006年10月には、初のラスベガス大会をトーマス&マック・センターで開催。K－1開催や『キダム』の招聘などでラスベガスのエンターテインメント界に太いパイプを持つフジテレビのバックアップもあって、この大会は大成功を収める。しかし、かかった費用もまた莫大なものだった。出場したエメリヤーエンコ・ヒョードルやマウリシオ・ショーグンがアメリカのファンから喝采を浴びたことで、"アメリカではアメリカ人ファイターしか人気が出ない"という従来の常識が覆されたのもマイナスに働いてしまった。結果として、UFCをはじめとするアメリカの団体が、彼ら非アメリカ人選手の獲得に積極的になったのだ。

この年の7月にはヴァンダレイ・シウバがUFCの会場を訪れ、ライトヘビー級王者チャック・リデルに対戦を要求している。だが、これはアドバルーン以上のものにはならなかった。UFC側からすれば、対抗戦を行なってわざわざPRIDEのネームバリューを上げてやる必要などなかったのだ。PRIDEはあくまでも叩き潰す対象。ほしい選手がいたら、豊富な資金で引き抜けばいい。

2006年大晦日、『男祭り』開催を目前にしたPRIDEに衝撃が走る。当日昼間（現時間30日）に開催されたUFCで、PRIDE無差別級GP優勝者であるミルコ・クロコップの参戦がアナウンスされたのだ。ついにUFCが、アメリカMMA界が日本に"侵攻"を始めた瞬間だった。ミルコがUFCと交わした契約は、MMA史上最高規模のものだったという。

2007年、PRIDEはジワジワと衰退への道をたどっていく。前年に引き続き、2月にラスベガス大会を開催したが、1回目ほどのインパクトは残せなかった。4カ月というアメリカ進出のスパンも、短いようで長かった。なにしろUFCは、『TUF』ファイナルやUFNを合わせると月に一度以上のペースで大会を開催していたのだ。UFCが勢力を拡大する中、PRIDEがアメリカで根づくまでには相当な時間がかかりそうだった。

PRIDEに見る"全盛期"と"最終興行"の対戦カード比較

PRIDE GRANDPRIX 2004 開幕戦
04年4月25日 埼玉・さいたまスーパーアリーナ

試合	対戦	結果
第1試合	○ヒース・ヒーリング vs 高橋義生×	1R 4分53秒 KO
第2試合	○セルゲイ・ハリトーノフ vs ムリーロ・ニンジャ×	1R 4分14秒 KO
第3試合	○ジャイアント・シルバ vs 戦闘竜×	1R 4分04秒 チキンウィングアームロック
第4試合	○セーム・シュルト vs ガン・マッギー×	1R 5分02秒 アームバー
第5試合	○小川直也 vs ステファン・レコ×	1R 1分34秒 肩固め
第6試合	○ミルコ・クロコップ vs ケビン・ランデルマン×	1R 1分57秒 KO
第7試合	○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs 横井宏考×	2R 1分25秒 スピニングチョーク
第8試合	○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マーク・コールマン×	1R 2分11秒 アームバー

PRIDE.34
07年4月8日 埼玉・さいたまスーパーアリーナ

試合	対戦	結果
第1試合	○中尾"KISS"芳広 vs エジソン・ドラゴ×	1R 9分15秒 袈裟固め
第2試合	○バタービーン vs ズール×	1R 2分35秒 V1アームロック
第3試合	○瀧本誠 vs ゼルグ"弁慶"ガレシック×	1R 5分40秒 アームロック
第4試合	○ギルバート・アイブル vs 小路晃×	1R 3分46秒 TKO
第5試合	○ドン・フライ vs ジェームス・トンプソン×	1R 6分23秒 TKO
第6試合	○青木真也 vs ブライアン・ローアンユー×	1R 1分33秒 アームバー
第7試合	○ソクジュ vs ヒカルド・アローナ×	1R 1分59秒 KO
第8試合	○藤田和之 vs ジェフ・モンソン×	1R 6分37秒 スリーパーホールド

ヒョードルにノゲイラにミルコにシュルトそして小川直也まで――最終興行に比べて、いまだと考えられない豪華なメンツが揃い踏みしていた全盛期のPRIDE。しかし驚くことに出場選手のギャラの総額は『PRIDE.34』のほうが『PRIDE GP』よりも勝っていたとか。これもすべてはアメリカ発のMMAブームによるファイトマネー高騰の影響か。

さらに4月、PRIDEにまたしても激震が走る。ヘビー級王者ヒョードルが、所属するプロモーション、M－1と提携した新興団体ボードッグのロシア大会に出場したのだ。これは完全移籍ではなく"日本で試合をする場合はPRIDE"という契約を残してのものだったが、業界に与えた影響は大きかった。事実上、ヒョードルの主戦場は日本ではなくなったのだ。このボードッグは、オンライン・カジノで成功を収めたカルビン・エアーが率いる団体。UFCの成功によって、MMAは一部のマニアのものではなくなっていた。ボクシングのプロモーターも含めさまざまな人間がMMAを新たなビジネスの場として捉え、続々と乗り込んできたのである。

そういう時期にあっても、PRIDEファンが危機感を高めることはなかった。有力選手の離脱にショックを受け、しかしその後に開催される大会に熱狂してつかの間、痛みを忘れ……。この年、PRIDEはアメリカでナンバーシリーズを開催し、日本でGPシリーズという新路線を敷く。ゴールデンタイム中継がスタートしたばかりの『武士道』は、2006年いっぱいで終了（本戦に統合）された。外国人スター選手の離脱で手薄になった選手層を埋めるため、武士道ファイターも本戦に出場させる必要があったのだ。

この年に行なわれたGPはライト級。2年ぶりの開催だった。もちろん、中心となるのは五味である。このGP、五味は「以前のオレが通りすぎた道」として、一度は出場オファーを蹴っている。GPの意味合いが五味への対戦権をかけたものへと変わり、一方、同じ大会で五味がワンマッチ戦を行なう。そんなねじれた事態も懸念された。

それが寸前で回避されたのは、スタッフとテレビ局側の説得の成果だった。テレビコンテンツとしてのライト級GPは、五味がいなければ到底、成立しないものだったのだ。ファンの「GPで闘う五味が見たい」という声も大きかった。チャンピオンは五味であることに変わりはなかったが、周囲の状況が2年前とは激変していたのだ。川尻達也、石田光洋が急激に成長、さらに2006年からPRIDE参戦をはたした青木真也が、独創的な寝技のテクニックで一本勝ちを重ね、ハジけたキャラクターもあって五味を脅かすほどの人気選手に成長していた。青木はGPでも勝ち上がるごとに存在感を増し、ついには五味との決勝戦にまでこぎ着ける。2007年のPRIDEにおける最大の収穫は、この青木とソクジュのブレイクであった。

ライト級GPの熱戦やソクジュの爆発的な活躍に、ファンは狂喜した。だが繰り返すが、それでもPRIDEの、日本総合格闘技の危機、つまり

アメリカの脅威は治まることなどなかった。高額なファイトマネー、アメリカでの成功というロマン、そして強いライバルを求め、選手たちは次々とPRIDEを離れていった。
　ビッグネームを失なえば、視聴率も下がる。莫大な費用を要するラスベガス大会も、フジテレビという後ろ盾があってなお、DSEの首を絞めた。『男祭り』はUFCとの交渉が決裂したヒョードルの参戦が目玉だったが、もはやPRIDEには勝負論の成り立つ対戦相手がいない。三崎和雄はラスベガス大会で敗れたフランク・トリッグにリベンジをはたすが、大きな話題にはならなかった。
　一方、HERO'Sはテレビコンテンツとして独自の路線を歩んでいたため、アメリカの影響をPRIDEほどには浴びなかった。もちろんファイトマネーの高騰や有力外国人選手を獲得しづらいという悩みはあったが、やはりHERO'Sの中心は山本〝KID〟徳郁や所英男だ。人気者が人気者として勝つ姿に、ライト層のファンが快哉を叫ぶ。
　2006年大晦日の〝ヌルヌル事件〟で大バッシングを受けた秋山成勲も10月のソウル大会で復帰。無名のファイターを相手に危なげなく勝利を収めた。主催者サイドとテレビ局は、そんな秋山を従来どおりのベビーフェイス、〝柔道王〟路線で扱った。マニアにとっては憎悪の対象である秋山だが、HERO'Sはマニア無用の世界なのだ。「復帰戦で誰もが認める強豪を倒せば、秋山は圧倒的に強く、かつどこまでも黒い〝魔王〟と化すのではないか」。試合前にはそんな記事が『kamipro』に載ったが、実際のマッチメイクはそれとはかけ離れていたし、そういう相手はPRIDEやUFCにしかいなかった。
　HERO'Sとは対照的に、PRIDEは追い詰められていく。スケールダウンする一方の大会に対し、「PRIDEつまんねえ」、「こんなのPRIDEじゃない！」というファンが増えていったのだ。
　逆に評価を高めたのが海外MMAだ。UFCは以前と変わらずWOWOWで放送され、ミルコの連敗、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラのヘビー級タイトル奪取が大きな話題となった。他にもクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンやアンデウソン・シウバが戴冠。彼らの活躍が、海外MMAの日本での人気向上の原動力となった。欧州サッカーにおける中田英寿、メジャーリーグにおける野茂英雄やイチローと同じ役割をはたしたのだ。2008年にはエリートXCもスカパー！で放送開始。かつて〝プロレスは知らないが、PRIDEで格闘技を好きになった〟ファンがいたように、この頃には〝PRIDEは観たことがなく、アメリカンスポーツとしてMMAを好きになった〟ファンも出現していた。
　そんな中、PRIDEはヒョードルを擁する新団体アフリクションと、M―1を通じて提携。第1回大会のメインであるヒョードルvsティム・シルビアやジョシュ・バーネットvsペドロ・ヒーゾはPRIDEの中継枠でも放送された。このアフリクション―PRIDE連合はUFCに対する最大の抵抗勢力となったが、それでもUFCの牙城は揺るがない。そして熾烈なライバル関係は、アメリカMMA界にさらなる盛り上がりをもたらした。その効果たるや、アフリクションとの提携によってPRIDE（日本格闘技界）が受けた恩恵をはるかに上回っていたと言っていい。
　もはや、アメリカの脅威は手のつけられないところまで来ていた。2008年のPRIDEは五味エース体制。しかしマッチメイクは常に難航した。MMA＝アメリカというイメージは完全に根づき、『kamipro』の表紙をUFCファイターが飾ることも珍しくなくなった。PRIDEは依然として闘い続けていたが、それは勝利を目指すものではなく〝退却をどこまで遅らせることができるか〟というものだった。フジテレビの中継が深夜に移行するという噂も絶えることがない。そして『kamipro』8月発売号に決定的な記事が掲載される。榊原信行DSE代表、最後のインタビュー。そのタイトルは『決断の真相』という。
　もし、こうなる前に危機感がピークに達していたら、その後の歴史は違ったものになっていただろう。たとえば、PRIDEがUFCに買収されていたら。
　当然のように、日本の総合格闘技界は弱体化していたはずだ。有力選手のほとんどをUFCに奪われ、PRIDEは日本ローカルの大会でしかなくなっていた。だが、そこにはきっと反動もあったはずなのだ。PRIDE買収という事態に、日本の格闘技ファンは〝かつてのPRIDE〟への愛着、より正確に言えば執着を強めることになっただろう。そして〝ズッファ社にコントロールされたものではない、俺たちのPRIDEを取り戻そう〟という動きも出ていたはずだ。新オフィスを独立させた有志が、より〝かつてのPRIDE〟色の濃い新イベントを立ち上げていた可能性もある。たとえばそれは2007年の大晦日に開催され、同じく危機意識を募らせたFEGも協力、フジテレビを退社したディレクター、佐藤大輔氏も加わり……。そんな流れになっていたかもしれない。そこから新しい〝夢〟が始まったかもしれない。それともそれは、愚かな妄想にすぎないのだろうか。
（注＝この小説はフィクションです）

PRIDE末期に突如登場した“ジャングル大帝”ソクジュ。アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ、ヒカルド・アローナと強豪から続けてKO勝利。もしPRIDEが存続していたら、そのキャラクターとあいまって、スターとなっていた可能性は高い。現在はUFCに参戦中も、そのポテンシャルの高さを披露するまでには至っていない。

フジショック以後の“現実”のMMAの流れ

2006

- 6月5日　フジテレビがDSEに契約の全面解除を通告。同年8月にDSEは一般ファン公開の緊急記者会見を開く。
- 10月21日　PRIDE初の海外(アメリカ)興行となる『PRIDE.32』開催。
- 12月31日　『PRIDE 男祭り 2006-FUMETSU-』開催。ミルコ・クロコップが同時間帯、UFCでオクタゴン参戦表明。

2007

- 3月27日　「重大発表公開記者会見」で榊原DSE代表が次回大会での勇退を発表。UFCオーナーのロレンゾ・フェティータがPRIDEの新オーナーに就任。
- 3月29日　『kamipro』No.109に榊原DSE代表インタビュー「決断の真相」が掲載。
- 4月8日　DSE主催最終興行『PRIDE.34』開催。
- 7月7日　アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが『UFC.73』参戦。以降もマウリシオ・ショーグン、ヴァンダレイ・シウバなど、PRIDEファイターたちが続々UFCに参戦。
- 10月4日　PRIDE FC WORLD WIDE日本事務所が突然閉鎖。これによりPRIDEは事実上消滅。
- 10月22日　ニューヨークでのM-1グローバルの旗揚げ会見にヒョードルが参加。
- 11月22日　旧DSEスタッフを中心として大晦日に『やれんのか!』を開催することが決定。
- 11月29日　『やれんのか!』カード発表会見に谷川貞治FEG代表が参加、同イベントをFEGも共催することを発表。
- 12月31日　『やれんのか!』と『Dynamite!!』開催。大同連立により三崎和雄vs秋山成勲、ヒョードルvsチェ・ホンマンなどが実現。

2008

- 2月13日　DREAM設立公開記者会見。FEG主催で『やれんのか!』チームが制作を手がけることを発表。
- 3月5日　ワールドビクトリーロード主催『戦極』が旗揚げ。
- 3月15日　DREAMが旗揚げ。メインで行なわれた青木真也vsJZカルバンはノーコンテスト裁定に。
- 7月11日　WOWOWがUFCの放送再開を発表。
- 7月19日　『アフリクション』旗揚げ。ヒョードルが元UFC王者ティム・シルビアに圧勝。
- 7月21日　『DREAM.5』開催。ライト級GPは決勝で青木真也を破ったヨアキム・ハンセンが優勝。

アメリカでコミッションがステロイドについて厳しくチェックしているのは、さっきも言ったように、連邦政府自体がステロイドを一つの大きな問題としているからです。ただ、その理由が「ステロイドは危険だ」ということだけだと、安全なステロイドが発明されたとたんにステロイドはOKになってしまう。それよりも、アメリカ人の根底にある、薬をやってでも人より先に行きたい、人より有利に立ちたいという考え方が異常で、これが原因にあるかぎり……

遺伝子操作の“筋肉人間”がMMAデビュー!?
ドキュメンタリー映画
『Bigger, Stronger, Faster』の衝撃!!

IS IT STILL CHEATING IF EVERYONE'S DOING IT?
BIGGER STRONGER FASTER

ステロイド映画から見る
アメリカの闇

映画評論家
町山智浩

聞き手／ジャン斎藤

HELLO AMERICA!!

ステロイド（筋肉増強剤）問題を取り扱ったドキュメンタリー映画作品『Bigger, Stronger, Faster』（より大きく、強く、早く）がアメリカで公開されている。ステロイドといえば、公的機関のアスレチック・コミッションがチェックしているアメリカMMAと違って、日本の検査体制の全容は明らかにされていない。そのためなかなか状況認識はなされていないのが正直なところだ。

そもそもステロイドとはなんなのか？　その効果、副作用などについては、本誌No．116で特集しているが、今回はステロイドを通して見えてくるこの問題の本質、人間のあり方、そしてアメリカの闇に迫ってみた。あたりまえだが、物事には光と影がある。アメリカの影を知ってこその光なのだ。

語っていただいたのは、この『Bigger, Stronger, Faster』をブログ、ラジオなどで取り上げた、カリフォルニア州オークランド在住の映画評論家、町山智浩氏だ。『映画秘宝』や『サイゾー』などでの人気コラム連載や、ラジオ番組『コラムの花道』で知られる町山氏は、この問題作をどう見たのか――？

80年代のタカ派的なポリシーや男性優位主義と筋肉は結びついていた

――町山さんのブログでも取り扱われていた、ステロイド問題を追ったドキュメンタリー映画『Bigger, Stronger, Faster』（日本未公開）の予告編に出てくる、人造の〝筋肉牛〟の映像は衝撃的でした！（公式HPアドレス→http://www.biggerstrongerfastermovie.com/）。あんな筋肉だらけの牛を人工的に作れるもんなんですね。

町山　でも、カッコイイですよね、あれ。筋肉モリモリで。

――確かにカッコよくはありますけど（笑）。

町山　あんな動物が攻めてきたらどうすればいいんだろうね。体脂肪率が低すぎて、倒して食べてもおいしくないですし（笑）。

――そうですよね（笑）。で、この映画のポスターには、ハルク・ホーガンらしきレスラーをメインビジュアルに据えていますね。

町山　映画を撮るきっかけがホーガンなんですよ。監督はクリス・ベルという30代の人間で、90年代の**ステロイド裁判**によってホーガンがステロイドを使っていたことを知って、「俺もステロイドをやろう！」と思ったんです。

――あの裁判では、ステロイドは〝悪〟のイメージをもって報道されたわけですが、それなのになぜ監督はステロイドをやろうと思ったんですか？

町山　「トレーニングであんな凄い筋肉をつけるのは大変だけど、ステロイドを打つだけで簡単にできるんだったらズルイじゃないか。それだったらオレだってやるぞ！」と思ったらしいです。

――ステロイドを使用することに罪悪感はなかったんですね。

町山　それを感じたから、クリス・ベル自身はすぐにやめたんですよ。で、監督は3兄弟の次男だったんですけど、弟と兄貴はずっとステロイドやってるんです、いまでも。

「筋肉最高！」だったアメリカ80年代後半のアイコンを集合させたポスタービジュアル。眺めていると、当時のホーガンのテーマ曲「リアル・アメリカン」を口ずさむ人もいるのでは？

――いまでも？

町山　いまでもやってるんですね。兄貴のマイク・ベルは一時期WWEの前座でプロレスラーをやってたんです。弟もプロレスをやろうとしたんだけど、途中でやめて、いまはアマチュアで重量挙げをやってる。で、監督は「オレはやめたのに、兄弟はいまでもステロイドをやっている」というところから取材を始めて、どんどんその取材区域を広げていきます。アメリカの下院議員や（アーノルド・）シュワルツェネガーにも突撃取材したりして、内容としては**マイケル・ムーア**や、『**スーパー・サイズ・ミー**』という映画の影響を凄く受けてますね。

――要するに、個人的な問題を通して〝アメリカの闇〟を暴くという方式ですね。

町山　そう。アメリカ人というのはヨーロッパやアジア人とは違う。よく考えると異常なことをしている。でも、当のアメリカ人たちは異常なことだと気がついてない。

――普通だと思ってるところが怖いですねぇ。

町山　『スーパー・サイズ・ミー』もそうだったじゃないですか。あんな特大サイズのコーラを飲んでるのは世界中を見渡してもアメリカ人しかいないわけで（笑）。で、最初は監督の子どもの頃の話で、兄貴は肥満、クリスはもの凄く背が低くてチビ、弟は学習障害。学校ではデブ、チビ、バカと徹底的にイジメられた。その3兄弟がテレビを観てたらハルク・ホーガンがアイアン・シークを倒して、「リアル・アメリカン！」と吠えてたんですよ。

――90年代初頭の頃ですね。

町山　ハルク・ホーガンはそのときのコンセプトとして「オレこそ本当のアメリカ人なんだ！」って言ってた。だからベル3兄弟は「ホーガンみたいな身体にならないと本当のアメリカ人にはなれないのか？」と思って身体を鍛え始めたら、イジメはとりあえずなくなった。それで凄くホッとしたんですね。そのまま兄貴はプロレスラーを目指して、弟だけは背が低かったんでプロレスラーにはなれない、と。それでWWEの台本を書いてたんですよ。

――それはおもしろい経歴ですね。

町山　だけど、兄貴のほうは結局、レスラーとしては芽が出なくてついに自殺を図るんです。なんとか命は取り留めるんですが、それであきらめるかと思ったら、いまもWWEのトライアルを受け続けてるんですよ。かわいそう。

――ホーガンは罪ですねぇ……。

町山　クリス・ベルの兄貴はもう四十いくつですよ。それなのにまだ「オレにはプロレスしかねえんだ！」と言っている。人生アウトですよ。だって、お金もなんにもないんだから。食うために近所の学校では子どもたちに体育を教えてるんですけど、たいしたお金にはなんないですよ。だって、アメリカって体育の授業がないんだもん。公立学校は予算がないから、音楽と体育と図工はなくなっちゃったんですよ。

――それは大変ですねぇ。

町山　弟のほうもジムを経営して、筋肉トレーニングを教えてるんだけど、それもたいしたお金にならない。で、二人とも筋肉を維持するためにステロイドは続けてて。

――筋肉をつけてイジメは克服したけど、人生は棒に振ってしまったというか。

町山　筋肉しかなくなっちゃったんですね。まあ、90年代というか、80年代の終わりですね、筋肉に人気あったのは。『**ロッキー**』と『**ランボー**』が流行ってて、80年代は筋肉だけあれば通用したんですね。レーガ

ン時代のタカ派的なポリシーや、アメリカの保守回帰、男性優位主義と当時の筋肉ブームは結びついてたんです。それが崩れるきっかけになったのは**ベン・ジョンソンの事件**。

—ソウルオリンピックのステロイド騒動ですね。

町山 それと当時、大リーグにはバッシュ・ブラザーズというのがいたんですね。オークランド・アスレチックスの3番と4番打者がマーク・マグワイアとホセ・カンセコだったんですよ。で、その二人がバッシュ・ブラザーズとしてホームランを連発する、非常な大味で、頭が悪そうな試合をやってて、それが大人気だった。

—まさにアメリカ人好みのスタイルというか。

町山 で、マグワイア本人は否定してますけど、カンセコのほうはステロイドの使用を認めてて、暴露本とかも書いた。そんなホーガンとかバッシュ・ブラザースが象徴する「筋肉最高！」という80年代に育ったことが3兄弟のトラウマとなってしまって、筋肉以外の価値を認めない人間になってしまった。で、筋肉で人生を棒に振っちゃった。

—その3兄弟以外にも、筋肉に取り憑かれている人間がアメリカにいっぱいいるわけですよね。

町山 泣かせるのがね、80年代に『オーバー・ザ・トップ』っていうスタローンが腕相撲選手を演じる映画があって、それで敵の選手を演じた男が登場します。いまスタローンは60歳で、その男も60近いんですけど、クリス・ベルが通ってるロサンゼルスのGOLD'S GYMにいつもいる。彼はシュワルツェネガーがそのGOLD'S GYMでトレーニングしたことを知っているくらい古い男で、いまでもトレーニングをやってるんですけど……、ホームレスなんですよ。

—え～ぇ‼ ホームレスになっても筋肉を……。

町山 そう！ GOLD'S GYMの駐車場にバンを停めてて、そのバンの中で寝泊りしてるんですよ。で、たまに日雇いの仕事をやりながら暮らしてるんですけど、そのバンの中はプロテインの缶ばっかり。

—家はなくても筋肉だけはあるという。

町山 うん（笑）。彼はなんの仕事のスキルもない。筋肉しかない。それでもね、シュワルツェネガーのことをいまでも「尊敬してる」って言うんですよ。「彼はアメリカンドリームをかなえた！ 一生懸命、頑張ったから金持ちになれた。俺もその夢を追い続けてる！」って……。60歳で大丈夫か、おい！（笑）。

—もはや"筋肉"という名の麻薬ですね（笑）。

町山 で、この映画がおもしろいのは、途中から「ステロイドはそんなに危険な悪いものじゃないよ」っていう話になるんですよ。ステロイドの危険性で一番騒がれているのはロイド・レイジです。ステロイドを常用すると怒りをコントロールできなくなる副作用があって、それが**クリス・ベノワの一家無理心中**の原因になったのでは？ と言われてます。ところがデータを見るとロイド・レイジはじつはめったに起こらないことなんですよ。酒における暴力事件などに比べたら、何万分の1ぐらいの確率でしか起こらない。

—酒はたいてい飲んだ人は荒れますけど（笑）。

町山 ステロイドで精神不安定になる人は数パーセントにすぎないらしい。それに近年プロレスラーが次々と突然死していて、たいがい「ステロイドが原因だ」と報道され続けてるんですけども、じつはステロイドが直接の原因というデータはない。ほとんどの原因は、痛み止めの薬ですよ。

—ペインキラーってヤツですね。

Danielle McCarthy（Magnolia Pictures）

真ん中が監督のクリス・ベル、向かって左が兄貴でプロレスラーのマイク・ベル、右が弟のマーク・ベル。作品はこの3兄弟の幼少時のイジメ問題から始まって、最終的に国家の暗部にたどりつく……。

映画は「ステロイドはそんなに危険なものじゃない」という話になる

町山 いま**ロディ・パイパー**がプロレスラーの薬漬け状況を告発してるんです。彼はステロイドを打つのは、筋肉をモリモリにするためだけじゃないと言う。ステロイドを打つと筋肉の治りが早い、と。損傷した器官を早く治す効果があって、ステロイドをやらないと「痛くて死んじゃうんだもん！」って言ってた（笑）。

—毎日パンプを取るわけですもんね。

町山 でも、本当に問題なのはプロレスラーじゃないんですね。この映画によると、プロレスラーを含めたプロアスリートは、ステロイド使用者全体の15パーセントにすぎないそうです。

—残りはというと……。

町山 普通の一般人！ プロアスリート以外の人たちは、このベル兄弟みたいに、要するにプロでもなんでもないんだけど、筋肉モリモリになりたいっていう単なる一般人なんですね（笑）。

—う～ん。

町山 彼らはステロイドをやってもお金に結びつかない、儲からない。女の子にフラれたとか、強くなりたいとか、個人的なコンプレックスがかなり大きい。そういう人たちの使用率がもっとも高いですね。だから、プロレスラーが職業上、必要として打っているのとは理由が違うんですね。

—そこはちょっと理解しがたいですねぇ。

町山 ケースとしては理解できるのは、高校生のフットボール選手たち。いい大学に入るためにステロイドを打っている高校生は多いですよ。つまり、フットボールの高校生の選手ってヒョロっとしている。でも、大学に行くと、なぜかみんな大きくなってる（笑）。

—いきなり変身しますか（笑）。

町山 それはコーチが原因だったりするんですよ。「もっと大きくなれ！ オマエは身体が大きくないからレギュラーになれねえんだよ！」とか言われ続ければ、フットボールしか取り柄のない高校生は悩んで、それでステロイドを通信販売で買うというパターンがある。あと、これはこの映画にハッキリ出てくるんですけど、バスケットボール選手の多くが成長ホルモンを打ってる、子どもの頃から‼

—子どもの頃からですか！

町山 うん。成長ホルモンって、親が「子どもの身長が伸びない」って医者に訴えるともらえるんですよ。

—「夜、眠れないから睡眠薬ください」と同じ感じで。

町山 まったく同じ。だから、クリス・ベルは「ステロイド、ステロイドって騒ぐけど、バスケットボール

ステロイド映画から見る アメリカの闇

選手の成長ホルモンはどうなってんだよ!?」って指摘する。

——でも、アメリカではフットボールやバスケットボールのスターになれば、一生安泰なわけですよね？

町山 だから、そこまでやる理由は凄くわかりますよね。それに成長期に受けた成長ホルモンの投与なんて、何年も経ったあとの検査では検出できないからバレないんですよ。それに、ステロイドの場合は、投与をやめてトレーニングをやめれば、身体はもとに戻るけど、成長ホルモンを中学生ぐらいに打って高くなった身長は、ホルモン投与を止めてももとには戻らないですよ。

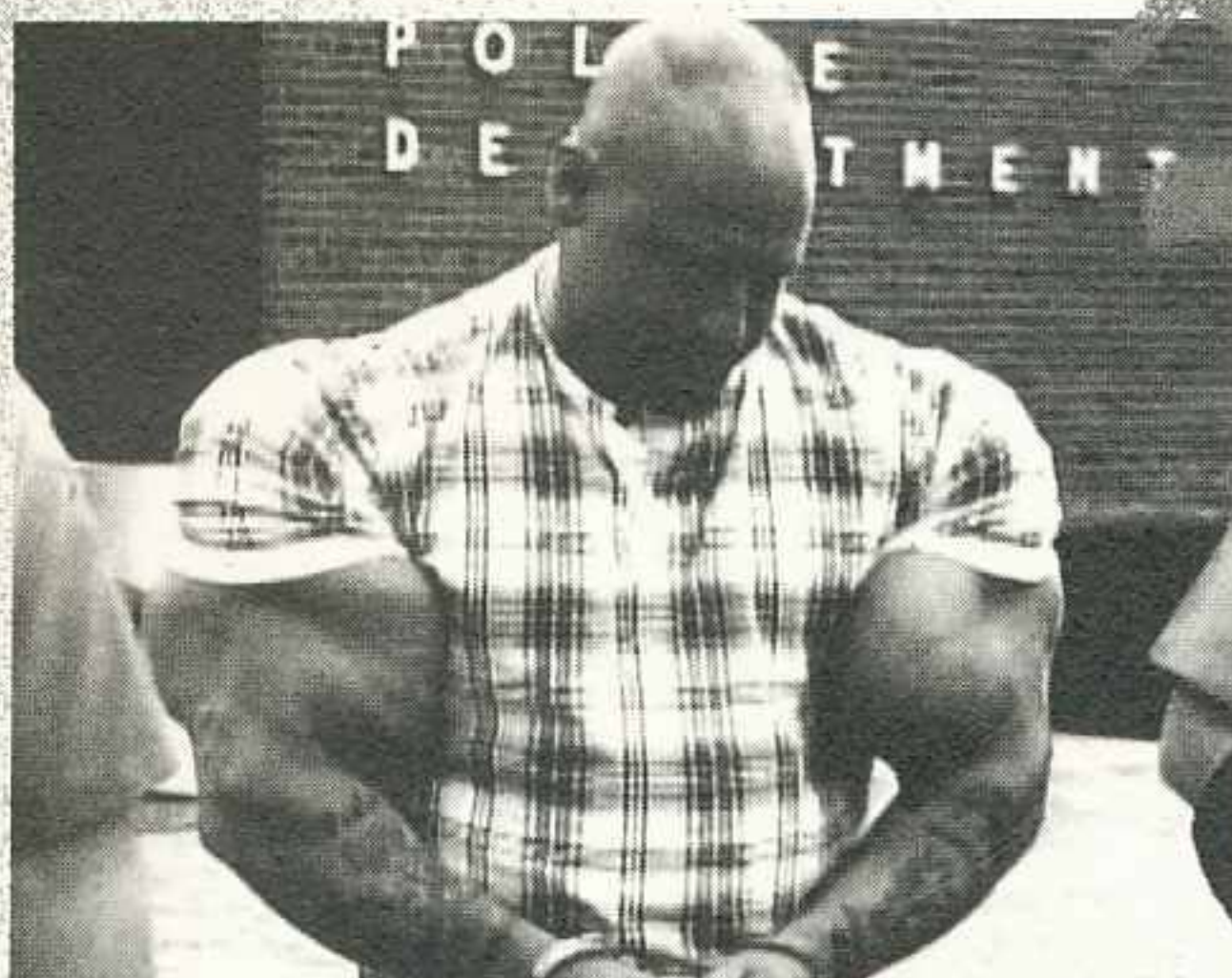
——完全犯罪ですねぇ……。

町山 だから、このクリス・ベルはそこから話を広げて、ステロイド自体はじつは危険ではない、と。そしてステロイド以外にもいろんなドーピングがあるよっていう話になっていく。ステロイドは危険だっていうことでブッシュ政権が反ステロイド法を成立させて、教育の場でもって高校生や中学生にステロイドの危険性を教えることになってますが、クリス・ベルは危険じゃないステロイドが発売されたらOKということになっちゃうから、〝危険〟ということを理由にしてステロイドを禁止するのは意味がない、と言うわけです。

——確かにそのとおりですね。

町山 で、まったく安全なドーピングとして、クリス・ベルは自転車やマラソンの選手のあいだに、自分の血を抜いて打つという裏技があることを紹介します。

——自分の血をですか？

町山 つまり、血を抜いて貧血状態にしといて、試合の直前にもう一度、自分の血を入れる。そうすると血液中の酸素が急激に増えるから、心肺機能が一気にブーストされるらしいです（笑）。しかも自分の血だから、一切検出できない。

予告編にも登場する作品のワンシーン。異常に上腕が発達している男が、手錠をはめられ、連行されていく。作品では、ほかにも背筋が凍りつく筋肉狂いのエピソードが詰め込まれているそうだ。日本でも観たい!

Danielle McCarthy（Magnolia Pictures）

——方法はあるんですねぇ……。

町山 そのあと、じつはアメリカは国家的にドーピングをしていることがだんだんわかってくる。アメリカ空軍が発足したのが第二次大戦後なんですけども、そのときにやったことがアンフェタミンをパイロットに投与することなんですよ。シャブですよ、シャブ！（笑）。

——うわ～！　なんて国家だ（笑）。

町山 それは現在も続けてるそうです。飛行機に乗るとき気圧の関係で貧血みたいな状態になるので、判断力が落ちるのをブーストするためにシャブを食わせるんですよね。まったく問題とされてないんですけど（笑）。この映画では空軍にもちゃんと取材してる。最近ではイラクやアフガンのアメリカ兵たちにプロザックという抗鬱剤を配布して、躁状態にして戦闘させていることも判明しました。要するに薬でハイになって人を殺してる。こうして、この映画は「アメリカという国は国を挙げて、心や身体にドーピングしている」というところに踏み込んでいく。

——そんな深いところまで。

町山 ステロイドというのは突出した問題として報じられているだけで、アメリカ人は現在、自分たちの精神とか肉体を薬物や手術でブーストして変形させているのだ、と。たとえば女性の美容整形の蔓延はステロイドどころじゃないですからね。で、どのくらいの量の薬をアメリカ人が摂取しているかというところまで見ていくんですけども。日本だと睡眠導入剤とか、あまり飲まないでしょ？

——蔓延している感じではしないですね。

町山 多くの人は普段はクタッと寝るじゃないですか。でも、アメリカ人は半分くらいの人が毎晩、睡眠薬を飲んで寝るんですよ。で、起きたら興奮剤を飲む人も多い。

——寝起きに興奮剤!!（笑）。

町山 頭をシャキッとするためにね（笑）。で、もっと怖いのが、かなりの受験生が服用しているアッダーオールという薬。スタディ・ドラッグと称して、集中力を増し、徹夜で勉強ができるという触れ込みで売られているんですが、成分はアンフェタミン。要するに覚せい剤なんです（笑）。

——受験に覚せい剤！（笑）。

町山 アメリカの受験生はみんなこの薬をやってる。「寝ないで勉強できるわ！」つって。これはヒドイですよね～。

——やりすぎですよ（笑）。

町山 さらにクリス・ベルはクラシックのミュージシャンのところに行くんですけど、演奏家の半分以上がベータ・ブロッカーという〝人前に出てもあがらない薬〟をやってる、と。こういう状態だといまのアメリカ人は、起きる、寝る、何かする、すべての状態を薬でコントロールしているとことになってきている。ホンモノの自分の身体とはどういう身体なのか。本当の自分の気持ちはどういう気持ちなのか。もうわからないんじゃないか、と。

——そうですよね……。

町山 だから「俺、凄い元気！」って言ってるけど、「薬やってるんでしょ？　ホントに元気なの？」みたいな。「あぁ、眠い」「ホントに眠いの？　薬で眠いんじゃないの？」っていう。自分の心も、自分の身体も、ドラッグでコントロールされた、ゲーム的なバーチャル・リアリティの現実の中で生きている。ということで、この映画は非常に哲学的な、社会学的な考察まで論を進めていくんです。クリス・ベルは最初、そこまでいくと思ってなかったみたいですが。

——だって最初は兄弟の話だったわけですもんね（笑）。

町山 そうそう。撮影をしていくうちにもっとヒドイものが見つかっていくんで（笑）。で、最終的に一番ヒドイのは「ジン・ドーピング」。つまり、遺伝子操作で生まれる前の段階でドーピングする。

——絶対にバレないですね、それ。

町山 精子や受精卵の段階で人体改造をやる。要するにDNAの書き

バスケットボール選手の多くが子どもの頃から成長ホルモンを打っている

日本で唯一の ドーピング検査機関とは?

日本でドーピング検査を請け負う唯一の機関が、三菱化学メディエンスだ。世界アンチドーピング機構（WADA=World AntiDoping Agency）公認で、オリンピックや国体のドーピング検査などを実施している。業務上、直接取材の壁はチョー高かったが、マット界関係者の話によれば、ドーピング検査のシステムは複雑で、その費用はバカにならないとか。取り組むためにはアメリカように国家ぐるみじゃないと難しい。副作用の詳細などは本誌No.116で!

遺伝子操作で生まれる前の段階でドーピングすれば、検査ではわからない

換え。それをやられたらもう、検査ではわからないということの前にインチキかどうかの問題じゃなくて「それでも人間なのか?」ってことですよ（笑）。

――ダハハハハ！ そこで、冒頭の〝筋肉牛〟が出てくるわけですね。

町山 監督はあの〝筋肉牛〟を作った学者と話をする。「これは遺伝子を並べ替えてるだけ。牛を筋肉だらけにするようにデータを書き換えただけだから」「人間にも同じことができるんですか?」「できるんじゃないの」。

――また簡単に言いますね（笑）。

町山 爪とか骨とか筋肉の書き換えはそれほど難しくないと。単純ですから。実際、牛で成功している。あとはモラルの問題だけですよね。

――いや、子どもに成長ホルモンを打つ人がいるぐらいだから……。

町山 絶対にやるでしょ、そのうち。だからこそ、あの〝筋肉牛〟にはゾッとするんですよ。そんな〝筋肉人間〟がオリンピックに出てきたらどうするんだ、と（笑）。でも、出場を禁止したら人権侵害じゃん。

――いまそのモラルを守れるかどうかというと……。

町山 アメリカ人の場合は結局、モラルじゃなくて、ズルいか、ズルくないかっていう問題になってくるんですよね。ベン・ジョンソンがドーピングをやったときも「ズルいじゃないか！」という言い方をしたんですよね。ジョセフ・バイデンという民主党の政治家が大リーグのステロイド疑惑を追及して、ステロイドの何が悪いかというと「ズルいからだ。一生懸命、努力している人に対して、薬を打って強くなるのは卑怯だ」と言った。そこまではいいとして、バイデンは最後に「それはアメリカ的価値観ではない」と批判した。これに対してクリス・ベルは「ドーピングこそアメリカ的なんだ」と反論する。「薬を使ってでも強くなろう、手術してでも美しくなろうとするのはもの凄くアメリカ的なんだ」と言い返す。バイデンあなたが言うのは偽善であって、本当のアメリカというものは、どんな手段を使ってでも競争に勝とうとするものなんだ、と。

――そういう人がたくさんいるわけですもんね。

町山 〝アメリカとは何か?〟〝人間とは何か?〟というところまで探っていく、なかなか深い映画ではあるんですよね。アメリカというのはそもそも人工的な国家で、もともと〝アメリカ人〟というのは存在しないわけですよ。アメリカ・インディアン以外にはね。アメリカ人というもの自体が意志によって作られたものだから、意志によって自然も自分自身も絶えず変えていく傾向があるんでしょうね。

――格闘技界の話でいうと、日本では公的機関がないため実施しておらず、主催者と選手のモラルに任せるしかなくて。ステロイドや興奮剤に頼っているのは、外国人選手がほとんどなんですが。

まちやま・ともひろ■1962年7月4日生まれ。『別冊宝島』シリーズでは数々のベストセラータイトルを企画編集。『映画秘宝』を創刊、渡米後は映画のみならずアメリカ文化や政治状況を詳細レポートしている。著作には『ファビュラス・バーカー・ボーイズの映画欠席裁判』、『アメリカ横断TVガイド』など。

町山 アメリカでコミッションがステロイドについて厳しくチェックしているのは、さっきも言ったように、連邦政府自体がステロイドを一つの大きな問題としているからです。ただ、その理由が「ステロイドは危険だ」ということだけだと、安全なステロイドが発明されたとたんにステロイドはOKになってしまう。それよりも、アメリカ人の根底にある、薬をやってでも人より先に行きたい、人より有利に立ちたいという考え方が異常で、これが原因にあるかぎり問題はなくならない」と主張します。アメリカンドリームという言葉を説明するとき、アメリカ人はよく「この国では誰でもなりたいものになれる。やりたいことができる」と言います。アメリカでは、ありのままの自分を受け入れることにはなんの価値も認めません。でも、じつは人間は、薬や手術では本質的に変わることなんかできないんですよ。映画の最後のほうにまたクリス・ベルの兄貴と弟が出てくるんですよ。ステロイドで筋肉モリモリになってるんだけど、仕事なんかない。「どうすんだろ、この兄貴と弟?」。やっぱりステロイドを打って筋肉を作っても、シャブを打って徹夜しても、ダメなものはダメ。

――寝ないで勉強することは薬でできるけど。

町山 それ、バカが寝ないだけですから（笑）。

――ダハハハハ！ いや、笑いごとじゃないですね。

町山 知識や技術はドーピングできないから、人間は勉強したり修行したりするわけでしょ? いや、でも、アメリカ人はいつか『**マトリックス**』みたいに技術や知識を脳に直接ダウンロードするかもしれませんけどね。

【08年7月26日／都内・某所にて収録】

これは未来の日本の話でもある。そして、日本のマット界には現在、アメリカとは違ったかたちでステロイドの〝副作用〟がまとわりついている――。本誌は引き続き、この問題を追いかけます！

ステロイド裁判
91年6月27日、ペンシルベニア州ハリスバーグの連邦裁判所が、医療目的以外でプロレスラーやボディビルダーにステロイドを処方・販売した罪で、ジョージ・ザホリアン医師に有罪判決を下した。ビンス・マクマホン、ロディ・パイパーらが証人として出廷。

マイケル・ムーア
54年、米国ミシガン州生まれ。カメラ片手に突撃アポなし取材を敢行する手法で恐れられ、ホワイトハウスからは「最も危険な人物」として正式に認定された筋金入りの社会派ジャーナリスト・映画監督。代表作として映画『華氏911』、『シッコ』などがある。

『スーパー・サイズ・ミー』
監督兼主演のモーガン・スパーロックが、30日間1日3食すべてをマクドナルドの食品だけで食べ続けたらどうなるかを記録したドキュメンタリー映画。04年公開。自らを実験台に徐々に不健康になる様子を記録し、米国社会で急増する肥満問題に鋭くメスを入れた。

『ロッキー』
70年代後半以降のベトナム戦争や黒人優遇措置、そして冷戦構造による社会不安の中、プアーホワイト（白人貧民層）の代表として、主人公のロッキーがマッチョな黒人やロシア人に勝利してゆく人気ボクシング映画シリーズ。『ロッキー3』にはH・ホーガンも登場。

『ランボー』
80年代を代表するアクション映画。内容は当時の世相を強く反映しており、アジアの小国ベトナムに敗れた大国の自尊心回復と「強いアメリカ」の再建を目指したレーガン政権の主張とシンクロし、映画の中でランボーはソ連支配の打倒を正当化する役割まで担った。

ベン・ジョンソンの事件
ベン・ジョンソンは87年の世界大会100mでカール・ルイスを抜き、9秒83の世界新記録を樹立して脚光を浴びた。88年のソウル五輪では9秒79の世界新記録を作って優勝。しかし、競技後のドーピング検査で陽性反応が出て世界記録と金メダルを剥奪された。

クリス・ベノワの一家無理心中
WWEのトップレスラーだったベノワが07年6月24日の試合を欠場し、自宅で妻を絞殺、息子を窒息死させ、自らも首を吊って自殺した事件。ベノワが摂取していたステロイド剤（合法的に処方されたもの）の副作用による鬱症状が原因とも報道されたが……。

ロディ・パイパー
カナダ出身のプロレスラー。80年代後半、WWEが組織ぐるみでステロイド流通に関与していた疑いから始まったステロイド裁判では、パイパーも証人として出廷。03年には薬物使用を理由にWWEを解雇されたが、05年にはWWE殿堂入りしている。

『マトリックス』
99年公開、キアヌ・リーブス主演のSF大作。ワイヤーアクションやビジュアル・エフェクトを用いた映像が話題となった。ストーリーは、現実と思っていた世界がコンピュータの反乱によって作られた仮想現実で、現実の世界では人類は養殖される存在というもの。

UFC大ブレイク、PRIDE崩壊の"原点"

リアリティショー大国アメリカ

HELLO AMERICA!!

いまや世界随一のMMA大国となったアメリカだが、そのきっかけはUFCのリアリティショー『THE ULTIMATE FIGHTER』という一つのテレビ番組だった。結果的にPRIDE崩壊までを引き起こす震源地となった、節操なきアメリカ文化・リアリティショーとはなんなんだ?

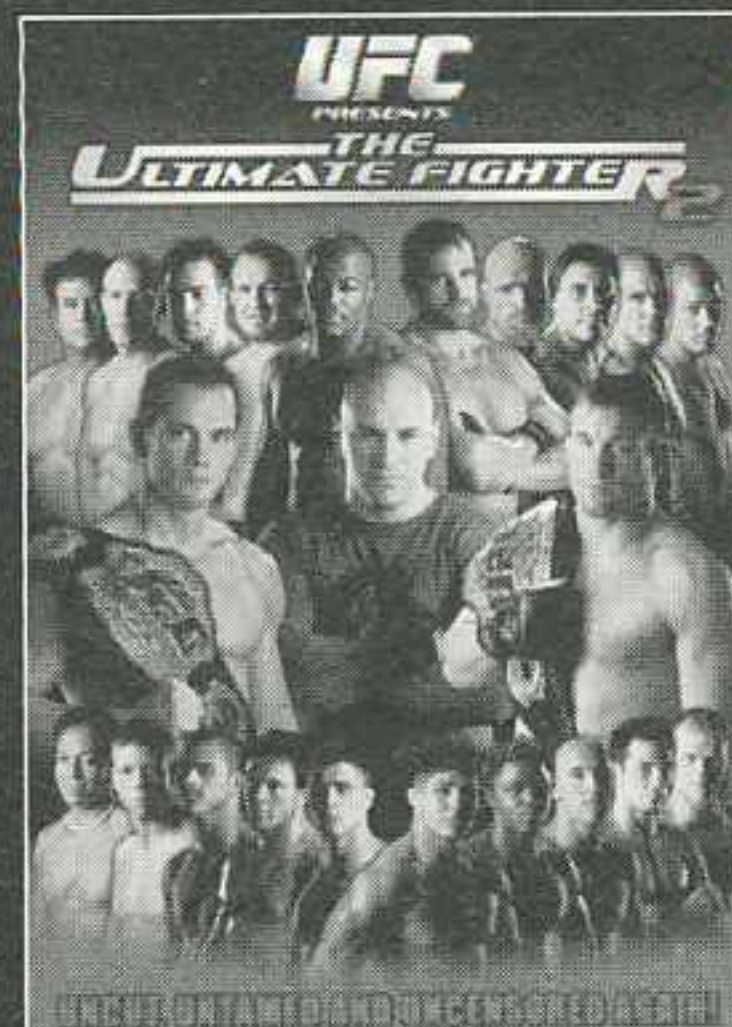
文／高橋ターヤン

現在、世界のテレビ番組はリアリティショーで溢れ返っている。ご存知のとおり、UFCはケーブルテレビで無料放送されるリアリティショー『THE ULTIMATE FIGHTER』（以下『TUF』）が大ヒットして、その地位を不動のものとした。

『TUF』はオクタゴン候補生たちがラスベガスの大邸宅で共同生活し、コーチとして選ばれたUFC現役ファイターの指導の下でトレーニングを積み、選抜試合で負けた選手から脱落していき、最終的な優勝者がUFCとの1000万円の複数試合契約が約束されるというもの。

それまで金網の中で血まみれになりながら相手が失神するまで殴り続ける野蛮なスポーツと思われてきた総合格闘技は、オクタゴンを目指す等身大の青年たちを映し出す『TUF』によって、一気に数百万人の視聴者を獲得する優良コンテンツへと変貌していったのだ。

それまで数年かけてもメジャーにならなかったジャンルを、わずか12週間の放送でメインストリームに踊り出させるリアリティショーとはいったいなんなのだろうか?

そもそもリアリティショーは、シナリオや演出のない状況で、出演者の素のリアクションや人生の選択をありのままに映し出す番組形態。広義には視聴者参加型のクイズ番組や視聴者の撮ったおもしろビデオを紹介する投稿ビデオ番組、さらにどっきりカメラのような番組までがリアリティショーにカテゴライズされるが、やはり絶大な人気を誇るリアリティショーは、他人の人生を覗き見する番組群である。

UFCワールドをやる側の本音が垣間見える人間ドラマに捉え直し、新世代のスターを生んだ『TUF』は、かつての暴力コンテンツ・MMAの価値観を一新、業界の重要な分岐点となった。

日本でもこの手の番組は大量に作られており、近年話題になったものだけでも『進め！電波少年』、『ガチンコ！』、『あいのり』などおなじみの番組名がずらりと並ぶ。しかしリアリティショーフリークに言わせれば、ハッキリ言って全然アマい！

アメリカには日本人では想像もつかないほど、簡単に人生の切り売りをして一時的な名声を手に入れようとする人々を映し出す番組が大量にあるのだ。

アメリカと言えば映画の国。そしてテレビが映画に負けないために生み出した対映画の最終兵器が、リアリティショーだったのだ。リアリティショーはテレビの登場とほぼ同時に産声を上げたが、爆発的な人気を得たのは89年にスタートし、いまだに根強い人気を誇るFOXテレビの『COPS』が最初だろう。

警官の愚痴や私生活の話を聞きながら、その場で起こった小事件を解決する（コソ泥を捕まえるだけとか）という毎週変わらぬフォーマットの低予算番組が全米で大ヒット。警官や犯人たちの素の姿は視聴者に大きなインパクトを与え、多くのフォロワーを生み出す人気番組となった。

しかしそんなフォロワーを吹き飛ばす強烈無比な番組が91年にスタートする。伝説のリアリティショー『ジェリー・スプリンガー・ショー』だ。

『ジェリー・スプリンガー・ショー』は秘密（たいてい浮気か性癖に関すること）を抱えた素人視聴者が登場し、パートナーや家族に告白して激昂した家族の大乱闘をバックに、ホストのジェリー・スプリンガーがうわべだけの道徳的な説話をする（問題は何も解決しない）というお決まりパターンで毎回進むが、凄いのはその秘密の内容。

友だちの彼氏と付き合ってるなんてのは日常茶飯事で、父と娘の近親相姦を告白された妻が、じつは娘のボーイフレンドとデキていたとか、付き合っていた彼氏がじつは同性愛者で、その彼氏の彼が登場するも、その彼は両刀遣いで彼女がいてなぜか彼女と彼女が大乱闘みたいなわけがわからない二重三重のどんでん返しと、節操がなさすぎる相談内容がウケにウケて、現在も続く長寿番組となっている。

ほかにも、賞金獲得型生き残りリアリティショーの火付け役『サバイバー』や、視聴者数2000万人以上を誇るバケモノ番組『アメリカン・アイドル』、パリス・ヒルトンによるセレブ版『田舎に泊まろう！』の『シンプル・ライフ』、『アフリクション』のパートナーであるドナルド・トランプによる経営者養成番組『ザ・アプレンティス』など枚挙にいとまがない。

一部の番組は出演者によるヤラセが暴露されたりするが、多くの視聴者は「楽しけりゃイイじゃん」というスタンスでその勢いはまったく衰えない。

アンディ・ウォーホルの「将来、誰でも15分だけは有名になれる時代が来る」という予言は、リアリティショーでまさに現実化した。素人でもプライベートを平気で〝むき出し〟にする図太さを見るにつけ、移民と開拓の国アメリカでは、いまだに〝旅の恥はかき捨て〟なのだ。

そしていま最高にホットなリアリティショーはハルク・ホーガン一家の日常を描く『HOGAN KNOWS BEST』。番組自体は終わってしまったが（後釜番組は娘のブルックが主人公のリアリティショー）、そのきっかけとなったのはホーガンの息子ニック（未成年）が、同乗者が再起不能になるほど悲惨な飲酒事故を起こして収監された事件。

しかし、その後もホーガンが娘の同級生と不倫関係にあることが暴露されたり、ホーガン夫人も娘の同級生とデートしているところがパパラッチされるなど、グチャグチャな人間関係でいまなお全米の話題をさらっている。こうして番組が終わったあとも話題を提供し続けるホーガンの姿を見ていると、リアル・エンターテイナーにはどんなリアリティショー主演者も勝てないと通感。

アメリカ史上最も成功したレスラー、ホーガンは愛娘・ブルック売り出しのため、リアリティショー出演。だが、これはプライベート崩壊への巨大なイントロだったのだ。

日本とアメリカ
150年前から続く不平等な関係

HELLO AMERICA!!

なぜか本誌で近代史セミナー

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

「アメリカ大好き!」な企画が並ぶ今号の『kamipro』。しかし、日本の現状を鑑みるに、そうノーテンキにアメリカに追従していてはならないことも確か。そんな日本の現状に危機感を覚える憂国の"国士"堀辺師範が、日米関係の問題点について、なぜかプロレス&MMA雑誌で解説! はたして日米関係の闇とは何か? そして日本はこれからどうなってしまうのか

聞き手／堀江ガンツ　写真提供／共同通信社

「ペリーに強姦され、マッカーサーに去勢された日本」と言われてるんですよ

——今回の『kamipro』は「アメリカ」がテーマなんですけど、堀辺先生には日米関係の問題点についてセミナーしていただきたいんですよ。

堀辺　私も長いこと『kamipro』でいろんなことをお話しさせてもらってますけど、日米関係を解説する日が来るとは思いませんでしたね（笑）。

——格闘技から大きく逸脱してますからね（笑）。でも、いまは日本の格闘技界にとっても、アメリカという国を外しては考えられないということで、大きな意味での日米関係を解説していただけたらと思います。

堀辺　わかりました。まず、日米関係が現在どうなってるかっていうようなことを知るためには、歴史に問うてみるしかないんですよね。

——どうしてこうなったのか、ということを歴史から考える、と。

堀辺　現在というのは過去の出来事の上で成り立っていますから。そして日本とアメリカの関係で言うと、誰かがこういうたとえをしていたんですよ。「ペリーによって強姦され、マッカーサーによって去勢された日本」というね。

——ほぉ、表現は強烈ですけど的確な感じがしますね。

堀辺　その言葉一つ取り上げても、おおよその明治以降のある重要な部分を摘出してると思うんです。だから、日本とアメリカの関係というのは、強姦されてスタートしてるんですよ。

——とんでもない交際の始まり方ですね（笑）。

堀辺　アメリカは鎖国していた徳川日本に対して、黒船に代表される武力の脅しによって開国させたわけです。その後、タウンゼント・ハリスという大使が総領事として下田に来て、日米修好通商条約を結びます。

——「不平等条約を結んだ」ということを学校で習いましたね。

堀辺　その不平等の関係というのが、かたちを変えながらいまも続いているんです。それが日米関係の一番の問題と言っていいでしょう。

——すべては開国からスタートしている、と。

堀辺　そして、それが現在まで影響しているということは、江戸末期に結んだ不平等条約がどれほど凄まじいものだったか、ということですね。その不平等の内容というのは、大まかに言うと、関税自主権がないということと、領事裁判権をアメリカ側に認めたということです。

——ここまでは学校でも習いました。

堀辺　でも、その不平等条約によって、日本がどんな損害を被ったのかということは、意外と知られてないんですよ。

——確かにそうかもしれませんね。

堀辺　日米修好通商条約の中で日本とアメリカは、関税に関しては協定関税とする、とされたんです。これは相手国との同意のもとで輸入の税率を決めるというものですね。要は自主的に輸入関税を日本がかけることはできなかったんです。ただ、自主的にはできなくても、条約を結んだ当初は輸入品に対して、一律20パーセントまでかけることができたんですよ。ところが、しばらくすると、これが上限5パーセントまで引き下げられてしまうんです。

——たった5パーセントですか。

堀辺　5パーセントというと、当時の感覚としては、もう関税がゼロみたいなもんなんです。なぜ、そうなってしまったかというと、通商条約を結んだとき、神奈川、長崎、函館、新潟、兵庫の開港が盛り込まれていたんです。ところが、兵庫というと地理的に京都が凄く近いわけですね。そして京都というのは、当然、天皇の御所がある場所ですけど、時の孝明天皇は「あんな野蛮人たちが来たら、この日本が穢れてしまう」という攘夷思想の持ち主だったんですよ。

——ガイジン嫌いだった、と（笑）。

堀辺　ホントに生理的に嫌いだったようですね。だから、京都の近くまで外国人がウロつくのは我慢ならない、と。そして尊皇攘夷派も「絶対に兵庫の開港は認めない」と、言っている。でも、アメリカは「兵庫も開港しろ」と幕府に迫ってくる。条約を結ぶためには天皇の許可が必要なので、これに幕府は困ったわけですね。

——アメリカと天皇の板挟みになったわけですね。

堀辺　それで交換条件が出されるんです。「兵庫港を開くのを延期する代わりに、関税率を引き下げる」という。これによって、関税率の上限5パーセントなんていう、極端に低い税率になってしまい、これが日露戦争が終わるまで続いてしまったんですよ。これによって、当時の日本の税収というのは、国家の収入のたった3パーセント。ちなみに同じ時期にアメリカの税収は国家収入の50パーセントです。

——とんでもない差ですね（笑）。

堀辺　これをパーセンテージではなく、金額にしたら、もっともの凄い差があるわけですよ。そして日本は、この通商条約によって国家収入の残りの97パーセントを国内の税金で賄わなければならないというハメに陥ったわけですね。この対比を見てもらうと、いかに経済的打撃を被る協定だったか、不平等だったかがわかる。

——つまり開国時、日本は軍事的には占領されなかったけども、経済的には植民地同然の状態で始まったということですね。

堀辺　そのとおりです。しかも、輸入品の税率が極端に低かったため、国内の商品が売れなくなったんですよ。そのため、労働者の賃金を低くしないと輸入品に対抗できないという事態を引き起こしてしまった。だから、よく日本は明治時代から低賃金で労働者を働かせる、人権を無視した国家であるということが言われるわけですけど、そもそもその原因を作ったのは、欧米列強が自分たちの利益のために、日本に犠牲を強いる協定関税を作ったからであって、決して封建思想や人権軽視で、日本人の低賃金、あるいは長時間労働というのが起きたんじゃないんですよ。

——不平等条約によって、そういう構造にならざるをえなかった、と。

堀辺　だから農村についても、とくに土地を持たない小作農というのが、低賃金で厳しい生活を強いられたという歴史がありましたけど、これも関税の問題に間接的ながら関わってるんですよ。当時、日本の国家予算は6500万円ぐらいだったんですけど、そのうち、輸入関税収入

SEISHI HORIBE

は、先ほど言ったようにたったの3パーセント。では、あとはどのようにして賄ったかというと、90パーセントが農民からの地租で成り立ってたんです。だから、工業などが発達する前の日本は、農民から搾り取らないと、国が成り立たないという状況になってたんですね。

——文字どおり、不平等条約のしわ寄せが庶民に押し寄せてきていた、と。

堀辺　それが、大東亜戦争で負けたあと、マッカーサーが来て農地改革というものをやったんですけど、これによってマッカーサーは絶賛されたんですよ。なぜかというと、戦前の日本は大地主が小作人を奴隷のように酷使して低賃金で働かせていたという問題があったんです。しかし、マッカーサーは農地改革によって、大地主から土地を取り上げて、その土地を再分配することによって、苦しい小作人状態から自作農というものを生み出すことができた。だからマッカーサー様様っていう神話が生まれたわけです。

——確かにそれは素晴らしい改革ですね。

堀辺　でも、これを素晴らしい改革と言ってしまうのは、歴史をまったく知らない証拠なんです。

——あ、おおいなる勘違いでしたか（笑）。

堀辺　もともと江戸時代の農村の税金は、年貢というかたちで納められていたわけですけど、税金というと現代の感覚だと、個人にかかると思うでしょ？

——自分で収穫した何パーセントみたいなものだと思ってましたけど……。

堀辺　でも、それは現代の話で、江戸時代の年貢は個人ではなく、村全体で請け負っていたんです。だからもし病気になったりして、働き手がいなくなっても、村がその働けない人のぶんは納めてくれた。だからね、意外と困るようで困らなかったんです。しかも、土地の売買は禁じられていた。しかし、「土地は個人で所有するものだ」というヨーロッパの慣習にならい、明治6年の地租改正によって、土地の所有が認められて、税金は個人が納めるかたちになる。そして土地の売り買いが可能になったんですよ。そうなると明治以降、病気をしたり、本当にお金に困った人たちが、土地を売るという現象が起こり始めた。そして、江戸時代には存在しなかった大地主っていうものが生まれた。それによって、小作人も生まれ、低賃金で厳しい生活を強いられる人が増え始めたんですよ。これは近代のヨーロッパを模倣することによって起きたツケなんです。だからね、一揆なんかはね、明治政府ができてから、逆に件数が増えてるんです。

——へぇ、一揆って江戸時代の話だと思ってましたよ。

堀辺　そうじゃないんですよ。明治政府ができてから、明治6年以降になって農民一揆っていうのが増えたの。それを忘れて、農地解放をやってくれて、大地主を潰して、自作農を作ってくれたのはマッカーサー様だ、と言ってるんです。しかも、この地主制っていうのは日本古来のものだって日本人は誤解してしまってる。じつはそうじゃないんですよ。ほとんど植民地と変わらないようなところから、近代日本というものが始まったことによって、そういう状態に陥ったわけですね。

——すべては、不平等条約からスタートしている、と。

堀辺　そう。日本の低賃金だとか長時間労働とか、農民の重圧とか。っていうのものは、じつは日本古来からのものではなくて、開国、通商条約によって生まれた災害だったんですよ。でも、それをホントに知らないのか、あるいは何かの目的があって知らせてないのかわからないけれども、そういう情報がいまでも国民にあまり知らされてない、教科書にも出て来ない。それはなぜか。いまでもコントロールされてるからだと思います。

——要は敗戦したからということですか？

堀辺　そういうことです。敗戦して、いくつかの報道の規則を作られた。戦後は、その規則に従って報道されていたわけですけど、その規制はいまや解除されてるのに、まだ自主的に規制に従ってやっている。日本の近代史にしてもそうです。日本が戦争で負けたとき、アメリカ軍によって東京裁判（極東国際軍事裁判）という〝擬似裁判〟を開かれて、日本はいわゆるA級戦犯といわれる人たちが、昭和の初め頃から共同謀議して、アジアを侵略して、世界侵略を計画して戦争を始めたんだと決められたわけですね。その考えに基づいて戦後の歴史教科書は作られてきた。

——つまり、日本の歴史がアメリカに都合がいい解釈で作り替えられた、と。

堀辺　そうです。先ほど話した大地主と小作人との関係なんかも、全部そういう、アメリカに都合のいい観点から歴史が書き改められてるわけです。日本人は悪いことを昔からしまくってきた人間である、あるいはそういう罪悪を犯してきたという歴史を背負わされてしまった。そして、その背負わせた主役が欧米なんだけど、中でもとくにアメリカという国が日本に

SEISHI HORIBE

写真提供：共同通信社

連合国最高司令官として、45年8月30日、厚木飛行場に降り立ったマッカーサーは、占領政策として、農地改革、婦人解放、労働改革、新憲法の制定などで日本を根こそぎ変えていった。

自国の中核をアメリカに握られていることにすら気づいてないのが日本の現状

そういったものを背負わせた主犯であるということが言えるんじゃないかな、と。

——アメリカは日本に濡れ衣を着せた張本人だということですね。

堀辺　ええ、張本人です。そして、そのことによって日本は元気がなくなった。つまりね、キンタマを取られちゃったわけですね。だから、そういう罪悪の歴史観を背負った日本人は、国際的にいろんなことを「これはこうすべきじゃないか」とか、「これはおかしいから、将来の世界のためにこういうことをすべきじゃないか」とか、そういう確固たる立場に立って意見を言うっていうことができない。なんでも誰かが決めて「はい、わかりました」でおしまい。

——そんな感じがありますね（笑）。

堀辺　あとはアジアの国々や、いろんな国に友好関係で行くと、最後はいつも「すいません、日本は経済大国だから、これちょっと援助していただけませんか？」と言われて援助だけはする。金だけは取られるけれども、何も言ってこない。援助交際国というね。

——なるほど（笑）。

堀辺　そういうかたちになって、日本の自主性とかそういうものがなくなってしまう。

——じゃあ、お金だけ持ってるイジメられっ子みたいな感じなんですかね。

堀辺　そういう状態になってきた。日本は開国時の不平等条約によって経済的な植民地支配を受け、敗戦で罪悪の歴史を背負わされた。そしていま、グローバルスタンダードという名の、アメリカの国益を追求した政策をさまざまな局面で突きつけられている。それによって、日本の様々な慣習までが悪いことのようにされ、日本人の誇りまでが奪われようとしている。

——なるほど。では、反米を主張するのは、要は真の独立国家になるため、どうしても必要なことだということですか？

堀辺　確かに真の独立国家になるためには、反米にならざるをえないんですけど、これもいろいろ問題があるんですよ。一言に反米と言うけれど、日本は安保条約というもので守られていて、一方では日本国民の中には憲法9条の堅持ということを盛んに言う一派もいるわけですね。この憲法9条を守るということは、ほかの国が攻めてこない、侵略しない、悪いことをしないということを前提にしなければいけない。もしくは、有事の際はアメリカ軍に守ってもらうことを前提としているんですよ。だから、守ってもらってる立場上、アメリカにあんまりつれない素振りはできないんだよ、というかたちで従属を選択する。

ほりべ・せいし■1941年茨城県水戸市出身。50年に渡る命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、さらに全局面打撃制koppoを創始。格闘技・武道評論の第一人者として本誌や『わしズム』などでも活躍している。

——憲法改正して、自国で軍備を整えて、独立国家としての体を整えるということには、なかなかならないんでしょうね。

堀辺　もうアメリカに守ってもらうことが前提で、守ってもらってるんだからしょうがない、という考えが充満しすぎてるんです。ハッキリ言って、右を向いても左を向いても、自主性とか独立姿勢というのがまったく失なわれているのが、日本の現状なんですよ。

——独立国家じゃないみたいですね。

堀辺　ハッキリ言って独立国家ではないです。たとえば具体的に軍事の問題で話すと、この東京上空を自衛隊は勝手に飛んでるんじゃないんですよ。これはアメリカの上空の管制のもとに飛行機は飛んでるわけです。だからアメリカと連絡を取り合わないと、日本の上空を勝手に自衛隊が飛ぶことはできないんです。

——日本の空なのに、アメリカの許可がないと飛べないんですか？

堀辺　ええ。そんな状態になってるなんて、みんな知らないんですよ。日本の上空はアメリカ軍が握ってるんです。

——アメリカの領空みたいな感じですか。

堀辺　それを分けてもらって、使わせてもらってるような状態ですね。

——「お借りしてます」みたいな（笑）。

堀辺　そういう日本にとって凄く大切なことを、メディアも学者もみんな目をふさぎ、口をふさぎ、耳をふさいで、三猿をやって、日本の現状を国民に伝達しないでいるということです。ここに一番の日本の闇というものがあるんですよ。そして、一方では経済的な繁栄を遂げてるという部分があるので、その安心感があるから、ホントはいろんな危機的状況がいっぱいあるにも関わらず、そこのところに気づいてない。自分の国の中核となる部分を、アメリカという国に握られてるということすら気づかないというのが現状なんですよ。

——なるほど。だからこそ、アメリカの都合によって、日本の文化、慣習が次々と失なわれていっているわけですね。

堀辺　そのとおりです。そして、それはいま格闘技界にも及んでいます。昨年、アメリカのUFCがPRIDEを買収して消滅させましたよね。そして、今年からはUFCのテレビ放送も日本で再びスタートすると聞いています。このようなかたちで、UFCが日本の格闘技市場を支配するようなことになると、これは日本の格闘技文化の消失になるでしょうね。

——格闘技文化の消失ですか。

堀辺　はい。日本の総合格闘技というのは、日本の侍たちが作り上げてきた武道の価値観、侍の文化というものが、その価値を支えてきたんですよ。でも、UFCにはその武道の価値観というものは存在しません。だから、総合格闘技から日本の価値観を取り除いたら、一時的な繁栄はあるかもしれませんけど、それは必ず、ローマの拳闘士（グラジエーター）のように退廃した文化となる。UFCの日本侵攻というのは、ただ、商業的な危機ではなく、そういった格闘技の文化消滅の危機なんですよ。今日の『kamipro』の日米近代史セミナーの最後に、そこを言っておきたいと思います（笑）。

【08年8月3日／中野区・骨法武術館にて収録】

HELLO AMERICA!!

巨大化する"いびつ"なスーパースター!?

マイケル・ジャクソンですよ

秋山成勲とマイケル・ジャクソン

音楽家であり文筆家

菊地成孔

「マイケル・ジャクソンですよ」。『DREAM.5』のオープニング煽りVに登場した秋山成勲は韓国での異常人気について、じつに堂々と発言! このマイケル・ジャクソン発言は波紋を起こしまくったが、マイケルといえばアメリカではスキャンダルまみれのダーティヒーロー。いったいなんでマイケルなのか? その真相に菊地成孔が迫ったのだが、今回ばかりはお手上げ状態!?

聞き手／ジャン斉藤　大会撮影／乾晋也

初めて聴きましたけど、秋山の歌は普通にうまいと思います

――菊地さん、今回も『DREAM・5』をPPVで観ていただいたわけですけど。じつは秋山成勲が煽りVで……

菊地 （さえぎって）マイケル・ジャクソンね（笑）。

――ええ。韓国での人気を、なぜかマイケル・ジャクソンにたとえてて。で、今回はアメリカ特集ということで、秋山成勲とマイケル・ジャクソンについて語っていただきたいと思うんですけど。

菊地 おそらくそれがお題だと予想していたので「なんでマイケル・ジャクソンって言ったのかな?」って、今日の朝方まで考えてたんですけど。まあ、その（笑）。

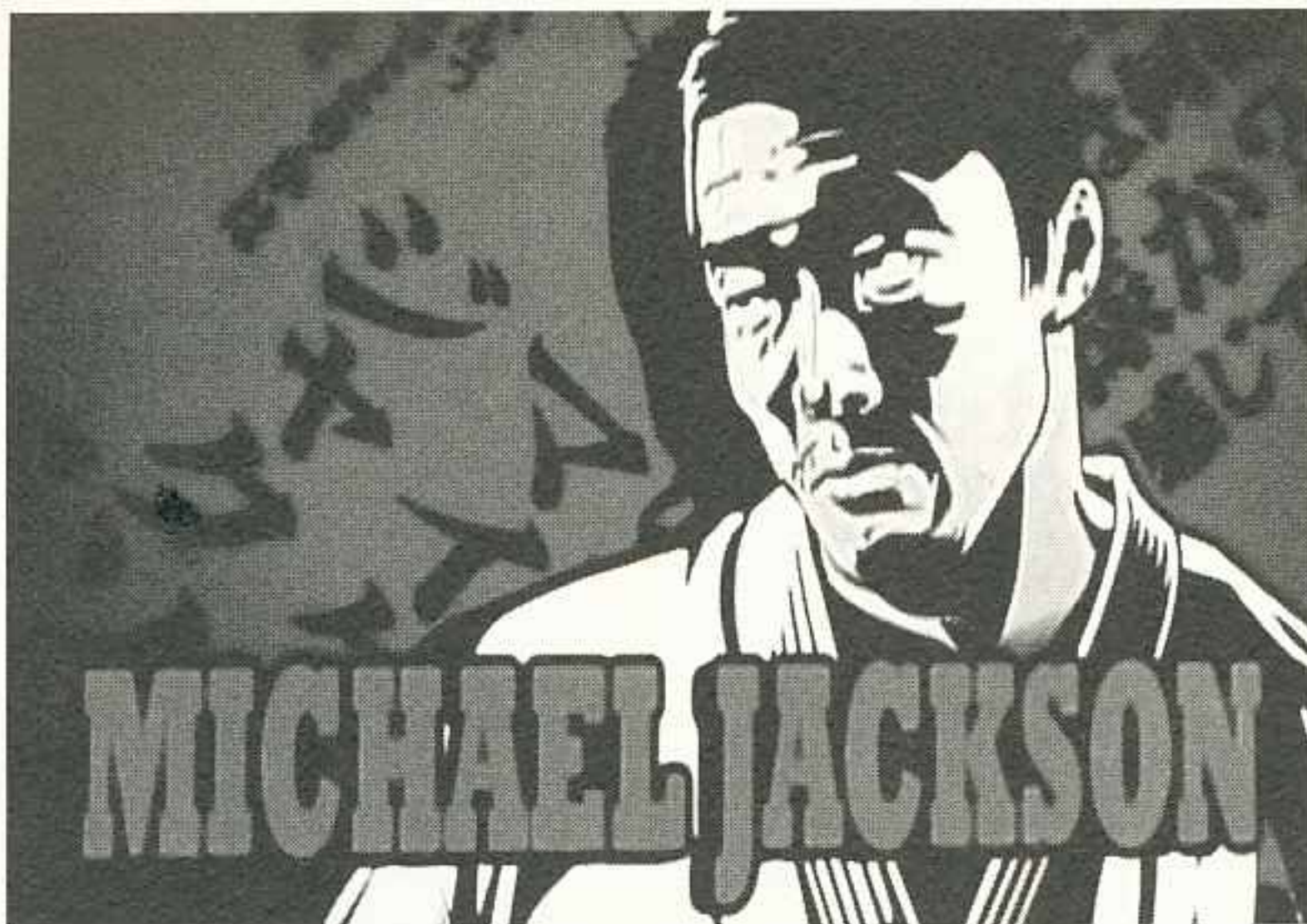
――まあ、そこにとくに意味はないとは思うんですけど……（笑）。

菊地 試合に関しては、秋山は今回も素晴らしかったと思います。まぁ、ワタシは一貫してブレなしの秋山支持者ですけど、あいかわらず凄く強くて、絵になってて、オーラもあって、文句なしというか。柴田勝頼さんという方を不勉強ながら詳しくは存じ上げないので、どれぐらい金魚ちゃんだったのかの具合がわからないのですが。

――実力的にかなり差はあったと思いますけど、絵としては凄くおもしろかったですね。

菊地 三崎（和雄）戦みたいなヒリヒリ感はなかったものの、勝てる相手にしっかり強さを見せた。強烈なブーイングがきましたが、マジ憎悪が7、遊びが3ぐらいですかね、アレは。

――ちょっと質が変わってきたところはありましたね。

菊地 佐藤大輔さんの煽りVも最近はPRIDEのようなえげつないパワーは自粛しているように思うんですが、今回は秋山が韓国でどんな雰囲気なのかってことをハッキリ絵で見せた。それに“在日4世”というのが情報であそこまで表に出たのは、おそらく初めてじゃないですか?

『DREAM.5』オープニング煽りVより。本誌でおなじみ、師岡とおる氏のイラストもキマっていた秋山。まさに「俺だけ見てりゃいいんだよ!」な、アイム・魔王イズムの極北とも言えるのが、今回のマイケル・ジャクソン発言。もはや誰も止められないって!

――オフィシャルの煽りVで、あそこまで出したのは初めてかもしれませんね。

菊地 あのう、若干デリケートな発言になりますが、4世っていったら、実質上日本人ですよ。そんなもん誰だって4代前までいったら何人だかわかったもんじゃない。

――おっしゃるとおりですね。

菊地 この周り（新宿職安通りのコリアンタウン）なんかは、80年代以降に来た3世の人がベースを形成しているんですが、1世、2世の方々がストリートでエゲツなくしのぎを削ってたのは昭和40～50年代までの話ですから。ですから韓国の秋山人気は、韓国人にとってもエキゾチックさを含むはずです。2世、3世なら同胞感が強いと思うんですけど、4世ともなると帰国子女みたいなイメージ。たとえばそうだなあ、我々はこずえ鈴さんを「あんまり日本人じゃないだろ」と。

――秋山は韓国で、こずえ鈴状態ですか（笑）。

菊地 たとえが微妙すぎる以前に、ハーフと帰国子女とごっちゃにしてますが（笑）。そうだ。あの人、「ヤッター!」っていうのが流行って『ニューズウイーク』に載った人いるじゃないですか。

――アメリカの人気ドラマ『HEROES』で主役級のマシ・オカさんですね。

菊地 あの人、たしか日系アメリカ人じゃなくて、純然たる日本人なんだけど、ほとんどの人が日系アメリカ人だと思ってる。その彼がホームに凱旋して、もちろんうれしいんだけれども、あるエキゾチックな距離感がありますよね。秋山はあんな感じではないか、と。まあ、このたとえも全然妥当じゃないですが、煽りVで見る限り、モデル姿もイケまくってるし、歌もホントにうまい。

――音楽家の菊地さんが聴いても秋山の歌はうまいですか?

菊地 初めて聴きましたけど、普通にうまいですね。ただ、韓国人はみんな歌がうまいから。ワタクシの知り合いといわず、有名人といわず、韓国人は英語と歌は平均的にうまいです。

――韓国では歌がうまいのがリスペクトされるポイントらしいですね。

菊地 韓国人の歌好きは、昔の日本人像を彷彿させますね。昔の日本人はちょっと座興で演歌や民謡を歌ったり、そこらのオヤジがやたら歌がうまくてコブシ回ったりしてた、懐かしい感じがある。しかも、韓国の人の歌い方って、昔の日本のムード歌謡に近くて、トロトロに甘い感じでねえ。

――確かに秋山の歌ってメロウですよね。

菊地 韓国にもシャーマニックに唸る音楽はあるけど、保守本流は甘い感じですよ。堀内孝雄みたいな。ただ、それでマイケル・ジャクソンってとこがおもしろいっちゃあ、おもしろいけど。

――ただ、エンターテイナーを表現するとき、この時代にマイケル・ジャクソンって言いきる秋山は、やっぱりおもしろいですよね（笑）。

世界の“魔王” マイケル・ジャクソン スキャンダル年表

79年 ステージで鼻を骨折し、初の整形手術。
82年12月 『スリラー』発表。アルバム売り上げの世界記録を更新。
84年2月 ペプシのCM撮影中、頭部に大きなヤケドを負って、皮膚移植手術。
85年8月 ビートルズの版権（251曲）を管理する音楽出版社を購入。
93年8月 13歳の少年に性的虐待を行なった疑惑が浮上。家族が民事訴訟を起こす。
94年1月 検察は少年の父親からの恐喝容疑を棄却。この翌日、マイケルは民事訴訟を処理するため、数百万ドルの支払いに同意。
94年5月 エルビス・プレスリーの娘、リサ・マリー・プレスリーとドミニカ共和国で結婚。
96年1月 リサと離婚。
96年11月 オーストラリアで皮膚科の看護師だったデビー・ロウと再婚。
97年 デビーとのあいだに長男、プリンス・マイケル・ジャクソン・ジュニア誕生。
98年8月 ノーベル平和賞にノミネート。
98年4月 デビーとの長女、パリスが誕生。
99年10月 デビーと離婚。デビーは「子どもたちは精子バンクを使って出産した」と主張。
02年9月 ニューヨークでソロ30周年を祝うコンサートを大々的に開催。その翌日、アメリカ同時多発テロ事件が発生する。
02年11月 ベルリンのホテルにて、代理母から生まれた生後数カ月の息子、プリンス・マイケル2世をバルコニーからつり下げて披露。
03年2月 ABCテレビなどがドキュメンタリー番組『マイケルジャクソンの真実』を放送。マイケルが「事実と違う」と反論。
03年2月 FOXテレビが反論番組『裏切られたマイケル・ジャクソン』を放送。
03年11月 警察がネバーランドを家宅捜索。
03年11月 14歳以下の児童への性的虐待疑惑で逮捕も、45分後に300万ドルを払って保釈。“マイケル・ジャクソン裁判”が始まる。
04年4月 大陪審が証拠が揃ったとして、マイケルを正式に起訴。
05年5月 マイケルの親友、マコーレー・カルキンがマイケルからの性的被害を否定。
05年1月 マイケルの初公判が行なわれるが、Vサインを出し、ホワイトスーツで入廷。
05年6月 性的虐待疑惑に関するすべての疑惑に無罪判決。
06年5月 MTVジャパンが主催するイベントに来日、裁判以降初めて、公の場に登場。
06年6月 ドイツで、マイケルの無罪評決一周年を祝うパーティが開催。
07年8月 ネバーランドで森林火災が発生。
07年12月 日本にて行なわれる予定だったマイケル・ジャクソンのクリスマスパーティが急きょ延期となる。
08年3月 ファン感謝イベントのため来日。ビックカメラを貸し切っておもちゃなどを購入。東京ディズニーシーなどを訪問。

子ども連れで入場してた秋山はマイケルの疑惑は知らないハズ

菊地　どういう文脈で言ったんですかね。〝世界的な名声〟とかいう感じですかね。

——本人は「街に出たら歩けないっていう意味」とフォローしてたんですけど。ボンヤリ思ったのは、マイケルは白人になりたかったけど、秋山は日焼け具合からすると黒人に憧れでもあるのかなって（笑）。

菊地　確かにマイケル・ジャクソンは、人種差別問題を奇形的に突破した唯一の地球人っていうかね。黒人が白人になっちゃったわけだから。結局、マイケルに続いた黒人はいない。完璧なオリジナルですよね。音楽家としては真の天才だし、20世紀の最重要人物の一人。『ｋａｍｉｐｒｏ』が訴えられることはないと思いますが、一応念のために言っておけば、公式声明では「病気で白くなってるんだ。整形手術は、鼻の先をほんのちょっとしただけ」ということになってますが。

——肌が白くなる、尋常性白斑という病気は、実際にあるようですけど。

菊地　公式にはね。読者の皆さんには検索して、黒人の尋常性白班患者の写真とマイケルの写真を見比べてご判断いただくとしても、ここんとこ、毎年ゴシップ紙に書かれることは「今年こそ顔が崩れる」と。ただ秋山の発言は、そういうダークサイドだらけの部分に呼応してるとはとても思えないですよね。

——ええ。もっと気軽な感じっていうか。

菊地　もっとシンプルに「有名人＝マイケル・ジャクソン」って感覚でしょうね。そのへんのオッサンが適当に「アイドル＝キョンキョン」みたいな。まあ、それにしたってねえ。秋山にインタビューしたら大逆転で、凄い立派な根拠があるかもしれないけど。

——魔王のマイケル・ジャクソン論があるかもしれない（笑）。

菊地　お母さんがマイケル・ジャクソンのファンクラブに入ってたとか、最初で最後の、自分のお小遣いで買ったアルバムが『スリラー』だったとか。当時、秋山7歳だからありえる（笑）。ただまあ、現在の一般論としたら関係は何も見えないですよね。

——ただ、あるアメリカ人の格闘家に「あなたにマイケル・ジャクソンってキャッチフレーズがつけられたら、どう思いますか？」って聞いたら、「絶対に怒る！」って。アメリカ人からすると、そういうリアクションが普通なのかもしれないですね。

菊地　まあ、アメリカではネガティブイメージの塊ですね。最後に世間を騒がせたデカい仕事が、「少年たちにフ○ラチオした・してない」っていう。その「してない」ことを証明するためのテレビ番組（『マイケルジャクソンの真実』03年）に協力したら、批判的な内容になってて、結局訴訟してすべて無罪になったとこで表立った活動が止まってる。そのあと来日してますけど、ライブはキャンセル、テレビ番組もキャンセルばっかりで。

——40万円のディナーショーが流れたりもしましたけど。

菊地　長時間、人前に出れないんでしょう。だからアメリカ人からしたら大キッチュな人ですし、音楽家としては本当に素晴らしいんですが、新譜の噂も業界では常に聞くものの、結局作ってないし。〝秋山は黒人になりたい説〟っても、黒人になりたくてリアルタイムでブラックミュージックを聴いてたら、マイケル・ジャクソンにはいかないですよね。

——そうですよね、もっといまっぽい方向に行きますね（笑）。

菊地　いまだったらＪａｙ―Ｚとか、カニエ・ウェストとかさ、いくらでも言いようあるんだけど。そういうレベルじゃなくて〝スーパースター〟なんだってことが言いたかったんでしょうね。「子どもからお年寄りまで知ってる全世界的な規模の、男性スーパースターって誰だ？　と言ったら、マイケル・ジャクソンの全盛期で終わってる」という言い方もできなくはないですし。

——ただ、混乱に拍車をかけるようですが、「日本で言ったら誰？」って質問に秋山は「勝新太郎」って言ったらしくて。

菊地　え？（と絶句して）。

——「日本で勝新」って言われたら、ますますモノサシがわからないですね（笑）。

菊地　う～ん……。もしかしたら自分に照らし合わせて、なかばダーティイメージがついてる人を入れてるのかもしれない。勝新は大スターだけどマリファナで捕まって、会社も倒産して大騒ぎになったり。品行方正な人じゃない。「問題もあるけど、だからこそ輝くスーパースター」って文脈かもしれない。自分もいい子ちゃんじゃないし、一回ダーティイメージがついてみそぎもしたし、記者会見で頭も下げたこともあるってことを含めてるのかも。だって外歩けないだけでいいなら、木村拓哉でいいんだから。

——キムタクにたとえてもおもしろいですけどね（笑）。

菊地　キムタクも外は歩けないけど、ダーティイメージはない。ただ

どう考えてもヤバすぎ！　ヌルヌル騒動で「子どもたちの心を裏切った」と三崎に罵倒されていた秋山だったが、そもそも子どもたちとの入場ありきで、マイケル発言を意図的にカマしてたとしたら、あまりに黒すぎる。

Who's BAD?

マイケル・ジャクソン disk review

『インヴィンシブル』（2001年）

2枚組ベスト『ヒストリー』のあと発売。現時点で最後のオリジナルアルバム、タイトルは「無敵」の意。40代、スキャンダル渦巻く中の発表であったが、洗練されたクオリティにも関わらず、売上げや内容に関してソニーと対立する結果に。

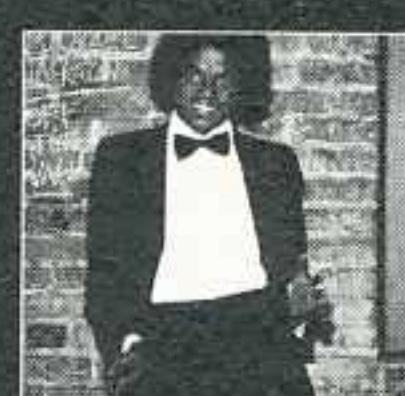
『デンジャラス』（1991年）

クインシーとのコンビは解消したものの、リリース発売6週目で全世界売上げ1000万枚を突破、勢いを再証明した一作だが、ダークなディズニーランド的ジャケには本人の目だけが登場。その後のデンジャラスな運命を示唆していたのか？

『BAD』（1987年）

前作で“キング・オブ・ポップ”と呼ばれてから約5年。同一アルバム5曲連続全米チャート1位という偉業をはたした代表作の一つ。ソウル臭は後退、ダンス・ポップ色が濃厚に。同名曲は30代以上にはとんねるずのパロディでもおなじみ。

『スリラー』（1982年）

総売上げが1億400万枚以上のギネスコードを誇る超モンスターアルバム。ゾンビダンスでＭＴＶのプロモビデオの先駆けとなった同名曲、『ビリー・ジーン』、『今夜はビート・イット』とキラーチューンめじろ押しで、全世界を席巻した。

『オフ・ザ・ウォール』（1979年）

アメリカポップス界の大御所、クインシー・ジョーンズと運命の出会いをはたし、マイケルの自我も加わった野心作。シングルは4作連続で全米トップ10入りの快挙。『スリラー』の超ブレイク前ながら、玄人からは傑作の呼び声高い一作。

『ガット・トゥ・ビー・ゼア』（1972年）

記念すべき初アルバムはなんと14歳!!　ジャクソン・ファイブですでに人気沸騰中だったが、大人も聴けるサウンドプロダクションに対し、変声期前の余裕たっぷりの声量で天才ぶりを発揮したデビュー作。当然、“魔王”の片鱗もなかった。

AKIYAMA & MICHAEL

勝新はともかく、ある時期以降のマイケルのことは知らないんじゃないんじゃないかなあ。だってさあ秋山は、子どもを連れて入場してきてたわけじゃない?

——そうなんですよ!

菊地 絶対に言えないと思うんです。もし、そういうこと全部含めて、わかって言ってたらこれは相当なことよ、秋山の道場がネバーランド(マイケルが子どもたちと暮らしていた私邸)になっちゃう。

——でも、きっとそこまで考えてないでしょうけど。『DREAM・5』直前に『週刊現代』(講談社)で山本KIDの大麻パーティ疑惑の記事報道があって。それで勝新の名前を出してたら、凄いと思いますけど。

菊地 それも含めて、無意識が打ったホームラン級の大ファール連発って感じじゃないですか。「勝新=マリファナ」で、そんでKIDに嫌がらせだったら、複雑なんだかシンプルなんだかわからない、神がかったセンスですよ。

——そういう天然の大振り感はありますよね(笑)。今回の『DREAM・5』も本人は「大阪で地元だからブーイングはないんじゃないか」ってちょっと油断していたようで、オープニングでブーイングがきたら「ええっ?」って驚いてたみたいで。

菊地 ははははは。秋山がアウェーとホームをどういう感覚で捉えてるかは、非常に興味深いですね。凄く大ざっぱに捉えている気もするし、凄く細かく考えているような気もする。いま日韓を行き来する人で、ここまでの極端な人気の差を経験してる人っていないと思うんですよ。ペ・ヨンジュンであれ、東方神起であれ、日本でも韓国でも一応スターであり、差があったとしても知名度や売上がちょっと違うとかでしょ。

——秋山くらい極端な人はいないですね。

菊地 昔からイギリスのロッカーで、フェイマス・オブ・ジャパンとかいって、日本でだけ人気があって、海外ではダメということが起こるのはどんなジャンルにもあったけど。ただ、在日韓国人であんなに極端な目に遭ってるのは、秋山だけでしょう。誰も移入できない立場じゃないかな。韓国人は気性が激しく、敵味方が明確で、たとえば現代においてもネチズン、と呼ばれる、アイドルを自殺に追い込むほどの極端なネット世論と、ファンの熱狂的な支持というアンビバレンツに挟まれる、といったことにも民族的に慣れているのかもしれませんが。とにかくお話ししてきたように、非常にメンタリティの読みの難しい、変わったタイプの人ではある。チェ・ホンマンとも金泰泳とも並べられないニュータイプですね。そういう意味で、「自分の所在がわからないくらいの強烈な支持と反発を同時に受けている」といったイメージで、マイケルに移入しているのかな? とか、どんどん勘ぐってしまいそうな。

——深いところではあまり考えてないと思うんですけど、でも、「なんかあるんだろうな」と勝手に妄想させてしまう力は凄まじいですよね。

菊地 そこが凄いんだよね。秋山は33歳でしょ?『変態座談会』の方々と一緒のロストジェネレーションなんですよ。

——あ、変態たちと一緒なんですか(笑)。

菊地 でも、何かエイティーズっぽいの。ロストの人々におけるエイティーズ。まあ、それの代表がUWFとマイケル・ジャクソンだけどさ(笑)。そういう"失なわれた"世代感がゼロ。大学卒業後に韓国に渡って、韓国代表としてオリンピックに出たかった人でしょ。でも、韓国で在日差別にあって代表になれずにあきらめた。26歳で日本国籍取得。そのでっかい喪失をバネに獲得に向かうばっかりの感じがあるんだよね、あの人。

——だからこそ深読みしたくなるんですよね。

菊地 ホントに秋山にはいろんなものを考えさせられるし、いろんなニュータイプが入ってますよ。ファッションセンスだって、グルッと一周回ってホントに素晴らしいし。ピンクの入ったグレー系のスリーピースとかさ、いまどきあの格好でティアドロップのサングラスかけて、頭は角刈りに近い人っていないでしょ? Bボーイの格好より秋山のほうが断然いいですよ。

——菊地さんも魔王ファッションはアリですか。

菊地 70年代のピエール・カルダンみたいな感じで。アスリート並びに興行関係者におけるお洒落っていうのは、かつてのPRIDE系の高田統括本部長、榊原(信行)代表に代表されたトム・フォード(ファッションデザイナー)スタイルっていうかさ、グッチのスーツにハイカラーってのが00年代初頭の定番で、いまの笹原(圭一)さんとかそのままだけど、もうダサいわけです。でも秋山は独自のスリーピースじゃないですか。さすがモデルと付き合ってるだけあって、ファッションもエッジが立ってますよ。タトゥーでヒップホップでっていう、いわゆるB系もオシャレだけど、安定的すぎますからね。KIDもエッジを出そうとしてへんなメガネかけたりして。

——おじいちゃんみたいなメガネですね。

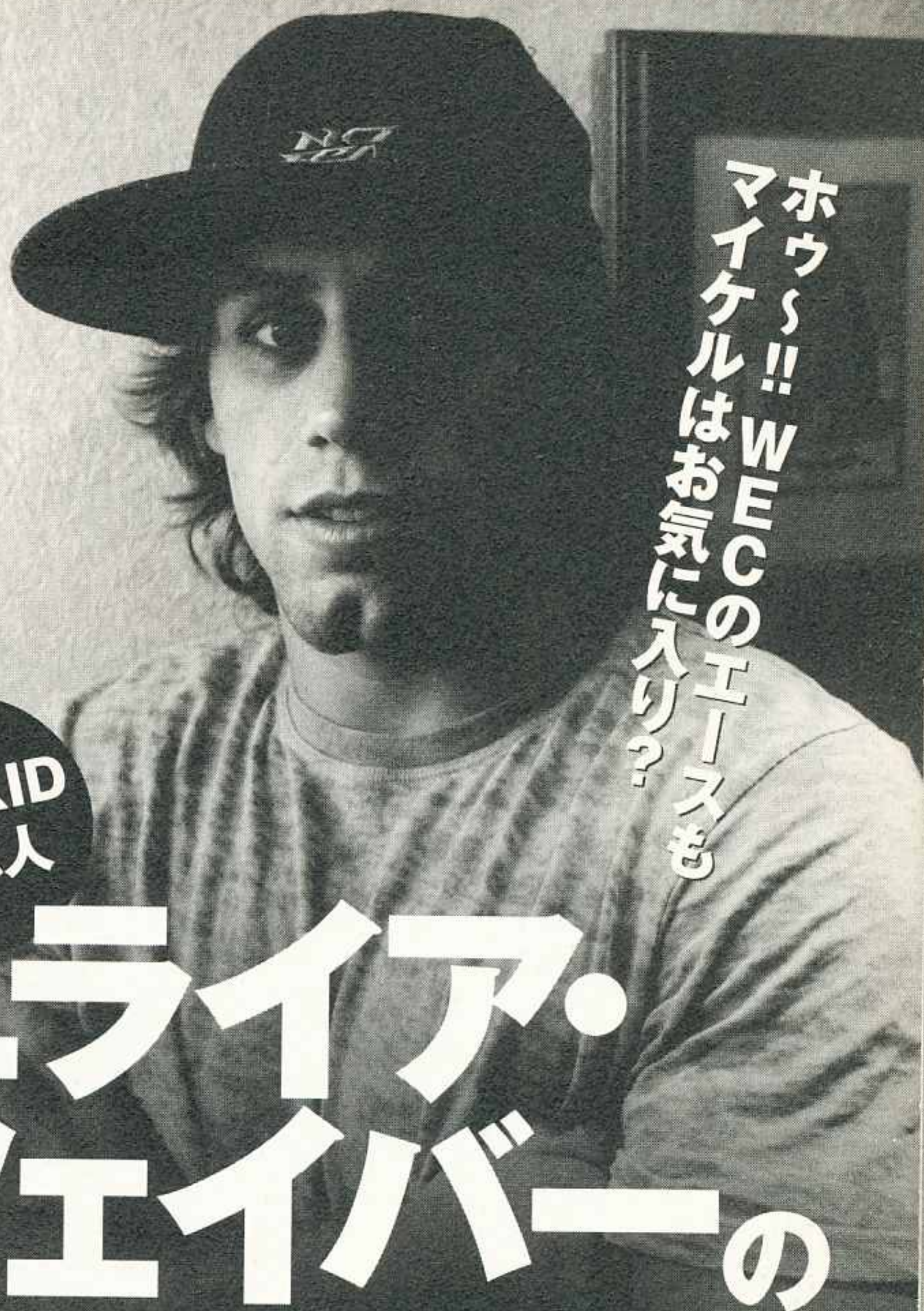
菊地 いやいやあれオシャレですよ(笑)、ちょっとすべっただけで(笑)、だからKIDさえも一歩リードしてる。ファッション評論家が見たら誰もがそう言うと思いますよ。中年が「ちょっと横山やすしっぽくない?」っていうスーツルックがいま一番イケてるんですよ。無理にオチをつけるわけじゃないんですが、いま急に思いついたんだけど、秋山のスーツルックは、『スリラー』のジャケット写真に近いですね。有名なPVのほうじゃなくてね。ジャケット見てみてください。それで秋山の私服思い出すと、秋山の気持ちがちょっとわかるかも知れないわけです。さらに言うと、『スリラー』のパロディをやった竹中直人のジャケットにもっと似てる。秋山とマイケルについてはもっと考えないといけないかもしれませんね(笑)。

——竹中直人まで妄想が広がる、と(笑)。いや〜、魔王はやっぱり底なし沼だなあ。

【08年8月1日/都内・菊地氏の事務所にて収録】

あのスーツルックは『スリラー』のジャケット写真に近いですね

見てみぃ、このサングラス! 向かうところ敵なしの魔王ファッションは、ますますパワーアップ中。韓国ではショーのモデルも経験、最近ではアメリカの格ヲタも熱視線を浴びせるほどのブチキレ度で、いよいよ市民権獲得?

ホウ〜!! WECのエースもマイケルはお気に入り?

山本KIDの恋人

ユライア・フェイバーの

秋山成勲“マイケル”襲名記念緊急インタビュー!?

「マイケル・ジャクソンはマット界に必要か?」

URIJAH FABER■1979年5月14日、米国カリフォルニア州出身。カリフォルニア・キッドのニックネームを持つ現WECフェザー級王者。22戦21勝1敗。アメリカ軽量級シーンを背負って立つ凄いファイターであります。168cm、66kg。

聞き手/ジャン斉藤
撮影/乾晋也

UFCを運営するズッファの別ブランド“軽量級・世界最高峰”の場として知られるWEC。その象徴的ファイターとなるのがフェザー級王者(61・23〜65・77キロ)、ユライア・フェイバーだ。以前から山本“KID”徳郁との対戦が熱望されているユライアは、『DREAM・5』に参戦したジョセフ・ベナビデスのセコンドとして来日。KIDとの“顔合わせ”は果たせなかったが、ドリームマッチはいつどこで実現するの!? ……という話題は他誌に任せるとして、マイケル・ジャクソンを通してアメリカMMAシーンの現状を聞きましたよ! ムーンウォークをしながら読め!!

——ユライアさん、コンニチハ〜。まずは『DREAM・5』の率直な感想をお聞かせください。

ユライア お世辞抜きに素晴らしいイベントだったと思う。ほかにはないユニークな演出の仕方が観客の気持ちをかき立て、誰にでも楽しめるようになっている。選手一人一人の個性に焦点を当てながら、それをフィーチャーしているところもグッドだね(ニッコリ)。それぞれの選手にニックネームがついているのもよかったよ。……マイケル・ジャクソンとか!(笑)。

——あ、秋山成勲の。あれは最高でした?(笑)。

ユライア 最高に気に入ったよ! アハハハハハ!!

——でも、アメリカでいうとマイケル・ジャクソンって、いまはネガティブなイメージじゃないですか。

ユライア そうだねぇ。

——秋山選手は自分からマイケルを名乗ってましたけど、おそらく『スリラー』あたりでマイケルのイメージは止まってるんじゃないか、と(笑)。

ユライア OH、YEAH〜!(笑)。

——ユライアさんには“カリフォルニア・キッド”という素晴らしいニックネームがついてますけど、それは誰がつけたんですか?

ユライア 誰がつけたかは覚えてないけど、これだと暴力的なイメージはしないでしょ?

——犯罪者のイメージもないし(笑)。

ユライア フッフッフッ(笑)。カリフォルニア生まれで、ブロンドヘアに日焼け、いつもニコニコしている。そういう自分の外見や性格から誰かがつけたんだと思うけど。

——あたりまえですけど、キャラクターって重要ですよね。

ユライア アメリカでもジェイソン・“メイヘム”・ミラーとかキンボ・スライスとか、ユニークでかつ人気があるファイターがいる。わかりやすいキャラクターは大事だと思うよ。

——でも、実力が軽視されてキャラクター至上主義になりかねない恐れはありませんか?

ユライア 言いたいことはわかるよ。格闘技というジャンルが一般のファンを取り込むために、確かに格闘技を超えたところでのプロモーションは必要になってくるだろうね。スター選手といえども、ファンに知ってもらってなんぼの世界だから。プロモーションでファンを取り込んでおいて、そこからリアルなものを見せて、コアなファンに育てていく。

——そういう過程が必要ですよね。

ユライア その中からキッド・ヤマモトやボクもそうだと思うんだけど、マーケティング的にも才能的にも揃った選手が出てくるのが理想型だよね。たとえば、視聴率だけのために大会をやるのはよくないけど、一つの過程としては必要でしょ。そういう中から、スター選手が生まれてくるかもしれないし。たとえばBJペンや、マイケル・アキヤマとかね(笑)。

——ダハハハハ! WECが大きくなるきっかけとして、山本KIDかマイケル・ジャクソン、どちらかと闘えと言われたらどっちと選びますか?

ユライア アキヤマは80キロ以上ある。適性体重からすればヤマモトじゃないかな。

——いや、秋山じゃなくて。

ユライア え〜ぇッ!? ホンモノと? なんでボクが闘うのさ?(笑)。

——やっぱり、ジャンルが大きくなる瞬間って、単なる名勝負だけじゃ難しいと思うんですよ。UFCだってリアリティショーで人気が広がったわけですし。

ユライア なるほどねぇ。おもしろいことを聞くねぇ。確かにホンモノのマイケル・ジャクソンは、叩きのめされるべき人だとは思うけどなぁ……。

——叩きのめしましょう!(笑)。

ユライア でも、それでもヤマモトでお願いしたいな。ボクのキャラクターからして、マイケルを選ぶのはどうかと思うだろ?

——確かに!(笑)。

ユライア ボクはいつの日かキッド・ヤマモトと闘うよ!(笑)。

【08年7月22日/大阪市内のホテルにて収録】

UFCの日本放送はようやく再開されたが、ズッファの別ブランドWECもWOWOWで観た〜〜〜い!! アメリカ本国でもまだまだ認知度は低いそうだから、マイケル・ジャクソン級の起爆剤は必要になってくるだろう。

HELLO AMERICA!!

ラバーガードを編み出した男

おしゃべりクソ野郎

Eddie Bravo

エディ・ブラボー

解禁せよ

いま注目のラバーガードとマリファナを語る

『DREAMライト級グランプリ』で大活躍した青木真也が使ったことで一気に注目度が高まったラバーガード。下のポジションの選手が二本の足を駆使してディフェンスすると同時に、オフェンスに移行する技術である。技術が日進月歩のスピードで進化するMMAの世界で注目されているこのテクニックについて、そのパイオニアであるエディ・ブラボーをLAに訪ねてみた。やはり独創的な技術を発想する人は凡人とはどこかが違う！ とにかくマシンガンのようにしゃべりまくるエディの話は、おもいきり脱線していつの間にか別の意味で注目を集めているマリファナへ……。

聞き手／坂井ノブ 『DREAM.5』撮影／乾晋也

——今日は、よろしくお願いします！

エディ　OK、よろしくな！　今日は俺様に何を聞きたいんだい？

——いま青木真也選手の活躍で、日本でも注目を集めているラバーガードについてうかがいたいと思います。青木選手に直接ラバーガードを教えたことがあるんですよね。

エディ　YES、2年ほど前に『DEEP』に出たジェイソン・チェンバーズのセコンドで日本に行ったとき、雑誌の対談でエイオキ（青木）にラバーガードを教えたことがある。お互いの技術を交換しようという企画だった。エイオキはそのときまじめに習ってたのが印象的だったね。俺様になんでも聞いてきて、貪欲に技術を吸収しようとしていた。まだ当時はアメリカのファイターはあまり興味を示そうとしなかったが、彼はラバーガードの真の価値を認めてくれたんだ。そして、エイオキはいまやスーパースターだ。大きな存在になり、大金を稼ぐ男になった。いいことじゃないか！

——その青木選手ですが、7・21『DREAM・5』では残念な結果に終わってしまいました。

エディ　もちろん試合の映像は観たよ。残念だったね。vsキャオル・ウノはエイオキの完勝だ。グレイトな内容だった。しっかりトライアングル（三角絞め）の体勢に入ったし、足関節も見事だった。ただ、日本のファンも知っているようにウノを極めるのはメチャクチャ難しい。彼はグラウンドのディフェンスに関しては世界でも指折りの実力者だからね。BJペンも二度目の対戦（『UFC41』結果は判定でドロー）ではウノのバックを取りながらフィニッシュできなかった。

——凄い内容の試合でしたよね。ハンセンとの試合はいかがでしたか？

エディ　オープンガードだったところにパンチが入ったよな。ラバーガードをやるときにはクリンチした状態にしておけばKOされることはないんだ。ただ、あのときのエイオキはコントロールを失なってしまった。そしてハンセンが立ち上がり、パンチでKOをした。何が起こったか。俺様がいまから見せてやろう（とハビエル・バスケスとともに実演を始める）。

——で、実際のところ何がよくなかったんですか？

エディ　エイオキはここでクリンチを離してしまった。本当だったらしっかりヒザと足首で相手をホールドしておかなければいけない。

——まあ、1試合目の宇野戦でかなり疲労は蓄積してたみたいなんで、そこで離すなというのもかなり酷だとは思うんですよね。わりと短時間でリザーブマッチを勝ち上がったハンセンとは疲労度に差があったと思いますし。

エディ　（話を聞かずに）ほら、こういう攻め方もできる（アームロック）。こんなこともできる（三角絞め）。外されそうになっても、かかとで相手の首をホールドすればい

7.21『DREAM.5』のライト級トーナメント決勝戦。ヨアキム・ハンセンと対戦した青木真也。ラバーガードを試みたもののハンセンは頭を抜いて脱出。06年大晦日に対戦したときは青木がラバーガードからのフットチョークで勝利していた。

Good

エディがとにかく強調したのは、「足と手で相手の肩と頭をガッチリ固定しろ」ということ。相手が頭を抜こうとしたらかかとで首を引っかけたり、腕を抜こうとしたらオモプラッタに移行したりできる。

No Good

こちらは左足の位置が低く、相手をしっかり固定できていない。下から仕掛ける人は相手の右腕を外側から抱えヒザを握るべし。

HELLO AMERICA!!

ギを着て柔術の練習をしてるときに襟に足を突っ込んだのがキッカケだね

ラバーガードは柔術の練習をしているとき、エディ・ブラボーがご覧のような状態で、相手の奥襟にかかとを引っかけたガードポジションを考えたことに端を発している。これをギなしの状態に置き換えるとラバーガードになる。

い。いろんなことができるだろう。

――なるほど。とにかく足と手で相手にクリンチして固定しておくことが大事なわけですね。そもそも、ラバーガードを思いついたのはどういうきっかけなんですか？

エディ　きっかけ？　そうだなぁ……そもそも俺様はミュージックに情熱を燃やす男だった（遠い目）。

――はあ、音楽ですか。

エディ　それまでは一度も闘ったことがなかった。闘おうと思ったことすらなかったよ。音楽じゃ食っていけないから普通の仕事もしたさ。

――日本でもよくある話ですよね。

エディ　やがて俺様は柔術と出会い、仕事のあとに道場へ通うようになった。ギを着て柔術をトレーニングした。袖や襟をつかんで、パスをしたりポジションを変えたり、一通り練習はやったよね。そして、もうギはいいと思った。MMAではギを着てトレーニングをする必要はない。俺様はヒクソンやヘンゾのクリンチを見て、自分なりのクリンチはないものかと考えた。そして俺様は自分のクリンチを進化させたんだ。『PRIDE・2』のヘンゾの試合を観たことがあるかい？

――50分以上も試合をやった伝説の菊田早苗戦ですね。

エディ　そう。あの試合でヘンゾが自分の足を手で持ってクリンチするシーンがあるんだよ。

――いまでいうラバーガードの状態ですね。

エディ　そうだね。ある日、ギを着て練習しているとき、自分の足をこうやって相手の襟に突っ込むというクリンチを使った。これで相手を動けなくするんだ。いいか、見てみろ（と実演）。ハングマン状態だろ？

――やられたほうは身動きが取れないですね。

エディ　そうなんだよ。じゃあ、今度はギがなくなったとしたら、どうなるか？　今度は自分の足をつかんで相手をホールドするようにしたんだ。最もオフェンシブなディフェンスって何だと思う？

――さあ？

エディ　ハイガードだ。

――ハイガード？

エディ　相手の頭に近い位置で足を組むガードポジションのことだな。いいかい、ベストなディフェンスというのはオフェンスなんだ。ノーマルのガードポジションから足を高い位置に移動させていくと、アームバーやトライアングルを狙えるだろう。足が低い位置にあったらサブミッションは狙えない。

――ええ、確かにそうです。

エディ　ギを着てる場合、とくにギのパンツを穿いてる場合はハイガードがやりやすい。で、問題はノー・ギのときだ。ギがないと汗でツルツルと滑ってしまうからサブミッションが極めにくい。だから、手と足でしっかり相手をホールドするラバーガードが必要なんだ。

――なんでラバーガードと呼ばれてるんですか？

エディ　俺様のヒザがまるでゴムのように柔らかく動くからだ。パスする、またぐ、捕獲する、セットアップする、トライアングルの体勢に入る。そこでベストの選択をする。俺様のスタイルはDJと一緒さ。そのときベストの曲をチョイスして

Eddie Bravo

ホウ
マイ

UFCを運営
ランド〝軽量級
して知られるW
アイターとなる
（61・23〜65・77
イバーだ。以前
都との対戦が熱
アは、『DREA
ヨセフ・ベナビ
来日。KIDと
せなかったが、
つどこで実現す
話題は他誌に任
ル・ジャクソンを
Aシーンの現状
ムーンウォーク
——ユライアさ

我々はみんなマリファナについて政府によって洗脳されているんだ！

HELLO AMERICA!!

かけるんだ。

——さすが、ミュージシャンを目指す男は比喩も違いますねぇ……。

エディ　10歳の頃からミュージシャンになろうとしてたんだ。それがいつの間にか柔術のセミナーをやり、本を出版し、DVDを出すようになった。その金で俺様は自分のレコーディング・スタジオを建てた。儲けた金は俺様のレーベルの資金につぎ込んだ。俺様はハッピーだよ。それでハッパを吸って楽しく生活してる。最高だ。

——MMAの試合をしたほうが稼げるんじゃないですか？

エディ　俺様はすでに4つのバンドをプロデュースするのに忙しい。それぞれまったく異なるスタイルのバンドなんだぞ。一つはロック、一つはヒップホップ、一つはディープでダークなダンスミュージック、もう一つもロックだな。いまから俺様にMMAで闘えってか？　俺様はいま音楽に集中しているんだよ！　MMAをやるにはは生活を大きく変える必要がある。いまさらキックボクシングをやったり、レスリングをやったりするのと同じで、そんなことをやるつもりはないな。メチャクチャ大変だろ。それに俺様にハッパ吸うのをやめろってか？（笑）。

——そこまでは言ってないですけど（笑）。

エディ　エイオキのような素晴らしい選手がラバーガードを使って広めてくれる。彼らが使って広めてくれれば、それは俺様の利益になる。ラバーガードと俺様の名前が広まれば、本が売れて、DVDも売れる。日本でもセミナーツアーをやりたいな。どっかで俺様のセミナーをやりたいヤツはeメールでコンタクトしてくれ！

——ところで日本の週刊誌で山本KID徳郁選手の大麻疑惑が報じられて大騒ぎになっているんですが……。まあ、本人は否定してますけど。

エディ　おお、そうなのか。いい機会だから、日本のMMAファンに向けて言っておきたいことがある。

——なんですか？

エディ　俺様は日本の人を愛している。日本人は常にオープンマインドだからな。だって、そうだろ？

時差ボケ、長旅、多くの選手を治療した疲れなのか、非常にお疲れの山本先生。豪快に居眠り中のところ、こっそり近づいたエディ・ブラボーはご覧のポーズ。……バカだなぁ。先生の名誉のためにも書いておきますが断じて吸ってません。

いまブラジルで隆盛を極めている柔術は、日本人が持っていったものなんだぜ？　オープンマインドじゃなけりゃこんなことはできない。そして、ラバーガードも、俺様の母国であるアメリカよりも日本でポピュラーなぐらいだ。日本人はファイターをリスペクトして、技術を愛する素晴らしい人たちだ。

——まだ、この前置きは続くんですか……？

エディ　(無視して)俺様はオープンマインドな日本の人々にマリファナについて聞きたい。我々はみんな政府によって、マリファナについて洗脳されてるんだ。政府の洗脳だ！　いいかい、一度でいいからhttp://www.jackherer.com/に行ってみるといい。読んで驚いてほしい。

——そこには何が書いてあるんですか？

エディ　トゥルース(真実)だ。こういうことを言うと、日本人がどう思うかわかるよ。「マリファナは悪だ」ってね。でも、そうじゃない。日本の人々はアメリカ合衆国のドラッグ・ポリシーを刷り込まれてるだけなんだ。そんなもんはクソみたいなプロパガンダにすぎないし、耳を傾ける必要はない。オープンマインドで調べてくれ。(取材中に爆睡していた山本先生を指差して)彼を見ろ。きっと彼はたくさん吸ったに違いない(笑)。KIDの友だちか？

——吸ってないですよ！　時差ボケと長旅で疲れはてて寝てるだけですから。KID選手自身は疑惑を否定してるんですけどね。

エディ　この話を聞いたいまとなっては、KIDヤマモトこそが、俺様にとってのベストのファイターだと断言できる。

——さっきは「エイオキはグッド」とかさんざん言ってたじゃないですか！(笑)

エディ　(耳を貸さずに)だって、マリファナを吸ってんだぜ！

——だから本人は否定してるんですって!!

エディ　●●●●だってハッパを吸う。●●●●だって吸ってるんだぞ！　日本人もぜひ吸うといい。

——まったく、何を言いだすんですか！(笑)

エディ　とにかく大事なのはオープンマインドだよ。

【08年7月22日、米国カリフォルニア州ロサンゼルス「LEGEND」にて収録】

Eddie Bravo

EDDIE BRAVO■1970年5月15日、米国カリフォルニア州ロサンゼルス出身。ジャン・ジャック・マチャド門下で柔術学び、03年のアブダビコンバットでホイラー・グレイシーからラバーガードからの三角絞めで一本勝ちを奪ったことで世界的な注目を集める。ツイスター（いわゆるグランドコブラツイスト）など独創的な新技を開発する。毒舌&しゃべりまくって常に論争を巻き起こしている。カリフォルニア州ロサンゼルス・ハリウッドで「LEGENDSジム」の10th PLANET JIU-JITSUを主催。

「日本軽量級を侵攻するぞ!」
byエディ・ブラボー

ハビエル・バスケス miniインタビュー

俺がKIDを極めてやる！

エディ・ブラボーがテクニック実演のためのパートナーとして連れてきたのが、かつて修斗で佐藤ルミナと闘い勝利したこともあるハビエル・バスケスだった。「ぜひ日本で闘わせたいんだ！」とエディ・ブラボーも太鼓判を押している。グレイシー一族の奥様をもらい、エリオとつながる家系の中にいる真の柔術家である。エディが横にいたからなのか、とにかくしゃべる内容がデカいのもいい。KIDは長期欠場中だけど軽量級ファイターをお探しの皆さん、いかがですか〜っ!?

——いま階級は？

バスケス　65キロでも70キロでも構わない。どちらでも試合はできるよ。

——その階級だと……たとえば、山本"KID"徳郁についてどう思いますか？

バスケス　いいファイターだと思うよ。日本でどれだけの人間がラバーガードを使いこなせるのかは知らないけど、オレが彼と闘ったとして、自分がグラウンドで下のポジションでも全然怖くないね。まだ彼からタップを奪った選手はいないけど、オレならKIDを簡単に極められるよ。

——おお、凄い自信ですね。KIDとビビアーノ・フェルナンデスとの試合は観た？

バスケス　ビビアーノは伝統的なガードワークは使うけど、ラバーガードは使わない。相手がグッドレスラーの場青は、危険な状態を避けなければならない。伝統的なガードワークっていうのは、相手が身体を引き起こされたら相手に攻撃するスペースを与えてしまう。だが、ラバーガードは、ロックするから相手は身体を引き離せないものなんだ。それがどういう意味かわかるだろ？

——自分のほうが凄い、と(笑)。所英男についてはいかがですか？

バスケス　いつでも闘いたいよ。彼のグラップリングは素晴らしいね。

ブラボー　トコロは素晴らしい。彼はジョン・フィッチのようにグラウンドのコンビネーションが多彩だ！

バスケス　ただ、俺のペースはピュアなグレイシー柔術さ。相手がギありでも、ギなしでも俺はピュアな柔術だけで闘えるんだ。タイトなクローズガードもできるし、オープンガードやバタフライガード、スイープ、スタンドを狙っての攻防、なんでもできる。多くのヤツは一つのことしかできない。ガードワークも一種類のしかできない場合が多い。まあ、みんなうまくなってきてるけどね。でも、まだまださ。トコロは凄くいいサブミッション技術を持ってるけどね。

エディ　彼はまた日本に侵攻をかけようと思ってるんだ。キッド、トコロと闘うのもいいし、ルミナ・サトーとの再戦でもいい。イマナリもいいグラップラーだ。

バスケス　誰でもOKさ。日本でぜひ闘ってみたいね。

JAVIER VAZQUEZ（左）■1977年7月16日生まれ。12勝2敗。03年以降、試合からは遠ざかっていたが07年からはエリートXCに参戦。171cm、70kg。

サイズは体育館並み、設備は超充実!!

メガ道場の凄み

HELLO AMERICA!!

下は6歳から上は65歳まで アメリカで受け入れられるMMA

今号74ページから掲載しているインタビューで長南亮が発した「レベルの高い練習をしたいからアメリカに行くんです」という言葉は、日本のMMAファンにとっては少なからずショックを与えるのではないだろうか。じゃあ、アメリカってどんだけ凄いんだよ？ ということで見てきましたが……、やっぱ凄いわ。鳥肌立った！ 桁違いのスケールのメガ道場潜入レポート！

文　坂井ノブ

7・21『アフリクション』の取材で渡米した今回、カリフォルニアでいくつかのジムを見ることができた。日本でも取材でジムに行く機会は少なくないが、とにかくアメリカでは圧倒されることばかり。そこで見たアメリカのジムの風景から、いろいろ考えてみたいと思う。

まず『アフリクション』の大会前々日、チーム・クエスト勢の練習に同行したのだが、まず驚かされたのはその練習場所の巨大さだ。カリフォルニア州アナハイムの郊外にあるチーム・オーヤマのジム「NO LIMIT」。すでに外観が学校の体育館ぐらいの大きさで、中に入るとリング、ケージ、柔術用マット、レスリング用マット、無数にぶら下がるサンドバッグ……という日本では見たこともない光景が目に飛び込んでくる。スケールがでかすぎてクラクラしてくるが、その横にはソファで彼氏の練習を見つめるアメリカンガールが多数。雑誌とか読んで、化粧直しをしながら、ガムを噛み、くっちゃべっている。ストイックな発想だと、まずこういうことにはならないのだが、そのへんは自由の国・アメリカだ。

青木真也も指摘しているように日本の選手は、柔術やレスリングやキックボクシングの練習をそれぞれ別の場所で行なう場合がほとんどだ。それは単純にすべてを備えた施設がないからなのだが、こんなにも巨大な施設でプロからアマチュアまで大勢で練習をしていれば当然、アマチュアの底上げにもなる。プロ選手も一ヵ所ですべての練習ができれば、移動などでよけいなストレスもかからないし、より中身の濃い練習ができるというものだ。

昨年2月に取材したカリフォルニア州サンノゼのAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）でも、ボクシングとキックと柔術と総合のコーチがつきっきりでプロ選手の練習を見ていて濃密な練習を行なっていたのを思い出した。

日本でも『DREAM』や『戦極』のリングにアメリカから非常にレベルの高い選手が次々と登場しているのは、このように練習環境が充実しているからだ。『DREAMライト級グランプリ』で川尻達也を激闘の末にKOしたエディ・アルバレス、『戦極』や『アフリクション』でスキルの高さを見せつけたエクストリーム・クートゥアーのマイク・パイル、長南の〝ブラザー〟でホナウド・ジャカレイと好勝負を繰り広げたジェイソン・〝メイヘム〟・ミラー。UFCのトップファイターじゃなくても凄い選手がゴロゴロしている国、それがアメリカなのだ。

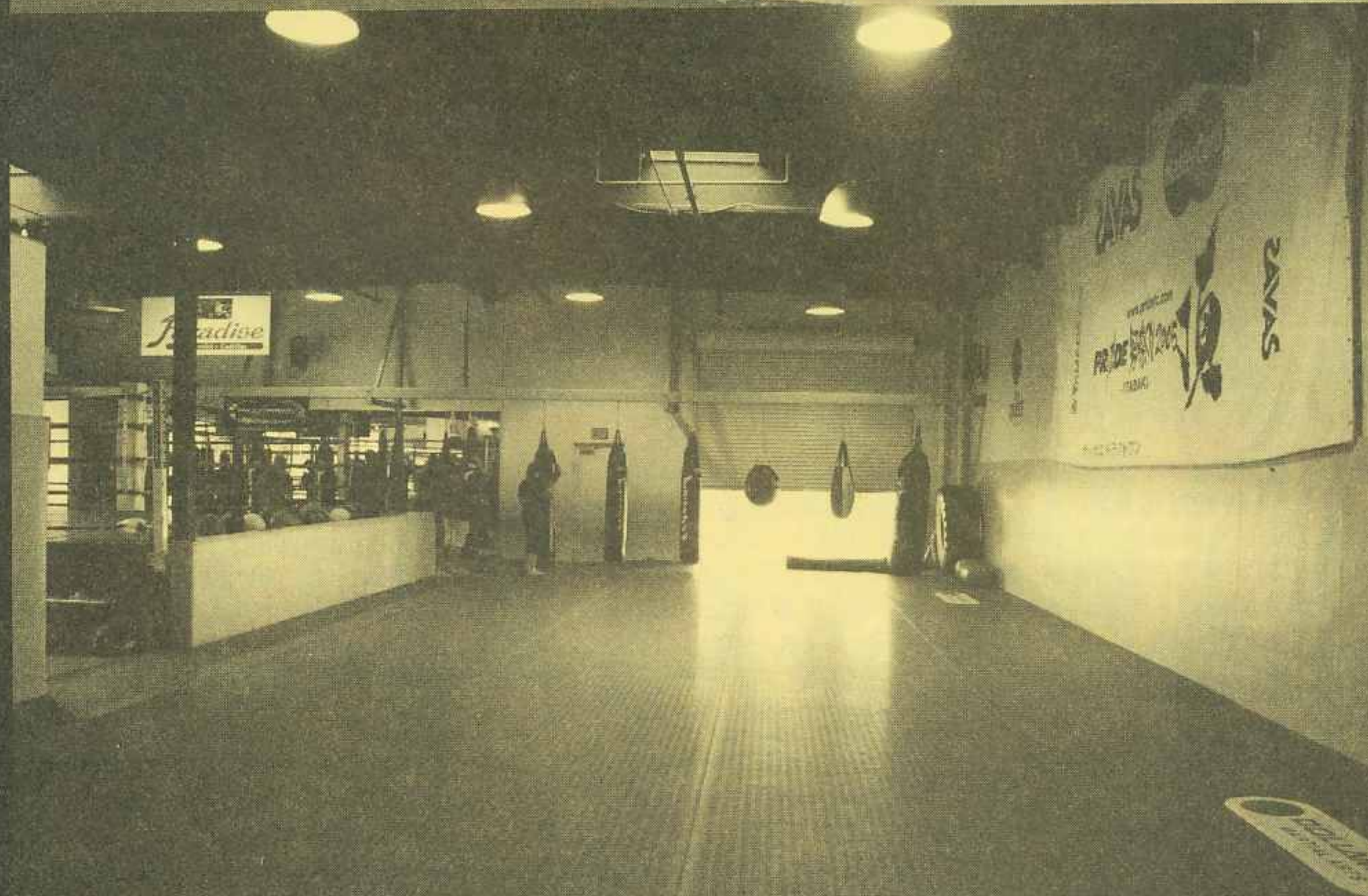
最近のアメリカ選手のレベルが急激に上がっている理由をエディ・ブラボーに聞いてみた。すると、柔術家らしくこんな答えが返ってきた。

「柔術やレスリングだけの人間よりも、ほかの分野の人間が柔術を使いこなすと危険なのさ。たとえばジョン・フィッチ、ジェイク・シールズといった選手は非常に素晴らしいだろう。純粋な柔術家と柔術を使いこなすレスラーが試合をしたら、必ず柔術を使いこなすレスラーが勝つよ。柔術を使いこなすレスラーは、技術だけじゃなくパワフルだ。レスリングと柔術の融合は信じら

れないほど強力になるんだよ」
　もともとアメリカはレスリングが盛んな国だ。グラウンドで相手をコントロールするパワーとテクニックに長けた彼らがサブミッションを覚えると危険な選手ができあがる。ブラジルの柔術家でも生活の拠点をアメリカに移す者も少なくない。日本に行くよりも時差も距離も影響が少ないのは大きな魅力だし、何よりMMAブームのアメリカなら食いっぱぐれることもない。最近のアメリカからグラウンドの強い選手が数多く生まれているのはそういう背景がある。
　UFCのブレイクでMMAが一般でも認知されるようになり、ジムには会員も多くやってくるようになる。カリフォルニア州ロサンゼルス郊外のテメキュラにあるチーム・クエストへ朝9時に行くと、もうすでに一般会員が10名以上も集まっていた。
　女性も何人か混じっている。なんと、クラスがもう始まっているのだ。平日9～11時のクラスで練習してから仕事に行く、なんて人もいるらしい。そんな朝っぱらからMMAを教えているのだ、この国は。
　クエストにはキッズクラスもあり、6歳からMMAを習っている子がいる。上は65歳でMMAのトレーニングをやっている人もいる。5年後、10年後に日本とアメリカにどれだけの差ができるのか想像すらできない。

ボクシング、キック、柔術、MMAを一カ所でトレーニング メガ道場でプロもアマも濃密な集中特訓が行なわれる

　もともとアメリカのフィットネスクラブやジムはとても敷居が低く、入りやすい雰囲気だ。しかし、日本人の一般人が朝9時からMMAの練習をしてたら、どう思われるだろうか？
　ちなみにその横ではダンヘンがリングでミット打ちを黙々とやっていたりする。「立派なジムですね」と言ってみたが、「まだまだだよ」と苦笑い。「本当はこのジムにケージを導入したいんだ。それにはここじゃ狭いから、別の場所に移るかもしれないね」とのこと。

　クエストの壁には05年12月31日『PRIDE男祭り』のリングマットが掲げられていた。ダンに聞くと「やっぱりPRIDEが好きだからね」とつぶやいた。こうして、アメリカの中にPRIDEの遺伝子が広がっているのだ。アメリカでは「PRIDEが好きだ」と公言するMMAファンが非常に多い。
　ジムが巨大なだけでなく、設備も、内容も、精神的にも、かなり濃密なことが行なわれている。やはり選手を育成するジムにMMAというジャンルの根幹がある。ここから練習を通じて選手が生まれてくるのだから。日本のトップファイターがうらやむほどの格闘環境が、現在のアメリカにはある。もはや「アメリカ？　知らない選手ばかりだからなぁ……」ということで目を背けてばかりもいられない。ここには何かが生まれる環境が揃っているのだ。

ダン・ヘンダーソンの「チーム・クエスト」はリングとサンドバッグと広いマットという設備。アマチュアだけならこれで充分だが、金網を導入したいという。どんだけ大きくなるんだ？

UFCを運営
ランド"軽量級
して知られるW
アイターとなる
(61・23〜65・77
イバーだ。以前
郁との対戦が熱
アは、『DREA
ヨセフ・ベナビ
来日。KIDと
せなかったが、
つどこで実現す
話題は他誌に任
ル・ジャクソン
Aシーンの現
ムーンウォーク
――ユライア

PRO-WRESTLING
LOVE & GO FOR BROKE!!

HELLO AMERICA!!

アメリカを食った“ジャップ”ども!!

GREAT MUTA × MASA SAITO
武藤敬司 マサ斎藤

プロレスの本場、アメリカマット界でトップを取った日本人レスラーといえばこの二人、
“男の憧れ”マサ斎藤とグレート・ムタこと武藤敬司だ! 日本人ヒールとして「ジャップ!」とののしられながらも
腕一本でアメリカを生き抜いてきた男たちのシビれる自慢話をたっぷりと語ってもらった!

聞き手/堀江ガンツ 撮影/菊池茂夫 写真(アメリカ)/George Napolitano

俺やマサさんは日本のこと考えて アメリカに来た連中とは違うから

―今号の『kamipro』は「アメリカ」がテーマということで、今日は日本人プロレスラーとして、アメリカで成功したお二人に自慢話をしてもらおうと思って対談を組ませていただきました（笑）。

武藤　自慢話っていってもさ、俺が活躍してた頃のアメリカのレスラーって、だんだんいなくなってきてるんだよな。ましてやマサさんの時代のレスラーなんてそうそう残ってないんじゃないですか？

マサ　もう、死んでんのかもわかんないのばっかだね。

―現役かどうかだけでなく、生存すら不明ですか（笑）。武藤さんが初めてアメリカに行った頃が、マサさんが最後にアメリカで活躍されてた頃ですかね？

武藤　俺が最初にアメリカ行ったのは85年ぐらいか。そんとき俺はフロリダで桜田（一男＝ケンドー・ナガサキ）さんと一緒でしたけど、マサさんはどこにいたんですか？

マサ　俺は85年っていったら……、たぶん〝別荘〟でのんびりしてた頃だな。

武藤　別荘？

マサ　刑務所よ（笑）。

武藤　ああ！　ちょうど入ってたんだ（笑）。

―会わないはずですよね（笑）。

武藤　だからね、アメリカでは会ってないんだけど、俺がマサさんと最初に日本で会った頃に一番迷惑こうむったのは、真夏の両国二連戦ですよ。

―『サマーナイトフィーバーin国技館』ですね。

武藤　そのメインイベントが新世代と旧世代が闘うって試合で、マサさんは猪木さんと組んで藤波＆長州と試合をするはずだったんだよ。ところがマサさん、直前にパスポートなくして日本に帰ってこれなくなってさあ。

マサ　ああ、あった、あった、そんなことが（笑）。

武藤　それで、猪木さんに「武藤、代わりに出ろ！」って言われて出たら、大ひんしゅくでブーイングの嵐だよ。まあ、それもマサさんが俺に試練を与えてくれたんだなって思いますけど（笑）。

マサ　あのときはね、バッグをタクシーの中に忘れちゃったんだよね。

―あれは単にパスポートをタクシーに忘れてきただけでしたか（笑）。武藤さんは、そのブーイングを浴びたスペースローンウルフ時代を経て、再びアメリカに渡りましたけど、デビュー当時からアメリカに行きたいと思ってたんですか？

武藤　まあ、漠然とですけどね。日本のプロレス界って封建的じゃないですか。だから行ってみたいっていうのはあって、俺はデビューして1年ぐらいで海外出てるんだよね。そのあと一度、日本に戻されたけど、そんときはもう思いはアメリカにいっちゃってたから。

―じゃあ、マサさんと同じような感じですね。マサさんも日本のシステムが合わなかったというか……。

武藤　（さえぎって）誰もマサさんを拘束できねえよ（笑）。

―ダハハハハ！

マサ　日本は窮屈だったね。

武藤　そして幸いにも俺とマサさんっていうのは、数少ないアメリカで生き残れたレスラーでもあったからね。ほかの連中は常に日本に帰ることを考えてアメリカに出てきているから、そのへんは違いましたね。

―マサさんも日本に帰る気はありませんでしたか？

マサ　全然なかったね。最初から腹を決めて行ったし。俺は稼げたから。

―武藤さんも途中でこのままアメリカに永住しちゃおうかな、とか思いました？

武藤　永住かどうかはわからなねえけど、アメリカに完全に住んじゃおうとは思いましたよ。ただ、一番の難点がビザだよな。だから当時、アメリカにコレ（小指を立てる）いたから、「向こうの女の子と結婚しちゃおうかな」と思ったことありますよね。「やっぱり、結婚して永住権あったほうが仕事がしやすいよなあ」なんて思いながら、そこまで考えたことあったよ。まだ、女房とか出会う前だからね。

―武藤さんはやっぱり向こうでもモテたんですか？

武藤　いやあ、マサさんほどじゃないよ（笑）。

マサ　俺がモテっこないじゃん。ヒールでやってるのに。

武藤　ホントっすか？　俺のほうはぼちぼちでしたけどね（笑）。

―武藤さんの時代はどういうふうに女性と出会ってたんですか？

武藤　どういうふうに出会うも何も、あの頃は若くて勢いがあるから、ホテルとかに女の子がたくさんたむろしてるから、そのへんから引っぱって……って、何を話してんだよ、まったく！（笑）。

―いや、今日は「アメリカでの自慢話」がテーマですから（笑）。

武藤　そんな自慢するほどでもないですよね？

マサ　ぼちぼちだよ（笑）。

―いやいや、マサさんの自伝の章題にも「セックス、ドラッグ、シュートファイティング」っていう素敵な項目があることですし（笑）。

武藤　ハハハハ！　すげえな。ただ、二つ目の項目については、元ウチの選手が大麻で捕まってクビにしたことがあるからな～（笑）。

―では、二つ目の項目はともかく（笑）、一つ目はいかがですか？

©George Napolitano

（写真・上）80年代前半のAWAオールスター勢揃い。ホーガン、アンドレ、ロビンソン、マーテル、オットー・ワンツ、ブラックウェル、バーン・ガニア、そしてマサさん。アメリカンプロレスが夢とロマンにあふれていた頃の名優たちだ。（写真・下）日米マット界で一世を風靡したグレート・ムタ。その生みの親ともいえる、ヒロ・マツダ、ゲーリー・ハート（ともに故人）との3ショット。ここからムタ伝説はスタートしたのだ。

MASA

MUTA×

武藤　俺さあ、一度だけどっかの田舎町で桜田さんと組んで、会場で二人組の女の子を探したんよ。それで部屋に連れ込んで、ベッド二つのツインルームだったから、お互いに1対1になってね。

――同じ部屋で同時に"二試合"行なわれてましたか（笑）。

武藤　それで桜田さんが先に仕掛けて、そのあと俺が仕掛けて、だんだんこっちも乗ってきたら、桜田さんが突然「武藤、こいつ男だよ！」って（笑）。

――ダハハハ！　それはとんでもない相手ですね（笑）。

武藤　俺のほうはちゃんと女の子だったんだけど、それを聞いたら、俺のあそこもシュンとしちゃってね。それでも桜田さんはめげずにやってたから凄いんだけど（笑）。

――さすがドラゴン・マスター（笑）。

武藤　まだ女で苦い経験あるよ。またそれもどこかの田舎町でホリデイインに泊まってたんだけど、レストランでパーティやってて、女の子をうまくゲットできたのよ。それで女の子の家に車に乗って二人で行ったんだよ。で、アパートに着いて部屋に入って「さあ、仕掛けるか」ってときになって、部屋に子どもが寝てたんだよな。そしたら、その女の子、子どもの顔を見たら急に「できない」って言いだしてさ。俺、頭にきちゃって「バカヤロー！」って言って、酔っぱらっていたからかなんか知らないけど外に出ちゃったんだよ。そうしたらドアを閉められて、鍵をかけられちゃってさ。で、ドアを叩いたんだけど、全然開けてくれないんだよ。しかも夜中だからあんまり騒ぐわけにもいかないから、しょうがなくホリディインまで歩いたんだけど、これが遠くて延々着かないんだ（苦笑）。

――アメリカは広いですからね（笑）。

武藤　途中でヒッチハイクしようにも、ほとんど車は通らねえしさ。朝までかかって歩いたことあるよ。

マサ　そりゃ大失敗だな（笑）。

武藤　まあ、でも、それもひっくるめて楽しかったですけどね、デタラメで。

――マサさんも若い頃はデタラメなことがけっこうあったんじゃないですか？

マサ　若い頃はみんなそうよ。レスラーは女には事欠かないけど、州によって気質が違うから、そのへんは考えなきゃダメよ。

武藤　やっぱり、そういうのありますよね（笑）。

マサ　なまりがキツいけど、美人が多いのはテネシー。それからフロリダの女は尻軽で遊ぶには最高だけど、南部の女は情が厚いから、深入りは禁物よ。

――さすが全米を制圧した男だけに、言葉に説得力がありますね（笑）。

武藤　アメリカ中の女を知ってる日本人って、レスラーに限らなくてもなかなかいないよな（笑）。

マサ　そんなことないよ（笑）。

――そんなリング外だけでなく、リング上でも、お二人は日本人レスラーとして唯一と言っていいぐらいアメリカで本当のトップだったじゃないですか。

武藤　いや、俺とマサさんだけじゃなく、カブキさんもそうじゃん。馬場さんだってそうだし、キラー・カーンもWWF（現WWE）でトップですよね。ホーガンともやってましたっけ？

マサ　ホーガンとはやってない。キラー・カーンがやったのは……なんて言ったっけ？　あの若いチャンピオン。

武藤　若いチャンピオン……？

――もしかして、ボブ・バックランドですか？

マサ　そう。バックランド。

武藤　ちょっと、マサさん。「若いチャンピオン」でバックランドって考えられないですよ（笑）。

――ダハハハ！　25年前のイメージだと「若いチャンピオン」なんでしょうね（笑）。

マサ　キラー・カーンは俺がニューヨークに行くちょっと前に活躍してて、俺が入ったら日本に帰っちゃったから、入れ違いなんだよな。

――アメリカで成功する選手って、何か共通点はありますか？

武藤　やっぱりコミュニケーションとって、向こうに溶け込めたってことじゃないですか？　あとはキャラクターですよね。やっぱり、みんな突出してるじゃないですか。マサさんとかキラー・カーンなんて、地でいってあんだけキャラクターがあって、馬場さんもそうだよな。あの時代の馬場さんって、フランケンシュタインみたいに思われてたと思うよ。

――馬場さんは、そこまで人間離れしてましたか（笑）。

マサ　馬場さんとキラー・カーンは身体がデカくて、顔もデカいし、そりゃあびっくりするよね。日本人は小さいっていうイメージがあるからね。

武藤　だからカブキさんとか俺は、そういうのがないぶん工夫したんだよね、ある意味ね。

マサ　でも、武藤も高千穂（カブキ）もレスリングうまいよ。

武藤　カブキさんはアメリカンスタイルがうまいですよね。

マサ　俺も高千穂と1年ぐらいフロリダでタッグ組んだけど、うまかったよ。ただ、身体がしょっぱかったけどな（笑）。

武藤　でも、マサさんたちの時代を生き抜いたレスラーって、みんな肝が据わってますよ。俺たちの時代よりも危険だからな。

マサ　こっちはヒールやってるから、いつナイフなんか持ったヤツに襲われるかわからなくて、危ないんだよ。車なんかも試合場行ったらちゃんと隠しとかないと、メチャクチャやられちゃうし。

――車を隠しておかなきゃいけないんですか！

マサ　一度、買ったばかりの車に乗って行ったら、試合が終わったあと、タイヤを全部ナイフでやられてたことあるよ。

武藤　俺もマイアミにレンタカーで行ったら、試合後、ホイールを全部盗まれて、弁償させられたことあったよ。凄いショックだった。ホイールだけだったからまだよかったけど。

――自分の身も自分の車もすべて自分で守らなければいけないわけですね。

武藤　俺が初めてアメリカに行った85年頃、マイアミは治安が悪くて

アメリカのいいところは、やっぱり実力で勝負できる自由なところよ

ね。レンタカーを見たら、信号で停まったところ後ろからカマを掘って、ピストルでバンッバンッって撃って、物を奪うっていう強盗が流行ってたんだよ。レンタカーだから相手は地元の人間じゃないってことで。

——とんでもないですね。

マサ　ピストルはみんな持ってるからね。

——それでもアメリカは楽しくていい国だって思いました？

武藤　まあ、そういうスリルもひっくるめてだよな。いま生きてるから思い出話として言える部分もあるけどな。死んでたらきっと違う話になってるし。

——逆にアメリカの一番いいところってなんですか？

武藤　まあ、この仕事に関して言えば、少なくとも当時は封建的じゃなくて、フリーなことだよ。当時の日本は年功序列で給料もエレベーター式になってたけど、アメリカで桜田さんと二人でやってた頃、俺のほうが上で試合を組まれたら、ファイトマネーも俺のほうがよかったからな。「えっ、先輩がこれだけなのに、俺がこんなにもらっていいの？」っていうさ。あとは、封建的じゃないぶん、のびのびできたよね。

マサ　やっぱり自由なところがアメリカのいいとこよ。なんでも自分でやらなきゃいけないし、試合場行くのも、TAXのことも全部自分。実力で勝負できるからね。

——お二人はまさに実力で、若くしてアメリカマット界のトップクラス入りしたわけですもんね。

武藤　ただ、最終的なアメリカンドリームをゲットするのは凄く難しいんだろうなって感じますよ。俺がなんで日本に帰ったかといえば、ヒールからベビーフェイスにチェンジしろって言われたからなのよ。

——日本人でベビーフェイスのトップクラスに入るなんて凄いことじゃないですか。

武藤　でも、ベビーになると上につかえ棒がいっぱいいるわけだから。ヒールだったらベビーの対抗馬でトップにいられるけど、ベビーだと、どう頑張ってもトップ3はアメリカ人で、日本人の俺は4番手、5番手だろうなって。そういう計算もありましたよ。

——なるほど。

武藤　ヒールでトップになったときなんて、来る日も来る日もメインイベントでリック・フレアーとやってたよ。NWAの選手権を毎日やってたんだから（笑）。

——毎日タイトルマッチで、毎日反則負けみたいな（笑）。

マサ　フレアーと毎日やれるなんて、レスラーとして最高よ。

——やはり、アメリカでのムタのハイライトは、そのフレアーとの世界タイトルマッチの連戦ですか？

武藤　いや、一番引き上げたのはスティングだよ。要は東洋と西洋の似たようなキャラクター同士だって売り出してくれたから。凄いプッシュだったもんな。

——武藤さんはフレアー、スティングですけど、マサさんはハルク・ホーガンとメインイベントで連戦してたんですよね？

マサ　うん。ミネアポリスに行ってホーガンとシングルで何度もやったよ。会場はいつも満員よ。ホーガンが映画の『ロッキー3』に出て、ブレイクしてね。

武藤　映画のブレイクのときにホーガンとやってたんですか？

マサ　そう。シカゴとかソルトレイクシティなんかでもやって、凄く稼いだんだよ。その頃、『ミスター・サイトー』っていうカクテルができたから。

武藤　そういや、シカゴでバーに入って、『ミスター・サイトー』って言ったら、ホントにそういうカクテルが出てきたからな。甘くて強い酒っていうね（笑）。

——カクテルの名前になるほどの活躍だったんですね。

武藤　マサさんは、ホーガンどころか熊とだって、試合してるしね（笑）。

——ダハハハハ！　凄いですよね。

武藤　俺もインリン様とやったり、ボブ・サップとか曙とか、たいがいの〝ゲテモノ〟はやってきたけど、動物はないからな。いまだったらPPVでけっこういけるんじゃないですか？

マサ　熊は臭いからもうやりたくないよ（笑）。

武藤　まあ、いまは動物愛護協会がうるさいか。

マサ　でも、いまのヤツらはかわいそうだよな。俺たちの時代は全米あちこちにテリトリーがいっぱいあった。レスラーは自由にあちこち行けたからな。

——一つの抗争が終わったら次の土地へ、みたいな感じですか。

武藤　マサさんはヒールだから、だいたい1年とか2年、居すわることができるんだよ。それがワンクールだよな。で、それが終わったらまた違うテリトリーに行けばフレッシュ。で、当時のアメリカは一回オーバーした人間は噂が噂を呼んで、あちこちから「こっちにも来てくれ」ってなって、食うに困らなかったんじゃないですかね。

マサ　敬司なんかの時代は、もう年俸だろ？

武藤　WCWなんかはそうっすね。

マサ　そういった時代になっていったんだよ。俺らの時代はやっぱり毎試合のギャランティだからね。でも、そっちのほうがレスラーにとってはいいよ。

——ロマンがあるし、いろんな団体で学べるのはいいシステムですよね。

武藤　新しい土地に行くときは、それまでの反省点を直しながら新しいことをやって、そうやってレスラーって向上していったんだろうな。そうすることでレスラーの幅が自然と広がる。一カ所だけにいたら、そんなことできねえもん。

マサ　昔は土地によってレスリングのスタイルが全然違ったからね。俺は最初、サンフランシスコで日本

まさ・さいとう■本名・斎藤昌典。1942年東京都出身。レスリングで東京オリンピック日本代表の肩書きを引っさげ65年、日本プロレスに入門。68年に渡米し、全米を股にかけてトップレスラーとして活躍。80年代後半から日本に定着し、87年にアントニオ猪木と闘った巌流島の決闘はあまりに有名。現在は健介オフィスのアドバイザー。

×MASA

ヒールでトップになったときはフレアーと毎日、世界戦やったよ

人に求められるズルいスタイルを学んだんだけど、フロリダなんかに行くと、そういうスタイルはあんまり通じないんだよ。

武藤　そうなんですか？

マサ　フロリダはレスリングが盛んだから、客もやっぱりレスリングが好きよ。

武藤　確かに各土地でレスリングの文化が違うというか、好みが違いますね。テネシーなんか、レスラーもチビばっかりだし。

——チビばっかり！　なんでそうなるんですか？

武藤　ボスのキングなんとかいっていうのがチビだったからな。

——ああ、〝キング・ジェリー・ローラー〟ですね。

武藤　そう。それで周りもみんなチビだったよ。だから、いろんなテリトリーを回るのは、いいことだよな。やっぱり人間って、同じところで1年ぐらいやってると飽きるんだよな。なれ合いとかが出てくるしね。そういう意味で言ったら、周期的に環境を変えたりするのは、やり直しがきいたりして、いいシステムだったよね、きっと。

——じゃあ、武藤さんが今回、新日本のIWGP王者になったのは、もう一回フレッシュになる感じでいいチャンスなんじゃないですか？

武藤　まあ、アメリカンスタイルだよ（笑）。

——では、最後に一応結論じみたことを入れたいと思うのですが、日本人がアメリカで勝つ方法、成功する方法、極意はなんでしょう？　マサさんからお願いします。

マサ　敵を作るな！

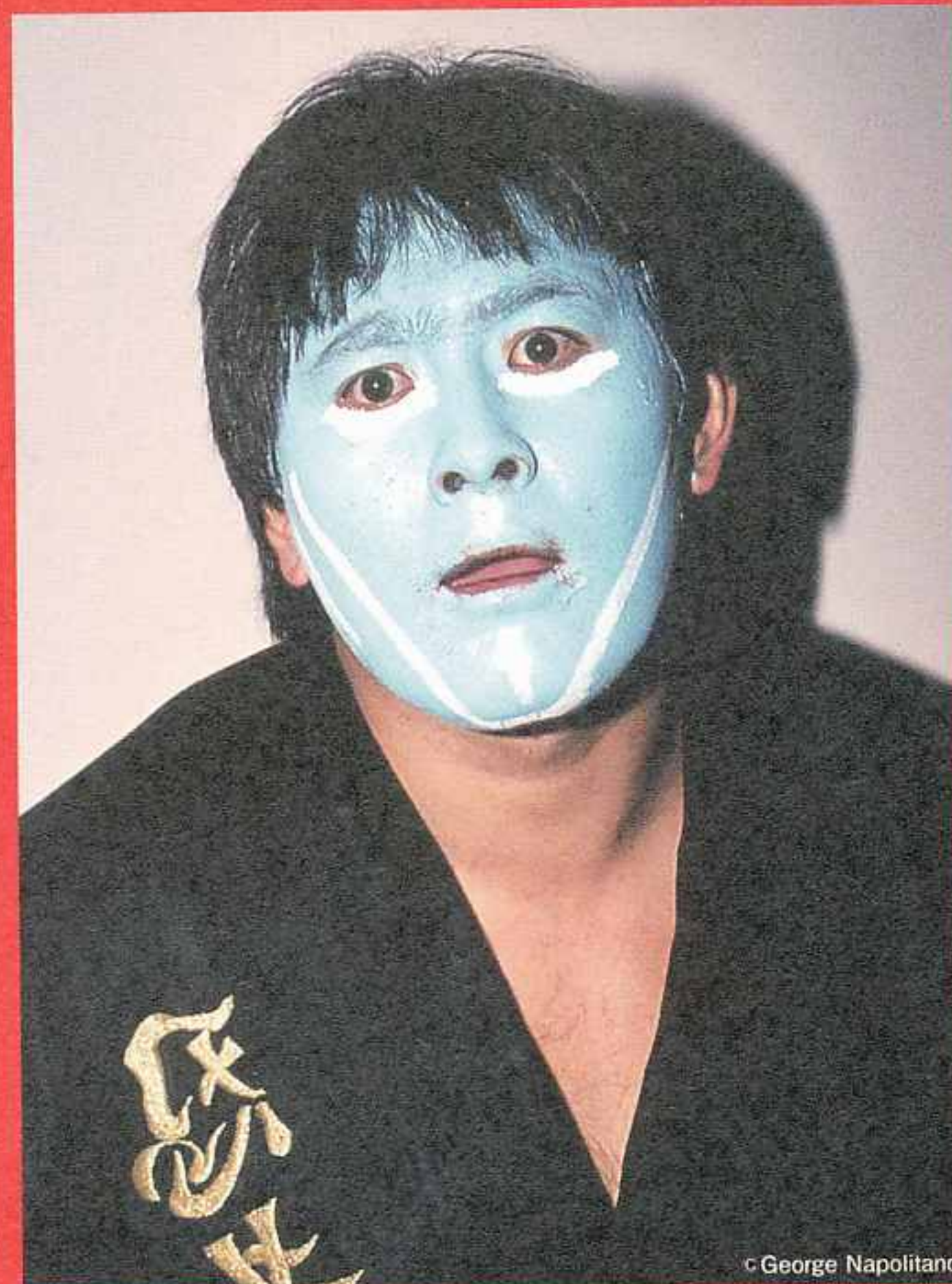
——ダハハハハ！

武藤　敵を作るなって、マサさん、昔から敵ばっかり作ってたじゃない！（笑）。

マサ　敵は作らないほうがいいよ。

武藤　最終的にはおまわりさんまで敵にしちゃった人だからね（笑）。

マサ　おまわりさんは余計だったな～（笑）。

©George Napolitano

むとう・けいじ■1962年山梨県出身。柔道国際強化選手を経て84年に新日本プロレス入門。85年に初渡米し、80年代末、二度目のアメリカ遠征でグレート・ムタとして大ブレイク。WCWのトップヒールとなる。90年代は新日本プロレスのトップとして大活躍。01年に全日本プロレスに移籍し、現在は代表取締役社長。188cm、115kg。

——ケン・パテラが起こした事件に巻き込まれて、警察官を次々とKOしちゃったんですよね。

マサ　で、翌日、裁判所で会ったとき、おまわりが顔にデカいテープつけてて、もう一人のおまわりは松葉杖突いてるから、「それ、どうしたの？」って聞いたら、「バカ、おまえがやったんじゃねえか」って（笑）。

——ダハハハ！　トボケんな、と（笑）。

マサ　興奮しちゃってたから全然覚えてなかったんだよね。

武藤　いきなり催涙スプレーかけられたんですよね？

マサ　そう。そのあとはエキサイトしすぎて自分でもよく覚えてないけど、鉛のナイフステッキで殴られて、翌朝、身体は傷だらけよ。で、頭突きかなんかやったんだろうね。それで相手は顔を腫らして大きなテープ貼って。

——そしてタックルで倒して、足をヘシ折って、次から次へとKOしていった、と（笑）。

マサ　よく覚えてないけどね。

武藤　マサさんが、それぐらい興奮して試合やってたら、天下無敵だったんじゃないですか（笑）。

——ピストル持ってる相手を何人も相手して、ぶっ飛ばしてるわけですからね（笑）。

武藤　うちのカズ・ハヤシも、アメリカにいるときにスピード違反で捕まって、警察にピストル向けられてるんだよな。

マサ　車から出ちゃったの？

武藤　そうそう。サイレン鳴らしたパトカーに止められて、カズは知らずに車から降りたんだけど、あれ、向こうでは降りちゃいけないんだよね。そしたら、いきなり「止まれ！」って言われて、後頭部に銃を突きつけられて、うつぶせにさせられて「意味がわかんないよ～」って（笑）。

——なんでスピード違反で銃を突きつけられてるんだって（笑）。

マサ　向こうは絶対に動いちゃダメなんだよ。免許証を見せようとして、慌てて胸のポケットに手を入れたら、銃を出すと勘違いされて撃たれたりするからね。

武藤　習慣を知らないと怖いよ。

——では、最後に武藤さんからアメリカで成功する秘訣をお願いします。

武藤　レスリングっていうのは時代の流れで変わるから、あの頃の俺の方法論でいま成功するっていうのは難しいと思うんだよな。たとえば、いまのアメリカのプロレスは完全にテレビ番組だから、日本人でも英語ができないと無理だよ。俺の時代はグレート・ムタが何もしゃべらなくても、それがかえって不気味だって通用したけど、いまはしゃべれなきゃダメだろうね。

——なるほど。

武藤　アメリカ人は英語がしゃべれないヤツは人間として認めてないみたいな部分あるからな。英語が地球語だと思ってるんだからな。

——では、「アメリカで成功するには、まず英語から」という、非常にシンプルな結論というわけですね（笑）。

武藤　そうですね（笑）。

マサ　まあ、郷に入っては郷に従えで「ゴー・フォー・ブロック！」でぶつかっていけば、大丈夫よ。

武藤　ま、そういうことですよね。行ってみなきゃ、わかんねえよ！

【08年8月4日／都内・サムライTVにて収録】

MUTA×

でやってきた!

こちらのタコメーターも輸入したパーツの一つ。帝王も愛車もとにかくワールドワイドなのだ!

横長のフォルムとマイル表示なところがシビレどころだとか。アメリカ映画の匂いを感じるぞ!

タイヤは「BFグッドリッチ」を装備で、真ん中のカバーと周りの銀のホイールはあと付けとのこと。ピッカピカである!

HELLO AMERICA!!

高山善廣が自慢の愛車を徹底公開!

帝王がアメ車で

存在感バツグンのこの絵ヅラを見よ！　帝王にアメ車の取材をお願いしたら、ド迫力のビジュアルでやってきた!!
しかも全身アメリカンなファッション。こんなに"アメリカ"を身近に置く、その帝王とアメリカの関係とは?

撮影／戸成嘉則

本誌ひさびさ登場！

このさわやかすぎる白のストライプを見よ!　高山が「一目惚れした」というこのデザイン。人も車も見た目が9割なのです!!

わざわざアメリカから輸入して乗せ替えたというエンジン。プロレス雑誌編集者には正直チンプンカンプンだが、とにかく凄い熱の入れようだ!

「アメリカ修行がなかったらいまのオレはなかった」

高山善廣

YOSHIHIRO TAKAYAMA

帝王がアメ車でおでましダー!!
というわけで、マット界でも一、二を争うアメ車好きの高山。
今回は自慢の愛車を解説してもらいながらも、一人旅、遠征など、
アメリカにまつわるいろんなエピソードを語ってくれた。
「アメリカがなければ、いまのオレはない」というほど、
アメリカに影響を受けているという帝王。その発言の真意とは!?

聞き手／堀江ガンツ　撮影／戸成嘉則

帝王とアメ車をひきつけたそもそもの理由とは？

今日はアメ車を撮らせてくれっていうから乗ってきたけど、プロレスの話はしなくていいの？　最近の『kam-ipro』はMMAの雑誌になっちゃったのかと思ったら、アメ車の話だけって、どんな雑誌だよ（笑）。

じゃあ、あの車を買ったところから話すけど、きっかけはUインター時代にマイカーがほしいなあと思ってたんだよね。で、最初は国産車で考えてたんだけど、なんか、いいのがないなって。そのときに、ふと思ったのが、昔、うちのオヤジがアメ車に乗ってたなあってことだったんですよ、一時ね。

あとはやっぱり昔からアメリカのドラマ『白バイ野郎ジョン&パンチ』とか、アメリカの映画もよく見てたし、だからああいう車がいいよなあと思ってて。アメ車はすぐ壊れるって先入観もあったけど、やっぱり雑誌を買ってくうちに絶対に買いたくなったんだよね。それから結局、ずっとあの車に乗ってるんだよな。

でもね、決して持ちがいいわけじゃないからね。もう何回も修理してさ、エンジンは結局2回の乗せ替えましたね。最初乗せ替えたのはすぐにダメになって、新品をアメリカから取り寄せてって感じでね。

でも、最初はカマロとかファイヤーバードが狙い目だったんだよね。車探してるときにちょうど車雑誌にカマロが載ってて、すぐその店に行ったんだけど、その雑誌に出てる写真はそこそこだったんだけど、実際見てみたらすんごいボロくて、うわって（苦笑）。

「これは買えないなあ」と思って、お店の人に「ほかにないんですか？」って聞いて、あとから出されたのがあの車で。そんときのインパクトがもう凄かった！　最初に見たときに、あの白のストライプで一気にやられましたね。かっこいいなあって。しかも、「マリブ」という響きがまたたまんないんだよ。だって、マリブビーチの「マリブ」でしょ？

その当時、まだUインターではそんな車を持ってる人もいなかったんだけど、オレが買ってからちょっとしたブームになったよね。オレが買って、それで金原さんがスティングレーを買って。

金原さんなんか、いまやオレよりはるかに車好きだからね。このあいだ電話で話したら、また部品をアメリカから取り寄せて、燃費が悪いからキャブを変えようとか、ブツブツブツブツ言ってたなあ（笑）。しかもね、必ずオレに「高山くんも変えたほうがいいよ！」って言うんだよね。

20歳代にアメリカ横断！その最終目的地は……

でも、オレのアメ車好きはやっぱ子どもの頃からドラマで見て培われたものだよね。あ！　あと、昔、テレビでやってた『バットマン』が大好きだったんだよな！　バットマン・カーがほしくて、ほしくて。それは、いまでもバットマン・カーがあるんだったら乗りたいって気持ちはあるんだけど（笑）。

バットマン・カーが実際にあるんだったら、いまでも乗りたい

あとは音楽も一緒で、オレ、あんまり日本のレコードとか買ったことないんだよ。しかも、昔から身体がデカかったからさ、着るものも向こうのものだったらサイズがあるんだよね。オレらの時代は、学生の頃とかDCブランドって流行ったけど、それはこの身体だから絶対に着れないし。DCブランド全盛の頃に、オレはリーバイス、Tシャツ、革ジャン。そんだけ！

当時はアメリカっていう国に本当に憧れてたし、いまもチャンスがあれば、行ってみたいと思うよ。それでいうと、学生の頃にバスでアメリカ大陸を横断する一人旅をしたことがあるんだよ。カリフォルニアからバスでテキサスとか南のほうを回って、最後はニューヨーク。で、ニューヨーク着いたときに、MSGに行って、滞在期間中にWWFの定期戦で何があるか調べて行ったんだよね。そのときはメインがハルク・ホーガンvsビッグ・ボスマンのケージ

馬場さんは「昔のアメリカだったら おまえも行かせてやったのになあ」って

マッチだったな。オレが22歳のときだから、98年か。40日間ぐらいかけてMSGにたどり着いたんだよ。

で、ニューヨークにはバスを乗り継いで行く感じだったんだけど、宿泊はユースホステルだったんだよ。要は、同じ部屋にベッドが何個もある感じで、2段ベッドがあって、隣とか上は知らないヤツっていう状況で。でも、べつにぜんぜん怖いとかはなかったね。ホントに一番汚いジーパンと靴で行って、カバンも小さいヤツにパンツ2、3枚、Tシャツ2、3枚とか、そんだけだったから、べつに取られるもんもないし。

足りないものは、逆に買って帰ろうって思ってて、最後はでっかいバッグにパンパンで帰ってきたね。そのときに買ったブーツが今日履いてるヤツだよ。

旅先でのロマンス？　それはなかったねえ（照）。一人、カナダ人のかわいい女の子がいて、その子が同じバスでちょっとだけ移動したんで、けっこう仲良くなったんだけど、途中から来たフランス人が持っていったな！　やっぱ白人同士だからしょうがない!!（笑）。

帝王の知られざるアメリカ修行の実態！

そういえば、ゴールデンカップスやってるとき、オレは「ネイティブアメリカンとのクォーターだ」って安生さんと冗談で言ってて、ふざけてインタビューなんかでも話したら、そのまま浸透しちゃったんだよね。あれ、けっこう信じてる人多くてさ、（馬場）元子さんなんか本気で信じてたんだよね！　ガハハハハ！

ただ、もちろんネイティブアメリカンじゃないけど、オレはアメリカ修行してた時期があるんだよ。もともとアメリカには行きたかったんだけど、宮戸さんも「ビル・ロビンソンのところで、しっかりとしたレスリングを覚えながら、アメリカンプロレスも覚えさせたい」というのがあったんじゃないかな。

で、ロビンソンが住んでいたテネシーに1ヵ月ちょっと行きましたね。で、向こうのローカル団体で、アメリカンプロレスの試合もやって。あれは楽しかったなあ。

モーテル暮らしだから、アメリカに住んでるという感じじゃないんだけど、なんだろうなあ、ハイウェイをドライブしたり、あと買い物行くだけで楽かった。そのときは車はレンタカーに乗ってたね。車種は「リンカーン」だったかな。テネシーからミシガンまで行ったんだよ。

当時Uインターの海外担当だった笹崎（伸司）さんもアメリカにいて、笹崎さんはボロいファイヤーバードに乗ってたんだよ。で、最初はそれを貸してもらおうと思ってたんだけど、「高山くん、これはいけません」って。ドライブするときはちゃんとした車を借りないとダメだって言うんだよね。なんでかと思ったら、笹崎さん、たぶんちゃんとした保険入ってなかったんだと思うよ（笑）。

試合自体は、笹崎さんの奥さんがインターネットを駆使して全米中のプロレスの大会を調べて、「高山くんが行く時期だったら、ミシガンのウィンディシティレスリングって会社の大会があるから」ってことだったんで、そこでやったんですよ。

あの、新日本に来てたマッド・マックスっていたじゃない。ウォリアーズのニセモノみたいな感じヤツ。あの片割れが社長やってて、しっかりしてたんだよね。地元のケーブルテレビがついて、道場も広い倉庫を改装して、簡単な観客席もあって、ウエート器具もあって。で、けっこう気に入ってもらえたんで、「今度、ビッグマッチに来い」って言われたんだけど、でも、結局Uインターの武道館大会と重なったんだよな。

武者修行サーキットへの憧れと馬場さんとの貴重な思い出

でもさ、昔、プロレスラーがよくやってた武者修行サーキット、あれは憧れるよね。やった人はよく「たいへんだった」って言いますけど、でもやってない人間にとっては憧れますよ。

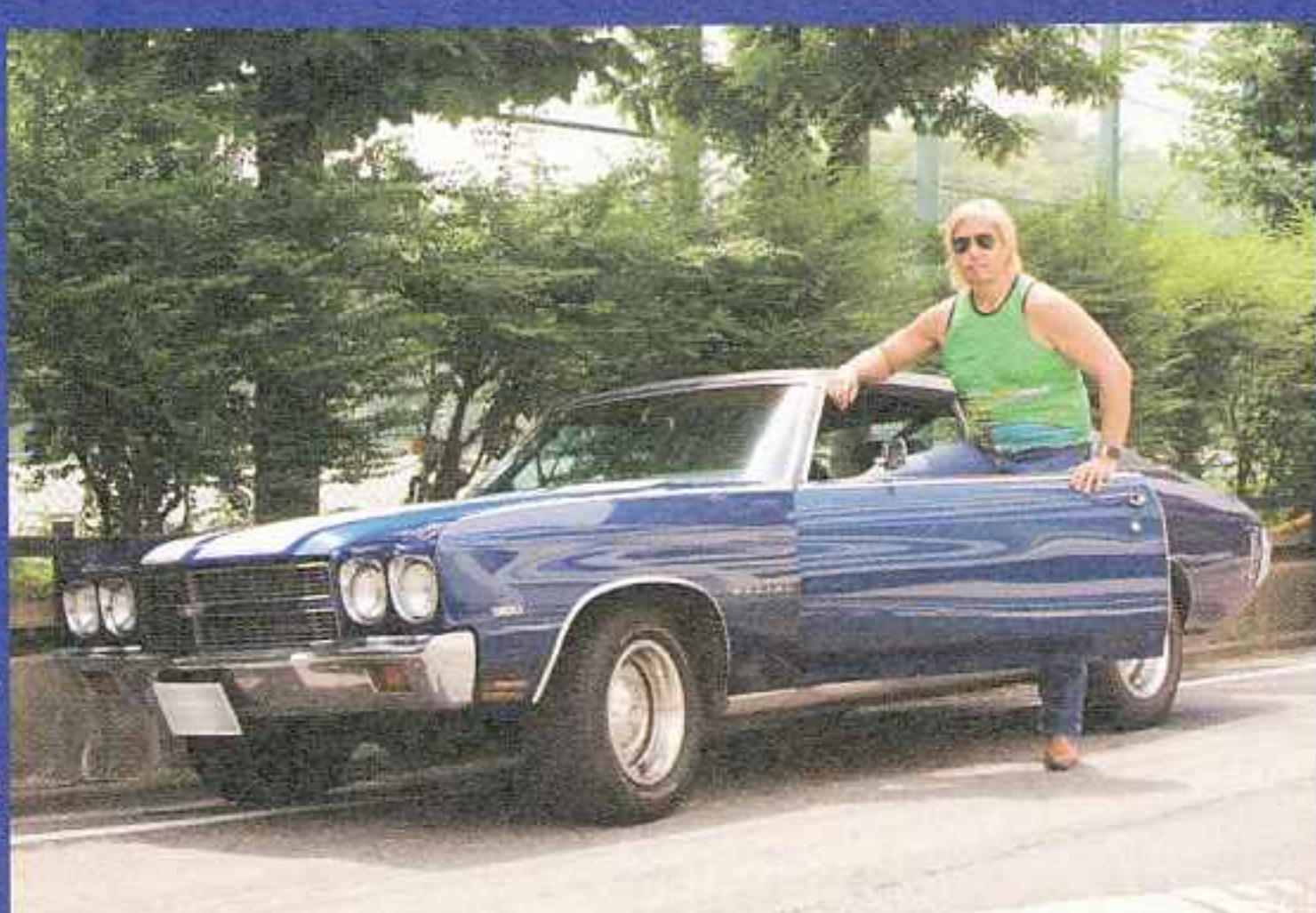
全日本で馬場さんにメシを食わせてもらったときによく話を聞いたんだけど、馬場さんがニューヨークでメイン張ってたときに、全米中からオファーが来て「オレはどこに行ってもメインイベンターで、あらゆるチャンピオンと闘ってたんだ」って言ってたから。「ビッグ・ショーヘイ・ババはかっこいいなあ」って。

確かに、馬場さんなんて、言葉は悪いかもしれないけど、当時はアンドレより見せ物的には凄かったと思うんだよね。日本人はみんなチビだと思われてるところに、あんなにデカイのが出てきてね。それでアメリカ人がやられちゃうんだから、それはエキサイトしますよ。馬場さんは「昔のアメリカだったらおまえも行かせてやったのになあ」って言ってくれたんだけど、オレも昔のアメリカマットには上がってみたかったよね。

まあ、そういうサーキットではなかったけど、いまのことを考えると、Uインター時代にアメリカに行かせてもらったのは大正解だよね。アメリカでは2、3試合しかしてないけど、あの経験がなければ新日本との対抗戦で、あんなふうにふてぶてしくできなかったよ。

オレみたいな日本人がアメリカに行くだけで、もうヒールってのはわかってるじゃない。だから、こっちもそういう準備ができているというか、「あ、ブッチャーとか、シークが日本でやってたようなことをやればいいんだよな」って思うけど、新日本でいきなりブーイング浴びたりすると、「なんでオレが」っていう。だから、そこはアメリカで一回やったおかげで「こう振る舞えばいいんだな」って冷静にできたよね。ただださ、対抗戦も終わりのほうになったら、オレらゴールデンカップスのほうが人気があったりしておもしろかったけどね（笑）。

なんか、アメ車の話だけのはずがちゃんとプロレスの話になってるじゃない。まあ、結論を言えば、アメリカでの経験がなかったら、いまのプロレスラー高山善廣はなかったってことだよね。

【08年8月4日／都内・某所にて収録】

たかやま・よしひろ■1966年9月19日、92年Uインター金原弘光戦でプロレスデビュー。その後、キングダム、全日本プロレス、ノアと渡り歩き活躍。02年『PRIDE・21』ドン・フライ戦では男と男の壮絶な殴り合いを展開し、その一戦はいまでも名勝負として語り継がれている。ちなみに、今回、撮影でかけているサングラスは、初めてアメリカに行ったときに買ったというこだわりのアイテムである。196センチ、125キロ。

HELLO AMERICA!!

長南亮

アメリカで単身武者修行中

カリフォルニア 密着取材レポート

強くなりたきゃアメリカに行け!!

PRIDE消滅後、闘いの舞台をUFCに移した“殺戮ピラニア”長南亮。子どもも生まれたばかりだというのに、強くなるために単身アメリカへ渡ったこの男の活動を通じて、現在アメリカでどんなことが起こっているのかをレポートしてみたい。強くなること、稼ぐこと、真っすぐに生きることを真剣に追求した結果、なぜアメリカに行くという結論に至ったのか?

聞き手／坂井ノブ

―今回の『kamipro』は「アメリカ大好き！」というテーマの特集で……。

長南　（即座に）べつにアメリカのことは好きじゃないですよ（笑）。

―実感がこもってますねぇ。まあ、その理由はあとからうかがいますが、「なぜ日本ではなくアメリカで練習をするのか？」ということなんですけど、

長南　やっぱりこっちでやってるようなレベルの高い練習は、なかなか日本だとできないんですよね。こないだ見てもらったモーとのスパーリングとか、日本じゃ絶対にあんな練習はできないじゃないですか。

―凄かったですね。最近、チーム・クエストに合流したモーは全米レスリング王者で、そこで練習に飛び入り参加してきたモーの友だちも、誰だかよくわかんないですけどやたら強かったし（笑）。いつの間にか横で見てたキックのトレーナーが入ってきて打撃の練習になってましたよね。

長南　レベルの高い練習を凄い密度でやってますよ。こっちの練習は1回、1～2時間で集中してトレーニングするんです。

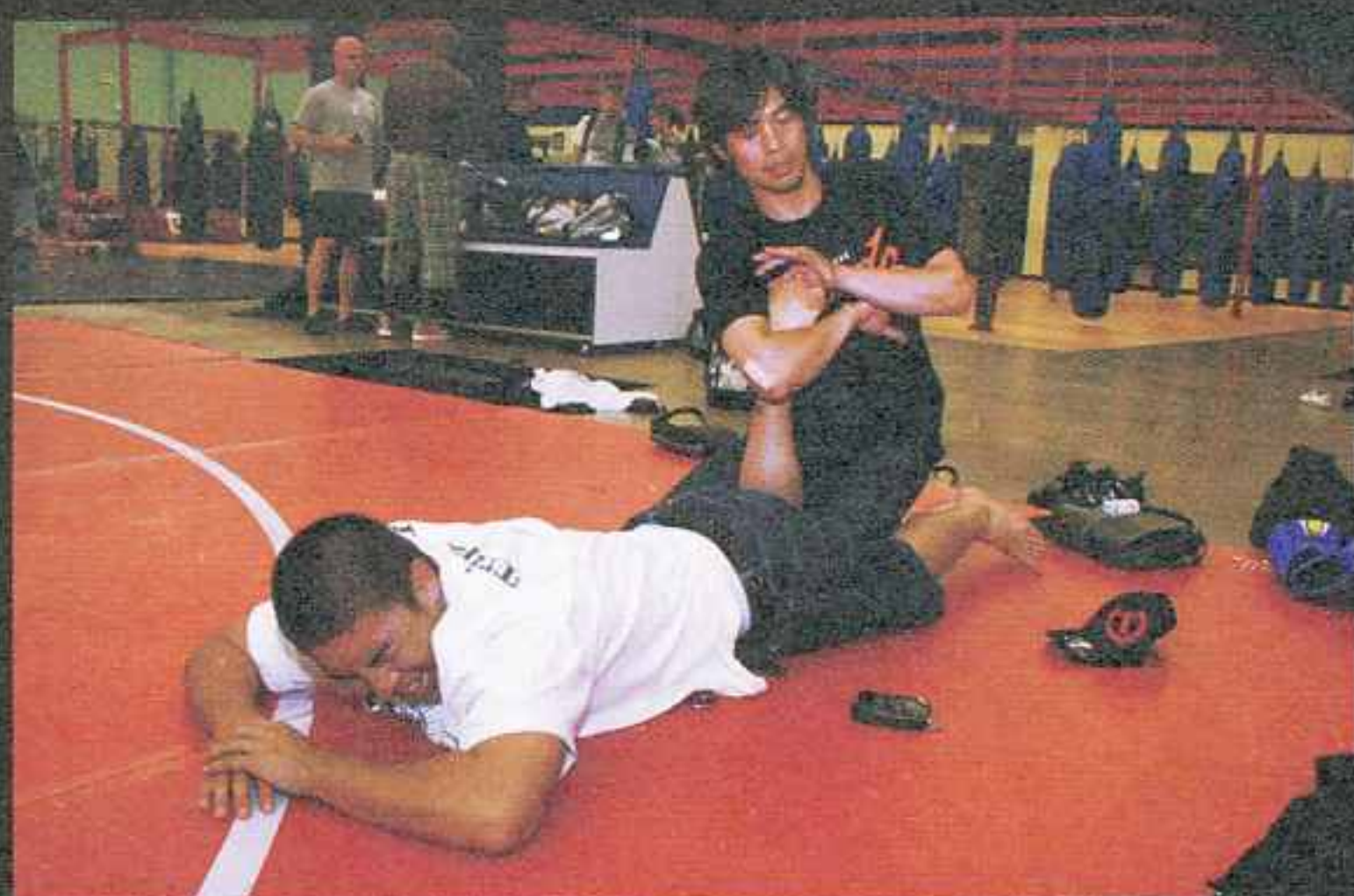
―去年、カリフォルニア州サンノゼのAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー。ジョン・フィッチやジョシュ・トムソンなどを輩出する名門チーム）でも練習を見せてもらったんですけど、ここでやってたら確実にチャンピオンになれるっていうぐらい密度の高い練習でしたよ。

長南　トレーナーはちゃんといました？

―ボクシングのトレーナー、キックのトレーナー、柔術のトレーナー、総合のトレーナーって感じで専門家が揃ってました。

長南　ああ、完璧ですね。チーム・クエストは、最近そこらへんでちょっとうまくいかないところがあって……。いまは外に動くようにしてるんですよ。

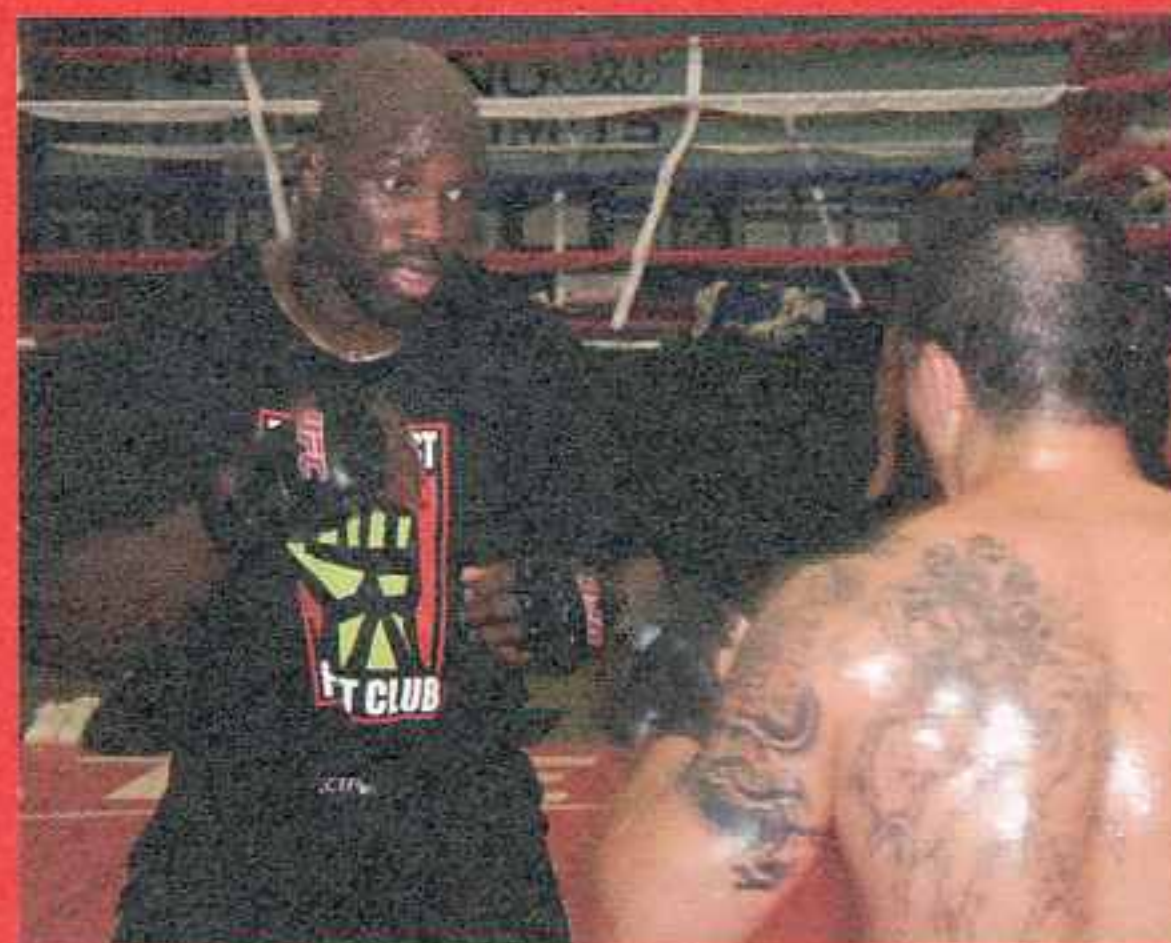
―各地の専門家を訪ねて練習する、と。

長南　そうですね。凄いヤツはカリフォルニアのあちこちにいるんです。クエストに出稽古に来るアルベルトってヤツがグレイシー・バッハと凄く仲がいいんです。オレンジカウンティに凄い大きい道場がオープンして、そこでマーシオ・フェイトーザが教えてるんですよ。エリック・パーソンのジムもオレンジカウンティにあっ

東京・世田谷の「はなまる整骨院」山本建先生が親交のある長南を訪ねていた。ハードなトレーニングで疲れた身体をほぐしていた。山本先生は同じくUFCに挑戦中の郷野聡寛を診ている。けっして裏アキレス腱固めをかけてるわけではない。

アメリカのことは好きじゃないですけどカリフォルニアには凄いヤツが大勢いる

RYO CHONAN

MO

“驚異のバカ（?）新人”
モー

「ぜひ日本で試合をしたい!! PRIDEが大好きだったから日本でやるのが夢なんだ」

スペシャル通訳：長南亮

―モー選手はレスリングで北京五輪を目指してたんですよね？

長南　あと一つ勝てばオリンピックに行けたんですけど、判定で負けちゃったんですよね。かなり不可解な判定で。

MO　10年間レスリングをやっていた。フリースタイルの84キロ級だ。

―アマレスでの戦績は？

MO　パンアメリカン・チャンピオンになったし、ナショナル・チャンピオンには3回なった。アメリカ代表チームにも選ばれてんだ。ほかにもいっぱいタイトルを獲ったぜ。ずっとアマレスの練習をやってたから、シリアスにMMAの練習をやってるのはまだ6ヵ月なんだ。本格的にやり始めたのは、まだ2週間だよ。早く試合がしたいね。

―日本で試合は？

MO　ぜひやりたい！　PRIDEが大好きだったから日本で試合をするのが夢なんだ。

―身体には日本語のタトゥーがいっぱい彫ってありますね。

MO　YES、ホントに日本が大好きだからね。でも、このタトゥーは間違いがあるから、ニホンゴというよりMOのニホンゴ……モホンゴだ（笑）。

―あ、ホントだ。「今日死ぬように住みなさい」って腕に彫ってありますね。

MO　読むなよ！（笑）。間違ってるのはわかってるんだから！

―打撃への対応はいかがですか？

MO　バッチリだ。俺は映画『マトリックス』のように打撃を使いこなすぜ！

―キアヌ・リーブスとローレンス・フィッシュバーンがカンフー対決した有名なシーンですね。お気に入りのファイターはいますか？

MO　大好きな選手は多いぜ。マサト、ゴミ、ヤマモト、ゲンキ・スドー、キャオル・ウノ、イシダ……。

長南　俺は!?

MO　オー、大事な人を忘れてた。リョー・゛オカマサン゛・チョーナンもいいね（笑）。

長南　アス●ール！（怒）。

―日本の試合はどうやって観てたの？

MO　インターネットもあるけど、だいたいパイレーツ・テープだね。チョーナンとサクライのDEEPでの試合も海賊版で観たぜ（笑）。

―日本ではメイヘムがブレイク寸前です。

MO　俺はメイヘムみたいなクレイジーじゃないぜ！　しかも、チョーナンみたいにアグリーでもなくカッコいい。期待してくれよな。

こっちでやってるようなレベルの高い練習は日本だとできないんですよね

て、そこで練習することも可能なんですけどね。ジョシュ（・バーネット）もそこでやってて、練習に来いって言ってくれてるんですよ。（チーム・クエストがあり、長南が下宿している）テメキュラからは車で1時間ぐらいなんですよ。運転するの面倒くさいですけど、車の中で音楽でも聴きながらリラックスして休んで、それで練習するってスタイルで、8月からは追い込んでいきたいなと思いますね。

――ダン・ヘンダーソンは昨年9月と今年3月にUFCで負けて、ソクジュもLYOTOに負けて、チーム・クエスト勢がUFCで結果を出せてなかったじゃないですか。そういったチームのゴタゴタが影響していた部分もあるんですか？

長南　ダンたちは違うと思うんですけど、ジェイソンは時期的にかなりあるんじゃないですか。奴はバカに見えて繊細ですからね、純粋なところがあるっていうか。凄い悩んでるときはありましたね。

――『DREAM・4』でホナウド・ジャカレイに負けたときも本調子じゃなかったって、長南さんがおっしゃってましたよね。

長南　手術明けの身体で試合して1ヵ月後にもう一試合ですからね。本来の実力はあんなもんじゃないと思いますよ。

――シビアな勝負の世界だし、いまのアメリカはとくに競争が激しいから、結果が出ないと雰囲気も悪くなりますよね。

長南　そういうチームのゴタゴタはどこにでもあるんじゃないですか？（ブラジリアン）トップチームも分裂したけど、ホジマー・トキーニョみたいのが出てきてるわけだし。結局、ちゃんと練習してれば乗り越えていけるんですよ……。一瞬、日本に帰ろうかとかも考えましたけどね。

――でも、日本で味わえないものがあるからこっちに来てるんですよね。

長南　そうなんですね。アメリカ人の揉めごとは自分の主張を曲げないし、揉めてる内容も子どもっぽくて……。

――そのへんがアメリカが好きになれない理由の一つだ、と（笑）。

長南　まあ、それだけじゃないですけどね。俺はべつにそういう揉めごとに首を突っ込むためにこっちに来たわけじゃないんで。自分で動いて試合まで万全の練習をやっていきたいですね。クエストもいい方向にまとまりつつあるんで、大丈夫だと思いますよ。

――一時期は打撃の練習をするのが大変だったらしいですね。

長南　そうなんですよ。でも、いまはハリウッドにあるボクシングジムにも行ってます。ちょうどジェイソンの家がハリウッドにあるんですけど、そこから通ってますね。ジェイソンの家からはエディ・ブラボーが教えてるジムも近いんでグラップリングの練習もできるし。

――ホント強くなるにはいい環境ですねぇ。ところで、『アフリクション』を観てて感じたんですけど、やっぱりアメリカの観客は殴り合いを求めますよね。

RYO CHONAN

DAN HENDERSON

“チーム・クエストの総師”

ダン・ヘンダーソン

――試合に向けて追い込み中ですか？

ダン　ああ、追い込みの真っ最中だよ。ハードな練習を一日に二回やってる。

――ジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーやモーなど有望な若手がチーム・クエストにはどんどん集まってますよね。彼らは志望してくるんですか？ それともスカウトしてるんでしょうか？

ダン　スカウトだね。マネージメント担当とコネクションから声をかけたりするんだけどね。

――じつはそんなジェイソンが日本で大人気なんですよ。

ダン　ああ、知ってるよ。ベリー・クレイジーだ。ジェイソンはアメリカン・ニュースタイルだ。あんなヤツはいままでの人生で見たことがない（笑）。モーも学ぼうという姿勢でいろんなことを吸収してる。きっと成功するよ。

――次戦はホジマー・トキーニョ戦（9・6『UFC88』）になりますね。

ダン　ああ、デンジャラスな相手だよ。まったく油断はできない。テイクダウンは凄いし、極めるテクニックもある。

――ここまで、UFCではランペイジとアンデウソンに2連敗です。

ダン　（即座に）アイ・ニード・ウィン！ここ2試合の結果には自分に腹が立ってるんだ。いまの私には勝利が必要だ。自分の動きには納得していないよ。悔しい気持ちはすべてホジマーとの試合にぶつけるよ。

――ケージとリングの違いは？

ダン　リングのほうがいいね。やはり長年やってきたから。あとはヒジ打ちの練習もしてるけど、もっとトレーニングをして上達しないとね。

――つい先日、『アフリクション』のイベントが開催されました。

ダン　ただ、あまりこういう状況は望ましいとは言えないよな。

――なぜですか？

ダン　チャンピオンは一人でいい。ファンにとってもファイターにとっても、王者が何人もいるのは混乱するだけだ。

――最後に、日本のファンにメッセージをお願いします。

ダン　また日本のファンの前で試合をしたいんだ。日本のリングが恋しいよ。私はここでベルトを巻きたい。応援を頼むよ（笑）。

「アフリクション？
こういうのは望ましい
状況ではない。
チャンピオンは一人でいい」

長南　そうですね、見合ってるとすぐブーイングが出ますから。

——KO勝ちした(アントニオ・)ホジェリオ(・ノゲイラ)が「ボクシングを凄い練習してる」って言ってて、ジョシュも「ボクシングのトレーニングを積んできた」って言ってたんですよね。実際、大会全体を通じてパンチでのKOが多かったんですけど、いまアメリカ全体でボクシング技術が見直されてるんですか?

長南　ボクシングもそうですけど、いまはムエタイもきてますよ。昔はタイ人トレーナーが日本で出稼ぎするのが主流だったんですけど、いまはそのニーズがアメリカにあるんで。ムエタイってヒジもいいし、ヒザもいいし、ムエタイの効果的な技って、アメリカのMMAで通用するので。

——ああ、確かにそうですね。

長南　それでいて、やっぱり東京で暮らすとお金かかるし、こっちで共同生活すればそんなにお金かからないんで、アメリカに来るタイ人のトレーナーは増えてますよ。

——なるほど。長南さんも今年2月頃にタイで練習してましたよね?

長南　はい。やっぱりアメリカってストライキングの技術は遅れてるんですよね。ヨーロッパとか日本とかタイに比べると。オーストラリアも強いかな。アメリカのキックボクシングはローキックがダメっていうルールがあったんですよね。ローキックがないってことは単に足にダメージを与える技術がないだけじゃなくて、全体を攻撃するっていうバランスができてないってことなんですよ。まあ、アメリカにいると、自分が将来ジムを開くことを考えると、凄い勉強になりますね。どういうジムにするかって。

——いずれは開く予定なんですか?

長南　そうですね、『チーム・クエスト・ジャパン』って名前にしようかなって。会社もそれで登記したんですよ、こっちで。

——あ、そこまでやってるんですか!

長南　税金対策とかいろいろあって。そのLLC(注=日本の合同会社にあたる)の名前もTQJ LLCって名前にしたんですけど。そしたら、その後にいろいろあったんで……。でも、いろいろひっくるめて考えてみると、チーム・クエストがあったから、いまこうやって仲間とつながりがあるんだと思って、いいかなと思ってるんですけど。僕的にはそんなに問題はない

チーム・クエストは現在も存続しており、ご覧のとおり練習前の雰囲気はじつになごやかなもの。ダンヘンやソクジュといった、日本でもおなじみのファイターに混じって長南は英語も上達、今回の取材でも通訳として協力してもらった。

SOKOUDJOU

“アフリカン・アサシン”
ソクジュ

「K-1を観て研究中!! オラ、立ち技でも試合をやってみてえんだ! WOWOWでオラの試合を観てくれよな!!」

——山本先生の整体はどうですか?

ソクジュ　ま、魔術だぁ〜! こんなのアフリカにはねぇから。なんで腰を押して腕の痛みがなくなるんだか、サッパリわかんねえ。

——よかったですねぇ。今年5月の『UFC84』で中村和裕選手に勝った試合は素晴らしい内容でしたね。

ソクジュ　ハイキックを狙ってたけど、蹴ったら当たったからローキックを増やしたんだ。それとパンチのコンビネーションでうまくKOできたんだ。凄かっただろ?

——ええ、見事でした。ソクジュさんといえば野獣フックが代名詞でしたけど、あの試合はキックが冴えてましたね。打撃の練習は多くやってるんですか?

ソクジュ　クエストとそれ以外でも練習してるからな。あとはK−1の試合を観て研究してるよ。ボンヤスキー、レイ・セフォー、バダ・ハリはグッドファイターだよな。ザンビディスのクレイジーなファイトスタイルはオラにフィットすると思うから参考にしてるぞ。将来的には立ち技の試合もやってみてえな。

——立ち技も! それは楽しみだなぁ。LYOTO戦(07年12月の『UFC79』)で負けてから意識的に変えた部分はありますか?

ソクジュ　あのときはきつい練習ばかりやって休みもまったくなかったから、完全にオーバーワークの状態だったんだ。オラ、休むっつうことを知らなかったからな。あのときは首が痛かった……。すっごく悩んだけど、練習に緩急つけるようになったから、もう大丈夫だ。問題ねえ。

——リングとケージの違いは影響しますか。

ソクジュ　関係ねえべ。オラはいつもケージの中央で闘うからな。どっちかといえばPRIDEのリングのほうがいい。

——日本のファンもソクジュさんの試合を観たいですよ。

ソクジュ　アメリカのファンはクレイジーなんだよな。日本のファンの前で試合してえぞ。温かくて優しくて女の子がかわいいからな。

——ソクジュさんの試合がある10月のUFCから日本でも試合の映像が流れるんですよ。

ソクジュ　ホントか!? そりゃいいタイミングだな。ぜひ観てくれよな!

——対戦相手のルイス・ケイン(10・18『UFC89』)のことは?

ソクジュ　サウスポーでムエタイ・スタイルのブラジリアンだよな。これから対策を立てるぜ。

のかな、と。

——アメリカの場合はわからないですけど、日本のプロレスとか格闘技界は集合離散の繰り返しですからね。

長南　そうですね。日本よりもアメリカのほうが、タメ口でみんな話せるぶん、対等に立場を作れるから、そういうのが多いんじゃないですかね。

——タメ口（笑）。確かに敬語がないと風通しはかなりいいでしょうね。日本の場合は上から「こうだ！」って押しつけられたら歯向かえないですよね。

長南　歯向かえないし、従うしかないでしょう。たとえば昔のプロレス的な空間はある意味では異常な世界ですよね。

——そういった封建社会的な体質は、いいこともあれば、逆に選手の成長を妨げる場合もありますよね。

長南　若いヤツらが自分で考えて練習してかなきゃいけないのに。発想が大事じゃないですか、こういう競技って。自分に何が必要なのか自分で考えていかなきゃいけないのが、上からの縛りで「あそこ行っちゃいけない」とか言われると、自由な練習ができなくなっちゃう。

——メンツとか格なんですかねぇ。こないだの練習を見てて気づいたんですけど、アメリカ人って練習前に準備運動をほとんどやらないんですね？

長南　そうなんですよ。あんまりやらないですね。タイ人もそうですけどね。逆に日本が整体やストレッチの分野で進んでるのかな。今回、俺の整体をやってくれてる山本先生が日本から来てくれたんですけど、「アメリカ人はみんな身体が硬かった」って言ってましたから。アメリカ人の柔軟体操を見てるとホント笑いますからね。アメリカ人って基本的に硬いんです。俺も硬いですけど（笑）。アメリカ人は基本的に面倒くさいことはしないですね。

——それで強いんだから恐ろしいですね。山本先生の整体にみんな凄い勢いで驚いてましたよね。「マジック！」とか「アンビリーバボー！」とか（笑）。

長南　先生は「アンビリーバボー！」って言葉の意味がわからなくて、ビックリしてたんですよ。なんか凄い勢いでワーッと言ってきたんで「怒られたのかと思った」って言ってました（笑）。

——話は変わりますけど、長南さんも次がUFC2戦目で正念場ですよね。

長南　これ落としたら終わりだと思ってます。まあ、そんな緊張感もないですけどね。骨折した肋骨さえくっつけば。無敵感を取り戻しつつあるんで。

——無敵感！

長南　昔はずっとあったんですけどね。

——いつ頃ですか？

長南　PRIDEで連勝してるときとか、DEEPで調子よかったときですね。そのあとから闘いの場を替えたりデカイ奴とやってくうちに無敵感がなくなっていきましたけど。

オレゴンのチーム・クエスト勢を応援しに『アフリクション』の会場へ。アフリクションとTシャツの契約を結ぶアンダーテイカーも来場しており、奇跡的なツーショットが実現!

PRIDEで連勝したりDEEPで調子がよかったときの〝無敵感〟が戻ってきた

——逆にPRIDEウェルター級GPでパウロ（・フィリオ）とやったときは、一番モチベーション低くなかったですか？

長南　あのときはもう、ケガをしてて無敵どころか無理だろうと思ってました（笑）。顔面の骨が折れたまま試合してたんで。1回戦で（ジョーイ・ヴィラセニョールに）勝ったときは凄いモチベーションが上がったんですけど、病院で診断を受けたあと、一気にドーンと落ちましたね。医者からは「もう試合は無理だよ」って。まあ、いろいろな事情で試合をやることになったんですけど、半分ヤケになって、「やれる範囲内ではやろう」と思って。タックルにヒザを合わせる練習もやってみたんですけど。パウロは組んだり寝技やってるときは強いと思わなかったんですよね。「こいつ、こんなもんなのか？」って。パスガードもそんなに強くないし、マウント取ってバランスはとってるけど、返せるなって思って、実際返したんですけどね。で、そのあと結局そのまま手首つかまれて下からの十字を仕掛けられて。申し訳ないけど、ぶっちゃけ痛くなかったんですよ。

——そうなんですか！

長南　（カーロス・）ニュートン戦のときも、俺、十字で腕を伸ばされても逃げてるじゃないですか。そういう逃げ方もできたけど、腕よりも心がもう折れちゃって。顔の骨も折れてて、腕まで折られちゃったら終わるなと思って。……いつもだったら絶対タップなんかしないんですけどね。退院してからミットのみの練習しかできなくて筋力も落ちまくってたから精神的にはかなり追い込まれてましたね。

——あの頃ってまだ大工の仕事をしてたんですか？

長南　してないですけど、もしケガして復帰できないってなったら、ほかの仕事しなきゃ食えないですからね。そのときに腕が折れてて、ものが持てないとかだったら、俺の稼ぎ扶持がないわけですよ。試合前からそこまで考えてましたね。もしこれで大ケガしたら大変なことになるなと思って。実際、医者から言われてたんですよ、「パンチもらったら、目に後遺症が残る可能性があるから、それはこっちで責任持てないし、診断書には試合をしてもOKってことは絶対書けません」って。

——無敵どころかホントに無理な状況だったんですね。

長南　ちなみに、UFCなんか肋骨を折ってすぐに電話したら「はい、OKです」って。ビックリしましたよ。「え？　診断書とかいらないの？」って言ったら「いらない」。で、「損害金とかかかるの？」って聞いたら「いるわけないだろ」って言われて。やっぱりコミッションとかちゃんとしっかりしてると、そのへんで選手は守られますよね。日本はとりあえずイベントを成

功させることが第一ですよね。
——基本的に興行ベースですからね。
長南　ドクターとかレフェリーは独立した別機関がやったほうがいいと思いますよ。何かあってからじゃ遅いですから。日本では「できるわけねえだろ」みたいな状況で試合をやったこともありましたけど。真剣に考えなきゃいけない問題ですよ。打撃でダウンした選手を連続で試合させたりとか、ホントは危ないんですよね。
——長南さんの後輩にあたる中村大介選手が4日間で2試合やってましたけど。
長南　あいつはバカなんでいいですけど（笑）。でも、ああいうことで事故が起こったら、誰が責任持つんですかね。団体が後遺症を持った選手とかをケアしていけるのかどうか……。未来のことなんて実際どうなるかわかんないじゃないですか、PRIDEですら潰れちゃうんですからね。
——その点、アメリカでMMAビジネスの規模の大きさを体感すると、うらやましいなぁと思っちゃいますよね。たとえば。いろんなスポンサーがついてますよね。
長南　アメリカなんてスポンサードがファイトマネーの同等とかなっちゃうぐらい凄いですからね。
——そんなに！　スポンサーで一番多いのはファッション・ブランドですか？
長南　アフリクションは大会までやってますからね。ほかにもタップアウトやケージファイターとか。あとOTMって格闘技ショップが各地にメチャクチャ増えてますね。そこも選手をサポートしてます。いま、ファッション的にもブームなんですよ、MMAクローズみたいなのが。
——どんな格好なんですか、それ？
長南　サングラスして、短パン履いて、MMAブランドのTシャツを着て……。みんなそんな格好してますよ。タップアウトとかアフリクションとか、普通の店に置いてありますから。
——日本でも昔、Tシャツブームがちょっとあったじゃないですか、修斗とデビロックのコラボとか。
長南　あの当時はストリートの若者が買ってたような感じですけど、いまは普通にそのへんの人がみんな着てますね。
——でも、アフリクションはTシャツ1枚50ドルでかなり高いなと思うんですが。

ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県鶴岡市出身。01年12月の『DEEP』でプロデビュー。03年10月には同じく『DEEP』で桜井“マッハ”速人を判定で撃破。その後は『PRIDE武士道』に参戦。04年大晦日には現在UFCミドル級王者のアンデウソン・シウバから一本勝ちを奪っている。07年からはUFCに主戦場を移した。写真は「ブラザー」と呼ジェイソン・“メイヘム”・ミラーのラジオ番組に出演時のもの。175cm、77kg。

長南　高いですよね。日本で5000円のTシャツなんでザラですけど、こっちで5000円のTシャツってあまりないですよ。でも、日本で流行るのかなっていうと、流行らない気がしますけどね（笑）。
——日本人の好みのデザインとはまた違いますもんね。
長南　スケーターとかXスポーツ的な感じで着てる若者が多いですね。それとはまた違って、前にSOULとかがあちこちで売ってて着てる人もよく見かけたじゃないですか。ああいう感じの人たちも多いと思います。
——なるほど。
長南　自分のTシャツも売り上げ成績は良かったんですよ。会場販売とWEB通販で売ってたんですけど、売れたそばから後輩におごったりして、利益は飲み会の思い出で消えましたね。
——でも、そうやっていろんな人と酒飲んでつながってきたから、いまの長南さんがあるわけですよね。
長南　そうですね。まあ、自分は目先の金よりも思い出重視なんで、それで全然いいんですけど。
——長南さんがいろんな人とつながりながらここまできてるんだな、というのがよくわかりました（笑）。
長南　飲んで暴れてるだけという噂もありますけど（笑）。こないだもジェイソンとこっちで有名な俳優の家に遊びに行って泥酔して女性たちから「ノー・モア・チョーナン」コールが起こりましたからね。
——何をしてるんですか（笑）。とにかくUFC初勝利を期待してます！
【08年7月22日／ロサンゼルスにて収録】

RYO CHONAN

チーム・クエスト揃い踏み!
UFC88 BREAKTHROUGH
米国ジョージア州アトランタ・フィリップスアリーナ
現地時間9月6日（土）19時（太平洋時間）

主要カード
長南亮vsホアン・“ジュカオン”・カルネイロ
キム・ドンヒョンvsマット・ブラウン
吉田善行vsカロ・パリジャン
ダン・ヘンダーソンvsホジマー・トキーニョ
リッチ・フランクリンvsマット・ハミル
チャック・リデルvsラシャド・エバンス

UFCオフィシャルサイト
http://www.ufc.com/

妻・長南彩子インタビュー！
旦那は単身アメリカ武者修行 そのとき日本の妻は何を思う!?

元PRIDEの広報としてバリバリに活躍していた彩子夫人。海外武者修行中の長南を支え、生後9ヵ月の赤ちゃんとともに実家で生活をしている。アメリカと日本で離れて暮らす、というのはどのようなものなのか？

「アメリカ修行は、結婚前にも何回か行ってたし、結婚してからも行ってたし、まあ今回は期間が6ヵ月なんでちょっと長いなぁっていうぐらいの感覚ですね。寂しくないと言えばウソになるんでしょうけど、寂しいというよりも、つまんないなぁって感じですね（笑）。娘はいま9ヵ月で凄くかわいい時期なんで、二日に一回は娘を見たがるんですよ。本当だったら凄くかわいがり時期なんでしょうけどね。Skypeでライブチャットしてます。だから、向こうの様子もこっちの様子もわかるんですけどね。さらに「携帯サイト『kamipro Hand』で俺の日記をチェックしろ！」と言われてるので、毎日チェックしてます（笑）。
　食べものはさほど心配してないです。もともと一人暮らしが長かったし、そのへんは気をつけてると思いますから。お酒を飲んで暴れるのは……まあ、いつものことなんで（笑）。
（誌面を通じて旦那に声をかけるとなると？）う〜ん……。車がほしいですね（笑）。車がないと、またバイクでオムツを買いに行ってもらうハメになっちゃうと思うんで。まあ、本人が一番、車をほしがってると思いますけど。だから頑張って稼いで帰ってきてほしいと思います」（談）

DREAMイベントプロデューサー

なぜか笹原圭一がアメリカ特集を大総括!!

ニューヨークへ行きたいかー!! というわけで、ここまでアメリカ特集を80ページに渡ってお届けしてきたが、その大総括をしていただこうと、笹原DREAMイベントプロデューサーを直撃した! 「なぜ笹原EPなのか」「どうして編集部がしないんだ!」というごもっともな疑問もあるだろうが、すべて本文に答えがあるので、どうぞお読みくださーい!

聞き手／松下ミワ

――笹原さん！　じつは今回の『kamipro』は、80ページにも渡ってアメリカ大特集を企画してるんです。

笹原　さすが、長いものに巻かれろの『kamipro』らしいですねぇ〜。

――本来ならばこのページで編集長の斉藤が総括原稿を書く予定だったんですけど、なんと斉藤は「よくよく考えたらアメリカに行ったことないから無理！」と言い出したので、ここはもうアメリカにはずいぶんと酷い目に遭った……じゃなくて、豊富な人生経験を積んでこられた笹原さんに総括していただくしかないかな、と。

笹原　アメリカではいろんな経験をしましたねぇ……（しみじみと）。私の経験をひと言で表わすなら、アメリカは好きですけど、アメリカ人は嫌いです!!

――さすがに実感がこもってますね（笑）。笹原さんのアメリカのイメージってどんな感じですか？

いまは海外に打って出るよりも海外の熱を取り入れるほうが得策

笹原　うーん。僕らの世代はアメリカからは凄く影響を受けてる世代なんですけど……、具体的に言うと『アメリカ横断ウルトラクイズ』ですよね！

――アメリカ＝『アメリカ横断ウルトラクイズ』ですか！

笹原　グアム、ハワイ、そして本土に渡って、最後はニューヨーク。それで、決勝戦はパンナムビルの屋上でやるわけですよ！（なぜか興奮気味に）。

――いま考えるとリアリティショーっぽい形式ではありますよね。

笹原　あの番組を通して観ると、やっぱりアメリカって広大だなあって。べつに自分がアメリカに造詣が深いとは思いませんけども、いろんな意味で凄い国だとは思ってましたね。

――ちなみに、『ハッスル』にご登場されてた笹原GMだったり、ケイ・ササハラだったりも非常にアメリカチックだと思うんですが、そのあたりにも影響はあったんでしょうか？

笹原　シャ〜ラップッ！　それは全然関係ないでしょ！

――失礼しました（笑）。

笹原　むしろこの場を借りて言っておきたいんですけど、僕が望んでやってたって本気で思ってる人がいるんですけど、あれは仕方なくやらされてたんですから!!（キッパリ）。

――ワハハハハ！

笹原　ホントにね、「笹原は出たがりだ」なんて思ってる人がいるんですよ。本当に許せない！

――話題を変えさせていただきます（笑）。たとえばDREAMへのアメリカの影響ってあったりします？

笹原　まあ、一番はUFCでしょう。でも、彼らとは具体的にコミュニケーションをとったりということはまったくないですが、UFCが何か行動を起こせば必然的に影響は受けますよね。アメリカで興行を打って、アメリカのファンの熱をつけるというのは時期を逸してるでしょうね。いまのアメリカには我々が入り込む余地があると思えないですし。

――たとえると、花見で場所取りが終わってる状態なんですね。

笹原　もう公衆トイレの隣しか残ってません！（笑）。とはいえ、アフリクションやエリートXCという新しいMMAの流れができてるんで、そういうところといかに協調していくかが重要ですよね。たとえばアメリカの地上波で登場したキンボ・スライスなんかを呼んだりすることがDREAMの人気につながったりするかもしれない。なのでいまは海外に打って出るというよりも、海外の熱を取り入れていくことのほうが得策でしょうね。

――つまりDREAMに〝アメリカの熱〟を呼び込もう、と。じつはそれがウチの企画の趣旨だったりするんです。

笹原　それに、かつて世界最高峰のリングだったPRIDEのスタッフがDREAMをやってるというところでは、すでに注目はされてるとは思いますし。実際、いろんな団体から一緒にやらないかという声もありますから。今日も一通メールが来てました。カリブのMMAイベントから。

――カリブ！　なんか怪しい感じがしていいですね（笑）。

笹原　でしょ？　まだUFCがツバをつけてないところは世界にたくさんあるんです。経済成長的には、BRICs（ブリックス）って呼ばれているブラジル、ロシア、インド、中国などが狙い目で、とくに中国は10億もの人口を誇ってます。DREAMが積極的に進出していくべき地域ですよね。

――もう、アメリカで騒いでいる場合じゃないんですね。

笹原　アメリカは終わってますよ！　編集長に言っといてください！　これからはね、中国の時代なんですから!!（ドンッ、ドンッ）。

――ズンドコ興行マニアの編集長は「中国、インドにカリブだなんて、猪木さんのやることじゃん！」って目を輝かせそうですが、来月は中国に巻かれてみます（笑）。笹原老師、今日はシェイシェイでございました！

笹原　はい。9月の『DREAM・6』までサイチェンです。

【08年8月5日／都内・リアルエンターテインメントにて収録】

アメリカ大特集の結論

これからは中国ですよ!!

※写真はアメリカで"特異な"人生経験を積んだPRIDE広報時代の笹原氏。

生前追悼本、
いまだ好評発売中！
が、しかし!!

追悼
ターザン山本！
緊急出版 ターザンは死んだ!!

アチャー！ターザン山本！は生きていた!!

“人生のホームレス”山本隆司62歳の現在

今年のエイプリルフールに発売され、いまだ好評発売中の『生前追悼 ターザン山本!』。
かつて『週刊プロレス』の名物編集長として一時代を築き、数年前までは『kamipro』にも
頻繁に登場していたターザン。しかし、ここ数年、マット界の低迷が叫ばれ、
『週刊ファイト』や『週刊ゴング』が相次いで休刊となるとターザンもすっかり休眠状態に。
そのまま安らかに天国（というか地獄?）に行ったものだとばかり思っていたら、な、なんと……!?

DREAMイベントプロデューサー

『kamipro』No.1ターザンウォッチャー堀江ガンツが解説

"底が丸見えの水たまり"!?

ターザンワールド"Small"の実態

「いまさらターザンのことなんて知りたくないよ」なんて思ってるアナタ！ その気持ちはよ〜くわかりますが、立石でひっそり生存していたターザンの周辺事情は、いまとんでもないことになってるんです！ そんなわけで、『kamipro』No.1ターザンウォッチャー、ガンツが"2008年のターザン山本!"を徹底解剖！ これを読めば興味が湧くはず！

聞き手／阿修羅チョロ

「もしかしたら、いまが一番おもしろいかも」

——生前追悼本が好評発売中のターザン山本！が生きていたということで、今回は編集部イチのターザンウォッチャーである堀江ガンツに、現在のターザンワールドのおもしろがり方を教えてもらおうと思ってます！

ガンツ　ボクも通勤電車の時間潰しで『ターザンカフェ』を読んでるぐらいですけどね。でも、ターザン周辺って、じつはいまが一番おもしろいんじゃないかと思う。

——え、そうなの!?

ガンツ　ターザンがっていうか、ターザンを取り巻く状況っていうのが一番おもしろいというか、一番ひどいというか（笑）。

——なんでも、ここ最近はターザンワールドの住人の方々もかなり少なくなってるみたいで。

ガンツ　もう片手で数えられるぐらいで（笑）。簡単に説明すると、もともとターザンは「一揆塾」っていう文章講座的なものを2001年に始めて、最初はプロのライターや編集者養成講座としてやっていたんだけど、徐々に講座後の飲み会のための集まりになってきた、と。要は友だちがいないプロレスファンの集まりみたいな感じになってきて。初期の頃はかなりの人数がいたのに、年を追うごとにドンドン人が少なくなっていき、いまでは、「ひとこと塾」と名前を変えて、塾生はたった二人だけです。

——た、たったの二人!?

ガンツ　数年前は3ヵ月で10万円とか取ってたのが、いまや体験入門で1000円とかにしてるんだけど、それでも人はほとんど来ない状況で。まあ、体験入門なんかしたら『ターザンカフェ』の日記で、「今日体験入門したのは、36歳の会社員Mさん。A型。借金がかさみ一人暮らしが困難となり、いまは知人とルームシェアしている。彼も私と同じ小銭王子なのだ（笑い）」とか、個人情報をバンバン書かれるので、おいそれと体験入門すらできないという（笑）。

——悪循環というか、なんというか。

ガンツ　それで、長年ターザンのそばには自称マネージャー兼一番弟子の歌枕力氏というのがいて、ターザンいわく『ターザンカフェ』の原稿の打ち込みぐらいしか仕事をしてなかったんだけど、それだけで毎月20万円もらってたらしくて。

——それで月20万！ それはちょっと待遇よすぎでしょ。

ガンツ　その歌枕氏が立石にある『ノトヤ』という和菓子屋さんによく買いにくるターザンファンのノトヤ姉妹の妹のほうと付き合うことになって、ターザン関連唯一の仕事である日記の入力もままならなくなっていくという（笑）。

——うわ〜、女に惑わされるのはターザンだけじゃないんだ。

ガンツ　ご存知のとおり、ここ数年、ターザンは仕事がドンドンなくって、もちろんお金もなくなるわけ。そうなると、歌枕氏に給料も払えなくなり、師弟関係はあっさりと崩れてしまう、と。

——金の切れ目が縁の切れ目ってこと？

ガンツ　一つの原因ではあるでしょうね。それで歌枕氏に代わって……というか追い出すように出てきたのは、いま、ごく一部で話題の夢香さん。

——生前追悼本ではボクがインタビューしたんだけど、ターザンとは28歳の年の差の現在の恋人ね。

ガンツ　一時期は年の差カップルっていうことで盛り上がってたんだけど、それは顔が出てないんで妄想が膨らんでいたっていう部分も大きかったんだよね。それが、テリー伊藤さんのラジオ番組に二人で出演したときの写真がブログで公開されたり、ウチで出した生前追悼本に2ショット写真が載ったりして、あっさりと幻想が崩れてしまった、と（笑）。

——ちなみにネットではどういう反応なの？

ガンツ　顔出しする前は、誰かが流した「伊東美咲似」っていうデマが、半ば信じられて幻想が巨大化してたんだけど、写真が公開されてからは、その反動で「寅さん似」とか「戸塚ヨットスクールの戸塚校長似」とか、ひどいこと言われるようになってしまいました（笑）。

——アチャー！

ガンツ　で、その夢香さんが登場した頃から、ひとこと塾の塾生も激減。「取り巻き」と言われていたターザンワールドの人たちも、次々とターザンのもとを離れていった、と。理由はいろいろあるんだろうけど、要はターザンが付き合う前から夢香さんだけを特別扱いし始めたというか。

——それ、下心丸出しでしょ（笑）。

ガンツ　学校でも先生が特定の生徒をひいきしたら大変だけど、ターザンはひいきどころじゃなく、いきなり文章講座では一番新人の部類に入る夢香さんの文章を「何も直すところはない」と絶賛。いきなり幹事長に格上げしちゃったんだから（笑）。

——そ、そんなあからさまな。

ガンツ　しかも、夢香さん自身も、幹事長になった途端に一般塾生に対して「これからビシビシ鍛えていくのが私の役目」と上から目線で言っているという、とんでもない状況で（笑）。

——これまたアチャー！

ガンツ　それだけじゃなく、『ターザンカフェ』でターザン日記とともに夢香日記っていうのが4月からスタートしたんだけど、その日記がまた凄い内容で。

——凄いって、どんな内容なの？

ガンツ　自己顕示欲の強さがイヤでも伝わってくるというか。これは夢香日記を読んで確認してもらう

周辺って、じつはいまが一番おもし
らいで（笑）。簡単に説明すると、も
『ノトヤ』という和菓子屋さんによ
たんだけど、写真が公開されてから
夢香日記を読んで確認してもらう

のが早いんだけど。毎日、日記を書けば書くほど、ネット上では「こいつ、何様だよ」っていう反応が大きくなり、いまはモンスター級のヒールになっているという（笑）。

―魔王もビックリ、と。

ガンツ　しかも日記に書かれた内容も「それ、嘘じゃないの?」ってユーザーが指摘する箇所があまりに多くて。ネットの人たちに、いちいち検証されて、疑惑だらけの状態になってるんですよ。

―疑惑だらけ（笑）。

ガンツ　で、日記だけならまだしも、「夢香のラブショット」っていう携帯で夢香さんが撮った写真にキャプションをつけたものが更新されるようになって、またこれがツッコミどころ満載で（笑）。

―ヤバイ写真がたくさんアップされまくり、とか?

ガンツ　いろんな意味でヤバイというか、これまで『ターザンカフェ』の日記に出てきたターザンワールドの人たちの素顔がドンドンさらされて、一般人まで笑い者にされるというかわいそうな事態が起こってるんですよ。夢香さん自身も自分の写真をアップするたびにキツイことを書かれたりしてね。そんな中で一つの事件が起こるわけです。

―えっ、どんな事件なの!?

ガンツ　そのラブショットのコーナーで、夢香さんが法政大学の写真をアップして「私の母校、法政大学」って書いたわけですよ。でも、それまで夢香さんはずっと「短大卒で証券会社に勤めて、私はできるOL」って書いてたはずで……、まあ、実際はコピー取り中心の派遣社員だということが日記からわかったりするんだけど（笑）。

―二重三重にツッコミどころがあるんだ（笑）。

ガンツ　それで「短大卒のはずなのに法政大学卒業ってどういうことだ?」と『ターザンカフェ』にメールが来て。法政大学の短大っていうのは1980年代で終わっているらしく、「本当に行っていたら、最後の年に卒業したとしても43歳じゃないか」ってことになったりして（笑）。

―あららららら。

ガンツ　そしたら今度は「年齢詐称じゃないの? もしくは法政卒業なんて嘘だろ?」っていうメールが来て、それに対してターザンは「夢香姫はずっと夜学に通っていたんである」って日記で返答して。それも、いままで一回もそんなこと書いてたことなかっただろって感じなんだけど（笑）。

―反論すればするほど、ツッコミどころも増えていく、と。

ガンツ　さらにターザンが「インターネットやってるヤツはモテない連中」とか、わけのわからない噛みつき方をし始めて。だいたい『ターザンカフェ』はWEBの日記なんだから、読者は全員インターネットをやってるよ!っていう（笑）。さらに「ラブショットで卒業証書の写真を載せろというのか?」って啖呵を切ったら「載せろ!」っていうあたりまえのリアクションが来て（笑）。

―そりゃそうだ（笑）。夢香さんは自分では反論はしないの?

ガンツ　夢香さんはその質問メールに対して、夢香日記で「あら、私の日記をちゃんと読んでくれてるのね、ありがとう」っていう高飛車な態度で返答して、ターザンと夢香さん二人して読者の怒りを買いまくっている、と。

―そしてネット上のターザン関連のスレッドは、かつてのターザンばりに炎上しまくっている、と。

ガンツ　炎上というか、活性化してるというか（笑）。『ターザンカフェ』をやっている『イビジェカフェ』っていうところは、掲示板形式でプロレスとか格闘技とかいくつかジャンル分けされてるんだけど、その中に『芸能カフェ』っていう掲示板があって、ここがまた凄いことになっていて。

―『芸能カフェ』って、べつにターザンには関係ないんじゃない?

ガンツ　ターザン山本!も一応、太田プロ所属の芸能人だからってことで、2ちゃんねるのターザンスレの住人が『イビジェカフェ』の中で一番書き込みの少ない『芸能カフェ』を占拠してしまったんです。それで、いまも『芸能カフェ』の掲示板はターザンと夢香に対する追求スレで埋めつくされている、と。

―2ちゃんだけじゃないんだ。

ガンツ　だから最近のターザンワールドっていうのは、『ターザンカフェ』、『芸能カフェ』、2ちゃんのターザンスレっていう3つが渾然一体となって同時進行のドラマを日々量産してるんです（笑）。

―で、今回はそんなことをふまえて、『ターザンカフェ』から生まれてきた、さまざまな疑惑を次のページからのインタビューで本人にぶつけるってことね?

ガンツ　そういうことです! 中にはターザンもさすがに言えないことがあるみたいなんで、カットしてるところもありますけど、そこは行間から想像いただければ、と。ターザンウォッチャーの推理力なら、容易に想像できることでしょうから（笑）。あと、これを機会にターザンワールドをもっと知りたいという物好きな方は、ウィキペディア等で調べてから、ターザンインタビューをお読みになることをオススメします!

ターザン山本!は生きていた!!

ターザンと仲よく一緒に写っている女性が、現在のターザンの最愛の人、古関夢香さんだ。泣いて笑ってケンカしまくりの二人の日常は、ウェブサイト『ターザンカフェ』内のそれぞれの日記で毎日更新中。興味を持った方はどうぞ！

これがターザンワールド、最後に生き残った11人だ!?

夢香姫
ターザンの最愛の人にして、活動休止中のひとこと塾幹事長。熱狂的、長渕剛ファン。その他情報は『ターザンカフェ』内の夢香日記をどうぞ！

谷ケン
3年前からターザンの文章講座に通い、現在も週一で文章添削を受けている慶応大学卒業の元編集者。現在は就職活動中（8月11日現在）。

湊君
金欠のため一度はターザンのもとを離れるも、ターザン本人からの電話で、あっさりとカムバック。谷ケン同様、就職活動中（8月11日現在）。

吉永くん
ターザンいわく「運転手」にして、ターザンのポッドキャストを配信中。このポッドキャストはいろんな意味で必聴。アドレスは各自調査！

ダチキン先生
ターザン邸で「マンデーシネマ」なる鑑賞会を主催したこともある無類の映画好き。プロのライター志望。ニックネームは歌枕氏が命名。

山崎夫妻
ターザンの個人会社、ターザンギャルドの出資者にして博多で会計事務所を経営する名物夫妻。夢香姫をターザンに紹介したのが夫の隆弘氏。

内博さん
ほぼ毎週日曜日に立石でターザンと"サンデーナイト二人祭り"なる飲み会を主催する設計事務所経営者。もちろん勘定は内博さん持ち。

怪人君
01年にスタートしたターザンの文章講座出身者で、唯一、著書を出版した猪木信者。本のタイトルは「キャバなヤツら」。ちなみに自費出版です！

人見君
某格闘技関係の編集プロダクションで活躍するターザンの文章講座の塾生。現在も、たまにターザン関連のイベントに顔を出している。

与作のお兄ちゃん
京成立石駅近くにあるターザン行きつけの定食屋の従業員。新鮮なかつおが入荷すると親切にターザンに電話連絡をする熱心な巨人ファン。

現在の収入源、歌さんとの決別の理由、プロレス&格闘技ED、自費出版疑惑、彼女との性生活、ノトヤ姉妹との関係、夢香姫の年齢&学歴詐称疑惑……

ターザン山本!が数々の疑惑に すべて答えた!

聞き手／堀江ガンツ

今年4月に発売され、現在も絶賛発売中の『生前追悼 ターザン山本!』。

ここ最近のターザン本では珍しく増刷されるなど評判も高いが、事情を知らない人にとってみれば、「生前追悼本ってどういうこと?」と思っても無理はないだろう(不思議と「不謹慎だ」という怒りの声はなかったが)。

数年前までは『kamipro』にも頻繁に登場していたターザンだったが、すっかりマット界への興味をなくし、おまけに『週刊ファイト』や『週刊ゴング』の相次ぐ休刊により、おもな執筆の場はウェブ上での日記という悲惨な状況に。

かつて『週刊プロレス』編集長として一時代を築くも、現在は収入も激減、破綻した日常を垂れ流すのみのターザンを安らかに眠らせてあげようというのが〝追悼本〟の目的でもあったのだ。

追悼本発売後も、自宅のある立石周辺でひっそりと生き延びていたというターザンをひさびさにキャッチし、ここ最近のターザンワールドにまつわる数々の疑惑を直撃!

――山本さん、生きてたんですね!

ターザン 生きてますよぉぉぉ! 俺、『kamipro』に何回も殺されてるけど、細々と生きてますよ。

――細々と生きてましたか(笑)。

ターザン **立石**というスモールワールドでひっそりとさ。俺の宇宙はあの一角だけだよ……情けないよね。

――ぶっちゃけ、いまどうやって生活してるんですか?

ターザン へ?

――以前は週刊の連載もいくつかあって、単行本も定期的に出てましたけど、いまはインターネットの『**ターザンカフェ**』以外であんまりお見かけしないので、ほかに収入源はあるのかなって。

ハッキリ言って、マット界が縮小して最大の被害者は俺ですよぉお!

ターザン ないよ!

――ないんだ(笑)。

ターザン 前は『週刊ファイト』と『週刊ゴング』があったじゃない。あの連載や単発の原稿で多いときは月30万、だいたい毎月25万円ぐらいあったわけですよ。それがオールすべて、ぜ～んぶなくなって、ターザンワールド崩壊ですよぉ!

――ダハハハ! 日記にも書いてましたよね「『ゴング』と『ファイト』がなくなって一番困ってるのは俺様さ!」っていう(笑)。

ターザン マット界が縮小して最大の被害者は俺ですよぉ! 手足をもぎ取られた感じだよ!

――**糖尿病**なんですから、リアルに手足を切られないように気をつけてくださいよ(笑)。収入が大幅に減ったことによって、弟子兼マネージャーの歌さん(**歌枕力**)とも別れることになったんですか?

ターザン そう! 歌さんを食わせていけなくなったわけですよ。あと、歌さんは彼女ができたでしょ? そうなると、気がぜ～んぶ彼女のほうに回ってこっちに回らなくなったわけ。その二つが理由で1月31日に別れたんですよ。

――彼女ができただけで、仕事はそっちのけって、凄いマネージャーですね(笑)。で、その彼女っていうのは、山本さんの日記によく出てきた**ノトヤ姉妹**の妹さんなんですよね?

ターザン うん。どうやって二人がくっついたのか、俺は寝耳に水でビックリしたもんね。歌さんって女っ気ない人じゃない?

――女好きではありますけどね。

ターザン えっ、好きなの?

――大好きですよ! 僕が知ってる女性も二人ほどちょっかい出されて、嫌がってましたけどね(笑)。

ターザン ホント? 俺を手伝ってるときは一回もなかったよ。

――山本さんの前では、そういう面は出さなかったんじゃないですか。山本さんと一時期付き合ってた〝**冬の恋人**〟にもちょっかい出してたこともありましたし。

ターザン ……そうなんだ。冬の恋人って△香さんですよ。俺もね、○香、△香、夢香ときてるんだよね。

――ダハハハハ! 同じような名前の人を好きになってますか(笑)。

ターザン 俺、何回も夢香ちゃんに「○香ちゃん」って言ったんだよね。

――前の奥さんの名前で呼ぶって、ひどすぎますよ!(笑)。

ターザン ついポロッと出てしまうんだよねえ。それにしても〝冬の恋人〟の△香ちゃんは美人だったよね……(遠い目で)。胸が凄かったよ。

――巨乳だったんですよね。で、夢香さんはどうなんですか?

ターザン ヒンニュー。

――ダハハハハ!

ターザン よく自分の恋人に貧乳っ

て言えるよね（笑）。

――では、歌さんの話に戻しますけど、歌さんとは言われてるような汚い別れ方じゃないんですか？　風の噂では、歌さんが「ターザン山本の暴露本を出す」って息巻いてるとか聞いたんですけど。

ターザン　そういう噂は俺も聞いたよ！　でも、実際に本を出すっていうのは、難しいわけですよ。

――まあ「歌枕力著『ターザン山本暴露本』」というものを出そうとする酔狂な出版社はなかなか現われないでしょうね（笑）。

ターザン　でも、俺は暴露本を出してほしかったんだよね。歌さんが暴露本出したら少なからず印税が入るじゃない。これが退職金代わりになればいいやって。あとは歌さんは僕のことを全部知ってるので、どの部分を出して、どの部分を引っ込めたかがわかるじゃない。それをチェックする楽しみもあったんだよね。

――なるほど。歌枕という人間がどういう男だったかっていうのがそれで全部わかるわけですね。あと、歌さんといえば、ずっと『ターザンカフェ』で山本さんの手書き原稿をパソコンで打ち込みしてましたけど、**誤字誤記がひどかった**じゃないですか。あれ、山本さんは知ってたんですか？

ターザン　ずいぶんあとになって知ったんだよ！　俺、ビックリしたよぉ！

――ダハハハ！　ずっと知りませんでしたか（笑）。

ターザン　普通

俺は歌さんに暴露本を出してほしかったんだよね

はさ、原稿打ち込んだらプリントアウトして、俺に校正させるでしょ？　でも、歌さんはプリントアウトしてこないわけ。だから、俺は変換ミスとか、誤字とかをチェックできないわけですよ。

――パソコンも使えませんしね。

ターザン　それが、あるとき1年間にどれだけ誤字誤記があったかをプリントアウトして、俺のところに送ってきた人がいたわけですよ！　それを見てビックリしたよ！　こんなにミスしてんのか、みたいな。だって、間違いを指摘した紙がこ～～んなに厚かったよ。

――しかも「墓穴を握る」とか「腰を抱えて笑う」とか、笑える間違いが多いんですよね（笑）。

ターザン　ひどいなんてもんじゃないよ！　だから慣れちゃって、緊張感も集中力もなく、ダレきってやってたわけですよぉ！　でも、彼の仕事はあれしかなかったんだよ。

――たった一つの仕事をダレきってやってましたか（笑）。

ターザン　だって、打ち込みなんて午前中に終わる仕事じゃない。それで彼は怠け者になっちゃったのかなあ。それはあとから考えるとマズかったなって反省はあるよ。

――いまは山本さんの日記とともに、**夢香日記**も載せてますけど、あれは山本さんが校正してあげてるんですか？

ターザン　夢香姫は日記を書き終えたらプリントアウトして、俺のところにFAXで送ってくるので、それをチェックするわけですよ。

――山本さんが赤入れ（原稿添削）もしてるんですか？

ターザン　いや、1行も書き換えない（キッパリ）。そのまま載せるか、ダメなときは「全部ダメ！」って夜中でもなんでも全部やり直し。

――ほう。では、夢香日記に書かれてるのは、すべて夢香さんの言葉なんですね。

ターザン　そう。ところがさ、夢香姫が書いたことに対して、あらゆることをネットでバッシングするヤツがいるんだよ。抗議や誹謗中傷メールもたくさん来るし、ここで言えないようなことが山ほどあるよ！

――僕も2ちゃんねるのターザンスレッドとか見てますけど、夢香さんに対してはボロクソですよね（笑）。

ターザン　俺はネットが見れないので、人から聞いたんだけど、2ちゃんねるだけじゃなく、あとウイングペル？

――ウィキペディアですね（笑）。

ターザン　そのウクペギュアと、それともう一つの、『イビジェカフェ』の**『芸能カフェ』**の掲示板に『ターザンカフェ』の悪口書いて、そこが炎上してるんだよ！

――なぜか『芸能カフェ』がリアル『ターザンカフェ』になってますからね（笑）。

ターザン　だから「『ターザンカフェ』の掲示板を作れ」とかメールが来るんだけど、もし掲示板作ったら、毎日大炎上でしょ。

――間違いなく大炎上でしょうね（笑）。そういう抗議のメールは、山本さんのところにもFAXか何かで転送されるんですか？

ターザン　まず『イビジェカフェ』に来て、イビジェから**山崎会計事務所**に来て、山崎会計事務所がファックスで僕に送ってくる。それを見るたびに心臓が止まりそうになるよ。

――ダハハハ！　とくに夢香さんが「私の母校・法政大学」って書いたときは凄かったんじゃないですか？

ターザン　凄かった。「証拠見せろ！」とか、しつこいわけですよぉ！

――夢香さんの法政大学卒業っていうのは、ホントなんですか？

ターザン山本は生きていた!!

最後の愛弟子を直撃!

「いまのターザンから何を教わっているの?」

湊君　谷ケン

『一揆塾』や『ひとこと塾』と名前を変えながら、一時期は30人近くいたこともあるというターザンの文章講座だが、現在の受講者数は、たったの二人！　はたして、いまのターザンから何を教わっているのだろうか？　ひょっとしたら、最後の愛弟子になってしまうかもしれない谷ケンさんと湊君に直撃取材を敢行！

意外なことにプロレスにはまったく興味がないという二人は、どうやってターザンと出会ったのか。谷ケンさんが出会ったのはいまから3年前。当時、編集者として活躍していた谷ケンさんは仕事をしながら編集者養成講座に通っていたが、講師として来るはずだった作家の立花隆が急きょ来られなくなり、ピンチヒッターとしてやってきたのが、なんとターザン。それからは文章を習うだけではなく、一緒にミュージカルや映画に行ったりとすっかりターザンワールドの住人となった谷ケンさん。

一方の湊君は『サイゾー』で連載していたターザンの音楽コラムを一冊にまとめた『音楽と人』を読み、「この人はただ者ではない」と思い、コンタクトをとり、約2年前から文章講座に通うようになったんだとか。どちらも凄いきっかけだ。

実際、ターザンの文章講座を受けてみての感想を聞いてみると「字数を指定されて、このテーマで書けと指示されたら、媒体に即した内容の文章を書けるようになったと思います。山本さんはふざけてるようだけど、そういうところだけはマジメに教えてくれるんで（笑）。いまは就職活動中なんですけど、山本さんに教わったことを活かせるような出版社で働きたいです」と目を輝かせる谷ケンさん。湊君は「最初は物書きになろうと思って目指してたんですけど、いまは文章を書くことが趣味みたいな感じで。最近はうまくなったらいいなぁぐらいに思っていて。山本さんと付き合ってたら文章以外でも、恋愛の相談に乗ってくれたり、いろいろと得られることは多いので、そのへんが通っている目的だったりしますね」と、愛弟子二人の方向性はバラバラ。

最後に二人にとってターザンはどういう存在なのか聞いてみた。

「ちょっと誤解を生むかもしれないですけど、おもしろいおっさんですね」と笑顔で語る谷ケンさん。確かにそれは言える。「ボクにとっては人生の師匠ですね。いまの生活の中から山本さんがいなくなることは考えられないです」と、すっかりターザン依存症といった感じの湊君。他人事ながら、ターザンが人生の師匠って、ちょっと将来が心配だ。

この二人がホントにターザンの最後の弟子となってしまうのか？　二人の今後が気になるという方は『ターザンカフェ』をマメにチェックしてみてくださ～い。　（チョロ）

——笹原さん
mipro』は、
メリカ大特集
笹原　さすが、
の『kamip
——本来なら
の斉藤が総括
んですけど、な
考えたらアメ
から無理！」と
はもうアメリ

DREAMイベントプロデューサー

なぜか笹原圭一が

夢香ちゃんが来てから波瀾万丈だよ。日々戦争、毎日問題が起こるから

ターザン　結局、彼女は最初に短大を卒業したわけですよ。短大を卒業して会社に勤めた。でもやっぱり、短大だと社会的評価というか、いろんなことで差別を受けるから。それで彼女はこれはマズいなということで、法政大学の夜間を受けて、それで4年かけて卒業したわけですよ。

——でも、夢香さんの日記だと、「最初は経済学部で学んでいたのを途中で法学部に移って2006年に卒業」みたいなことが書いてあって、なんだか食い違うんですけど……。

ターザン　まあ、とにかく「法政大学を卒業した」って書いたら、「前は短大卒って言ってたけど、法政大学に短大はない」とか、グチャグチャ書いてきて、面倒くさいことになったわけよ！

——しかも山本さんが、よせばいいのに「卒業証書を写メで撮って**ラブショット**で見せればいいというのか」とか書いたじゃないですか。

ターザン　そう、そしたら「見せろ！」ってさ、くっだらないこと書いてくるわけですよ！

——見せる予定はないんですか？

ターザン　ないよ！　そこまでやる必要はない！

——でも、たぶんあれ、卒業証書見せるまで疑惑追及は続きますよ。逆に言えば、卒業証書さえ見せれば、すべて鎮火すると思いますけど。

ターザン山本は生きていた!!

ターザン　あの話はもう終わってるんだよね。なぜかっていうと次の問題が起こるじゃない？

——終わった話だから見せない（笑）。

ターザン　すぐにネクストの事件が起こるじゃない？

——まあ、次から次へと事件は起こりますよね（笑）。最近では、夢香さんが派遣先の銀行を辞めた前後で、いろいろ詮索されましたけど、あれはなぜ辞めることになったんですか？

ターザン　あれはね……（ここで夢香姫退職の真実が語られるが、プライベートの問題は伏せてほしいということでカット！）。

——なるほど。そんなことじゃないかと予想してましたけど、やっぱりそうでしたか。

ターザン　で、もう一つは、会社を辞めてから俺と一緒に美術館に行ったわけ。まだ、その時点では辞めたことを日記に書いてなかったんだけどさ。それで写真を撮って、4日後ぐらいにラブショットのコーナーに載せたわけですよ。そしたら、俺知らなかったんだけどさ、機種と撮影した日にちと時間がわかるらしいんだよ。

——デジタルの写真は全部わかりますよね。

ターザン　そしたら、それを見た瞬間に「一緒に行ってるじゃないか、嘘ついた」って、また抗議だよ！

——ねつ造疑惑ですね（笑）。

ターザン　今日になってやっと「執筆に専念するため仕事を辞めました」って書いたんだけどね。

——夢香日記に対しては、いろんな疑惑追及の書き込みで、連日大炎上してますよね。

ターザン　俺はタフだから何を書かれてもいいけど、彼女はいちいち気にするじゃない？

——まあ、あそこまでボロクソに書かれたら、気にせずにはいられませんよね（笑）。

ターザン　普通、女の子にあんなバッシングする？

——隙が多いっていうのもありますけどね。

ターザン　それはあるね。

——あと、彼女の性格というか、意地っぱりで妙にプライドが高いのが、日記にも出てるじゃないですか。

ターザン　うん、文章でちょっと突っぱってる。それが癇に障るっていうのはあるね。

——ラブショットなんかを見ても自己顕示欲が強そうだし。

ターザン　もの凄い強いよ！　だって彼女はB型で唯我独尊じゃない。で、セレブ志向も強いし。

——それがまた癪に障るんですよね（笑）。そして夢香さんが登場してから、ターザンワールドの住人もどんどん減っていってるんですよね？

ターザン　もういないよ、谷ケンと湊君しか！

——たった二人でしたか（笑）。

ターザン　夢香ちゃんにターザン山本！を取られたと思ったのか、パワーバランスが崩れたのか、それまでいた人が、みんないなくなったもんな。

——一部ネット上の噂では、夢香さんからターザンワールドの人たちにセミナー勧誘があったから、みんな離れたとか出てたんですけど、それはないんですか？

ターザン　セミナーの勧誘はないよ。ただ……（ここで、夢香姫に関する真実が語られるが、プライベートの問題は伏せてほしいということで、またもやカット！）。

——いろいろあるんですねぇ。

ターザン　波瀾万丈だよ、夢香ちゃんが来てから。日々戦争、日々炎上ですよ！　毎日問題が起こるから。

——嵐を呼ぶ女というか、ネット上に荒らしを呼ぶ女というか（笑）。でも、山本さんもよく彼女と続いてますね。ここまで長く続くと思ってました？

ターザン　思ってたよ。彼女と俺は合ってるなって感じてたから。それで今度、俺と夢香ちゃんの本が出るんだよな。

——その本ですけど、よくターザン山本&古関夢香の共著っていう企画が通りましたね。

2008年3月27日にニッポン放送のテリー伊藤の番組に出演したターザンと夢香姫。番組内ではテリーからの性生活の質問に、新小岩のラブホテルに行った話を得意げに披露したターザン。狂った恋愛関係に興味津々のテリーは二人の本の出版を提言！

ターザンワールド注釈

【立石】
ターザンが長きにわたり住み着いているのが東京都葛飾区の立石。二階建ての一戸建ての住居は、まだ1000万円近くローンが残っており、毎月8万円、3月と9月には35万円返済してるんだとか。ちなみに最寄りの京成立石駅近くにはボクシングの世界チャンピオンの内藤大助が所属する宮田スポーツジムがある。現在のターザンワールドは立石周辺だけで成り立っていると言っても過言ではない。アチャー。

【『ターザンカフェ』】
イビジェカフェが運営し、プロレス、野球、サッカー、映画など、さまざまなジャンルの総合掲示板がズラリと並ぶ中で、唯一、日記やコラム、さらにはラブショットなどが毎日更新されているのが『ターザンカフェ』。「くっだらねぇ」と思いつつターザンウォッチャーなら毎日のチェックは欠かせないサイトだろう。ちなみにサイト内の『芸能カフェ』は、ほぼターザン&夢香に関する内容で埋めつくされています。アドレスは各自でお願いします！

【糖尿病】
ターザンが数年前から患っているのが糖尿病だ。外出時の食事前には人目も気にせずインスリン注射を自らズブリと射し込んだりしているターザンだが、日々の日記を見るかぎり、とても糖尿病でカロリー制限をしているとは思えない食生活だったりもする。アチャー。

【歌枕力】
ターザンの一番弟子、マネージャーを自認し、ターザン主宰の一揆塾を仕切ったり、ターザン本やターザン日記等の打ち込みを手がける。05年からは有限会社ターザンギャルドの取締役に名を連ねるも08年1月末でターザンのもとを去る。現在、どこで何をやっているかは不明。

【ノトヤ姉妹】
ターザンも常連の立石にある和菓子屋『ノトヤ』に、名物のおはぎとファンであるターザンを目当てに訪ねてきた姉妹のニックネーム。のちに、ターザンと当時マネージャーだった歌枕氏とノトヤ姉妹の4人で居酒屋に行った際に妹が歌枕氏に一目惚れ、まもなく交際を始める。その後、歌枕氏がターザンのもとを離れてからは、姉妹ともども日記にはほとんど登場していない。

ターザン　前に二人で一緒にテリー伊藤さんがやってるニッポン放送の番組に出たじゃない。そしたらテリーさんが僕たちをおもしろがってくれて、出すことになったわけよ。
――じゃあ、テリーさんのおかげなんですね。
ターザン　そうですよぉ！
――水道橋博士が凄く不思議がってましたよ。「なんでテリーさん、あんなにターザン、ターザン言うんだろう？」って。会うたびに山本さんのことを気にかけてるみたいですからね。
ターザン　僕のことが気になるんだよね。テリーさんは、お金も名声もあって、もうすべての面で成功してるじゃない。そして、その対極にいるのが僕でしょ？
――そうですね（笑）。
ターザン　やっぱり人間って、自分にないものを求めるんですよぉ！
――まさに『王子と乞食』（児童文学）みたいな（笑）。
ターザン　ひどいこと言うなぁ！　でも、ホントにそうだよな（笑）。
――あとダイヤモンド社からも本が出るんですよね？
ターザン　ダイヤモンド社から出るのは俺の本ですよ。あれは『TVstation』の編集長が、『kamipro』が作った『**生前追悼本**』を見て、興味を持ってくれたんですよ。だから君たちのおかげですよ！
――少し山本さんのお役に立てましたか（笑）。

脱北者が激白!
“ターザン一揆塾”驚ガクの内部事情

人材育成を謳いターザンが01年に立ち上げたのが一揆塾である(現在はひとこと塾)。全盛期は30人近くいた塾生だが年を追うごとにその数は激減し、現在はわずか2名。はたしてその原因とは? ターザンワールドから脱北した元塾生二人が当時の一揆塾の実状を赤裸々に告白!

聞き手／阿修羅チョロ

ターザンワールドの崩壊は歌さんと夢香姫が原因!?

――現在はターザンワールドから脱北されているというお二方に、当時の一揆塾の実態を聞かせてもらえればと思います。
脱北者A&B　よろしくお願いします！
――Aさんが山本さんと知り合ったのはいつぐらいですか？
A　ボクは6年前に一揆塾に通い始めて、それからですね。その頃はいまと違って塾生は30人近くいましたけど（笑）。
――それがいまや塾生はたったの2名だけみたいですからね。
B　Aさんが通ってた頃の塾生には、いまプロレス&格闘技関係で働いている人が何人かいるんですよね。
――意外といえば意外ですが、一揆塾生はけっこうこの業界で活躍してるんですよね。そんなBさんもいまはプロレス&格闘技関係の媒体で働いているみたいですし。
B　一応、そうですね。
――当時の一揆塾のシステムはどんな感じだったんですか。
A　そのときは編集者・ライター養成講座という名目でやっていて、受講料は3カ月間で10万円だったかな。私は『週プロ』編集長時代から山本さんが好きで本を読んだりイベントに参加したりしていて。で、当時は広告関係の仕事をしてたんですけど、後輩が花田（紀凱）さんの『編集会議』の講座に通い始めて、向こうが正道でいくなら、こっちは覇道でいこうと思って山本さんの講座に通うようになったんです。
――まあ、ターザンは正道ではないですよね（笑）。Bさんはいつぐらいにターザンと知り合ったんですか？
B　ボクは2005年ですね。まだGK（金沢克彦）がフリーになって台頭する前ぐらいで、山本さんの神通力もまだあったんですよ。『ゴング』、『週刊ファイト』、『kamipro』で連載を持ってましたし。
――それがいまや……。
――連載はターザンカフェぐらいで（笑）。もちろん、Bさんもターザンが好きで通い始めたんですよね？
B　たとえるのも恐縮ですが、藤田和之が「自分は商業・闘魂イズムですから」って言ってたことがあるんですけど、ボクも同じような感じで、ターザンはまだ神通力があったから、なんかいい目に遭えるかなっていうノリで通うようになったんです。
――軽いなぁ（笑）。当時の文章講座はどういう感じだったんですか？
A　私の頃は文章講座というよりは、物の見方や考え方みたいな話が中心でしたね。ただ、私はそのあとに出版関係の部署に異動になったのもあって、3年前の秋に始まった文章講座にもう一回通い出したんです。そこでは文章を書く基本みたいなことを具体的に教わりましたけど。
B　ボクも文章を添削してもらったり、講座っぽいことはしてましたけど……、そもそも山本さんってパソコンを使えないじゃないですか？
A　いまだに手書き原稿で、『広辞苑』とかで調べてる人ですからね。ウィキペディアとか知らないでしょうからね。
B　そういうのもあって、ボクが出版関係の仕事に就くようになって一番困ったことが、山本さんのもとで教わったことがほとんど通用しないってことで（笑）。
――ご愁傷様です（笑）。AさんとBさんでは通っていた時期が違うみたいですけど、そのあいだに山本さんのもとを離れていく塾生を何人も見てるんですよね？
A　そうですね。山本さんっていうより、歌枕（力）さんが原因で出ていく人が多かったですね。いろんな人に酔って絡んだりとか、いろいろあったんで。
――噂には聞いてましたけど、やはり原因は歌枕さんでしたか！
A　ここ最近は夢香さんが原因で離れていく人が多いみたいですけど（笑）。
――その噂もよく耳にします（笑）。
B　歌枕さんって自分より若い人には、いいアニキ的存在になろうとして、そんなにきつく当たらないんですけど、同年代の人には「キミ、これからどうすんの？」とかよく言ってて、「アンタに言われたくないよ！」って、みんなから思われてましたから。
――そうなんですか。Aさんが山本さんのもとを離れたきっかけは？
A　結局、山本さんはプロレスや格闘技に興味がなくなって、コラムとかも前のネタの焼き直しみたいなのが多くなってきたじゃないですか。あとはヨカタの話を聞きすぎて、自分の物の見方とか考え方のレベルが落ちちゃったっていうか。そういうのを感じて離れようと思いましたね。けっこう最近の話なんですけど（笑）。
――ここ最近のターザンさんについてはどう思われます？
A　いまでも師匠だと思ってるし、教えてもらったことは凄く役に立ってますよ。ただ、いまの山本さんは納得がいかないことが多いですよね。
――夢香さんとのラブラブっぷりとか？
A　いや、もうプライベートに関しては「好きにすれば」って感じですよね（笑）。何年も前から作品を「書く書く」って言って結局いつまで経っても書かないじゃないですか。最近になって、山本さんのために何か言ってもしょうがないというのに気づいたんで、これからは自分のために生きようと思って（笑）。いま何か言うとすれば、「元気でいてください」って感じですね。
B　ボクもそんな感じです。
――アチャー！　それだけかよ！（笑）。
【08年7月31日／都内・某所にて収録】

ほとんど登場していない。

【"冬の恋人"】
約10年前、『紙のプロレス』主催のイベントで知り合い、交際に発展したターザンの元恋人のニックネーム。由来は彼女からプレゼントされたマフラーから来ている。結局、ターザンは振られ、のちに行なわれたイベントで彼女のインタビュー映像が流されるとターザンは炎上し大暴れ！　たまたま観客として会場に来ていた水道橋博士が仲裁に入って事態を収めたことも。

【誤字脱字がひどかった】
歌枕氏のウィキペディアでは「やれんのか！」を「やれのんか！」、「ドリンク券」を「ドリンク半分」、「都合が悪くなる」を「都会が悪くなる」などなど、これまでの『ターザンカフェ』での誤字・誤記の例がこれでもかとばかりに大量に公開されている。ある意味、必見！

【夢香日記】
『ターザンカフェ』内で今年の4月からスタートしたターザンの現在の彼女の日記。本文中にも出てくる学歴詐称問題をはじめ、さまざまな疑惑の発信元となっている。ターザンウォッチャーからのツッコミを受けまくり、現在は削除されている箇所も多数見受けられる。

【『芸能カフェ』】
ターザン日記や夢香日記が読める『ターザンカフェ』のほかにプロレス、格闘技、サッカー、オリンピック、映画などのさまざまなジャンルの掲示板を設置する総合掲示板サイト。現在、その中の一つ『芸能カフェ』の掲示板は、太田プロ所属の芸能人でもあるターザンと夢香の話題一色となっている。

【山崎会計事務所】
ターザンの借金の一元管理を目的に05年4月に設立された有限会社ターザンギャルドの出資者である、山崎隆弘氏と山崎二三代氏の夫妻が博多で経営する会計事務所。歌枕氏がターザンのもとを離れてから『ターザンカフェ』の原稿は山崎会計事務所の女性スタッフが担当している。数ヵ月に一度、ターザンを招いてセミナーを開催している。夫人の二三代氏は一部では〝クリスタル主婦〟としても有名（詳細は各自調査！）。

【ラブショット】
夢香姫が携帯カメラで撮った写真をコメントつきで紹介する『ターザンカフェ』内で連載中の人気コーナー。当初はターザンとゆかいな仲間たちの写真や、

DREAMイベントプロデューサー

ターザン　そうだよ。もの凄い役に立ちましたよ！

——で、これまたネットの噂で恐縮ですけど、いま山本さんが作られてるその二冊の本は、半分自費出版みたいなものじゃないんですか？

ターザン　違う違う、商業出版ですよお！

——あ、そうなんですか。

ターザン　あたりまえじゃないか、そんなもん！　俺、腐っても鯛だよ！　でも、なんで俺のことになると、みんなひどいこと言うんだろうね。前に『**別冊宝島**』が僕のことボロカスにやったじゃない？

——山本さんいわく「インタビュー革命」ってヤツですね（笑）。

ターザン　そうそう、あれでさ、俺をボロカスに言ったわけだよね。あのインタビューがまた、『宝島』の偉い人とか、亀和田武さんとかに、メチャメチャウケたんですよ！

——おまけに次のページでは**フランク井上**さんが「山本さんはチンチンが勃たない」とか、そんなことまで書いてますからね（笑）。

ターザン　ほっといてくれ！　関係ないよね、そんなことは。井上さんは俺と30年ぐらい仲いいのに、なんでそんなことまで書くんだよ。

——山本さんって、それでもちゃんと友人の付き合いが続いてるのが凄いですよね。

ターザン　いまも毎日電話かかってきますよ。

ターザン山本は生きていた!!

——そんなこと書いた人間から（笑）。

ターザン　糖尿病だからさ、そんなもん、末端神経やられますよ！　糖尿病になったらさ、みんなナニがダメになるんだから！　俺のせいじゃないですよ！

だいたい、60歳になってナニが勃つ必要があるんですか！

——勃たないのは、俺のせいじゃない、糖尿病のせいですか（笑）。

ターザン　だいたい必要ないじゃないですか！　60歳になってナニが勃つ必要があるんですか！

——知りませんけど（笑）。

ターザン　ないよ、そんなもん！

——でも、34歳の夢香さんにとっては必要なんじゃないですか？

ターザン　夢香姫とは、そういうものが必要ないところに素晴らしい愛が成立してるわけですよ！

——**水道橋博士のネット配信番組**では「男女のレズ関係が成立してる」とか言ってたらしいですね（笑）。

ターザン　そう、レズ的愛ですよ！

——へんな話、彼女はそれで満足してるんですか？

ターザン　まあ、性生活のことはタブーなんで……。

——タブーって言いながら、いろんなメディアでさんざん言ってるじゃないですか（笑）。

ターザン　いや、大満足ですよ！　史上空前の満足ですよぉぉぉ！

——ダハハハ！　さすがです！

ターザン　いままではちょっと不感症気味だったけど、いまは絶大な官能姫だよ！

——不感症姫が官能姫に！　ちょっと、その秘技をあとでこっそり伝授してくださいよ（笑）。「ひとこと塾」も文章なんか教えるより、その秘技を教えたほうが生徒も集まるんじゃないですか？

ターザン　もの凄いよ、俺は！（真顔で）。

——まあ、そんなことはともかく。これからのことって考えてます？

ターザン　何も考えてない！　いや、一つだけ考えてるな。この機会に自分の残された時間を執筆活動に充てよう、と。

——ホントですか？

ターザン　ホントです（なぜか敬語）。

——やっとそういう気持ちになりましたか、山本さんも。

ターザン　なったね。だって本を読んだりすると、バーッと頭の中に入るからね。これまであんまり読んだことないから。

——ダハハハ！　なかったんですか（笑）。まあ、忙しかったですからね。

ターザン　そう、忙しかったんだよ。いまは時間があるからね。

——じゃあ、いまは週刊誌の仕事がなくなったり、塾生が激減したおかげで、逆に執筆中心の生活にシフトチェンジできるようになった、と。

ターザン　そうそうそう。いまは、夢香ちゃんと会ってるだけだから。

——そうですよね（笑）。

ターザン　だからプロレスはもうやめる（キッパリ）。俺がプロレスのこと書いても「またか」って思われるし、実際もう書きつくしてるから、同じことを書くよりは、プロレス以外のところで執筆活動に専念しようというね。

——そのほうがいいですよ、きっと。

ターザン　僕がそれで成功したほうがみんな喜ぶじゃない。だからプロレスのことはもうやめた。切っちゃおうと思って。

——ぶっちゃけ、『ターザンカフェ』の中でも『プロ格コラム』が一番おもしろくないですからね。

ターザン　そうですよ！

——ブロディの命日ネタなんて、20回ぐらい読んだ気がしますよ（笑）。

ターザン　毎年、命日になると同じこと書いてるからさあ。今年でブロディが亡くなって20年でしょ？　20回同じこと書いてますよお！

——20回も使い回してましたか（笑）。じゃあ、いまが生まれ変わるチャンスですね。

ターザン　だから62歳になってやっと気持ちが吹っ切れたよ！　これからはプロレスからシフトチェンジしますよぉぉぉ！

——では、違うジャンルで成功したら、そっち方面の専門家として登場していただこうと思いますので。

ターザン　いつでもOKですよぉぉぉ！　……でも、そんなことってあるかね？

——アチャー！（笑）。

【08年7月29日／都内・『かに道楽』新宿本店にて収録】

今回のターザン山本！特集はこれにて終了。ズバリ言って〝生きていた〟とはいうものの、本人のインタビューや、現在のターザンの周辺事情を見る限り、やはり〝死んでしまった〟というのが正解なのかも。というわけで、あらためて、合掌！

自身の水着姿などを、これでもかと言わんばかりにアップしていたが、撮影日のねつ造疑惑や公開写真をあちこちに無断転載されるなどの諸問題から、現在はターザンや建物といった無難な写真が中心となっている。

【生前追悼本】

『kami-pro』編集で今年のエイプリルフールにエンターブレインより発売になったターザン本。〝生前追悼本〟というかたちで浅草キッドや谷川貞治、いしかわじゅん、更級四郎、夢香姫といったターザンゆかりの人物がありし日のターザンの思い出を語り、最近のターザン本としては好評を博している。現在も絶賛発売中なので未読の方はゼヒ！

【別冊宝島】

『別冊宝島』として、これまで多くのプロレス・格闘技関連の書籍を発行してきた宝島社。今年5月に発売された『プロレス「悪夢の10年」を問う』では、ターザンの現状を嘆く旧知の編集者がシュートインタビューを敢行。そのインタビューの反響がよかったのを知ったターザンは『ターザンカフェ』内のコラムで「どうだ、見たことかである。あれでこそプロレスである。インタビューに革命を起こしたのと同じである。もう、よいしょインタビューは時代錯誤だ。ファンも読者も飽き飽きしている。やめてくれである。インタビュアーは本音で聞けである」と、すっかり革命家気どり。

【フランク井上】

本名は井上譲二。休刊してしまった『週刊ファイト』編集長を長きにわたり務め、ターザンとは30年来の友人。今年5月に『別冊宝島』から発売された『プロレス「悪夢の10年」を問う』というムック本では「ターザン山本の裏の裏まで知りつくした男」として、ターザンの赤裸々な性生活を暴露している。

【水道橋博士のネット配信番組】

浅草キッドの水道橋博士と評論家の宮崎哲弥氏が毎回さまざまなジャンルからゲストを招き、インターネット映像配信サイト「ミランカ」で絶賛配信中の時事対談番組（アドレスは各自調査）。博士とはひざびさの共演ということで大炎上したターザンに宮崎氏は涙を流して大爆笑。番組の後編では恋人の夢香姫とターザンの放送禁止すれすれのラブラブ映像も公開され、物好きなターザンウォッチャーをおおいに喜ばせた。

〝ドラゴン裁判〟開廷記念企画

藤波辰爾 変態座談会

天才レスラーか？ コンニャクか？
摩訶不思議かつ意味不明なドラゴンワールドを解明せよ!!

ダメな大人に大好評の変態座談会シリーズ！
単行本『U.W.F.変態新書』も早くも増刷決定!!

大好評の変態座談会、今回のテーマは、古巣・新日本プロレスに対し、退職功労金の支払いを求め、裁判を起こした“我らがドラゴン”藤波辰爾だ！　数々の名勝負を残し、文字どおり新日本プロレス黄金期を支えたドラゴン。しかし、一歩リングを降りると摩訶不思議な言動をくり返す“コンニャク”であることもご存知のとおり。この不思議レスラー藤波を変態メンバーはどう語るのか？

構成／堀江ガンツ

変態メンバーを襲った（!?）ドラゴンの呪い

ガンツ　さて、毎度おなじみ変態座談会ですが、今日のテーマはＵＷＦからは大きく外れて、「藤波辰爾変態座談会」ということでお願いします！

タコ　なんでこのタイミングで藤波なん？

ガンツ　まあ、ドラゴン裁判開廷記念ということで、あまりにも不思議なところが多い、藤波辰爾というレスラーを語ってみようかな、と。

椎名　でも、ドラゴンを無闇に語るのってちょっと怖いよね。なんか呪われそうで（笑）。

タコ　前田日明編のときみたいに殴られる心配はないけど、呪われるかもしれない（笑）。

ガンツ　今日もこの座談会前に井上さんが、原因不明の吐き気とめまいに見舞われたんですよね？

井上　そうそう。それで「悪いけど、今回は休ませて」ってガンツくんに電話したら、それを聞いた椎名さんからすぐ電話があって「ドラゴンの呪い？　ドラゴンの呪い？」ってまた嬉しそうに聞いてくるんですよ（笑）。

椎名　だって、このタイミングで原因不明の体調不良なんて「絶対、ドラゴンの呪いだ！」って思うじゃん。

タコ　椎名さんだけですよ（笑）。

井上　呪われたと思われたくないんで、無理して来ましたけど、そもそもドラゴンの呪いってなんでしたっけ？

椎名　たぶんね、俺が最初に読んだのは吉田豪さんの文章だと思うんだけど。猪木が新日本のレスラーたちを語った内容で「橋本はセミを捕ったりしてヤンチャだったけど、藤波も犬を箱に入れて、首だけ出して、せっせとエサを与えるようなヤンチャな部分がある」みたいなことが書いてあったの。それを読んで、俺は最初、おもしろいなって単純に思ったんだけど、それって藤波のキャラとちょっと違うなっていう違和感もあって。

ガンツ　それまでの爽やかキャラとは明らかに違いますね。

椎名　それでおかしいなと思って。その話をなんとなくいろんな人に話してたら、四国出身の友だちが「それは犬神という呪術だ」と。

井上　呪術ですか（笑）。

これが噂の「ドラゴン呪いのしゃもじ」だ！　いったい誰がなんのために作ったのかはわからないが、ネットオークションで競り落とした吉田豪が原因不明の高熱を出した、恐ろしい代物だ。

椎名　四国には犬に首だけ出させて、エサを目の前に置いて、犬が食べたくて食べたくて飢えてどうしようもないところで首をはねると、恨みを念じた人に飛ぶっていう呪術があるんだって。それを聞いて、藤波は絶対それをやったに違いないと思って。だって出身地が大分県で、ほぼ四国だし。

ガンツ　大分は四国と関係ないでしょう、九州なんだから（笑）。

椎名　違うんだって！　大分と四国は水路を隔ててすぐなんだって。

タコ　海を隔てて交流があったわけですか。

椎名　だから土着的なものは近いはずなんだよ。あと藤波といえば、原因不明の腰痛に悩まされたとき、じつはあれは男性ファンの霊が取り憑いたものだって話があったじゃん。

ガンツ　ああ、その話はドラゴン本人がしてたんですよね。

椎名　だから犬の話も「藤波はきっと呪術をやった」ってことで、『ｋａｍｉｐｒｏ』のコラムとかで、「ドラゴンの呪い」とか書いたんだけど（笑）。

タコ　椎名さんが書き始めたんやないですか（笑）。

椎名　しかも、そのあと吉田豪さんが、「藤波辰巳」って書いてある宮島のしゃもじをネットオークションかなんかで競り落として手に入れたら、原因不明の病気になっちゃったんですよ。

ガンツ　ああ、あのときは大変でしたね。吉田さん、締め切り前で原稿たくさん抱えてたのに、高熱出して編集部でうんうんうなってましたから。

椎名　それで「ドラゴン呪いのしゃもじ」とか言われたんだけどさ（笑）。あのへんから、俺はもう藤波に触れるのはやめようっと思ったの。

タコ　シャレにならん、と（笑）。

椎名　で、一度ドラゴンをそういう目で見始めると「おまえ平田だろ！」って言っちゃうのもおかしいし、「こんな会社辞めてやる」事件も普通な感じがしないんだよ。

ガンツ　アングルを超えた狂気を感じますよね。

椎名　そうそう。プロレスの枠を超えちゃってるんだよ。

井上　そもそも、あのあまりにも有名な沖縄の飛龍革命スタートもアングル超えだもんね。

ガンツ　そうですね、だから猪木さんが素になっちゃったという。

井上　たぶん「ベイダーに挑戦させてください」ってまでがアングルで。

椎名　髪の毛を切るのがガチじゃないですか？

井上　そうそうそう。「これが新日本の流れじゃないですか！」あたりからガチでしょうね。

タコ　髪の毛もそうやし、張り手で一瞬猪木さんをクラッとさせたり、アングル超えてるよなあ。

井上　どうでもいいですけど、あの張り手するとき、ドラゴンがなんて言ってるか、何度聞いても聞き取れないじゃないですか。でも、ユリオカ超特Ｑが唱える最新の説では「（藤波ボイスで）モイスチャーミルク配合です！」って言ってるらしいですね。

ガンツ　ダハハハ！　そんなわけな

変態座談会メンバー

椎名基樹
本誌の好評長寿コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。変態座談会癒しの重鎮。今年、不惑の大台を突破！

井上崇宏
携帯サイト『スカパー！ バトルLIFE!!』制作に携わっていたベールワンズの総帥。プロレスマスコミ界のモノマネ王。口癖は「ちょちょちょ、古舘さん！」。

原タコヤキ君
元・小さい版型の頃の『紙のプロレス』編集者。本誌公式サイトkamipro.comのポッドキャスト『mimipro』でもカリスマ司会者として活躍。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃい頃から変態的プロレスファン&ＵＷＦ信者として鳴らし、ＵＷＦ研究家を自称するカリスマ的変態。当変態座談会の主宰者。

いまこそ振り返る コンニャク社長時代 藤波語録

ドラゴンのいわゆる〝コンニャク〟ぶりが全開になっていたのが、新日本プロレスの社長時代。連日、その優柔不断かつ意味不明な発言が『東スポ』をにぎわし、本誌でも『紙の新聞』というコーナーで何度も紹介し、大好評を博した。そんな社長時代の「藤波語録」をここに再録。当時は〝1・4事変〟後で破壊王の引退問題が取沙汰されていた頃。そんな問題にドラゴンはどう対処していたのか？　コンニャクぶりをたっぷりとご堪能ください。

猪木イズムをさらに追求し、慎重かつ大胆に攻めていきたい！

H11年6月24日　新社長就任所信表明

〝1・4事変〟以降、ほとんど絶縁状態だった新日本とＵＦＯ（というかアントン）をもう一度、結びつけようというドラゴンの大英断。まさに、この発言から破壊王のオーちゃんへのリベンジがスタートしたといっても過言ではない。それにしても社長になっても「猪木イズムをさらに追求」しようというドラゴンなのに、アントンには引退時に「藤波を後継者に考えたことは一度もない！」と言いきられてしまうのだから、じつにかわいそうなのである。

あの会社とは仕事ができないな

（ＷＣＷ視察、エリック・ビショフとの会談後）「週刊ゴング」8月19日号

ドラゴンの社長就任後、まず第一の大仕事として行なわれた長州、マサら新日幹部、社員総勢10名でＷＣＷとの提携強化を目的としたアメリカ視察。ここで長州、マサは「会場のパワーは凄いな」「仕事ができそうな選手が多い。呼べるよ」と確かな手応えを感じる中、ドラゴンはなぜか一人ダークドラゴンに変貌。試合を観れば「まあ、あんなもんだね」と切り捨て、ビショフとの会談後は「あの会社とは仕事ができないな」と「アイ・ネバー・ギブアップ精神」のカケラも感じられない早すぎる撤退宣言をする始末。

い！
椎名　でも、そうやって言うと似る、と（笑）。とにかく気持ち悪いっていうか。たまに猪木すら引かせるものが潜んでるよね。
井上　でも「おまえ平田だろ」はさすがにアングルでしょ？
ガンツ　いや、あれはホントらしいです。
井上　え――――っ!?
椎名　だってセリフがおかしくない？「おまえ平田だろ」って。バラすならもっといい方法ねえ？
井上　ありますよ。それに生放送で藤波が「おまえ平田だろ」って言ったとき、視聴者や古舘伊知郎が聞き取れなくて「何か言ってますねえ？」って言ったら、小鉄さんが「あれは『おまえ平田だろ』って言ってるんですよ」ってちゃんと通訳してたんで、ああ事前に知ってたんだと思って。
ガンツ　〝クーデターコンビ〟は知ってたんですかね？　でも、僕が平田本人に聞いたところ、あれはドラゴンが勝手に言ったらしいんですよ。
椎名　なんで正体明かす必要があるの？
ガンツ　当時、新日正規軍が手薄だったから、マシンにマスクを脱がせてベビーターンさせる計画があったらしいんですよ。でも、平田がそれを拒否してたら、ドラゴンが生放送中に勝手に実力行使に出た、と（笑）。
椎名　よけいなお世話をしたんだ（笑）。
ガンツ　で、マシンはそのままマスクを脱がずに新日本を離脱しちゃいましたからね。
タコ　逆効果やった、と（笑）。
井上　藤波vsマシンって、（85年）4・18の猪木vsブロディ初対決のセミでやったじゃん。あれは「おまえ平田だろ」の前？　あと？
ガンツ　たしか前ですね。4・18は藤波がドラゴンスープレックスで勝ったときですよね？
井上　そうそうそう。ワカマツが投げた白いパウダーを絶妙のタイミングでかわして、マシンがギガガガガーってなってるところにドラゴンだよ！
タコ　俺、あのとき初めて藤波のドラゴンスープレックスを見たんちゃうかな。
井上　「やった――っ！」と思いましたもんね。ついに本物のドラゴンスープレックスを見た！　って。
ガンツ　あれは嬉しかったですよね。
タコ　ほら、やっぱり「呪い」だ「コンニャク」だ言うても、みんな藤波好きじゃないですか。だから、おかしな部分があるのは確かかもしれんけど、いままで観たプロレス名勝負をつらつら挙げていったら、半分ぐらいは藤波が関わってますよ。それだけ、ええ試合してましたからね。
井上　異常にうまいですよね、プロレス。
タコ　前田にしても、長州、ホーガン、マシン、橋本にしても、藤波とやるとみんないい試合になる。やたら強く見えるしね。
ガンツ　だから僕は子どもの頃、必ず藤波の対戦相手のファンになってたんですよね。
タコ　え、ほな長州vs藤波のときは？
ガンツ　大長州ファンですよ！
タコ　そうなんや。俺はメッチャ藤波やったけどなあ。
ガンツ　僕は大長州ファンだし、大前田ファンだし、大マシンファンでもありましたからね。
タコ　大マシンファンなんや（笑）。
ガンツ　ええ。マシンがやたらカッコよく見えたんですよ。藤波のライバルで好きにならなかったのって、木村健悟ぐらいじゃないですかね。
井上　木村健悟、あれはちょっと……。
椎名　藤波をもってしても光らせられない健悟って、逆にすげえなって思うけどね（笑）。
井上　ホント、たいていの選手はどう考えても藤波が光らせてるんだよね。
ガンツ　大人になって、それがわかったというか。
タコ　でも、「俺はうまいんだ」「相手を光らせてるんだ」みたいなところをひけらかさないでしょ。インタビューでも絶対に言わないし。そこが好きやねん。
ガンツ　まあ、そういうことを言わない時代だったんでしょうけどね。

リング上では天才 リング外では〝ガチバカ〟

井上　だから藤波は最高に素晴らしいレスラーだと思うんですよ。でも、じつは僕の個人的な体験がジャマをして、素直に応援できない事情があるんです。
椎名　何があったの？　呪われる原体験があったんだ（笑）。
井上　小学5年だったと思うんですけ

あまりにも有名な88年、飛龍革命のスタートとなった沖縄事件。自分が団体を引っぱる決意を表わすために、突如前髪を切り始めたドラゴンをアントンが慌てて止めたのだ。

ドラゴンの迷言でもっとも有名な「おまえ平田だろ！」。マスクマンの正体を生放送でバラすという、前代未聞の自体。これがドラゴンのスタンドプレーらしいのだから恐ろしい。

（10・9橋本vs小川を電撃発表したあと）
橋本にはまだ話してません！
H11年9月9日　橋本vs小川戦決定緊急記者会見にて

マット界の秩序を根底から崩した〝1・4事変〟の再戦という、デリケート極まりないカードを破壊王本人に知らせずにフライング気味に緊急発表するという、〝闘う社長〟らしい積極的すぎる行動。ドラゴンは「選手のことをすべて思ったうえでの決定」と胸を張るが、破壊王にとってみたらこの決定は、〝1・4〟ばりの「不意打ち」以外の何物でもないだろう。この決定を東スポの記者に知らされたあと、恐ろしく不機嫌になったという破壊王に心から同情する次第である。

二人の試合を裁けるのは俺しかいない
H11年10月1日付　『東京スポーツ』

破壊王がロスで小川を襲撃するなど、一触即発の事態となっていた橋本vs小川戦。そのレフェリングになぜか中立とは到底思えない、新日本社長のドラゴンが名乗り。しかも「俺しかしない」と言いながら、当日は破壊王がSTOでボロボロにされても、ただボー然とするばかりのレフェリングで、結局レフェリーでもなんでもないアントンが試合を止める始末。

当日のレフェリーはぜひ、猪木さんに任せたい
H11年10月3日付　『東京スポーツ』

「今回だけは譲れない！」とあれほどまでに強固に言い放ったその翌日に、なんと正反対のコメント。もはやドラゴンのコンニャクぶりは誰にも止められない。ちなみに、この突然の要請に対しアントンは「俺のレフェリーは誰もが思いつきそうでおもしろくない！　レフェリーなんかじゃなく、もっととんでもないことをしにドームに行くよ。ンムフフフ」とコメント。そして予告どおり、タキシードで突如乱入しレフェリーを完全無視しての独断裁定下すという、「とんでも

ドラゴン唯一の異種格闘技戦は、"テコンドーの猛者"リチャード・バーンとの一戦。この格闘技戦に備え、ドラゴンはカッツ石松に師事し"幻の右"を体得。見事、バーンを下した。幸せな格闘技戦だ。

ど、地元の（岡山県）倉敷体育館に新日本を観に行ったとき、売店前に藤波がポツンと立ってたんですよ。で、こっちはドキドキしながら「藤波さん、サインお願いします」って言ったら「（超小声で）グッズ買わないとダメだよ」って。

椎名　ダークドラゴンだ！（笑）。

井上　で、一瞬「えっ？」てなるでしょ？炎の飛龍、アイ・ネバー・ギブアップのカッコいい藤波辰巳がですよ、「グッズ買わないとダメだよ」ってホント冷たく言って。で、Tシャツが2000円か2500円だったんですけどギリギリ足りないぐらいしかお金持ってなくて。それでもサインがほしいから、財布を見せて「すいません。お金が足りないんです」って言ったら「じゃあダメだよ」って冷たく。

タコ　子ども相手に（笑）。

井上　その小学5年生のときの記憶があるものだから、じつは大阪城ホールでの前田との一騎打ち、「愛で殺せ」の猪木との60分フルタイムなんかを、皆さんよりほんの数パーセント楽しめてないんです。

ガンツ　裏ドラゴンを見てしまったがために、表ドラゴンを応援できなくなってしまった、と（笑）。

井上　だからプロレスラー藤波はうまいけど、ふだんの藤波は生き方がうまくないかなと。ちびっこファン相手にそんな態度をとるってことは（笑）。

タコ　なんか、それも悪気があってというより、そこまで知恵が回ってへんのと違うかな。一言でいうとバカというか（笑）。

井上　ちょっとアレなんじゃないかって思いますよね。

椎名　ドラゴンのそういう部分って、やっぱり『マッチョドラゴン』あたりでみんなが「おかしいぞ？」って気づき始めたよね。『ドラゴン体操』も含めて、こいつは普通じゃないぞって。

ガンツ　あの『マッチョドラゴン』と『ドラゴン体操』のプロモ映像のおかげで、プロレスファンのあいだにもYouTubeが広まったんじゃないかと思いますよ。

椎名　あれ観たさに（笑）。衝撃だもんね。

タコ　だから"ダークドラゴン"って言われる部分も、悪い意図があるわけじゃなくて、バカだから人を傷つけたりするんやと思うんですよ。

井上　あとジャンボ（鶴田）が引退するとき「前田と闘いたかった。藤波は嫌だった」って言ってたよね。要はなんの根回しもせずに会場に来て「闘いたい」とかアピールしたり、そういうのが大嫌いだったって。

ガンツ　ドラゴンとしては純粋に闘いたかったんでしょうけど、致命的なくらい空気が読めてないというか（笑）。

井上　あとは維新軍団が新日を抜けてジャパンを作ったときも、ギリギリまで藤波も行くって話だったんでしょ？

ガンツ　長州と藤波が一緒に離脱して新団体っていうのが、計画の中枢だったらしいですよね。

井上　藤波ありきの計画だったのに、最後の最後でバックレて行かない、みたいな。そりゃ嫌われるよ（笑）。

タコ　リング外のことで言うと、猪木、新間失脚のあととか、ほんまにへんな動きってあるよね。のちに「コンニャク」って言われるような。

ガンツ　その「コンニャク」っていうフレーズは、僕がかつて『紙の新聞』というコーナーで、ドラゴンのおかしな言動を紹介するとともに使いまくって、晩年の藤波のイメージをある意味、変えてしまったんですけど（笑）。

ないこと」を敢行。ドラゴンをとことんコケにしたアントンが、やはり一枚も二枚も上手だった。

おそらく山ごもりだろう

H11年12月9日付　『東京スポーツ』

1・4ドームでの小川&村上vs橋本&飯塚戦に向けてトレーニングを積む破壊王が、「関西に行ってきます」とドラゴンに告げて出ていったことに対しての発言。真面目な顔して「おそらく山ごもりだろう」。その発言に根拠はない。

わかった……

H12年3月14日　新日本プロレス事務所

破壊王が引退を賭けて小川戦に挑むことを断固として認めなかったドラゴンだが、破壊王に「社長だって進退を懸けて闘ったことがあるじゃないですか！」と突っ込まれると、言い返す言葉がなく、渋々と「負ければ引退」を了承。また言いくるめられた……。

武藤のWCW入りは絶対に認めん！

H12年3月26日付　『東京スポーツ』

新日本とWCWの二重契約を結んだ武藤に、ドラゴンの怒りが爆発した！「こんな前例ができたら選手を次々と取られてしまう。武藤のWCW入りは断固として認めん！」と武藤と40分間の会談を終えたドラゴンは、WCW入りを厳しく突っぱねた。これに対して武藤は「この問題は、弁護士同士の話し合いになる。藤波さんからは、いつものように玉虫色で優柔不断な言葉をいただいたけど、同じレスラーとして快く送り出してくれた」と、ドラゴンの怒りなどどこ吹く風。「玉虫色で優柔不断」な説得にまったく応じることなく、WCW入りをはたしたのだった。ドラゴン、またしても説得に失敗……。

再起するなら、俺が相手になってもいい

H12年4月9日付　『日刊スポーツ』

椎名　あそこから、みんな普通にコンニャクとか言うようになったもんね。
ガンツ　あの『紙の新聞』は『東スポ』のドラゴン記事を見ながら、自分なりの解釈で勝手に妄想してニュースとして書いてたんですけど、武藤一派とか、ZERO—ONE勢とか、新日本を辞めた人たちとお話しすると、必ず「藤波さんの真の姿を伝えているのは『kamipro』だけ」とか言われたんですよ（笑）。
井上　俺も聞いたよ。破壊王がZERO—ONE作ったばかりの頃、あれって結局、藤波のコンニャク裁定で独立しなきゃならなかったわけじゃん。
タコ　もともとは『新日本プロレスZERO』っていう衛星団体のはずが、なぜか別会社にされたという。
椎名　それ藤波が切ったってこと？
井上　切っちゃったんですよ、裏切って。だから当時の破壊王は藤波に恨みしかなくて「いま俺の心の糧は『紙の新聞』や。ガンツには感謝してる。いつもトイレで読んでゲラゲラ笑ってるんや」って言ってたもん（笑）。
椎名　だから、みんなが「へんだな」って思うところは共通してて、実際にへんな人だったってことだよね（笑）。
タコ　それまで藤波に対するイメージって「最後まで新日本を裏切らなかった」とか「師匠思い」みたいなクリーンで画一的なところがあったじゃないですか。でも、実際はクーデターで失脚させようとしてたりとか、ジャパンプロレスに行こうとしてたわけですからね。
ガンツ　だから、猪木さんが引退前に「藤波を後継者と思ったことはない」とかキッパリ言いきったのも、そういった裏ドラゴンを知ると「なるほど」と思いますよね。
タコ　一時は「猪木さん、なんで後継者は藤波じゃないの？」って思ったけど、ドラゴンのリング外での行動を知ると、そりゃ猪木さんが正しいって思うわ。
ガンツ　ドラゴンが「鶴田とやりたい、前田とやりたい」って言ってた思いって純粋だったとは思うんですけど、いざ自分が逆の立場になって、木村健悟の引退試合の相手に指名されたら、あっさり断ったりするんですよね。非常に冷たいというか、自己チューというか、人でなしというか（笑）。
井上　猪木さんの政界スキャンダルのときも、猪木さんがプロレスに帰ってくるみたいな噂が出たんだけど「まずは垢を落としてから」って突っぱねたんですよね。あのとき俺、ちょっとキレかかったんだよなあ。
タコ　リング外では全然プロレスできないんですよね。すべて発言がガチンコというか。
ガンツ　まさにリング外はガチバカですよね（笑）。
椎名　リング上ではプロレスの天才なのに、リング外はガチしかできないバカなんだ（笑）。

ゴッチの愛弟子なのにシュートが弱い疑惑

タコ　だから、リング外では、あんなにおかしな人やのに、リング上ではプロレスセンス抜群で、肉体美、そして男前と、そりゃカッコよかったもんなあ。
椎名　ジュニアヘビー級の頃って、早すぎたハイブリッドボディだよね。
井上　メチャメチャカッコよかったですよ！　あれこそ鋼の肉体。
ガンツ　しかもあの肉体って、いまのドラゴンゲート系の見せるために作った肉体じゃなくて、ゴッチ式トレーニングだけで作られたものですからね。
椎名　そうそう、あの当時、まだノウハウがないときに凄いシェイプされてるもんね。あと藤波が立派だなと思ったのはコシティがうまいっていう（笑）。あれできるとカッコいいよね。
井上　汗かいたときにサイドの髪の毛が前に流れるのもカッコよかったですよ。
タコ　ダハハハハ！　細かいなあ、でも覚えてる！
ガンツ　初代タイガーマスクのビデオってけっこう出てるじゃないですか。あれと同じような感じでドラゴンのジュニア時代の試合をまとめたDVD BOXとか出してほしいですよ。
タコ　それ観たいわ〜。絶対に凄いやろ。
ガンツ　ハンセンvsアンドレの田コロ決戦のビデオに入ってた、ドラゴンのジュニア末期の試合とか凄いですからね。ドラゴンロケットのスピードとかハンパじゃないですよ。
井上　メッチャ速いんだよね！　いま観るとビビるぐらい。
椎名　なんか、イチかバチか的なんだよね、技のきれいさっていうよりも。
井上　ホントにロケットだよ、あれは！
タコ　あの頃の藤波のシュートの実力ってどんなもんやったんやろうな？　ミスター高橋には、さんざん「弱い」とか書かれとったけど、あれだけ練習熱心でゴッチさんの指導も受けて、藤原や木戸は強いけど、藤波は弱いなんてありえるんかな、と思って。
ガンツ　確かにオリンピックレスラーの長州はともかく、藤原や木戸とはバックボーン的には変わりないですもんね。センスがなかったのかな……。
井上　センスがないとも言いきれないんじゃない？　UWF的な動きはその片鱗すら見せてないんだから。ダメかどうかはわからない。
タコ　そのへんは謎やし、ある意味、凄く潔いですけどね。UWFとの対抗戦でも完全にプロレスムーブで対抗しとったもんなあ。
井上　あと藤原組長のヘッドバッドを二発食らって、三発目は額に手の平をかかげてカットしたの。
ガンツ　ああ、やってました（笑）。
井上　あとアキレス腱固めを極められたとき、反転してかわしたりとかじゃなく、これですよ（両手でヒザを叩く）。
椎名　ただ、ヒザ叩いただけで脱出できちゃうんだ（笑）。
井上　あのへんのオリジナルムーブは凄いカッコいいなっていうのはありました。
ガンツ　なんちゃってUWF、なんちゃって格闘技をやらないのがいいですよね。
井上　それに引き換え、ジェットセンターから帰ってきたときの木村健悟は最悪だよ、アレ！　ベニー・ユキーデ仕様なのか知らないけど、破壊王みたいなパンタロン穿いてさ、あれは超いただけない！　キムケンってボクシングやってたはずだよね？
ガンツ　相撲からプロレスに転向する前にやってるんですよね。たまにプロレスの試合でもパンチ出してアピールしたりして。
井上　それなのに、なんあのさ、あれは！
タコ　いまさらキムケン叩きに熱くなりますか（笑）。
ガンツ　でも、木村健悟の異種格闘技戦はひどかったですよね。ケリー・J・ウィルソンにボコボコにされてるのに、ヘタクソなバックドロップで形勢逆転し

破壊王敗戦から一夜明けて、ドラゴンはあらためて破壊王の引退撤回を求めた。「あのファイトなら、ファンが引退を許さないだろう。再起するなら俺が相手になってもいい」と、傷心の破壊王を思いやるドラゴンの親心。しかし、いざホントに復帰するとなって破壊王が対戦相手にドラゴンを指名すると、ドラゴンは突如豹変！「この期におよんで甘えるんじゃない！　そんな答えは期待してない！」と、罵倒し始める始末。もう破壊王もやってられないだろう。

小川に勝ったら、このあいだの引退発表を撤回させてもらう

H12年4月12日付『東京スポーツ』

この一週間前に「小渕総理死去の報道を見て、会社を任される社長が、いつまでも危険と隣り合わせのリングにいるワケにいかないと感じた」という、摩訶不思議な理由で引退カウントダウンを発表したドラゴン。明らかに歯切れが悪く現役に未練たっぷりなドラゴンの口ぶりから、目玉不在の福岡ドーム大会のテコ入れのために渋々承諾したんだろうことは容易に想像できるわけだが、なんと引退発表からわずか一週間で「小川に勝ったら」という条件つきながら引退撤回を表明。「エイプリルフール」を理由に一ヵ月で撤回した冬木の記録を大きく上回る、大物レスラーの有言不実行新記録達成である。結局、藤波vs小川戦という超ドリームマッチは実現しなかったが、ドラゴンの引退問題だけはうやむやになり、棚上げされたのであった。

蝶野はクビだ……!!

（蝶野のドラゴンに対する暴言を『東スポ』で一通り読んだあと）

H12年4月20日付『東京スポーツ』

ドラゴンが社長就任以来、「無能社長」「プロレス界追放だ」など「本気で言ってるんじゃないの？」と心配になるほど、ギリギリのラインでドラゴンを罵倒し続ける蝶野。「俺にプロレス用語は通用しない」と公言するドラゴンは、ここまでなんとか怒りを抑えてきたが、ついに堤防決壊。ドラゴンの暗黒の部分、ダークドラゴンをついに解禁し「蝶野は

て、最後は空振りみたいなパンチでKO勝ち。ホント、格闘技戦の風上にもおけない試合で、子ども心に「ナメんな」って思ってましたからね（笑）。
井上　その点、藤波のリチャード・バーン戦は凄かったよ。トップロープからフライングニーやって。さらに場外戦になって、ハイキックをかわしたら、リチャード・バーンが誤って鉄柱を蹴ってしまって悶絶とか。あれ最高でしょ。
ガンツ　前田vsマードックムーブですよね（笑）。
井上　もう大ドラゴンコールで横浜文体が大炎上だもんね。まだまだプロレスも捨てたもんじゃないと思ったよ。
ガンツ　ドラゴンがオープンフィンガーグローブ着けてるのも最高ですよね。破壊王とかドラゴンの格闘技戦って、突き抜けてるところが素晴らしいんですよ。間違ってもバーリ・トゥードはやらねえだろ、みたいな（笑）。
椎名　あのときのドラゴンってヒゲ？
井上　そうですそうです。
椎名　ちょうどそのとき『スーパーファイヤープロレスリング』の藤波もヒゲだったから覚えてるよ。
ガンツ　そんな覚え方ですか（笑）。

マードックとのお尻ペロン数え唄

タコ　このへんまでが藤波の功罪で「功」だとすると「罪」としては、逆サソリかな〜。
ガンツ　ほかのレスラーのフィニッシュは使わないという、規律を破っちゃったんですよね。
井上　古舘が「掟破りの逆サソリ」ってカッコいいコピーをつけたからよかったようなものの、本来はナシだよね。
タコ　凄いマナー違反やんね。
井上　長州はドラゴンスープレックスやらないもんね。
ガンツ　やろうと思ったらできるけど。
タコ　誰でもできるわ、プロレスごっこでも。
ガンツ　しかも、猪木がハンセンにやった「逆ラリアート」みたいに、奇策で使うんじゃなしに、何度も使ってましたからね。単にパクッただけなんじゃないか、と（笑）。
井上　延髄斬りもパクッてたじゃん。古舘さんは延髄斬りって言わないで、「ジャンピングしてのハイキック」って言ったけど。
タコ　そこは逆に古舘さんがマナーが凄いあるよね。
井上　あれも掟破りの逆延髄じゃないですか。
ガンツ　あれなんかも逆サソリがファンに受けたから、逆延髄も受けるだろうぐらいの気持ちでやったんじゃないかって思いますよね（笑）。そう考えるとドラゴンって、ホントに身勝手なんじゃないかって。
タコ　全然関係ないけど、藤波って前田の蹴りとかバンバン入れられるのも受けて立つけど、マードック戦のお尻ペローンみたいなものもちゃんと受けてて、そっちのほうもちゃんと付き合うってところがあったよね。
椎名　あれなんなんでしょうね？　あれ好きなんですよ。
タコ　いまとなってはコクがあって好きやけど、当時あんな二の線の選手がお尻を出してっていうのは……。
井上　濡れ場ですよね。
タコ　濡れ場やね（笑）。
井上　あれは濡れ場として、ファンサービスだったんじゃないですか。やっぱイケメンレスラーだったわけじゃないですか。
椎名　セクシーなってこと？
井上　メッチャクチャ、ケツ白いんですよね。いつもスイカみたいな柄のパンツで日焼けしてて、メッチャきれいに焼けてるんだよね、あれ。あれとか子ども心に俺もドキッとしたもんね。ちゃんとマードックが先にやると、たっつぁんもやるんだよね、報復で。
椎名　あれマードックとのあいだに話がついてたってこと？
ガンツ　阿吽の呼吸でケツ出し合ってたんじゃないですか？
井上　いや、あれも掟破りだろうな。逆お尻ペロン。
一同　ダハハハハ！
椎名　それぐらいはいいよ、技はダメだけど。グッジョブだよね、やっぱり。
タコ　マードックと藤波は凄く手が合ったよね。カーフブランディングをかけられるとき、ビックリした顔して、セールしてたの藤波ぐらいやん。
ガンツ　猪木さんはしかめっ面で受けてましたよね。
タコ　たっつぁんって、たまにドラマにちょい役で出たりしたら大根やのに、プロレスの中で「信じられない！」って顔で3カウント確認したりとか、うまかったよなあ。
椎名　リングに上がると人が変わるタイプなんだろうね。
井上　だからホントにプロレスラー藤波辰爾は最高ですよ。ぶっちゃけ、5指に入りますよね。
タコ　絶対入る！
井上　いわゆる我々が好きな前田とか高田にも全然引けをとらない。
タコ　プロレスのセンスは世界一ですよ！　リック・フレアーがうまくて素晴らしいレスラーだとかいう風潮があるけど、全然、藤波のほうがうまいと思う。最近はなんでもアメプロをありがたがるけど、そんならたっつぁんを再評価せんと。
ガンツ　受けのうまさをひけらかすのはホントのうまさじゃないですよね。
タコ　ね、違う。

60分フルタイムをはじめとし、感動の名勝負を数々残した猪木と藤波の師弟。しかし、アントンの引退後は、さんざんかき回し、ときには罵り合ったりと、新日本迷走の象徴にもなったりした。

クビだ！」と言い放った。こうなると、もう歯止めは利かない。「社長権限を利用して潰してやる！」と脅しをかけ、さらには「生半可なことじゃ済まさない！」と5・5福岡ドームで対戦する蝶野に恐怖の制裁予告。しかし、5・5当日は自分が「生半可な」体調で出てきてしまい、6分半でアッサリ完敗。ダークドラゴンに変貌するのは、どうやらリング外だけのようだ。

一匹狼になれ、俺が加勢してもいい
H12年5月9日付『デイリースポーツ』

新日で孤立しつつあった破壊王を思いやるドラゴンの親心。しかし、加勢したら一匹オオカミにならないだろ！

決定権は俺にある！　カシンのPRIDE参戦はない！
H12年6月7日付『東京スポーツ』

石澤とヘンゾの『PRIDE・9』での握手の翌日、ドラゴンはあらためてカシンのPRIDE出場なしを明言。しかし、いつものように社長であるドラゴンの意向は完全無視され、石澤は『PRIDE・10』に出場。ドラゴンに決定権はこれっぽっちもないことは明白となった。

エーッ、本当なの？
H12年6月14日付『東京スポーツ』

全日本の三沢社長（当時）退団を報じる『東スポ』の一面を見て、ビックリ仰天のドラゴンは「エーッ、本当なの？」と言ったきりしばし絶句。『プロレス界の動きを『東スポ』で知る社長』をここでも実証。

2001年の3月か4月、遅くても5月までには自分は引退するって決めてる
H12年9月『週プロ』スペシャル2『劇的引退&復活伝説』

巷では橋本の引退騒動のどさくさで自らの引退をうやむやにし、「生涯現役」を企てていると噂されるドラゴン。そんな声を否定す

91年3月、東京ドームで実現したフレアーvsドラゴンのNWA世界タイトルマッチ。ここでドラゴンは見事、フォール勝ちを奪い、NWA王者となるも。後日、オーバー・ザ・トップロープの反則が発覚。あえなく剥奪となった。

井上 最近そういう選手多いですよね。ちょっと鼻につく。

タコ このあいだ『ハッスル』で坂田vsTAJIRIとか観たけど、藤波のうまさにくらべたら……正直、比べ物にならんわ。

井上 藤波vsリック・フレアー戦をドームでやったじゃないですか。あのとき、藤波がボディへのパンチから張り手を叩き込んだら、リック・フレアーがいつものムーブで、一歩、二歩、三歩ぐらい歩いてドーンと倒れて。そんなの新日本のリングじゃありえないんだけど、その三歩歩いてぶっ倒れたときに、たっつぁんがガッツポーズでアピールするんですよ(笑)。

一同 ダハハハハ!

井上 「あ、たっつぁん喜んでる!」っていうので大歓声ですよね。で、あのときの小鉄さんの解説もよくて、「フレアーはいま我慢してましたけどね、そうはいきませんよ!」って。

ガンツ あのフレアーのお約束ムーブを大真面目に喜んだり、解説するって、ホントに素晴らしいですよね(笑)。

タコ これがプロレスですよ!

井上 だからね、藤波と小鉄さんですよ、当時の新日本を支えてたのは。あと星野勘太郎のセコンドワークと。

タコ そうやね、説得力やもんね。

井上 ヤマハとたっつぁんなんですよ。

ガンツ いや~、いい団体ですね。新日本プロレス。

井上 組織として最高! 「我慢してましたけどね、そうはいきませんよ!」ってね、よく即座にそんなことが言えるなと思って。

ガンツ 名解説ですねえ。

タコ だから猪木さんがなんぼスーパースターで有名やいうてもさ、タッグマッチで8割方動いて試合作ってたのは藤波ですよ。

ガンツ 文字どおり新日本黄金期を支えてたわけですよね。

タコ で、いつもコンディションがよくて、サポーターもなく。素晴らしいじゃないですか。

ガンツ 子どもの頃、新日の会場に行ったら藤波が必ず練習してましたよね。ジョギパンみたいなの穿いて、上は裸で、コシティ回したりバーベル挙げたりジョギングしたり。あれはカッコよかったですね、新日本らしいというか。

タコ カッコよかった。ほんで藤波はスポーツっぽかったし。

井上 アスリートっぽかったですね。だから、たぶんスポーツバカなんですよ。

ガンツ 猪木さんも性格的には「こいつはどうしようもない」と思いながら、使い勝手は最高によかったんでしょうね。

タコ 最高やろうね。自分は動かれへん中でバンバン動いてさ、それで来るガイジン選手は全部藤波が相手して、そのガイジンがやったら強く見えて。そんな選手おらへんよな。

ガンツ じゃあ、そろそろ締めに入りたいと思うんですけど。

井上 あと一つ、いまだに腑に落ちない謎があるんだけど聞いていい?

ガンツ どうぞどうぞ。

井上 藤波って、なんで大阪が第二の故郷なんですか?

タコ 伽織夫人の実家だから。

井上 あ、そうなんですか! それで大阪でやたら人気なんですか?

タコ うん。

ガンツ 伽織夫人が凄いいいとこのお嬢さんで。

タコ チケット買ってくれるねんね。

ガンツ 義理のお父さんの力で地盤が強いってことですよね。

井上 あ、ホント? いま凄いスッキリした気持ちなんだけど。そうか、伽織夫人の地元か。

タコ だから藤波もアピールせんとあかんねんやろうね、そのスポンサー筋に「自分はここが第二の故郷です」って。

ガンツ で、その伽織夫人主導で、現在は……。

椎名 裁判(笑)。

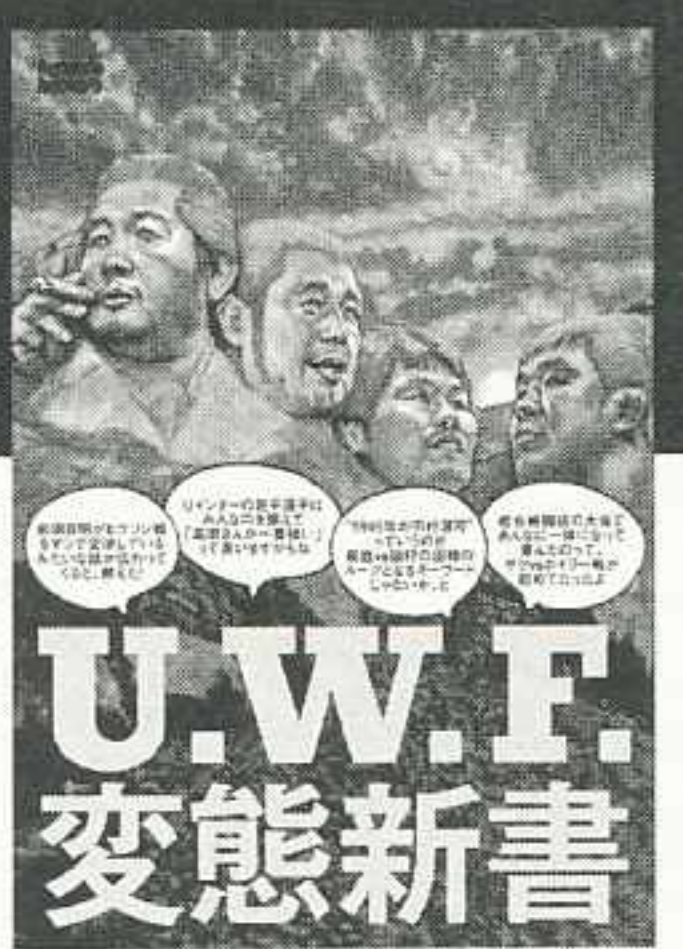
タコ ホンマ、ドラゴンは伽織夫人に言われて、裁判起こしたんやろうな~。

椎名 「ドラゴン、これおかしくね?」って言われたんだろうね(笑)。

ガンツ ま、この裁判によって、これまでリング上で半ケツ出してた人に判決が下るということですね(笑)。

井上 うまい! 「アイ・ネバー・ギブアップ!」と言い続けて最高裁!

タコ というわけで、ドラゴン裁判の行方を気にしつつお開きにいたします。ほな、さいなら~。

【08年7月31日/都内・『kamipro』編集部にて収録】

るように、あらためて翌年5月までの引退を宣言した。しかし、肝心のカウントダウン再開はいまだ発表されず。破壊王に「カウントアップしてるじゃねぇか!」と突っ込まれることになるのだ。

この期におよんで甘えるんじゃない!!

H12年9月10日付『東京スポーツ』

(破壊王が復帰戦の相手にドラゴンを希望したことについて)

これまで「再起するなら、俺が相手してもいい」「闘って橋本の闘志を確かめたい」と、常に破壊王との対戦に前向きだったドラゴン。ところが、いざ本当に破壊王が対戦相手に指名すると「俺の望んでいたことは、そんな答えじゃない!」「俺がやるのは最後でいい!」と、例によって正反対の仰天発言。

いまあわててコンディションを作ってます!

H12年10月8日 10・9ドーム前夜祭

(10・9の前夜祭で翌日の意気込みを聞かれて)

1ヵ月前に破壊王から対戦要求を受けたにも関わらず、試合前日になって今頃コンディションの調整に入るドラゴン。どう考えても遅すぎるだろ。

小川を倒さない限りは本当のスタートと言えない

H12年10月9日 vs橋本戦試合後のコメント

ドラゴンの社長就任以来、この日を迎えるまで主に『東スポ』紙上を中心に大河ドラマを続けてきたドラゴンvs破壊王ストーリー。数々の迷場面を生み出した二人の物語も、コブシで殴り合ってわかり合うという、青春ドラマのような闘い、そして破壊王の「今日からすべてが始まります」というコメントで一つの決着を見たかのように思われた。しかし! 我らがドラゴンのコメントはこうだ。「小川を倒さない限り本当のスタートとはいえない」。なんと丸一年も続いたこのストーリーも、ドラゴンにとってはまだ始まってもいなかったのだ。

なぜだ!!

藤波体制からの〝亡命者〟が改心!?

「あの頃の私は、子どもでした……」

まさかのドラゴン完全擁護!!

全日本プロレス

西村修

昨年秋、常識的な言動で知られていた西村修が、無我ワールド・プロレスリングから全日本プロレスへ非常識な電撃移籍!! しかも業界一のドラゴン派だった西村が、「藤波さんは優柔不断」などドラゴンを手厳しく徹底批判!! 鉄壁の師弟関係だった両者のあいだは完全にヒビが入ったように見えた。今回、本誌では約半年ぶりに、「藤波辰爾に関して」西村にインタビューをオファー。だが、現場で待っていたのは、じつに意外な言葉だった……。

聞き手／真下義之　大会撮影／平工幸雄

エ～！　ホントなの？　06年8月3日、後楽園ホールで旗揚げした無我ワールド。その舞台裏では、西村に社長を任せるはずだったドラゴンが突如社長に就任など、チグハグな展開が続出したが、西村はまさに無我の境地に到達、すべてを許した模様。

――今回はかつて行動をともにされ、いま袂を分かった藤波辰爾さんについて、藤波体制から〝亡命〟した西村さんにうかがいたいと……

西村　（さえぎって）今回は『ｋａｍｉｐｒｏ』さんが期待されているようなことは言えないですよ。

――えっ！　どういうことですか？

西村　昨年末、無我ワールド（・プロレスリング、現・ドラディション）を離れたとき、だいぶ過激なことを言いましたけど、いまはすっかり〝いい人〟になってますから（笑）。

――え～っ。無我ワールドから全日本プロレスに電撃移籍されたときは、「藤波さんは何もしていない」「カストロか？　金正日か？」と、厳しい言葉を連発されてましたけど。

西村　まぁ、新しい行動を起こすときは、批判はつきものですよね。実際に藤波さん関係の方は、全員敵に回してしまいました。いまだに藤波さんの後援者やスポンサーさんとか、電話に出てもらえない方々もいますし。

――あ、やっぱりそうですか。

西村　ただ、あのときは非常識と言われようが仕方なかった。でも藤波さんとは、自分が95年に新日本プロレスから、海外遠征からの帰国を拒否をしてから反長州派とされて。そこで藤波派入りした感じになってからの付き合いで。

――長州さんからの命令違反がきっかけで、無我につながっていった、と。

西村　自分のボスであり、ある意味で親父というか。人間の生き方やプロレスを、一から百まで教えてもらった……。そのボスのもとを離れて、半年経って、偉大さ、デカさが見えてきたのは確かです。

――んあ～！　でも無我ワールドでは、藤波さんの言ったことがコロコロ変わったりで大変だったみたいで。

西村　……まぁ、長州力とは１８０度違いますよね。長州力は、イエスかノーかハッキリしてて、「自分の考え以外は認めない」人。逆に藤波さんはなぜイエスかノーが変わったりするかというと、「自分だけの意見がすべてじゃない」とわかっているから。そこが勘違いされてるんでしょう。

――ただ、悪く言えば、優柔不断という感じもしますけど……。

西村　よく言えば、かなり柔軟性があるってことですから。とくに私が野毛の道場イズムと違った、ヒロ・マツダ道場やヨーロッパから学んだものを取り入れても、藤波さんは認めてくれましたし。

――でも無我ワールド旗揚げ時には、藤波さんから西村さんに「社長をやってくれ」と言われたあと、旗揚げ当日にパンフレットを開けたら、藤波さんが社長になっていた話とか聞くと、簡単に許せない気がしますが。

西村　それもね、いまとなってはどうでもいいことです（笑）。

――ダハハハハ！

西村　いまは怒りもストレスも何もないし、感謝の気持ちしかない。その社長の話も「言った・言わない」はあったんでしょうけど、いま考えるとスポンサーや企業的にも、藤波さんが社長になるのは当然ですよ。そこをどうこう言ったのは私の間違いですし、藤波さんなんかは対猪木さんでは、私と藤波さんのことが問題にならないぐらい、振り回されたんじゃないですか？

――藤波さんを思いやる境地にまでいきましたか！

西村　全日本に移籍したときには、ファンから垂れ幕で「男の恥だ」とも書かれましたけど……。

――あれはムカついたでしょうね。

西村　いや、ホントに垂れ幕のとおりですよ（しみじみと）。

――そこまで肯定しますか！

西村　逆に私みたいなワガママなできそこないをよくも無我に絡めてくださったというか（真剣な表情で）。

――でも当時は、西村さんのプランの返事がこなかったり、ひっくり返ったり大変だったようですけど。

西村　ただ、無我ワールドを旗揚げしたとき、自分は営業とか経営の知識はまったくゼロだったんですね。営業はいま猛烈に勉強してますけど。もともと新日本の選手は、練習して試合してりゃいいって、チケットを売らない。インディーの選手なんか、チケットを売る能力とか凄いけど、新日本ではたった10枚のノルマが達成できない人もいましたし。食事に行ってもごっちゃん精神で、人がおごるのはあたりまえ。社会を勘違いしてる部分があった。

――しかもバブル全盛でしたから。

西村　自分も無我を旗揚げした当時、田中（秀和）さんと「有名な外国人選手を呼ぼう」ってプランして、それが藤波さんに却下されると「なんでだ！」って気持ちはありましたけど。外国人選手を呼ぶのは、何百万もコストがかかるし、中途半端な選手では、集客の見返りがないですから。ホントに無知でしたね……。

――ちなみに藤波さんの営業能力は凄かったんですか？

西村　やっぱり昭和のスーパースターとして知名度が抜きん出てますから。飛行機や電車に乗ろうが、ラーメン屋さんにしろ、ドライブインにしろ、どんな田舎だって顔が知られてます。そういう人が動いたら強いし、いまこそ自分もかなりチケットをさばけるようになりましたけど、藤波さんは１０００枚単位でしたからね。

いまは怒りもストレスも何もないし
藤波さんには感謝の気持ちしかない

西村×ドラゴン〝愛憎〟の師弟年表

95年10月　西村が海外武者修行から帰国。
95年10月　西村、ドラゴンの自主興行『無我』に参戦し、以後、レギュラー出場する。
98年8月　西村、後腹膜腫瘍のために長期欠場へ。
00年6月　西村がガンを克服し、新日本プロレス日本武道館大会でのドラゴン戦で1年8ヵ月ぶりに復帰。
01年9月　西村がドラゴンと組んで、ＩＷＧＰタッグ王座を奪取。防衛は一回のみ。
06年1月　西村、新日本プロレスを退団。
06年6月　ドラゴン、何度も引き延ばしたあとに新日本プロレスを退団。
06年7月　無我ワールド・プロレスリングの社名発表。名誉顧問にカール・ゴッチが就任。
06年8月　後楽園ホールにて、無我ワールドの旗揚げ戦開催。挨拶は西村が担当。
06年9月　シリーズ最終戦の後楽園大会でドラゴンvs西村戦が60分3本勝負で行なわれ、西村勝利。
07年7月　ドラゴン、西村の師であるカール・ゴッチがフロリダ州タンパで死去。
07年9月　ノア日本武道館大会にドラゴン＆西村組出場、相手はともに初対決となった三沢光晴＆潮崎豪。
07年9月　『ハッスル』後楽園大会で西村修がニシム・ラマとして初登場。
07年10月　無我ワールド後楽園大会の試合後、西村は車で逦走。そのまま全日本プロレス代々木大会に乱入！
07年10月　全日本プロレスは、西村と征矢学の入団を電撃発表。西村は「藤波さんは何もしていない」「無我の商標登録を持っているのは私」「千葉の道場を管理していたのも私」と無我やドラゴンを徹底批判。
07年10月　ドラゴンが西村に「最初に無我を立ち上げたときの志は一緒だった」「こういうときこそ人間の本性が見える」と痛烈コメント。
07年10月　西村は坂口征二のもとを訪れて一連の騒動を謝罪も、荒鷲は「藤波に謝れ！」と断罪。
07年12月　後楽園大会を最後に無我ワールドが団体名をドラディションに変更。
08年7月　ドラゴン、退職慰労金など総額約５０９４万円の損害賠償を求め、新日本とユークスを提訴。

見てみぃ、この笑顔!! 無我ワールドを旗揚げ時にドラゴン邸で開かれたハッピーなホームパーティの様子。ドラゴン自ら、バーベキューを焼く大サービス。一致団結していた無我勢だが、その結束は長くはもたなかった……。

——それが無我ワールドを支えていた、と。あと、藤波さんはテレビ出演の仕事も多いですけど、それで会議に出られなかったりして、選手に不満があったとも聞いてます。

西村　試合がないのに、藤波さんにはテレビの仕事があるから、そういう声があったのは事実ですけど、ヤキモチでしかない。だったら、自分もオファーが来るくらいの知名度になってみろって話ですよ。でもNHKのレギュラーなんて、よっぽどじゃなきゃ、無理でしょ？

——ええ。そこは藤波さんにしかできないことでしょうね。

西村　営業のやり方も、経費をかけずに「電話ですますように」となったとき、「売れるハズがない！」と選手一同で反対しましたけど、逆に考えたら、藤波さんは電話ですませられる人脈と信用と実績があるんです。

——はぁ〜。藤波さんのスポンサーってそんなに多いんですか？

西村　ヘタしたら、全都市にいるんじゃないですか。武藤さんもそうですけど。だから、巡業では全都市で食事会ですよ。そういう意味でも、所属選手、その家族まで責任をとれるのか？　と言ったら、当時の私にはその器はありませんでした。いまなら、少なからず自信はありますけども。

——ただ、リーダーとしては「優しすぎる」という声もありますけど……。

西村　でも、長州力が100パーセント、ボスとして素晴らしいかというと違うと思いますし。無我ワールドもいまの時点では失敗かもしれないですけど、藤波さんだけの責任じゃない

——藤波さんにこれは申し訳なかった、というのはありますか。

西村　もしかしたら、『ハッスル』に出たことかもしれませんね。

——ええっ⁉　あれは藤波さんの代わりに出たと聞いてますし、ちゃんと藤波さんに許可もとったんですよね。

西村　もちろん許可はとりましたけど。無我ワールドのスポンサーから「プロレスの原点に戻るんじゃないのか？」と厳しい反応が戻ってきて迷惑をかけましたし、あれで無我ワールドの流れが大きく変わってしまった。ただ、自分が

藤波さんの功労はとんでもなく偉大 慰労金は、払うべきなんじゃないかな

『ハッスル』に興味があったことは確かですし、（カール・）ゴッチさんの死で自分の興味のあることをドンドンやる気持ちになってたし、WWEをアメリカで観たことも大きかった。そのタイミングではしょうがなかったけど、迷惑をかけたのは間違いないですね。

——逆に、いまも藤波さんを悪く言う人はどう思いますか？

西村　ほかの人はわかりませんが。私に関して言えば、私が子どもだったからです（キッパリ）。ただ、あの時期はガンのときと同じくらいのドン底状態だったし、経済的にも進路変更まで考えさせる2年間でしたから。

——貯金を食い潰されたと聞いてますが……、そういう意味でも藤波さんを責める気持ちはない？

西村　まったくありません！

——じゃあ、もう一回、お仕事したいっていう気持ちは？

西村　ドラディションに戻るのはありえませんけど、師弟関係は永遠ですから。そこは、私と藤波さんにしかわからない。吉江（豊）やヒロ（斎藤）さんも、ケンカ別れして辞めたわけじゃない。連絡は一切とってませんけど。

——あのときは坂口（征二）さんにも怒られてましたよね。

西村　「誰よりもおまえのことを心配して面倒を見てきたのは、誰なんだ？」って……。坂口さんには辞める経緯を話したわけじゃないけど、それを全部言っても、坂口さんが正しいでしょうね。ただ、あのときはボートに乗って、キューバからマイアミに逃げるような感じで無我夢中でしたから。

——「移籍というより亡命です」とおっしゃってましたね。

西村　キューバ人で、汚いスペイン語しかできないのにアメリカに渡って、新天地で生活している中、いまなら素直にキューバに「ありがとう」と言えるというか。私だけ逃げたのも事実だし、しかも仲間が残っているわけです。ただ、その仲間がまだ残っているということは、それはそれで居心地がいいのか、キューバで言うなら、極上の酒があるのか、はたまた葉巻があるのか。

——確かに、そのあとはなんとかまとまっている感じですよね。

西村　ただ、亡命するのも大変なパワーが必要ですし、アメリカに渡るという一つの目的で自分は30くらい失なうものがありましたよね。

——なるほど。最後に藤波さんが慰労金を要求している訴訟のことをうかがいたいんですが。

西村　新聞や雑誌を読んだだけですから、詳しくはわからないですが、実際に藤波さんは凄まじい数の女性ファンを獲得し、ドラゴンブームを巻き起こした。功労はとんでもなく偉大なものですから。それを考えたら……、払うべきなんじゃないかな、と。

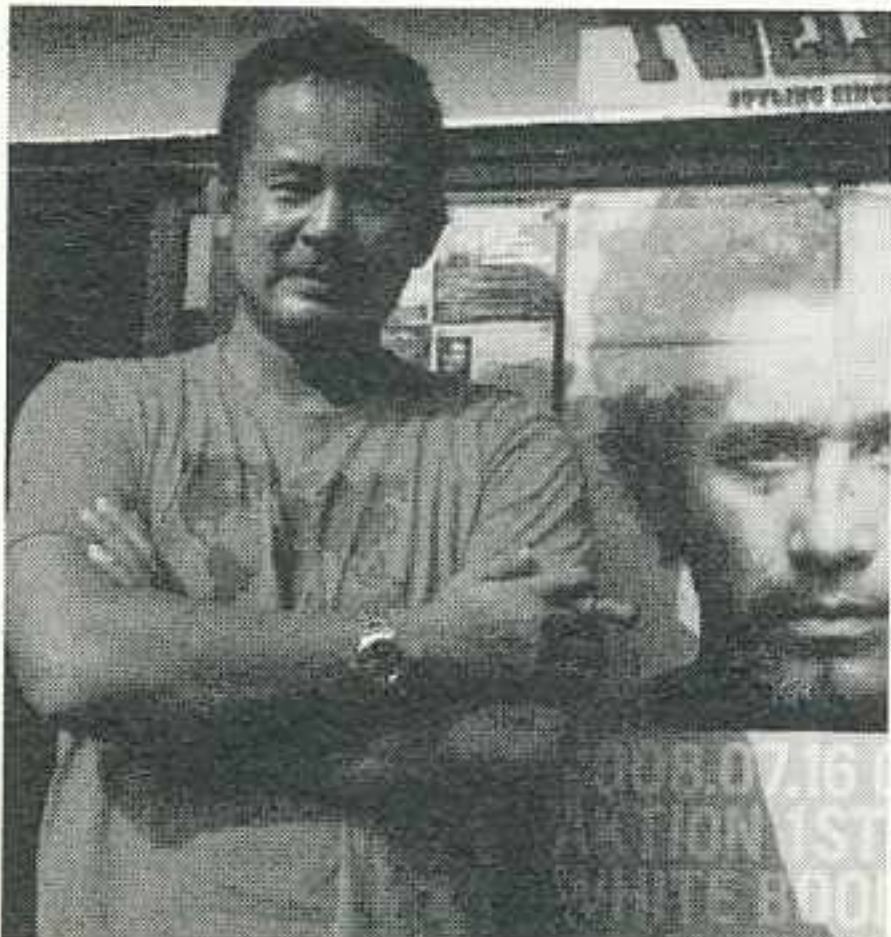
——あ、払うべきですか。

西村　藤波辰爾の全歴史を考えたら、5000万円でも安いんじゃないですか。ヘタしたら、2〜3億払ってもいいかも。私が裁判長なら、2億5000万円の支払いを命じます（笑）。

——ダハハハハ！

西村　……まぁ、そんな感じで、いまの自分は亡命には後悔はないけど、祖国愛は出てきました（笑）。

——わかりました。いつか、完全和解する日が来るのを楽しみにしてます！

【08年8月2日／千葉・『THREE DICE』にて収録】

にしむら・おさむ■1971年、東京生まれ。90年に新日本プロレス入門。新日本を退団後は、無我ワールド・プロレスリングに参加も、07年10月に全日本プロレスに電撃移籍。
※今回、取材したのは、西村の日本のホームタウン、千葉県太東にある俳優・真木蔵人氏の店『THREE DICE』。8月9日には、真木氏と全日本の無料コラボイベントも開催！

■『THREE DICE TAITO』千葉県いすみ市岬町中原125-12　TEL.0470-87-9065

kamipro SHOPPING

Back Number

［RADICAL特選劇場］

敵対すべきか? 楽しむべきか?
マット界の黒船襲来を振り返れ!

No.41 WWF特集号Ⅰ

WWF（現WWE）の地上波放送決定を機に、初めてビンス・マクマホンを表紙にWWFを大特集したのが本誌第41号。マット界の裏側を描く『ビヨンド・ザ・マット』を徹底紹介しながら、黒船襲来前に日本マット界へ「カミングアウトできるのか?」を突きつけた一冊!

No.47 WWF特集号Ⅱ

02年2月、リングス活動休止、ミスター高橋本発刊、WWF日本上陸（チケットは15分で売り切れ）というマット界の激変期に、「WWF観ますか? それともプロレスやめますか?」のキャッチコピーで、再びWWFを大特集。武藤敬司、馳浩もエンタメプロレスの魅力を大放談!

日本マット界への アメリカ 文化侵略史は RADICAL で読める!!

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

［販売元］㈱ダブルクロス（平日13:00〜19:00）

注 **No.92** 以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp
でお買い求めください。

バックナンバーを買わない……

キサマはクビだ!! You're fired!!

元祖! 紙のプロレス

Back Number

すべて 50%OFF!!

No.14 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
［表紙:前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.15 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
［表紙:前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.17 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
［表紙:前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

~~1260yen~~⇨630yen
パンクラス公式読本「矛」「盾」
［表紙:前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

紙のプロレス RADICAL Back Number No.16 ➡ No.87

No.16 1999.03 780yen
格闘ノストラダムス!
［表紙:前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 840yen
"新"プロレスとは何か?
［表紙:小川直也］田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

No.34 2001.01 840yen
『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
［表紙:小川直也］田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 840yen
純プロレスを徹底検証!
［表紙:サクマシン（イラスト）］ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

No.36 2001.02 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
［表紙:橋本真也（イラスト）］ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 840yen
小川直也は是か非か?
［表紙:髙田延彦（イラスト）］忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 840yen
前田日明は是か非か?
［表紙:前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 880yen
地上最強のプロレスとは?
［表紙:アントニオ猪木］蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

No.41 2001.08 880yen
"最後の黒船"WWF来襲!!
［表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア］リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 880yen
アントンパワー大爆発!!
［表紙:アントニオ猪木］ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実"辻よしなり／高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
［表紙:桜庭和志］ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
［表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ］その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 880yen
一寸先はハプニング!!
［表紙:アントニオ猪木（ホームレス姿）］悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

No.46 2002.01 880yen 完売
田村潔司、…討ち入り!
［表紙:田村潔…ス! 金原×和田、浅草キッド…EPで勝利! エル・カネック／キ…

No.47 2002.02 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
［表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア］"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

No.48 2002.03 880yen
桜庭、満開の日は近い!
［表紙:桜庭和志］奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

No.49 2002.04 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
［表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭］和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田／菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
［表紙:桜庭和志］「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁!

No.51 2002.06 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
［表紙:橋本真也］両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
［表紙:橋本真也、小川直也］全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
［表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ］"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

No.54 2002.08 880yen
『Dynamite!』を大総括!
［表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ］"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
［表紙:髙田延彦］「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!／金原が『PRIDE』参戦!／メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 840yen
驚ガクの6周年記念号
［表紙:高山善廣］サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 880yen
夢の対談、大連発号!
［表紙:武藤敬司&船木誠勝］夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
［表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル］いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
［表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル］ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
［表紙:橋本真也&小川直也］裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
［表紙:ミルコ・クロコップ］ヴァーと登場! 佐々木健介／現役復帰? 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 880yen
マット界、超絶リボーン!!
［表紙:橋本真也&小川直也（イラスト）］「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
［表紙:桜庭和志］"異次元格闘技戦戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
［表紙:ミルコ・クロコップ］最後の皇帝大炎上! ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
［表紙:ミルコ・クロコップ］ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場!／『東スポとは何か?』

No.67 2003.10 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
［表紙:ヴァンダレイ・シウバ］ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
［表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長］大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

No.69 2003.12 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
［表紙:橋本&小川］出てこい! 泣き虫! 橋本&小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場!／田村潔司／美濃輪育久

No.70 2004.01 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
［表紙:ミルコ・クロコップ］シウバに近藤有己が宣戦布告!／健介&北斗WJの真実を語る!／紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
［表紙:ハッスルイラスト］『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／川田利明初登場!／猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
［表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ］GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

No.73 2004.04 880yen
最も過酷な道を行く男!!
［表紙:小川直也］GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
［表紙:小川直也］PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

No.75 2004.06 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
［表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦］シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

No.76 2004.07 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
［表紙:桜庭和志］小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 880yen
小川vsヒョードル決定!!
［表紙:小川直也］「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

No.78 2004.09 840yen
PRIDE GP徹底総括号
［表紙:小川直也］衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

No.79 2004.09 840yen
髙田総統がビターンと降臨
［表紙:髙田総統］キャプテンに休息無し! 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

No.80 2004.10 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
［表紙:ミルコ・クロコップ］ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 880yen
究極のSADAME、迫る!!
［表紙:桜庭和志］ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／草野仁

No.83 2005.01 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
［表紙:ミルコ・クロコップ］04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表! 小川直也／橋本×船木対談

No.84 2005.02 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
［表紙:セルゲイ・ハリトーノフ］"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
［表紙:前田日明&髙田総統］PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田／パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
［表紙:ヴァンダレイ・シウバ］大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

No.87 2005.05 860yen
PRIDE GP開幕&大総括!
［表紙:吉田秀彦］敗れてなお咲く花あり!! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶「kamipro Hand」で注文 ❷電話注文⇨03-5368-1797 ❸メール注文⇨kapra@kamipro.com

※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

ヨウ! みんな元気にしてたかい? "読者ペイジ"・ジャクソンのお出ましだぜ! あ、そういえば、聞くところによると、オレの名前を真似している"ランペイジ"・ジャクソンというヤツはたいへんなことになってるらしいなあ。とばっちりが来そうだから、最近、マイケル・"読者ペイジ"・ジャクソンに改名しようか悩んでいるところだ。カズコ・ホソキに相談しないとな! よし、さっそく行ってこよう!! おっと、ボーイズ&ガールズは置いてけぼりにはしないぜ! もちろん先に読者ペイジのスタートだ。せーの、Check it out!!

125号へのお便り紹介

青木真也×ジェイソン・"メイヘム"・ミラーの対談がよかった。まさか二人の個性的キャラが対談するとは。びっくりしました。メイヘム選手はバカだけど強い。ただのバカではない、二人は最高です!
【福島県・紺野春樹さん・会社員・28歳】

Ⓓなにぃ! キャラの濃さなら、オレだって負けてないだろ!? (鎖をブンブン振り回しながら)。……なーんつってな。そんなことでオレがジェラシーすると思うかい? もしそうならオレも甘く見られたもんだぜ! でもよお、バカって言うヤツのほうがバカなんだぜ!! クックックック。

谷川さんインタビューがよかった。なんか、すげぇ偉い人なんじゃけど、親近感あるし、なんじゃかんじゃゆーて、日本の格闘技界を支えとるし、頼りにしてますので、お願いします。
【広島県・片岡光教さん・大工・31歳】

Ⓓなるほど……。これはブラックマジックにかかっちまったボーイだな。でも、確かにサダハルンバは、最近オレも凄いと思うぜ。ただ、ボーイズ&ガールズ、サダハルンバってあだ名ははたしてどうなんだい!? ヤングたちにちゃんと届いているのか、心配だぜ!

川尻達也with山田武士トレーナーのインタビューがおもしろかった。勝ってほしかったが、負けてなお強しを印象づけた! 山田トレーナーの試合も観たいぞ!
【石川県・浅井清治さん・会社員・35歳】

Ⓓ山田トレーナーの試合に興味があるなんて、キヨハルはまったくいいセンスしてるじゃないか! さすが、常連投稿者だな!! 前の読者ページ担当のアイツも、よろしく伝えてほしいといってたぜ。いやー、キヨハルはやるなあ! クックックック。

宮戸さんの超バック・トゥ・レスリングがよかったです。歴史に基づく真のレスリングの姿、非常に勉強になりました。宮戸の呼び出しまで含めておもしろかったです。思ったのですが、宮戸さんはプロレス界のいわゆる大御所(マサ斎藤、藤原組長などなど)といったところにも自説をぶつけられるのでしょうか。いや、ちょっと思っただけです。
【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・43歳】

Ⓓミ、ミヤト……。オレはよく知らないが、ミヤトというヤツにはなんとも言えない迫力を感じるよ。あ、『kami-pro』にはポッドキャストというヤツがあるんだろ? それに出てもらうってのはどうだい!? 編集さん、検討してくれヨウ!

「三崎和雄 世界ケンカ旅に出るぞ!!」の記事がよかった。ジモン×三崎の記事でかなりコーフンしまして、今回の三崎も期待していました! 『kami-pro』は三崎を引き出すのはうまいと思いますね。
【秋田県・安士信章さん・養蜂業・20歳】

Ⓓ「三崎を引き出すのは」の「は」が気になるところだが……、とにかく、おほめにあずかり、サンキュー! まったく関係ないけど、ノブアキは20歳というヤングボーイなのに養蜂業やってるなんて、凄いじゃないか! 今度、オレにもスイートなハニーを送ってくれよな!!

久保豊喜インタビューがよかった。『DREAM・5』の宇野の入場を生で観たら、この記事の重みが増した気がします。守山さんもきっと宇野のあきらめない姿を見ていたような気がします。
【大阪府・ピッコロ大魔王さん・もうすぐ就職だから……25歳】

ⒹOH! ピッコロは大阪のボーイだから、さぞや『DREAM・5』を堪能したんだろうなあ。もしかして、ピッコロもカオルのファンなのかい? これからのカオルも見逃すなよ! それにしても、ピッコロはもうすぐ就職なのか。やったじゃないか! もう一踏んばり、やっちまいな!! クックック。

125号
おもしろかった記事
RANKING

NO.1 マサ斎藤×辻よしなり
NO.2 桜庭和志とは何か?
NO.3 三崎和雄
所英男×日村勇紀
宮戸優光

125号の人気ランキングは白熱のデッドヒートだぜ! あと10枚ハガキが来てたら1〜5位、まるっきり入れ替わっちまってたかもな!! そん中でも1位がマサ斎藤×辻アナなんて、シブすぎるぜ。これがまた、40代がハガキを送ってくれてるから泣けるってヤツだ。でも……、ヨウヨウ! もうちょっと10代、20代もはりきって投稿してくれよ! もちろん1ケタ代のちびっ子たちもウェルカム!

栃木県・大野洋人さん/これは皇帝ってヤツだな! オレもシルビアとの試合は観たぜ!! "最強"って、たまらないぜ!

栃木県・大野洋人さん/今回の読者ペイジはヒロト祭りなのかい? いっぱい投稿してくれてるじゃないか。まったく、サンキューだぜ!

栃木県・大野洋人さん/なんだよ、こんなに一生懸命書いてくれて。読者ペイジ担当として、照れるじゃないか! ただ、ジャカレイの目、白目が多くて恐いって思うのはオレだけかい?

ひさびさにS波氏からコンタクト!?
なぜか『kamipro』で
某・国民的写真週刊誌キャッチフレーズ大募集!

なんてこった〜い。S波氏がひさびさに連絡をくれたと思ったら、こんなことで困ってたのか。もっと早く言ってくれよお。いつでも力になるぜ! というわけで、みんな協力してくれるよな! まさしく「国民的写真週刊誌」とか、そんなヤツだ! ……といっても、こんな本を読んでるヤツらにナイスアイデアなんて、浮かぶわけねえよなあ。なーんつって。クックックック。これはある意味、挑発ってヤツだ! そうしたらみんな、ナニクソってなるだろ? ってわけで、みんな、よろしく頼むぜ!

採用されたボーイズ&ガールズには、なんと!! 5万円贈呈! らしいぜ!

「5万円贈呈」係まで送ってくれ!
おっと送り先はいつものハガキの送り先と一緒だからな!
間違ってK談社に送ったヤツは……**ボッシュートだぜ!**

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ"ジャクソン

所英男×日村勇紀の対談がよかった。日村が格闘技雑誌に出ているのが新鮮だったから。
【埼玉県・星喜幸さん・学生・22歳】

Ⓓそりゃあ、もちろんどこにも出てないんだから新鮮そのものだぜ！　新鮮といえば、この前、築地で新鮮な寿司をいただいた。22歳のホシから見たら、これ以上ないヒャッホーな感じだろ!?　全部食べたあとに、あがりをいただいたんだ。その瞬間、オレ、レゲエな感じだけど、「和」っていいよなって思った（しみじみと）。おおっと、話がズレたからって、むくれるのはご勘弁だぜ！　アッハッハッハ!!

サスケと対談していた天山選手の記事を見て、やっぱり天山は、この髪型はちょっと？　と思った。角刈りヘアに戻してほしい。
【埼玉県・高橋徹さん・会社員・23歳】

Ⓓおっと！　ヒロヨシのヘアにご不満なボーイなのかい？　オレはこのヒロヨシもいいと思うけどなあ～。ま、そこはヒロヨシの好きにさせてやろうぜ！　それより、トオルはオシャレにこだわるタイプみたいだから、ぜひ意見を聞かせてくれ。オレのヘア&コスチュームって、はたしてイカしてると思うかい？　最近、オレの人生、このままでいいのか不安なんだ……。

ひさびさ登場の堀辺先生のコーナーは凄くおもしろいです。待ちに待ったか

いがありました。最高です。総合格闘技のパイオニアとしての光と影。桜庭選手はスターであるがゆえに大きな苦悩を抱えているんですね。この記事を読んで、これから選手に対する見方が変わりました。「武士の人生は、美しく、そして悲しい」。けだし名言です。
【愛知県・瀬川秀樹さん・会社員・32歳】

Ⓓう、うっ（嗚咽）。なんていいお便りなんだ……。思わず感激してしまったじゃないか。サクラバの立場はオレもわからなくないからな……。え？　なんでオマエみたいなヤツがって？　そんなこと言うなよお！　オレだって、中学校の学園祭じゃあ、ナラしたもんなんだぜ！　っていっても、信じないだろうなあ。オレが黒柳徹子のものまねで一躍学園のスターになったことなんて。クックック。

マサ斎藤×辻よしなり対談がおもしろかった。毎週必ず観ていたが、マサさんの解説は解説になってなかったがおもしろかった。また、辻さんが蝶野たちnWoに何をされても助けないマサさんがよかった。
【宮城県・中川義雅さん・会社員・42歳】

Ⓓおっと、これは125号でトップを取った記事だな！　さすがだぜ！　……ん？　コイツはヨシマサからの投稿かい？　もしかして、自分も「マサ」だからこれに決めたんじゃないだろうな？　ええ!?　そんな不純な動機で投稿してくるなんて、〝読者ペイジ〟・ジャクソンさまもナメられたモンだぜ!!（怒）。

佐藤正行×武田有弘の対談がよかった。かつて紙プロに週プロをサセンされたと書かれて問題になった佐藤氏がMMA雑誌と化した『kamipro』に本当に出てくるとは！　スタッフが入れ替わったりしたからかな。まさかってことはプロレス界によくあることだが、この人もやっぱりプロレス業界人だったんだな。
【三重県・ポルタレンさん・会社員・34歳】

Ⓓサトウのおもいきりの良さには脱帽だな！　アッハッハッハ!!　そうすると、オレも『週プロ』あたりからオファーが来たときに、出演しないといけないのか……。ちょっと、それは考えさせてくれ。

DREAMライト級GP決勝ラウンド夢の大予想がおもしろかった。読者側のアンケートと関係者・識者側のアンケートに違いがあるのがとてもおもしろかったです。私はやっぱ読者なのですね。青木vs川尻で青木と思います。誰の予想が当たるのか、とても楽しみです。
【福島県・蓬田貴宏さん・会社員・34歳】

Ⓓこれは『DREAM・5』が行なわれる前の投稿だな！　タカヒロ、ユーはおもいっきりハズレてるじゃないか！　クックック。しかし、ヨアキムが優勝だなんて、いま流行の「ヨソウガイ」ってやつだろ!?　……え!?　もしかして、これも古かったかい？

「マヌーフが炎のコマを出した」、「秋山は悪のIQレスリング」、菊地成孔さんのセンスは凄いですよね。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・41歳】

Ⓓ確かに、ナルヨシはオレのグッドセンスに匹敵するジェントルだな！　……あ!!　そういえば、いま「確かに」というのが流行ってるらしいじゃないか。若干、遅めにスピークするのがポイントだって聞いたけど、本当かい？　まさか、オレをダマしてるんじゃないだろうな！

〝読者ペイジ〟ジャクソンの記事がおもしろかった。僕の書いたコメントが載っていて、凄く嬉しかったし、返事のコメントが凄くおもしろかったから。
【福井県・大平一さん・無職・31歳】

Ⓓなんてこったい！　もしかして、これはオレのことをほめてくれてるのかい!?　やるじゃないか、ボーイ！　クックック。でも、あんまりほめてもなんにもあげらんないぜ。なんていったって、今日のオレは手ぶらだからな！　手ぶら……。それは男のロマンってヤツだぜ!!　おっと、言い訳がましいだなんていうなよな！

大阪府・剣洋人さん／これはまたクレイジーなメイヘムを書いてくれたな！　オイ！　口から飛び出てるのは、コメ粒かい？　ヒャッホー!!

狂犬
柴田勝頼

佐賀県・北村孝幸さん／これは、「その口も黙らせてやりたいですね」のシバタだね！　オレはあのセリフで一気にシバタが好きになったよ！　変態座談会、やろうぜ、編集さんヨウ!!

目撃情報が止まらない!

★先日、新宿1丁目でマッスル坂井を見かけました。もう一人一緒に歩いてた人もプロレスラーだったかもしれません。ボクがハッとした顔をすると、そのもう一人の人が反応して、「気づかれてますよ」的なことをマッスルさんに耳打ちしてましたが、マッスルさんは何も気にしてないようでした。もうちょっと気にしてほしかったなあと、ちょっと寂しかったです。【匿名希望】

★『DREAM.5』の開場時、一般入場口の一番先頭に世界の岡見選手が律儀に並んでいました。そして開場と同時に一番乗りで入っていきました。関係者入場口から入ればいいのに……。【神奈川県・大内和彦さん】

ワッツ!?『kamipro Special』AUGUSTの投稿紹介は？ だって？ 慌てるな! 次号でたっぷり読ませてやるから、ちょっとウエイトしてな!!

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって!　待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんと来い!
ってヤツだ。

●譲ってほしいもの
●タレコミ情報
●選手に対するコメント、試合の感想
●その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・
イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「逮捕」係まで。

携帯サイト『kamipro Hand』からの
投稿もできるぜ。

今月のタレコミ

結婚だなんておめでたいじゃないかい!!

おっと! これはナルヨシ・キクチが書いた本『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』の担当さんだったミスター・カタダじゃないか! 結婚したのかい!?　おめでとう!!　しかも奥さんベッピンさんじゃないか! ヒャッホー! 末永く幸せに頼むぜぃ!!

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

■アパッチプロレス軍
☎03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区
錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
☎06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区
恵美須東3-4-36
フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■上井オフィス
☎03-5766-0079
〒150-0002 東京都渋谷区
渋谷3-18-10 5F
http://blog.livedoor.jp/uwaistation/

■キングダム・エルガイツ
☎042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市
関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
☎048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
☎03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区
青葉台4丁目4番5号
渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
☎03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区
花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
☎050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区
本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
☎03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区
九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
☎045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区
岡野1-13-5 横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場
☎03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6
ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■日本修斗協会
☎03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区
豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/sshooto/

■ハッスルエンターテインメント
☎03-3221-2431
〒102-0075 千代田区三番町6-1
渡辺ビル2階
http://www.hustlehustle.com/

■バトラーツ
☎048-963-0005
〒343-0046 埼玉県越谷市弥生町9-8
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
☎03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
☎03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区
千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■CHICK FIGHT SUN
ZERO1-MAXと同じ

■プロレスリング・ノア
☎03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
☎022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市
若林区土樋236
愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■DRADITION
☎03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区
南青山4-2-4
シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
☎03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区
新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://union.ne07.jp

■ワールドビクトリーロード
☎03-3369-2211
〒160-0023 東京都新宿区
西新宿7-21-1 新宿ロイヤルビル6F
http://kakutougi-kyoukai.c om/

■DDT
☎03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区
新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
☎052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市
中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DREAM(DREAM事務局)
☎03-5775-5065
http://www.dreamofficial.com/

■DRAGON GATE
☎078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区
北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
☎03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG(K-1事務局)
☎03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区
神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/feg/

■GCM COMMUNICATION
☎03-3556-6201
〒102-0093 東京都千代田区
平河町1-4-3伏見ビル4F
http://www.g-c-m.net

■IGF
☎03-5159-3380
〒104-0061 東京都中央区
銀座1-15-2 銀座スイムビル3F
http://www.igf.jp/

■IWAジャパン
☎03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区
新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JWP
☎03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
☎043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市
中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
☎048-297-9587
〒333-0832 埼玉県川口市
大字神戸162

■MARS
☎03-5550-7308
〒169-0073 東京都中央区
銀座2-12-3 ライトビル2F
http://www.mars-k.com

■NEO
☎044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市
港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
☎03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区
久が原3-31-1(RIKIPRO道場内)
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL
☎03-5360-7728
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷5-23-7
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
☎044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市
多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■U.K.R
☎044-833-4130
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン
☎03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区
高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1- MAX
☎03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F
(株)ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
☎03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区
代々木2-23-1
ニューステイトメナ-833号室
http://www.zst.jp

マット界の周辺情報をお届け!!

kamipro Info

CARD

KIDにサク、魔王、曙さんまで124種類を網羅!

Dynamite!! なトレカが登場! 魔王の直筆サインカードも封入!!

な、なんと! エポック社から『Dynamite!!』戦士のトレーディングカードが発売! 内容はDREAMやK-1で活躍する桜庭和志、山本"KID"徳郁、"魔王"秋山成勲、所英男、船木誠勝、ミノワマン、魔裟斗など、17選手のサインカードを含む、全124種類と超豪華。1BOX=20パック入り。1パック5枚入り。一回の購入では、全種類ゲットはできないので、友だちとトレードしながら集めよう!

★『Dynamite!! OFFICIAL TRADING CARDS (BOX)』(エポック社)
★1BOX、定価6,300円(税込)★8月23日発売

DVD

当時オンエアされ試合を、ほぼ完全収録!

初代タイガーマスクがよみがえる! ファン感涙のDVD5枚組ボックス

金曜夜8時のゴールデンタイムに、毎週20パーセントの視聴率を記録し続けた伝説のマスクマン、初代タイガーマスクのDVDボックスセットが登場! ライバルたちとの名勝負はもちろん、81〜83年にオンエアされた全89試合中、ソフト化されていなかった幻の31試合を加え、87試合を収録した永久保存版! オールドファンも、タイガーマスクを知らないファンも買うべし!

★『初代タイガーマスク大全集〜奇跡の四次元プロレス1981-1983〜』(ポニーキャニオン)
★定価20,160円(税込)★9月3日発売★収録時間550分(5枚組DVD)

DVD

本誌アンケートで08年上半期ベスト興行がDVDに!

名勝負続出に観客総立ち! 『DREAM.3』の感動をもう一度!!

先月号で本誌が実施した読者アンケートで、08年度上半期のベスト興行に選ばれた5.11『DREAM.3』が、早くもDVDで登場! また、同アンケートのベストバウト1位が、この大会のセミで行なわれたハンセンvsアルバレスで、メインの宇野vs石田戦は2位だった。互いの技術と意地がぶつかり合い、壮大なドラマが創出された、DREAMの魅力が凝縮されたミラクル興行を堪能せよ!

★『DREAM.3 ライト級グランプリ2008 2nd ROUND』(TCエンタテインメント)
★定価5,040円(税込)★8月27日発売

DVD

泣いて笑って、試合はブック破り!!

青春プロレス映画『ガチ☆ボーイ』が早くもDVDで登場!!

事故で頭を打ってから記憶が一日しかもたない主人公。やがてプロレス研究会に入るが、段取りを覚えられず試合は常にガチンコ! だが、意外にも観客には大ウケするが……、というミスター高橋本で明かされた"台本"の存在を土台にし、プロレス好きにはたまらない要素がちりばめられた青春プロレス映画、『ガチ☆ボーイ』。映画を見逃した方もDVDでチェキラッ!!

★『ガチ☆ボーイ(スタンダードエディション)』(ポニーキャニオン)監督/小泉徳宏
★★定価3,990円(税込)★9月17日発売

DVD

新日本プロレスの事件簿DVD第2弾が登場!

猪木vsペールワン、国プロにTPG! 貴重な映像で当時の事件を検証!!

36年の新日本プロレスで起こった事件を映像で振り返る『新日本事件簿』が、パワーアップして帰ってきた! 今回は我らがアントンとパキスタンの英雄、アクラム・ペールワンとの伝説のシュートマッチ、ウィリー・ウィリアムスとの異種格闘技戦、両国を大暴動に導いたTPGの乱入など、破天荒で制御不能な昭和の新日本の魅力を丸ごと収録! 貴重な映像の数々は必見!

★『新日本事件簿 第二章』(エイベックス・マーケティング)
★定価7,140円(税込)★8月22日発売 ★収録時間180分

e-BOOK

マンガ原作デビューに続く第2弾!

TAJIRIが大物Xとのタッグで今度は携帯小説デビュー!!

先日、マンガの原作デビューをはたしたハッスルのTAJIRIが、今度は携帯小説の原作に挑戦! 内容は女子プロレスを舞台とした恋愛小説で、TAJIRIの実体験が反映されている。執筆は超大物Xが担当し、すでに絶賛配信中! いますぐ携帯小説サイト『おりおん☆』にアクセスして小説のタイトル「M〜愛の詩〜」を入力だ! ランキングも順調に上昇中! TAJIRI渾身の作品を見逃すな!!

★「M〜愛の詩〜」原案/TAJIRI、著/X
★携帯小説サイト『おりおん☆』 http://de-view.net/(無料)★配信中

BOOK

歴史学者がプロレスの歴史をクロニクル!

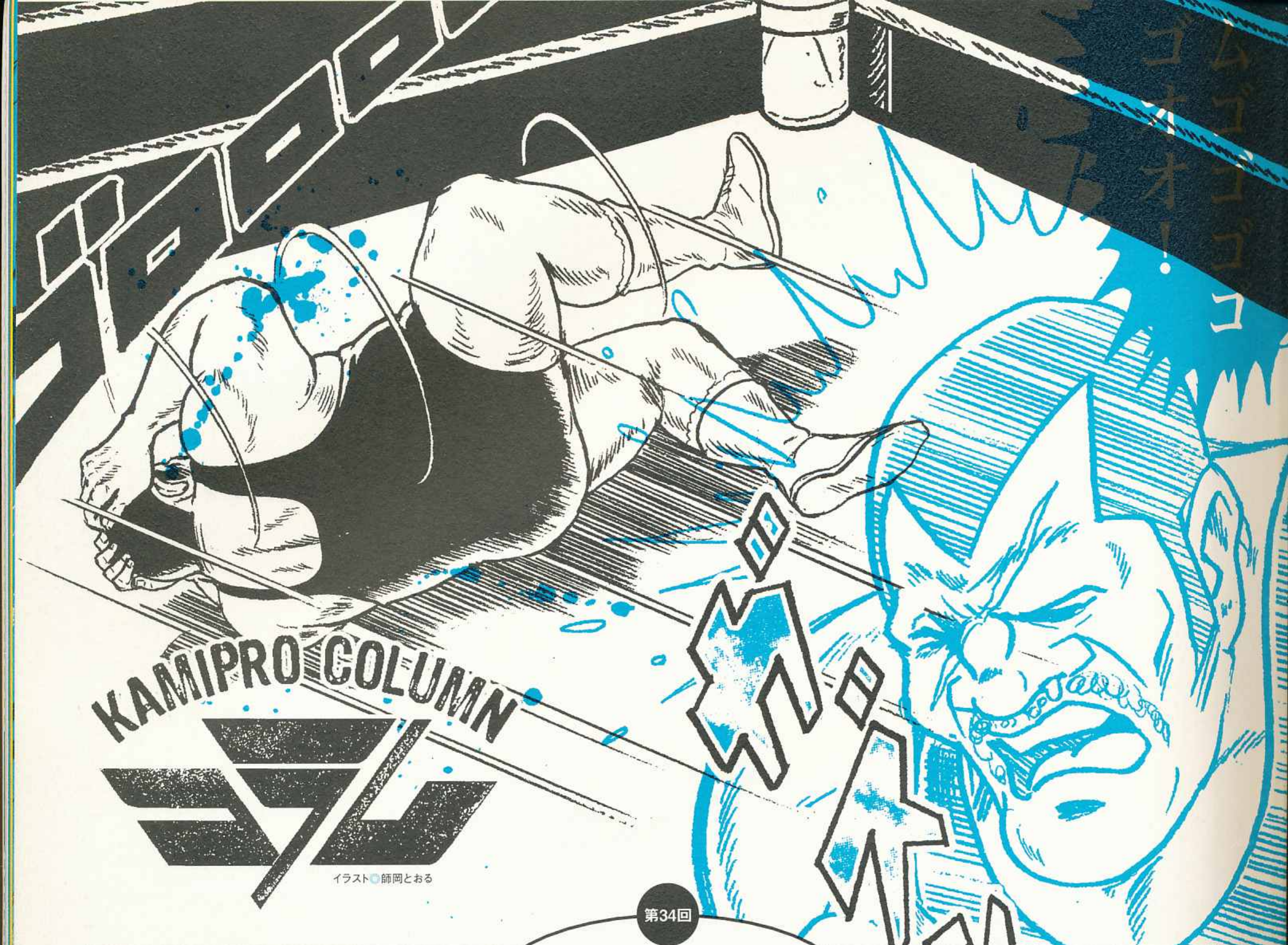
伝説のレスラー、プロレスの歴史を網羅したノンフィクション!

アメリカマット界の長い歴史を歴史学者が膨大な資料から虚飾を排して編纂! キャッチ時代の伝説のレスラーをはじめ、タッグマッチの発生やシュートからワーク移行期についての解説、悪魔的な知恵を持つプロモーターやメディアの仕掛人の役割、歴史的ギミックの数々など、現在のWWE支配に至るプロレス史を徹底分析! プロレス史を通してアメリカ文化の真実を見よ!

★「リングサイド〜プロレスから見えるアメリカ文化の真実〜」(早川書房)
★スコット・M・ビークマン著、鳥見真生訳★定価1,890円(税込)★発売中

KAMIPRO COLUMN

コラム

イラスト◎師岡とおる

第34回

ウィル・フェレルとハンセンと宇野と秋山

花くまゆうさく

リングの汁

8月公開中の映画『俺たちダンクシューター』がとても好きだ。映画は70年代のアメリカバスケの話なんだが、その70年代の雰囲気がとても心地いい。

僕らが小学生の頃、新日よりも好きだった外人天国時代の全日本プロレス。次期シリーズの来日外人選手の予告VTR（BGMが最高）を観て、ワクワクしてたあの頃（ピークは、リッキー・スティムボートとジミー・スヌーカが来たとき）がよみがえる。

なんとなく漠然だけど、AWAの匂いを感じるというか、子どもの頃、テレビや映画で観て憧れてた70年代アメリカが再現されている。夏休みの晴れた日の午後に観ると、とても心地いい映画です。

『DREAM・5』が大阪でやってるとき、僕も別件の用事で大阪にいたのだが、結果が聞こえてこないように気をつけて新幹線で夜、東京に戻りテレビで観た。

そしたらビックリしたね。これまでも何度かあったが、またしてもヨアキム・ハンセンが放送トリ!! しかも優勝!! ハンセンとTBSの相性は本物なのか（TBSは望んでないだろうが）。あの時間帯の地上波で、ハンセンが主役に踊り出るなんてステキだね。

ブラックマンバ戦からカッコよかった。スタンドでは、かなり危険なマンバに臆することなく自分から前に出ていくから、カッコいい。キッチリ極めて勝つし。

そんで決勝。もともとこのGPは一番強い青木が優勝するのが理想だと思っていたが、ハンセンならOK。おめでとうハンセン！ スタイル的に今後も負けることあるだろうけど、そのカッコよさは不滅だ。

それにしても、宇野逃げ今回も凄い。バック取られても確実に逃げる宇野選手、バック取ったら確実にチョーク極める中村K太郎選手、階級違うけど慧舟會で二人のスパーはどんな光景なのかしら？

慧舟會といえば、こないだ静岡でひっそりと戸井田カツヤvs徹肌イ郎の再戦がグラップリングで実現して凄かったみたいね。観てぇ。

秋山への憎悪が薄れてきたね。桜庭戦のVTR観るといまだにムカッとくるが、天然な発言やファッションセンスが中和して憎悪を薄めて、単なる憎悪キャラから魅力ある魔王キャラとして化けてきたような気がする（中学生的センスなサングラスセンスが好きだ）。

あと単純な理由として、憎悪が薄れたのは今回の相手が柴田選手だったからかも。次、田村戦だったら脱ヒールできて化けそう。

Hanakuma Yusaku
◎漫画『東京ゾンビ』洋書版が発売。アマゾンでも買えます。

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

金ちゃんのどこまでやるの？ 拡大版

イラスト◎中川画伯

第26回 プロレスラーなら、やっぱりアメ車!

なんか今日は「アメリカ」特集ってことでアメ車をテーマにって話なんだけど、なんでも高山（善廣）くんはカラーで自分のアメ車を紹介してるんだって？

そんなの高山くんのポンコツ「マリブ」を載せるより、俺の「コルベット」のほうがいいじゃん！ まあ、ポンコツとか言うと、高山くんに怒られるけどさ（笑）。『ｋａｍｉｐｒｏ』もわかってないよ！ アメ車ならやっぱり俺でしょう。まあ、『ｋａｍｉｐｒｏ』から取材の話が来たときは、ちょうど車検に出しちゃってて、どのみち撮影とかはできなかったんだけどね。だから、今回はコラムの拡大版で我慢することにするよ（笑）。

でも、そもそも俺はべつに車が好きだったわけじゃないんだよね。どっちかと言えば、車なんて乗れればそれでいい、走ればそれでいいぐらいに思ってたんだよ。

そんな俺が最初に「アメ車に乗りたいな」って思ったのが、ＵＷＦインターに入門する前のプロレス学校時代。

当時、新日本プロレス道場で練習したあと、プロレス学校生の仲間と、よく近くの中華料理屋にごはん食べに行ってたんだけど、その店の隣が「コルベット」のショップだったんだよね。

それを見て「なんだ、この車。カッコいいな～。いつかはこんな車に乗りたいな～」って思ったのが、始まりなんだよね。だから、プロレス入りする前からの憧れではあったんだよ。

でも、それからしばらくして、やっぱりアメ車はよく壊れるとか、燃費が悪いとか、いろいろマイナスのイメージがあったから、しばらくして興味がなくなったんだよね。で、プロレス入りしたあとは、自分でセリカのＧＴ４っていう四駆のスポーツタイプの速い車を買ったのよ。そしたら、この車が速くてね。うわ～、速いな～って、スポーツカーが気に入ったんだよ。

あと、俺の心を動かしたのは、当時、髙田さんが乗っていた日産のＧＴ－Ｒだね。俺はＵインターの初期、髙田さんの付き人だったからさ、髙田さんの運転手をすることもあったんだよね。で、ＧＴ－Ｒに乗ってみたら、これがムッチャクチャ速くてさ、６００馬力ぐらいあるんだよ。ここでさらに「速い車っていうのは、なんておもしろいんだ」って思って、だんだん車が好きになって、いい車に乗りたくなったんだよ。だから、俺は髙田さんのＧＴ－Ｒで、車に目覚めたんだよね。

でも、何かきっかけでもないと、車は買えないからさ、自分の中で大きな試合をクリアしたら、昔から憧れてたコルベットを買おうと決めたんだよ。そしたらしばらくして、チャンプア・ゲッソンリットとキックルールで闘うっていうビッグマッチが決まって、それをクリアしたんで、自分へのご褒美として、コルベットを買ったんだよ。

ただ、いざ手に入れてみると、維持費はかかるし、修理しなきゃいけないところは次々できるし、とんでもなくお金がかかるんだよね（苦笑）。これはアメ車が好きな人に共通した悩みだと思うけど、高山くんなんかも相当お金使ってると思うよ。彼はおそらく俺よりお金使ってるからね。だってエンジンを2、3回乗せ替えてるし、整備も高いところでやってるしね。パーツなんかもアメリカで買うと安いんだけど、日本で買うと取り寄せだったりするから、高いのよ。

しかも、Ｕインターの頃は、インターネットなんかもなかったからさ、高山くんにカタログを見て購入する方法を教えてもらって、よくＵインターの道場のＦＡＸを使ってアメリカにパーツを注文してたよ（笑）。

ああいうのも、一つ直すといろんなところ直したくなって、金がどんどんなくなっていくんだよね。俺なんかもハマっちゃったからさ、パーツを買うためにアメリカまで3回ぐらい行ってるからね。それでホイール４本を手荷物で持ってきたことあるから（笑）。それぐらいハマッてるんだよ。

ただ、アメリカ人って、けっこういいかげんじゃん。だから、アメリカにパーツを注文しても、違う物を送ってきたりするんだよね。それで、しょっちゅうアメリカに電話して、文句言ったりしてて、おかげで英語がうまくなってきちゃったよ（笑）。ホント、夜中にアメリカに文句の電話、何度もしたことあったもんね。アメ車は英会話上達にも役立つよ（笑）。

そんなアメ車の魅力はというと、やっぱりエンジン音もいいし、なんと言っても乗ってて気持ちいいんだよね。それから、パーツが充実してるから、どんどん自分仕様の車にできて、それが凄く楽しいんだよ。

アメリカって車を大事にする人は凄く大事にして、コルベットクラブとか、マリブクラブなんかがあって、毎週、みんなが自慢の愛車を持ち寄って集まったりしてるのよ。自分の愛車のこういうところをカスタムして、この部品はいいぞ、とか話したりして、そういうのが凄く楽しいんだよね。そして、自分でもそういう話ができるぐらいになると、さらに楽しくなって、車に情が湧いてくるというのかな。まさに愛車になっていくんだよ。

だから、お金はかかるけど、やっぱり手放せないよね。ただ、いまは原油高だからね。リッター3～4キロしか走らないでしょ？ 金銭的に厳しいよね～。もう、いまはなかなか乗れないよ。このあいだ高山くんと電話したとき「マリブ乗ってる？」って聞いたら、「月に3～4回ぐらい」とか言ってたからね（笑）。やっぱり、燃費のことを考えると、原付が一番いいよ（笑）。だから、俺は車持ってるのに、そこそこの近場だと移動は原付を使ってるんだよ（笑）。コルベットは、気晴らしに乗るぐらいになっちゃってるよね。

それでもアメ車はやっぱり好きだよね。だから去年、現役引退しようと思ったときは、一時、アメ車の販売とかやろうかな、とも思ったのよ。でも、現役続行を決意したから、愛車のためにも、もっと試合を頑張って稼がないとね（笑）。

金ちゃんの愛車コルベットの写真を載せたかったのだが、残念ながら車検中! というわけで、編集部で写真を探してみたら、小さく写ってるのだけありました。右手前の車がコルベットです。

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

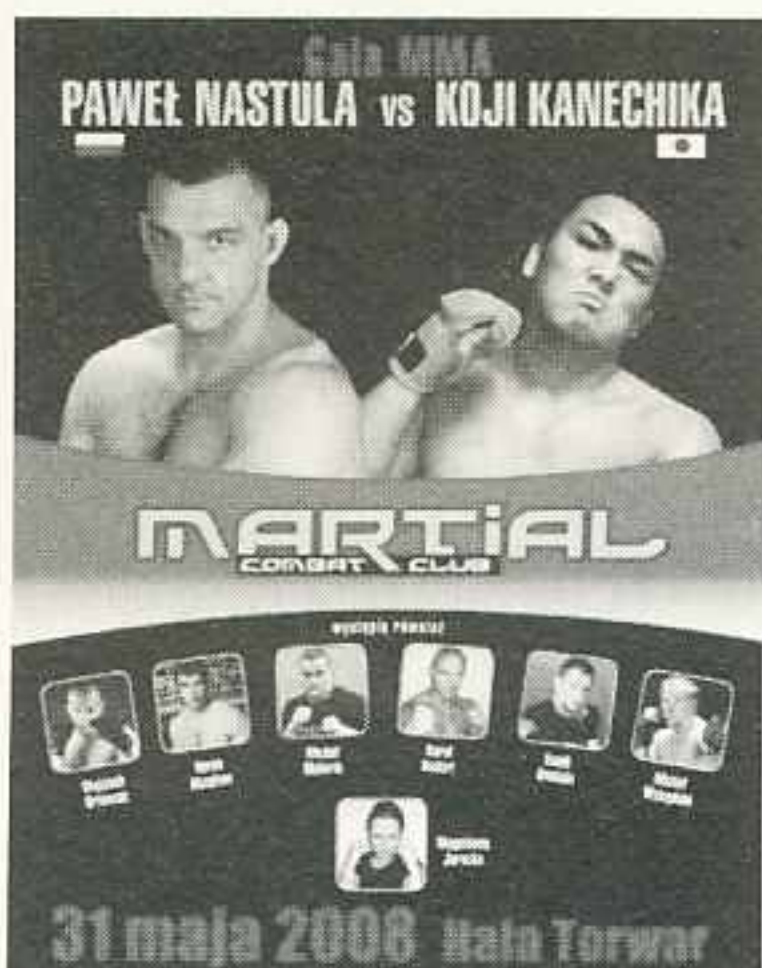
ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第32回

私だけが知っているパウエル・ナツラの復帰

オリンピックの柔道金メダリスト。公式試合312連勝。ポーランドの英雄。PRIDEのリングで活躍が期待されていた柔道家、パウエル・ナツラがひさしぶりに日本に帰ってきます。彼が選択した新たな戦場は『戦極』。8月24日のさいたまスーパーアリーナ大会にて、韓国人ファイターのヤン・ドンイと対戦することになりました。

ナツラからすれば、06年10月PRIDEラスベガス大会、ジョシュ・バーネット戦以来の実戦になります。同大会のドーピング検査で陽性反応となり、罰金と9ヵ月のサスペンドを受けました。オリンピック金メダリストのナツラは試合前に何度もPRIDEスタッフに検査に関する質問をしており、充分に備えていました。しかしながら試合前にはあらためてメディカル検査には行かされるし、あの結果はいまだに信じられないと言ってました。それに追い打ちをかけるようにPRIDEの消滅。決して若くないナツラは何度か引退も考えましたが、なんとかリングに踏みとどまったものの……そこにもトラブルが待ち受けていた。

本来ならば、今年の5月29日に母国ポーランドで行なわれるMMAのイベントにて、ナツラは復帰するはずでした。さすがに有名人のナツラだけあって、そのイベントはテレビコマーシャルでも宣伝されるほどの盛り上がり。対戦相手は、私がマネージメントする金親幸嗣選手。彼は中央大学レスリング部出身の猛者で、コーチをしてくれてるTKも太鼓判を押してくれ、中尾芳広がセコンドとしてポーランドに渡りました。

ところが、試合当日、開始5時間前に、そのイベントは中止になってしまったのです!! ポーランドからその報告を受けた私は耳を疑いました。

イベント制作を請け負ったプロダクションが主催者に「今回は仕事ができない」と通達したようです。呆然とする選手たち。メインイベントで母国凱旋マッチを行なうはずだったナツラのショックはどれほどのものだったのでしょう。金親との試合を約束し、次の試合を待っていましたが、それも先送りとなってしまいました。

幾多の苦しみを乗り越えて、ナツラは『戦極』のリングに上がります。ポーランドでは柔道、空手、レスリング、テコンドーを格闘技がさかんで、アブダビコンバットの欧州予選に出場したポーランド人のポテンシャルの高さはアブダビ王子の秘書からも絶賛されていました。母国にMMAが根づくためにも、ナツラは闘い続けます。柔道家、そしてMMAファイターとして、彼の名前はポーランドのスポーツ史に刻まれることでしょう。

---

kamipro Handで好評連載中!

ニュース特選! kamiの★1週間

傑作編

8月に両国2連戦を敢行!『プロレス・エキスポ』ってなんだ?

(8.4更新分より)

◎『kamipro Hand』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選! Kamiの1週間」。このコーナーでは、プロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり! 興味を持った方は『kamipro Hand』にレッツ・加入!!

松 さあ、今週もマット界の一週間を振り返ってみようか!

竹内 今週はクソ暑いので、お休みにいたします。

松 勝手に休むな! マット界は年中無休だよ。

竹内 なお、ターザン山本!は毎日が夏休みです。

松 関係ないだろ!

竹内というわけで、今日の四字熟語は「夏期休業」とする。夏期休業とは夏休みのことである。押忍!

松 『ターザンカフェ』の日記じゃないんだよ! ネタに困ったときターザンネタで逃げるのはやめろ!

竹内 なお、夢香姫は派遣の仕事を辞めました。

松 それがターザンネタなんだよ!

竹内 でも、今週はそんなに大きなネタはないだろう? 一番大きなネタといえば『UWF変態座談会』を一冊の本にまとめた『UWF変態新書』が発売になったくらいか?

松 宣伝じゃねーか! 格闘技界は『DREAM.5』が終わってちょっと小休止だけど、プロレス界では大きな大会が発表されたよ。

竹内 そうだそうだ! 蝶野をスーパーバイザーに迎えて、10月に両国国技館2連戦3興行をブッ放す『プロレス・エキスポ』だろ? あれだけは見逃せないと思ってたんだよ!

松 おまえにしてはずいぶん乗り気じゃないか。

竹内 あたりまえじゃないか! ズンドコ興行マニアには絶対に見逃せない興行だよ!

松 まだズンドコ興行って決定したわけじゃないよ! この『プロレス・エキスポ』は若手の企業経営者を中心とした『志成会(しせいかい)』という勉強会を起点として設立された『フリーバーズ・インターナショナル・ジャパン』という組織が開催するもので、まだプロレスが行なわれていない世界中の国からそれぞれの国の"力道山"を輩出し、プロレスの普及を目指すというじつに斬新なコンセプトを持っているんだ。

竹内 きっとマット界の歴史に名を残す大会になるだろうな。大会名も『LEGEND』にしたほうがいいんじゃないか?

松 そんな縁起悪い名前つけないよ! 『プロレス・エキスポ』では、国別タッグトーナメントを開催する予定だ。

竹内 なお、優勝者には三億円ベルトが贈呈されます。

松 それはインディー統一機構FFFだろ!

竹内 どうせトーナメントやるなら、途中で終わっちゃった『W-1GP』の続きでもやればいいのに。

松 なんで『W-1GP』を『プロレス・エキスポ』でやるんだよ! 頓挫したイベントばかり例に出すな!

竹内 まあ、プロレス界にとってはひさびさのビッグイベント。なんとか成功してほしいな。10年ぐらい前にやった全女の日本武道館2連戦ばりの大成功に期待しよう!

松 全女の武道館2連戦は大失敗してるだろ! いいかげんにしろ!

第3回
本屋プロレス、XのTOSHIに完敗!?

DDT外伝
by高木三四郎社長
リングを捨て町へ出よう!?

今回は7月25日に金沢の『TSUTAYA』で行なわれた本屋プロレス第二弾のことでも書こうと思います。

4月の本屋プロレスの旗揚げ戦が終わった直後に太田出版の担当の梅山さんから「本屋プロレスのオファーが来ましたよ。今度は金沢の『TSUTAYA』です」と聞いたときには冗談だと思ってたけど、まさか本当にやるとは思いませんでした。だって、『TSUTAYA』ですよ、『TSUTAYA』！ どう考えても本部からストップがかかるだろうと思ってたんだけど、結局、何も言われぬまま、気がつけば大会当日。

同日の昼にはDDT富山大会があり、その後すぐさま移動し『TSUTAYA』に着いたのがちょうど16時。17時半から試合開始とのことで急ぎで店内をチェックする。当然ながらこれが初めての来店だからだ。『TSUTAYA』サイドから「店内はどこを使っていただいてもかまいません」と、いろんなところを案内される。しかし、なんでこんなにヤル気なんだろう（笑）。しかも親切丁寧に中2階の屋根への行き方も案内され、「ここで闘うと外からも店内からも見えるのでオススメですよ」と担当者。なんでこんなに親切にバトルスポットを教えられなきゃいけないんだ（笑）。結局、誰もそこで闘わなかったけど（爆）。

試合内容は各自ネットサーフィンして調査してもらいたいが、前回以上にムチャクチャな攻防の連続だった。とにかく試合前から興奮状態にあった男色ディーノが店内アチラコチラでドサクサ紛れに一般客を襲ったり、マイケルと飯伏のタイツを脱がそうとしてたりと、かなりの地獄絵図だった。小さい子どもを連れてるお母さんの目の前でマイケルを掘ろうとしてたときはさすがに「掘るなー！」と叫んだぐらいだ。そのお母さんも子どもの目はふさいでたけどシッカリ自分は見てたけどね（笑）。

途中から男色ディーノの記憶が飛んで（本人いわく、試合中に壁に頭が激突したらしい）さらに大変なことになってたが、なんとかケガ人もなく無事、試合は終了。観衆は350人ってことで、前日のにしおかすみこさんのイベントよりも入ってたらしい。いくら日曜日で無料とはいっても350人は集まりすぎだろ！ っていうか直前の富山大会より41人も入ってるじゃねーか（笑）。まあでも、俺様の本も100冊以上売れて、かなり大成功なイベントとなりました！

ちなみに『TSUTAYA』金沢店としては元X JAPANのTOSHIのイベントに次いで2位の動員数だとか。やっぱりヒーリングミュージシャンTOSHIの壁は厚いよなぁ（笑）。

というわけで、本屋プロレスを呼びたいという本屋さんは太田出版さんまでご連絡ください！

こちらが試合中の一枚。本屋プロレスとはいっても、この日の会場は『TSUTAYA』。本売り場だけでなく当然DVDコーナーでも大乱戦。そんな本屋プロレス、9月には、なんとあの超大物が……!?

Sanshiro Takagi◎DDTプロレスリングの社長兼レスラー。1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのブログ」アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

KING OF SPORTS
月刊 新日本プロレスNOW通信!!
3
NEW JAPAN PRO-WRESTLING

今回は鬼軍曹の独壇場!! あの小鉄さんが"家族愛"トークを大炸裂!!

今回の『月刊 新日本プロレスNOW通信』は特別仕様！『kamipro.com』で絶賛配信中、原タコヤキ君司会のポッドキャスト『mimipro』で配信された新日本プロレス特集をお届け。

しかし、この回に"鬼軍曹"山本小鉄さんが乱入!! これには普段、小鉄さんモノマネを得意とする井上崇宏氏も大恐縮。縦横無尽の小鉄トークを読め!!

井上小鉄がご挨拶!!

タコ 小鉄さん、今日は小鉄さんのモノマネが得意な人間が来てるんですよ！ あれ井上さん、顔色が真っ白ですよ。

井上 ………（完全に固まって）。

タコ では、ウチの井上小鉄がご挨拶します～。どうぞ～！

井上 （ド緊張しながら）どどどどうも、山本小鉄です!!

小鉄 ……俺ってそういう声なんだ。

一同 ダハハハハ！

井上 いや～。ボクは全然、似てないと思うんですけど（と小さくなって）。

小鉄 でも似てるんじゃない？ もう一回やって!!

小鉄さんの家族愛はハンパない！

井上 小鉄さんはいまも奥さんと手をつないで寝てらっしゃるんですか。

小鉄 そりゃそうですよ！ 46年間！

タコ 凄いなぁ。あと娘さんが生まれてから、何日か数えてはるらしいですが。

小鉄 1万919日!!（キッパリ）

一同 エ～～～ッ!!

小鉄 孫が生まれてからは30日！

タコ あ、お孫さんも生まれたんですか。

井上 去年、お子さんが生まれた前田日明さんと育児トークをしてたら、「小鉄さんの教育法を取り入れる」って。いい学校に行かれてるんですよね？

小鉄 そりゃ、そうよ。そんなもん！

一同 ダハハハハ！

小鉄 俺が学校に行ってないからさ。君は妊娠のとき、ちゃんと胎教した？

井上 小鉄さんのモノマネとか（笑）。

小鉄 そんな声が太いのじゃダメさ!!

（中略）

小鉄 あれは1歳半か、2歳ちょっと前かな？ 家で、ヨメさんが娘に「なんていうの？」ってゾウやキリンの絵を指して聞いてるんだよ。そしたら「エレファント！」って。こっちは「エレファントってなんだったかな？」って。

一同 ダハハハハ！

小鉄 俺は一年間、アメリカに行ってたけど、「そんなの知らねーよ！」って（笑）。

と、ノリノリの小鉄さんトークが爆発したポッドキャスト。8月8日配信ぶんには、菊地成孔さんも登場済！ 勢いを増す『mimipro』を要チェックだ!!

なぜか新日本事務所にあったコシティを手にして鬼軍曹ぶりを発揮する小鉄さん。タコ焼き君&井上氏はサインもゲット!

◎今回紹介したポッドキャスト、『mimipro』はその名のとおり耳で聴く『kamipro』！ 毎週、世界に向けてプロレス&格闘技の与太話を発信！ 取材の裏話や誰も知らない先取り情報が続々と飛び出すから、聴き逃し厳禁だって！ http://www.kamipro.com/podcast/

椎名基樹の

サムライ三昧

第29回

7月の注目大会

待望のDREAMライト級グランプリファイナルは、その日どーしても都内にいることができず、残念ながら生放送を観ることができなかった。

なので3日くらい結果をどーにか耳に入らないようにして（耳に小石を詰める等）なんとかやりすごし、遅れながらも新鮮な気持ちで観戦しようとしたのだが、TBSで青木真也のドキュメント番組があるとのことで、そっちを選ぶ。

ヨアキムにやられた決勝戦を観て、あまりのことにしばらく呆然。不公平といえばあまりに不公平。不運といえばあまりに不運。仕方ないといえばあまりに仕方ない。体力的にも心理的にもあそこでヨアキムに勝つのは至難の業。一言、あまりに青木がかわいそう。

青木が勝って大団円ってのが、もちろん一番望んだ結果であったが、こんなこと書いたら、青木に非常に失礼なのだが、ここ一番で栄光がスルリと手の中から消えてしまうところが、青木らしいと感じてしまう。そして、そこが魅力的であったりする。結局、無冠で終わった（であろう）清原のよーな、大事なところで勝てない、サッカー・オランダ代表のような。アーティストの面目躍如といったら、あまりに無責任だろうか。

アルバレスが負傷しなかったら、青木優勝の目が非常に濃かっただろうから、青木がコントロールできない部分〝運〟の占める部分が多く、アーティストゆえに優勝できなかったワケじゃないが、いつまでも〝蒼き〟ところが青木の魅力である。ニューオーダーのようにな！

それにしても、ドキュメントで青木にアルバレスからヨアキムに対戦相手が変わったことを告げる島田レフェリー、冷たかったなあ。しかし、ああ言うしかないなあ。嫌な役をやらされてるなと感じた。

でも、やっぱりトーナメントじゃ一番強いヤツが決まらないと痛感。タイトルを設置して、丁寧な対戦をして、一番強いヤツをハッキリさせてほしい。今回のトーナメントでいっぺんに実力測定ができたワケだから、これから観たいカードもハッキリしたワケだし。とりあえず、青木vsアルバレスが観たい！

あと、付け足しのようになってしまって恐縮なのだが、アルバレスvs川尻、ソーゼツ極まりなかった。今年のベストバウト候補ナンバーワン！ よくよく考えると、川尻って名勝負製造機だね。

7月は注目の試合が多く、『アフリクション』旗揚げ戦では、ヒョードルがティム・シルビアに完勝。ネットのムービーで観たが、ノゲイラが大苦戦したシルビアをあれだけ圧倒してしまうとは、あらためて皇帝の強さには驚く。

UFC一人勝ちに見えるMMA界であるが、格闘技は番長がいる団体が勝つという持論がある（前田を擁したUWF、エンセンがヘビー級時代の修斗のように）ので、この先ヒョードルの身の振り方がMMAの将来を大きく左右するだろう。

なんでもヒョードルはケガで180日間試合ができないそうで、10月に噂されていたアルロフスキー戦は、ジョシュvsアルロフスキー戦に変更されたとか。そして、その勝者とヒョードルが大晦日に日本でやるとかやらないとか。それにしても、ヘビー級の選手はこぞって『アフリクション』を選んだのね。

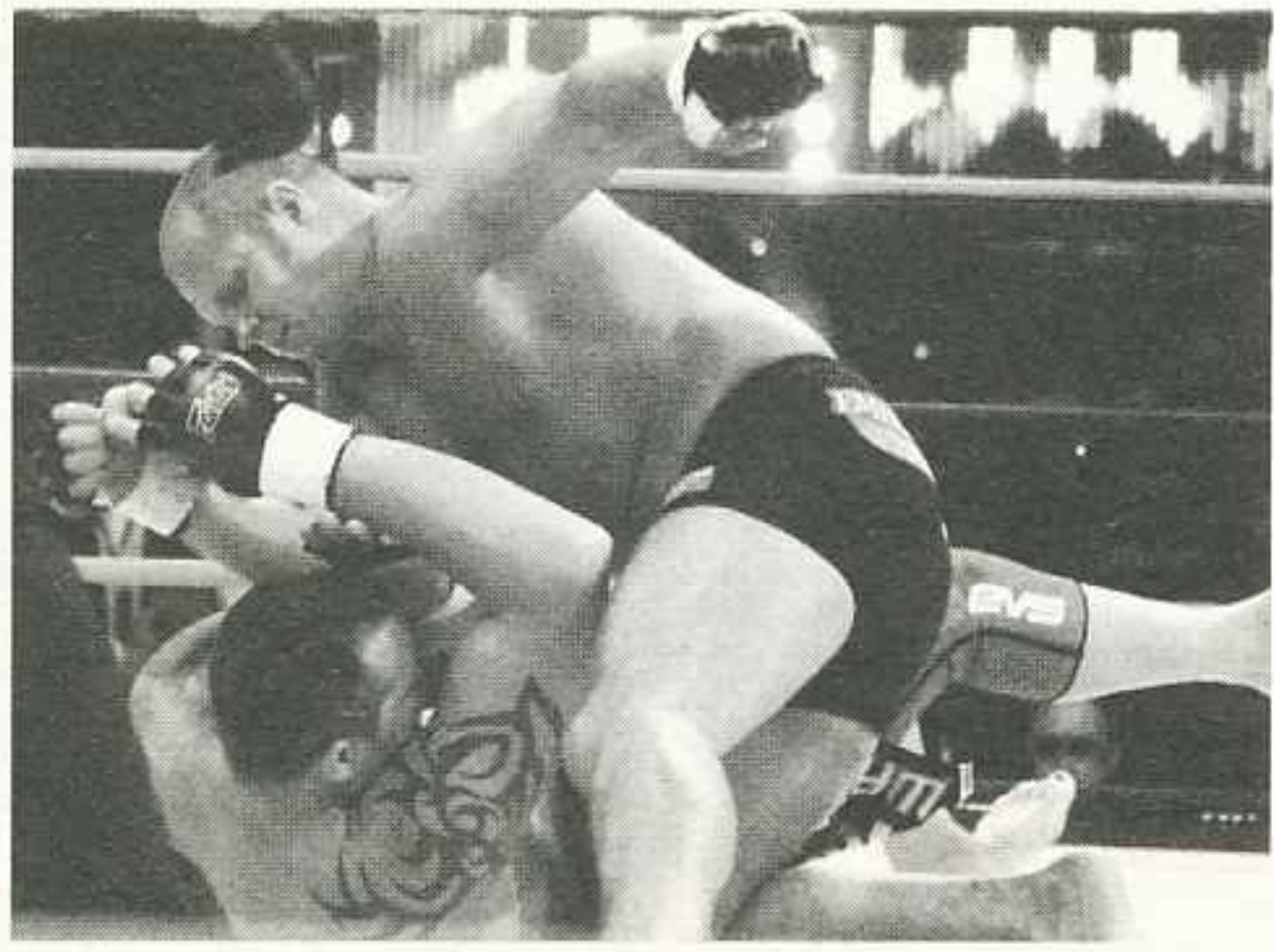
個人としては、団体間の揉め事などなしに、よいカードを観たいものだ。とにかく、ヒョードルvsクートゥアーだけは、風化しないうちに必ず実現してほしいものだ。

MMA初代ヘビー級チャンピオン決定戦と誰もが認める試合だから、これを開催できた団体が、まさに番長を擁したこととなり、これからMMAの主導権を握る可能性が大きいだけに、いろんな思惑が入り乱れ実現が難しいようだが、これを実現することはMMAに関わる偉い人の責任！ MMAの未来のためには絶対、実現しなければいけない！

最後に『アウトサイダー』の第2戦も行なわれたようだが、これも観に行くことができなかった。じつに残念。サムライTVで観る限り、またまた大乱闘があったようで、あいかわらず素敵だ。

前田が田村vs所を断罪して、「格闘技の基本は必死でやるってことだ」と言っていたが、そーゆー純粋な魅力が『アウトサイダー』にはある。MMA最強を決めるアメリカの団体とは対局にあるような、小さな『アウトサイダー』であるが、ここから何か素晴らしいモノが生まれれば、MMAに個性的な影響を与えるに違いない。前田〜！ 頑張って！ とりあえず、前田の赤ブレザー姿が見られるのは、『アウトサイダー』だけ！

前号で実施のDREAMライト級GP決勝予想は、さすがにリザーバーのヨアキムの優勝は誰一人予想できず。藤岡弘、もビックリさ！

撮影／乾晋也

『アフリクション』旗揚げ戦でシルビアに圧勝したヒョードルは自らのパンチの威力で、またもや拳を痛めてしまった様子。やりすぎだって！

イナズマKの
ハードコアドージョー Special

チェーンソーとともにチューンアップ!!?

オリジナルバージョンがひさびさの日本上陸!!
スーパー・レザーフェイス

SUPER LEATHERFACE■1960年、米国フロリダ州生まれ。80年にプロレス入り。R.H.レイノルズの名でフロリダ地区でデビュー。86年にコーポラル・マイク・カーシュナーのリングネームでWWF(現WWE)で活躍。90年3月に新日本プロレスに参戦、坂口征二の引退試合（タッグマッチ）の相手を務めた。その後は映画『悪魔のいけにえ』の主人公のレザーフェイスに扮し、W★INGやFMWなどに参戦。そのおどろおどろしい姿とは裏腹に、基本のしっかりしたレスリングテクニックも併わせ持った実力者。190cm、125kg。

今回は8月6日に旗揚げされたXWFに、9年ぶりの来日をはたしたスーパー・レザーフェイスがチェーンソーを振り回しながら「ウガーッ！」と登場！ 伝説のインディー団体・W★INGにおいて、その魅力の大きな要因となっていたのはフレディ・クルーガーやジェイソン・ザ・テリブルなど怪奇派レスラーの存在だが、その中でトップに君臨していたのこそ、このスーパー・レザーなのだ！ ウガーッ！

ハードコア列伝1 イス攻撃で狂気がお目覚め？

レザーフェイスといえば何人かのレスラーが変身してきたとされるが、今回来日したスーパー・レザーは、W★ING～FMW時代にファンから絶大なる支持を集めた初代バージョン。XWF旗揚げ戦でスーパー・レザーはレイヴェン&トレイシー・スマザーズとタッグを組んで、金村キンタロー&黒田哲広&田中将斗と対戦。試合はリングに61脚ものイスが放り込まれるなど、全盛期のECWを彷彿とさせるハードコア状態に！ その中でチェーンソーをブン回しながら、かつてと変わらない近寄りがたさをバリバリに発揮していたスーパー・レザーは、間違いなくこの日のMVPだった。

そんなスーパー・レザーに興奮冷めやらぬ試合後に話を聞いてみると「ひさしぶりに日本に帰ってこられてうれしいぜ！ ファンが歓迎してくれたから、まるで1週間前にここで試合をしたばかりのように感じたよ。カネムラたちのイス攻撃はハードだったけど、その痛みがオレの眠ってた〝狂気〟を呼び覚ましてくれたんだ。これが〝ハードコア精神〟ってやつだな」と、熱い答えが返ってきた。

さて、スーパー・レザーの〝正体〟であるマイク・カーシュナー（これまた素顔がシブくてカッコイイ！）は、現在アメリカではプロレスをやっていないとか。「いまはトラックドライバーとして、大きなトレーラーで州から州へと回っているよ。この仕事はトランク一つで国から国へ転々とするレスラー稼業に似てるから、オレには打ってつけだぜ（笑）」と、豪快に笑うカーシュナー。試合からブランクがあるにも関わらず、それを感じさせない闘いを見せてくれた心意気には感服だ！

ハードコア列伝2 あの死亡誤報記事の真相は？

スーパー・レザーは、80年後半にコーポラル・マイク・カーシュナーとしてWWF（現WWE）で活躍後、新日本プロレスに初来日。そして92年、W★INGでレザーフェイスに変身してブレイク！ はたして、レザーフェイスはどのように誕生したのか？ 「オレはファンを巻き込んで興奮するような試合をやりたかったんだ。で、もともとホラー映画が好きなこともあって、あるとき『悪魔のいけにえ』のレザーフェイスってキャラを思いついた。ビクター・キニョネス（故人）のアドバイスもあって試しにやってみたら、ファンからいい反応がもらえたってわけさ」。

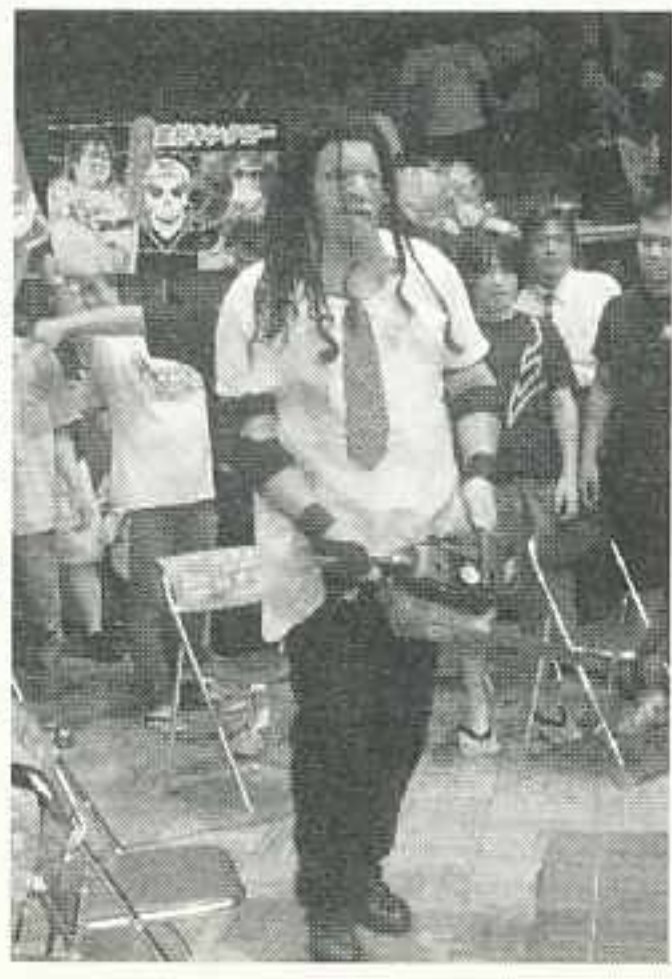
以前、金村がスーパー・レザーのプロ意識の高さについて「オレの血をマスクにこすりつけたのには驚いた」と、そのキャラへの徹底ぶりを語っていたことがある。そのことを本人に伝えると、「とにかくスーパー・レザーはなんでもありのレスラー。ファンをエキサイトさせるためにインクレディブル（信じられない）ことをやるのが重要なんだよ」と、そのこだわりを語ってくれた。

90年代には「当時のオレのニックネームは『トーキョーガイジン』（笑）」と言うくらいに、かなりの来日回数を誇ったスーパー・レザー。99年以降は日本を離れていたが、思いもよらぬかたちで彼の名前が話題にのぼったのが、06年の「レザーフェイス死亡」の誤報騒ぎ。どうしてそんなことになったのか、本人に真相をたずねると、「どうやらオレのニセモノが存在していて、オレのフリしてすごしてたらしいんだ。で、そいつが死んだときに、オレが死んだっていうふうに出回ったってわけさ。それをWWEが信じきってHPに発表しちまったみたいだな」という、なんとも意外なものだった。怪奇派レスラーのスーパー・レザーらしいミステリーだったと言えなくもない!?

ハードコア列伝3 怪覆面の素顔は男の中の男！

さて、マスクを脱いだスーパー・レザーはレスラー仲間のあいだでは、〝男気〟のある好漢として評判。それをうかがわせるエピソードとして、若手レスラーがお金を紛失して困ってるときに自分のファイトマネーを分け与えたり、ケンカに巻き込まれたレスラー仲間を救おうとして、身代わりのように逮捕されてしまったことなど、枚挙にいとまがない。取材に同席した日本人の友人も「マイクはまっすぐな男です。いいものはいい、悪いものは悪いってはっきりしていて。今回も『カネムラがオレを呼んでいるなら行くぜ！』って、すぐに決断しましたからね」と、今回の来日の裏話を聞かせてくれた。かくも男気に満ちあふれたスーパー・レザー。そんな彼に〝男〟としてのポリシーをたずねると、「自分の生きる道を信じること。決して、人を裏切らないこと。あとは夢を持ち続けてあきらめないことだぜ！」という、ステキすぎる言葉が飛び出した。おまえ、男の中の男だ！

先の死亡報道から今回のレザー復活劇〟を勝手にストーリーにするなら、〝葬られたスーパー・レザーがチェーンソーで墓を突き破り、さらにパワーアップしてリングで（というか会場全体を使って）大暴れ！〟といったところか。XWFの次回興行は10月7日に新宿コマ劇場で開催予定。あの大衆娯楽の殿堂〝コマ劇〟で、もしスーパー・レザーがチェンソーのオイルの匂いをまき散らしながら暴れ狂ったら……これはぜひとも観てみたい！

「またすぐ日本に戻ってくることをオレも願ってる。そのときはまたチェーンソーを持って大暴れしてやるぜ、ウガーッ！」

8・6WXF後楽園大会でレザーフェイスは、トレードマークのチェーンソーを振り回しながら大暴れ！ 場内を練り歩くレザーのうしろをズラズラとW★INGフリークスたちがつらなる場面は、まさに〝ハーメルンの笛吹き男〟状態なのであった。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

女子が好きです！ プロレスが好きです！ 女子がプロレスをやるのは当然だ～い好きで～す！ 女子プロレスと聞いただけで口の中がカラカラになるパブロフ人間・掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』。今回のゲストは紫雷美央さん！ M心を喚起する美人姉妹プロレスラーのお姉ちゃんのほうの魅力に迫ります！

掟 先日、パフュームと「スペースシャワー」の番組で対談されたみたいですけど、どうでした、あの3人？

美央 超かわいかったです！ 同い年なのにこうも違う人種になってしまうのかぁ、みたいな（笑）。ほっそいし、顔もちっちゃいし、なんか言うこともポヤッてしてるし。とくに、あーちゃん（西脇綾香）。

掟 俺は2005年ぐらいからパフュームのCD発売イベントでトークショーの司会とかやってたんですけど、あの子はホント天才なんですよ。

美央 天才ですよね（笑）。自分もそう思いました。

掟 「真実だからこそ言っちゃいけないこと」を無意識に言って笑わせるんですよ。しかもかわいげがあるからそれがまた許されちゃうんですよね。

美央 わかります。うらやましいな、かわいいって（笑）。

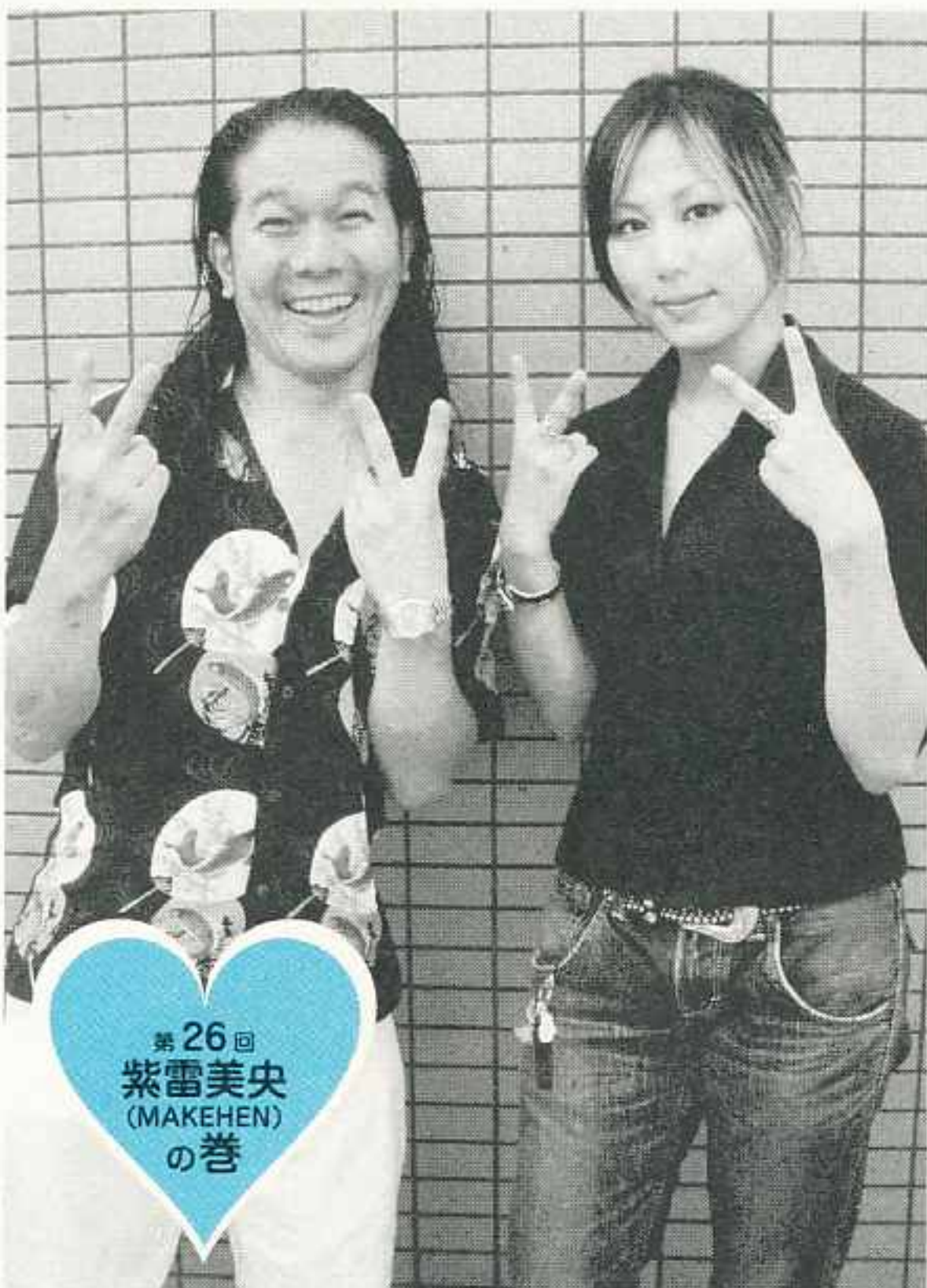
掟 で、美央さんがプロレスラーになったきっかけっていうのは、プロレス会場で、いまMAKEHENで一緒にやられている橋本友彦選手に「君たち、プロレスやってみない？」って声をかけられたからなんですよね？

美央 はい、そんな感じですね。

掟 普通は「何言ってんの？」ってことになりますよね？

美央 普通はそうでしょうけど。「とりあえず練習来れば？」って言われたんで、じゃあ行こうかなって感じで。

掟 プロレスに興味はあったんですか？

美央 興味っていうか、まったくプロレスは知りませんでした。

掟 それでよく練習に行きましたね（笑）。

美央 身体を動かしたかったんで。

掟 スポーツ歴にキックボクシングってありましたけど、それはいつぐらい？

美央 高校の2年と3年のあいだぐらいですね。

掟 高校生がキックボクシングをやるモチベーションってなんなんでしょう？

美央 いや、暇だったから（笑）。

掟 そんな理由（笑）。通常なら「強くなりたいから」とかですよね？

美央 それもありましたね。ちっちゃい頃から、あまり弱いのはイヤだったんで。

掟 できればナンバーワンがいい？

美央 ナンバーワンとまではいかないですけど、普通の人よりは強ければいいかなぁ、みたいな。中学、高校は運動部に入れなかったんですよ。生まれつきの不整脈だったんで。でも、マラソンで1位取っちゃったりとか。

掟 不整脈なのに！ 路上でのスポーツというか、いわゆるタイマン的なスポーツはやってらっしゃったんですか？（笑）。

美央 いや、そんなに頻繁には。高校のときに教室内でつかみかかられたのを返したぐらいで。べつに普段は普通でしたよ。

掟 やられたらやり返すぐらいで、こちらからは仕掛けたりしない？

美央 そうですね。一応、生徒会やってたりとかしたんで。ある程度マジメで、ある程度不真面目みたいな感じで。

掟 マジメでも弱いのはイヤだと？

美央 そうですね。私は普通とギャルの中間みたいな感じで、夏になるとハメ外して髪の毛を真っキンキンにしたりとか。そういうことするけど、生徒会だしぃ、みたいな（笑）。

掟 ちなみに好きな男性のタイプは？

美央 見かけは小池徹平かジョニー・デップ。

掟 イケメン好きですねぇ。

美央 イケメンっていうか、カワイイ系か、ヒゲが似合うようなワイルドなガテン系かのどっちかですね。

掟 いままで付き合ってきた人はタイプ的にどっちに入ります？

美央 どっちにも入らないんですよ。付き合うのは、なぜか友だちみたいな感じで、「一番仲いいし、ちょっと付き合う？」みたいなパターンで（笑）。カッコイイなと思う人とか、一目惚れした人には逆に手を出せないんですよ。

掟 緊張しちゃってダメ？

美央 なんか一緒にいたらつまんなくなってしまうのではって思って。男前は眺めてるだけでいい、みたいな（笑）。

掟 けっこう長く続くほうですか？

美央 最低でも1年は続きますね。ただ、1年が節目で、1年経つといままでの彼氏さんは皆さん浮気するか、何か問題起こすかで私から別れるんですよ。

掟 問題を起こすというと？

美央 たとえば、同じ部活内の女の子と浮気されて、「じゃあ、その女の子とのメール、どんなのか見せて？」って言って携帯受け取って、見もしないで「バキッ！」て折って返して別れたり（笑）。

掟 アハハハハ！ まあ、そのぐらいの報復はしたいですよね。でもなんで浮気されちゃうんですかね？

美央 自分が破天荒だからじゃないですか？ 女らしいかといったら、料理も掃除しない派ですし。たぶん疲れるんだと思いますよ。「遊びに行く？」って聞かれても「べつにゲーセンとか近場でよくない？」とか、「わざわざディズニーランドに行くのも疲れるじゃん」みたいなタイプなんで（笑）。

掟 付き合い甲斐がないですね（笑）。プロレスラーは恋愛対象になります？

美央 イヤです！（キッパリ）。

掟 それは浮気する人が多いから？

美央 いや、違います。体型が嫌いです。

掟 でも、ワイルドなガテン系はありなんですよね？

美央 ガテン系はいいんですけど、プロレスラーみたいにムキムキとかマッチョはイヤです。私が強くなりたいのは、男に負けたくないっていうのもあって。付き合うなら、自分より若干腕力が劣る人って思ってて。

掟 じゃあ、ジャガー横田さんのダンナさんみたいな感じですか？

美央 あの人はナヨすぎるけど（笑）。

掟 あ、でも、木下さんは柔道初段なんですよ。

美央 そうなんですか？ 意外！

掟 ジャガーさんと乱取りやっても、自分は柔道黒帯だし、さすがに男だし勝てるだろうと思って実際やったら、ガチガチに極められまくったらしいです（笑）。

美央 うわっ、かわいそう。あ、でも、たぶんそのくらいがいいですね。

掟 木下さん！ 意外と需要あるみたいですよ!!

第26回
紫雷美央（MAKEHEN）の巻

しらい・みお■1988年2月14日生まれ。本名・出身地は非公開。姉のイオとプロレス観戦中にTEAM MAKEHENの橋本友彦に声をかけられたのがきっかけで二人揃ってレスラーを志す。07年3月のデビュー後はホームのMAKEHEN以外にも、息吹やWAVE、西口プロレスなど幅広く活躍中。8.24『Beginning』新木場大会では藤井恵とキックルールで激突。162cm、52kg。イオとの姉妹ブログ→http://blog.livedoor.jp/shirai_shimai/

さつま
黒千代香
kurojoka

今回の取材場所は美央がバイトをしている料理もうまい飲み屋さん『黒千代香（くろじょか）』。同じ団体の橋本友彦も働いてるんだとか。都営浅草線本所吾妻橋駅すぐです。TEL.03-3626-1860

Okite Porsche◎掟ポルシェ■掟ポルシェのバンド『ロマンポルシェ。』の次回ライブ予定は8・22（金）@京都メトロ（075−752−4765）。深夜に出演予定。東京は9・28（日）@恵比寿リキッドルーム（03−5464−0800）でのイベントに出演。その他情報はブログをチェック！【http://porsche.exblog.jp/】

入場曲五十三次

佐藤譲

イラスト◎エロコエロオ

第6回 総合とグランジの“オタ”なプリンス

物議を醸した主催者推薦枠。

感情を爆発させた石田さんとの闘い。

復讐に燃える川尻さんとの因縁。

守山代表の急逝に捧げた涙の入場。

青木さんとの世代闘争でまさかの完封負け。

見たこともない素の感情を爆発させ、『DREAMライト級GP』に濃密な物語を注入し、新たな魅力を見せた宇野薫さん。そんな彼の『DREAM・5』での入場曲は、グスターヴ・ホルスト『木星』と、ニルヴァーナ『Smells Like Teen Spirit』のFantastic Plastic Machineによるリミックスでした。

『Smells~』はアメリカ郊外の若者のリアルな閉塞感を叫び、熱烈な支持を得たグランジの代表曲。当時チャートのトップにいたデカダンで様式化していたヘビメタやハードロックを蹴落とした曲です。つまり90年代に様式化したプロレスに代わり、リアルな闘いで人気を得た総合格闘技の動きとリンクする曲と言えます。その意味では総格黎明期から活躍してきたプリンスにふさわしい「大ネタ」です。

とはいえ、『Smells~』を使用した06年当時は、総合人気があたりまえ。さらに舞台は「反骨の柔道王」やら「神の子」やら「トリックスター」と濃いキャラ揃いの華やかな『HERO'S』。ただリアリズムを象徴する『Smells~』をかけるだけでは到底目立つことはできません。

そこで必要だったのがリミックスでした。これにより、『Smells~』はリアリズムを主張しつつ、FPMの手でお洒落なダンス・サウンドに変貌。ただのトランスやヒップホップとは一線を画し、アパレルオーナーの顔とともに「やっぱ宇野くんはセンスいいよね」という「プリンス評価」を確立していったわけです。そして、こうした環境へのクレバーな適応力が、宇野さんを支えてきたと言えるでしょう。

幼稚園時代からのプロレスファン。少年時代は80年代『少年ジャンプ』伝説の暴力マンガ『ブラック・エンジェルズ』の「殺しの美学」に熱狂。そしてリングスに心酔し、当時まだマイナーだった総合格闘技の道を志した宇野さん。のちにリングス最終興行に旧リングスルールで参戦したり、サスケとのプロレス対決で夢をかなえるなど、どう考えても根はオタクです。

しかし、オタクは一ヵ所に引き籠らず、バーリ・トゥードにアブダビコンバット、ルミナに勝利後、修斗の王座を返上しUFCに上陸し、さらに『HERO'S』に参戦と積極的に環境を変えて活躍することで注目を集めます。それに伴い入場曲もU.N.K.L.E.『Nursery Ryme』からリンキン・パーク&ジェイZ『Numb/Encore』、そして『Smells~』とメジャー感のあるものへ巧みに移行していきました。外界に対して自分を変えればオタクでもモテるわけです。なんだか超耳のイタい話です。

さて、『Smells~』のリミックスですが、DREAMではそのお洒落さゆえに若干の違和感が出てきた気がします。というのもPRIDEの濃密な血を受け継ぐDREAMは、よくも悪くも選手の内面をえぐる「ズル剥けの物語」を所望するからです。

そういえば、宇野さんが入場で涙したのは、平原綾香『Jupiter』ではなく原曲の『木星』でした。やはり曲の感情を100パーセント表現できるのは原曲なのでしょう。

完封されたものの宇野逃げで試合を盛り上げた宇野さん。新たな環境に適応した彼が、近いうち『Smells~』を堂々と原曲で鳴らす日も近いのかもしれません。

Yuzuru Sato◎1976年、静岡県生まれ、千葉県育ち。クラブ・ミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家をやったりしています。三浦広光さんの試合を観て大興奮。日本でも観たいですねぇ。

鉄火場ゴングショー

賭博とは 極上の プロレスである

田中太陽の六本場 / 底が丸見えの底なしKEIRIN

「人生とは自転車のようなものだ。倒れないようにするには走らなければならない」

相対性理論でおなじみアルベルト・アインシュタインは、生きることをそのようにたとえたという。ちなみに氏の生まれ育ったドイツは自転車競技が盛んであり、選手はおしなべて尊敬の対象とされるらしい。ならばこその美しき比喩といったところだが、同じ言葉から我々日本人がイメージするのは、どうしても「自転車のせいで人生が倒れてしまった人々」あるいは「人生が倒れてしまった人々が最後に行き着く場所」あたりになってしまうだろう。いったいなぜ、あの車券というやつはあんなにも当たらないのか？　というわけで、今回は競輪のお話です。

競輪の特色というか最大のおもしろ味といえば、やはり選手同士の人間関係や政治的要素が、直接勝敗に絡んでくるところだ。「あの選手とあの選手は師弟関係だから、弟子は自分を捨てても師匠を勝たせにくるはずだ」といったサイドストーリーじみたものをも考慮して賭けねばならないのである。賭け事にはえてしてコンプライアンスを求められがちな欧米では、絶対に定着しない種目といえる。

このような人間味あふれる勝負論はまさしくプロレスにも通ずるものであり、そこにシンパシーを感じるのか、ギャンブルの中でもとくに競輪を愛するプロレスラーはかなり多いという。このコラムでは何かと登場機会の多い“借金王”安田忠夫などは、地方巡業のたびに現地の競輪場で目撃されていたほどである。

菊タローもまた、プロレス界随一の競輪マニアとして知られる一人だ。かつて彼が所属していた大阪プロレスは『KEIRINプロレスカーニバル』というコラボレーションイベントを定期的に開催していたのだが、そこで“えべっさん”として初心者向け競輪講座を担当していた彼の姿は記憶に新しい。

またこの『KEIRINプロレスカーニバル』は、単に競輪場で試合を行なうというだけでなく、競輪興行との完全なる一体化を試みた斬新なものであった。ご当地レスラーのケイリンマスク（必ず勝つ！）や競輪スパッツ姿のタイガースマスクなど遊び要素も盛りだくさんで、競輪ファン、プロレスファンの両方から好評を得たという。

ドラゴンゲートも同じようなイベントを開催しているが、こちらでは選手が競輪ファン向けのプロレス講座を行なうという、なかなか興味深い逆転現象が見られた。

そして実験要素では他団体の追随を許さない名物団体DDTもまた、つい先月、競輪レースとのコラボレーション興行を成功させている。いまやインディー業界において、競輪とプロレスはそれなりに深く結びついているようだ。

数あるギャンブル種目の中でも、ここまで直接的にプロレスと関わっているのは競輪ぐらいのものである。やはり両者には近い雰囲気というか、共通する何かが存在するのだろうか？

ところでアントニオ猪木が旧東京プロレスを脱退した原因の一つに、豊登の競輪狂いがあったというのは有名な話だ。自ら練習と称して自転車を乗り回しているうちはまだよかったが、売上金を競輪につぎこんでしまったのはまずかった。このことによる両者の決別が、ひいては新日本プロレスの設立、ストロングスタイルの誕生につながっているのだから、案外、競輪の存在というのはプロレス界にとって重要だったのかもしれない……？

Taiyou Tanaka
◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。"観戦記の鬼"として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

世間に巻き起こした巨大なる波紋——!!
マット界がやるべきことをボクシングにやられた!

緊急特集
世間と闘うとは何か!?

7月30日に行なわれたWBC世界ライト級タイトルマッチ、内藤大助vs清水智信戦。
王者・内藤が劇的なKOで防衛を果たし、リング上でインタビューを受けていると、
なんとそこに因縁の亀田興毅が乱入!! そして対戦要求!
プロレスのお株を奪うドラマチックなシーンに賛否両論が巻き起こったが、
表現者は波紋を巻き起こすことが仕事の一つ。これでいいのだ!
この特集では、この事件を通してプロレス・格闘技界の現状を考えていきたい!!

FEG代表
谷川貞治

SADAHARU TANIKAWA

ジャニー谷川の
非常ベルが鳴っている
インタビュー第二弾!

っちゃうよ〜!

世間に渦を巻き起こす亀田×内藤劇場!! マット界にこういった巨大なエネルギーはなぜ生まれないのでしょう? こうなったら、この業界では誰よりも世間を意識しているジャニー谷川さん(『K-1甲子園』校長)に話を聞くしかない! 教えてちょ!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/平工幸雄　試合写真/乾晋也

「この視聴率のままだと、9月でDREAMが終わっちゃうよ〜!」

『kamipro special 2008 AUGUST』の谷川貞治インタビューは大反響を呼んだ。本年度ナンバーワン・イベントの盛り上がりを見せた『DREAM・5』の平均視聴率は10パーセント。ジャニー谷川さんは主催者として「決して喜べない数字」と総括。視聴率と格闘技のあり方を問うたインタビューの内容は、ぜひ同誌をお読みになっていただきたいが、最大の問題は視聴率が振るわなかったことではない。格闘技的には抜群におもしろかったのに、その興奮が世間には届いてないということだ。

視聴率をモノサシにして、内容のすべてを計れるかといえば、そんなことはない。しかし、いまマット界を取り巻く状況は、倉本聰氏のように「テレビに絶望した」と憂うほどの余裕はない。何が立ち塞がろうと、前を向いて闘うしかないのだ!

ボクシングに目を向ければ、内藤大助と亀田興毅が、プロレス・格闘技がやらなければならないことをやっている。話題性、胡散臭さ、勧善懲悪や群像劇への興味、ヤラセ論争……ボクシングにやられた!! マット界はボクシングのように再び世間を振り向かせることができるのか⁉

——ジャニー谷川さん! 前回のインタビューはかなり反響があったんですよ。

谷川 そんなにあったんだ⁉ どんな感じの声があるの?

——いろんな意見が寄せられたんですけど……、まあ、問題の本質は地上放映云々じゃなくて、プロレス・格闘技を世間に伝えようとする姿勢、世間に知ってもらったことで生まれる熱や現象だったりすると思うんです。そこからこのジャンルは広がっていくと思いますし、そのツールとしてのテレビだったりするじゃないですか。

谷川 そうなんだよね。世間と闘うためのテレビなんだよね。それはね、力道山もそうだし、猪木さんもそうだし、UWFも、K−1も、PRIDEもそうだったけども、ボクたちってさ、世間と闘ってナンボなんだよね。

——どうしたら世間に振り向いてもらえるのか? ってことですね。

谷川 うん、ホントに。それによって格闘技ってビジネスになってきたし、だからこそ生き残ってる。テレビがなくなったら、すなわち世間と向き合わなくなったら、格闘技は終わっちゃうよ〜!(キッパリ)。

——んあ〜! 今月も鳥肌立った!(笑)。

谷川 ボクなんかさ、視聴率の数字を見るたびに鳥肌立ってるよぉぉ!!

——ダハハハハ! いや、笑いごとじゃありません(笑)。

谷川 脅かしてるわけじゃなくて、テレビは流さなくなってもいろんな格闘技の興行は続いていくだろうけど、そこからは現象もスターも何も生まれないと思う。

——よく議論されるのは「地上波に頼らない」という夢のような話ですね。

谷川 地上波に頼らないっていうビジネス構造が、いまの日本の社会でできれば、それは最高なんだけどさぁ。

——PPVとゲート収入だけで成り立って、それでいて世間にプロモーションできる環境。谷川さん、そんな理想郷を黒魔術でなんとかしてくださいよ!(笑)。

谷川 んあ〜! じつはそれっていまのUFCがそうなんでしょ。

——うらやましいことにアッチはコア層だけでビジネスが成り立つんですよね。

谷川 でも、UFCってさ、自発的にに世

間」というのがフジテレビの中にあったか

木vs五味戦をやりますってなったときに、

地上波に頼らないっていうビジネス構造ができれば、それは最高だけど……

谷川　でも、UFCってさ、自発的にに世間と闘ってるわけじゃないとボクは思うんだけど。もちろんバイオレンス性の問題とか、世間と向き合う瞬間はあるけど、どちらかというとメジャーになるにつれて、あとからそういう議論がついてきてるような感じでさ。

――最初から、世間とコアの両輪を転がしてるわけでもないですね。

谷川　そうそう。だからある意味、PRIDEって奇跡なんだよね。巨大なコア層プラス、世間を相手にしていたわけだから。

――じつはそれが本日聞きたかったことの一つなんです。PRIDEってマニアックなことをやりながら、なぜ世間をも振り向かせていたのか？　と。

谷川　PRIDEも最初は世間に向けたコンセプトとマッチメイクから始まったからだと思うよ。ちゃんとPRIDEの歴史を振り返ってもらえばわかるけど、マニアックなことばかりをやってきたわけじゃない。凄く印象的だったのが、たとえばキムタクのドラマなんかでも、「あ、PRIDE観なきゃ」とかいうセリフが自然と出てきたりとか、ドラマの中でPRIDEのポスターが貼ってあったりとか。

――PRIDEにはフジテレビという存在がありましたから、当然、世間と向き合う瞬間は多々ありましたよね。

谷川　うん。それにフジテレビには「スポーツこそ世間そのものだ」という考え方が社内のムードとしてある。「スポーツ＝世間」というのがフジテレビの中にあったから、PRIDEのコアな方向性がハマッたんだよ。フジテレビには「こんなコアなことをやっても世間には……」っていう感情はなかった。だからノゲイラでもヒョードルでもよかったんだよね。

――それがブランドとして磨かれていったからこそ、コアと世間の両輪を転がすことに成功できたというわけですね。

谷川　ただ、やっぱりテレビの人たちだから、どっかでサップvs曙だとか、吉田秀彦vsホイスとか、金子賢とか、それが世間にとってもの凄く重要だと考えてるところはあるんだよ。そこを完全に否定してるわけじゃないし、否定していたらあんなに人気は出なかったと思う。

――そういう意味で、DREAMはどういう方向性を目指すべきですか？

谷川　主催者の立場からすると、いまの路線で全然かまわないと思う。でも、一番の問題は、いまのテレビ事情からすると、一つのコンテンツをゆっくり育てる時間がないということなんだよね。たとえばK－1やPRIDEが出てきた頃って、格闘技そのものが新鮮だったからさ、じっくり育ててあげようという意識が凄くあったの。でも、いまの状況ってさ、路線を変える必要はないとはいえども、まず結果を出さないと何も言えないんだよ。

――青木vs宇野戦という勝負論があってコア層をうならせる名勝負が受け入れられないということは、たとえばこの先、青木vs五味戦をやりますってなったときに、テレビ格闘技界的にはキラーカードでも、テレビがバックアップしてくれない可能性があるってことですよね。

谷川　いまはそれじゃ飛びつかない。もちろんTBSの現場の人、プロデューサーも含めて、青木vs宇野戦に関して凄くおもしろく観てくれたし、反響も凄くあったんだけど、テレビ局全体はそういうふうには思わないからね。それはね、視聴率だけを見て「亀田って批判は多いけど、数字を獲るな」って思うでしょ。そこはTBSにかぎらずどこのテレビ局も同じだよ。

――結果さえ残していれば「おもしろいみたいだね？」っていう。ある意味、つまらないモノサシですけど、いま求められるのはそこをどうやって正面突破するのかってことなんですかね。

谷川　ホントにそうなんだよ！　そこで「テレビなんか……」とかグチを言ったり、逃げたりしたら、ホントに終わってしまう。そこでやっぱりTBSの現場の人たちも歯痒いんじゃないかな。

――いま亀田の話が出ましたけど、亀田が乱入した内藤vs清水戦はおもしろかったですね。

谷川　亀田興毅はさすがだなあと思った！　やっぱりタダモノじゃないよ、彼は。乱入したことで再浮上したよね。もう世間に潰されるかなと思ってたけど、そんな簡単に潰れるヤツじゃないなって。

――普通に復帰戦でKO勝ちする以上の破壊力があったというか。

谷川　うん。インパクトあった！　いまも世間は〝亀田潰し〟の方向だけど、あれを見るかぎり「やっぱり亀田って簡単には潰されないな」って感じがした。やっぱりさ、亀田って、観る人間の感情を動かすよ

日本のマット界よ、いまこそやれんのか!?

世間と闘わないと格闘技は終わっ

ね。親兄弟の情愛から始まって、いまは国民的なヒールぶりを見せつけて。
――人間の善悪を表現するから放っておけないのかもしれませんね。
谷川　そうそう。その亀田物語に内藤選手が加わって。やっぱり内藤選手も凄くいい嗅覚を持ったボクサーだよ。
――内藤選手は結果的に亀田兄弟というきっかけをうまく利用したかたちになりましたね。亀田のあしらい方でさらに株が上がって。
谷川　内藤選手を見てていつも思うのは「三崎くんは内藤になれたのな～！」っていうことなんだよ。
――秋山成勲戦をきっかけにして。
谷川　だって、うまくやれば、三崎選手単体で視聴率20パーセントを叩き出す選手になる可能性だってあったと思うからさ。
――そうなんですけど、それは谷川さんの〝モラル〟発言がある意味でジャマしたような……。
谷川　（おもいきり無視して）もったいないよね～！　内藤選手を見るたびに三崎くんを思い出すんだよねぇ……。
――そういう〝きっかけ〟って重要ですね。プロモーターがどんなに戦略的にマッチメイクやプロモーションをしようが、選手がどんなに強くてカリスマ性があろうが、結局、何かしらきっかけをつかまないと大爆発しないところってありませんか？
谷川　うん、どんなお膳立てをしようが、絶対にブレイクしない。巨大なきっかけがあって、それにうまく乗れてたら、その後の10年間を左右すると思うんだよ。
――極端なことを言うと、10連勝するより一つのきっかけが大事ですか？
谷川　大事、大事！　全然大事なんですよぉ。そこを選手がどう見極めるか、運を持って引き寄せるかなんだよね。だから、坂田（健史）選手っているじゃないですか。ボクシング的には亀田選手や内藤選手よりも技量は上かもしれないとボクは思うんだけど、化けるきっかけをつかめてないだけだよね。
――今回の視聴率は平均が18・3パーセントで、瞬間最高が31・7パーセントですけど、6月の長谷川（穂積）選手の世界戦は平均7・7パーセントでした。
谷川　むしろ長谷川選手のほうがクオリティは高いのかもしれないよね。
――細かい違いはあるんでしょうけど、そこはきっかけの差でしかないですよね。
谷川　あのね、02年から04年ぐらいまで、ボクって〝視聴率男〟だったのよ。
――なんですか、突然（笑）。
谷川　（かまわず）ＭＡＸをやろうが、総合をやろうが、Ｋ―１ＧＰをやろうが、平均20パーセントが普通だった。だからテレビ局の信頼は凄かったんだよぉ。だけど、いまってさ、ゴールデンの平均が13パーセントぐらいになっちゃって、Ｋ―１も何をやっても12～13パーセントぐらい。いまの15パーセントが00年前半の20パーセントに匹敵するようになっちゃった。いまは15パーセント以上を獲ったら凄いんですよ。15パーセント以上を獲る番組って、一週間のうちに10番組しかないぐらいだから。だから20パーセントを超えるものは、もう社会現象なの。だから、内藤とか亀田っていうのは社会現象なんだなってことを凄く感じるよね。
――内藤や亀田の物語って、ここ4～5年間の積み重ねによって、ここまでふくらんだところもあると思うんです。そう考えると、ＤＲＥＡＭがそういうふうになるには時間がかかるんじゃないですか？
谷川　そうだね。ボクは主催者だからこんなことを言ってはいけないんだけど、ミルコや秋山くんやＫＩＤくんがケガをしたり、ヨアキムが優勝したりするドタバタっていうのはコア側から観たらおもしろいんだけど、一般世間から観ると、ことごとくきっかけを潰しちゃってるよね。だから三崎くんがミドル級ＧＰに出てたりとか、秋山くんがケガをしなかったら、全然状況は違っただろうしね。やっぱり、きっかけがズレてるのが、凄く痛い。
――さっきの社会現象の話でいうと、プロレス・格闘技がやるべきことを完全にボクシングにやられちゃったなという感じがするんですよ。
谷川　そうなんだよね。ついこないだまでは「プロレスがやることを格闘技にやられた!!」って言われてたわけだけど、今回はホントに「ボクシングにやられた！」って感じがしたよね。そう思われるのは格闘技全体のある意味、敗北ですよ。
――試合後のヤラセかヤラセじゃないかっていう話題の振りまき方を含めて、それってプロレス・格闘技の役割でしたね。
谷川　それを完全にやられちゃったっていうね。いまの格闘技界で、あそこまで世間的な資質を持ってるヤツはいないよね。
――マット界をざっと見渡して、これから磨いていけばおもしろくなる選手はいますか？
谷川　そこは秋山選手。あとはツカサ（藤門暐裟）くん。今日の会見なんてさ、いきなり反省の手紙を読みだすんだよぉ！
――え？　あれって谷川さんの差し金じゃないですか？
谷川　んあ～！　違うよ。15歳の少年がああいうことってなかなかできないし、あそこまでキャラは変われないよぉ。ホントにビックリした!!　いやあ、ツカサくんに格闘技の明るい未来は見えるなあ。
――要するに、魔王にしろツカサくんにしろ、彼らが動けば何かしら事件や話題がついて回るというか。
谷川　そう考えると、いまって、きっかけを作ろうという意識が足りないよね。大半の選手や関係者って、「きっかけなんか

世界戦への場違いな"乱入"によって圧倒的存在感を取り戻した亀田。その行為に演出だのプロレスだのつまらない正論が向けられているが、ノー計算だったほうがあらゆる意味で問題でしょ。ここまで憎まれる悪党がマット界にも現われてほしい!

「亀田にやられた!!」って思える選手が何人いるかで格闘技の未来は決まる

はべつにいいだろう」と思ってない？
――すると、『Ｋ―１甲子園』は世間と闘い
り、何かとコラボしたりして、世間が格闘
人〟、抜け目がないですねぇ。

緊急特集
世間と闘うとは何か？

『K―1甲子園』は〝世間と闘う〟ための一環。この新鮮さで世間を振り向かせたい

はべつにいいだろう」と思ってない？
――要はリング上でいい試合をすればいいだろうと？
谷川　そうそう。だからさ、亀田が乱入したときに「こんなの……」「またやってるわ……」って呆れるのか、逆に「やられた！」って思った選手が何人いるかってことだよ。
――ああ、そこは〝表現者〟だったら素直に嫉妬してほしいですよね。
谷川　そうだよぉ。だから「やられた！」って思ってる人が何人いるかで格闘技の未来は変わってくるでしょ。……あの〜、乱入したり、なんかパフォーマンスをやれって言ってるわけじゃないよ？
――わかります（笑）。そういう姿勢を保ってないと、何かしらのきっかけを見失なうってことですね。
谷川　でも、そういうことを思えるかどうかだよね。いまの格闘技界にはそれがもの凄く足りないと思うのよ。なぜ必要かといえば、最初の話に戻るけど、世間を振り向かせる必要があるわけであって。ボクらがやってることっていうのは、二つの方向性しかなくて、一つは巨大なコアを作る方向性。最も新しい成功例がUFCだけどね。もう一つは、力道山、猪木さん、UWF、K―1、PRIDEと続いた、〝世間と闘う〟という方向性。この二つしかないと思うんだけど、〝世間と闘う〟っていう意識は絶対に外しちゃいけないことだから。ボクなんか、そこに一番興味があるからね。
――すると、『K―1甲子園』は世間と闘いやすいイベントなんじゃないですか？
谷川　『K―1甲子園』は〝世間と闘う〟ための一環なんだけどさ。いまボクがイベントでおもしろいなあと思ったのが『アウトサイダー』と、『ホスト・ボンバイエ』なんだよ。『ホスト・ボンバイエ』はホストを応援してる女の子がたくさん観に来てるじゃない。『アウトサイダー』も、不良の友だちが応援に来てるじゃない。それって、格闘技を従来のイメージじゃなくて、まったく別種のものとして世間に伝えてることになるんです。
――不良が観に行くイベント、女の子が応援するイベントってなんだろう？　そうやって興味を惹かせる感じで。
谷川　そこからマスコミが注目して、テレビで取り上げられて、スポンサーがついたり、何かとコラボしたりして、世間が格闘技というものに注目してくれる。
――不良やホストがきっかけになってるわけですね。
谷川　ホストのイベントなんてボクは観に行ってないけど、格闘技をあまり観てない人が話題として教えてくれるもんね。だから、ほかの総合やキックボクシングの試合がどうなってるかっていうことよりも、ホストの試合のことのほうが普通に耳に入ってくるし、気になるよね。どんなことをやってるんだろう⁉って。
――おそらくそれは、既存の格闘技イベントは、ムーブメントとしてはいままでとさして変わりはないだろうっていう意識が、谷川さんの中にあるんでしょうね。
谷川　そうなんだろうね。で、実際にイメージどおりだし、一般人から新鮮さを持たれないもん。でも、ホストの試合は「みんな凄い弱いんだけど、お客さんが満員で女の子が応援してる」っておもしろがるんだよ。それはいまだけかもしれないけど、それこそ世間だと思うし、『K―1甲子園』なんかもそういうイメージを打ち出したいの。客をみんな高校生にして、ブラスバンドとチアリーダーも呼んで、ラウンドガールも高校生にしようと思ってる。「あ、こんな新しい格闘技イベントが出てきた！」って世間を振り向かせたい。
――一種の場面転換をするわけですね。そのために谷川さんを筆頭に、〝邪悪な大人〟は全員退場してもらいましょう（笑）。
谷川　んあ〜！　まあ、それぐらいの気持ちでやりたいよね。そこまで振りきって、やっと世間に通じるんだよぉ。ついでに便乗して、タイトルも「K―1 ROOKIES」かなんかにしようと思ってるんだけど。
――ダハハハハハ！　さすが〝邪悪な大人〟、抜け目がないですねぇ。
谷川　ボクが『K―1甲子園』でやりたいのは、そこだけなんだから。もちろん世代の人材発掘っていう意味もあるんだけど。誰が勝ったか負けたかなんて、極端に言えばどうだっていいんだよ。
――一つの〝現象〟になるかどうかですよね。レベルが高い低いはともかく。
谷川　レベルが低いとか、そんなことはどうでもいいんだよ！　高校野球の甲子園だってあのパッケージ感がいいんじゃない。これは世間に対する勝負であって、それをいまこそ格闘技界がやらないと。ボクにさえいまは聞こえてこないもんね、キックボクシングや総合の試合で誰が勝ったとか、誰が闘うとか、そんなことすら聞こえてこない。
――まあ、谷川さんの場合はDREAMミドル級GP決勝ラウンドのメンバーすら覚えてないわけですからね。
谷川　…………………………………知ってるよ。あとで言うね（小声で）。
――ククク。まず谷川貞治という〝世間〟を突破しないと、リアルな世間と向き合えないのかもしれない。
谷川　とにかく格闘技界のムードを変えていきたいなあ。「おもしろそうだね！」っていう新しい匂いをさせないと。
――最後に、9月のDREAM、目標平均視聴率は何パーセントですか？
谷川　15パーセント!!

【08年8月6日／都内・某ホテルにて収録】

キックにはちっとも興味のない『kamipro』編集部ですが、K-1甲子園だけは別なんです！　復活した藤門暉裟が梶原一騎からあだち充モードへ変身したのはビックリしたが（こんな笑顔、見たことない）、K-1甲子園は今年下半期で一番目を引くイベントだ。

邪悪な大人の結論
ホスト・ボンバイエを気にするのが世間だよぉ

嬢と付き合うより、
合うほうに価値がある。
vs世間だ！」

“小池のダンナ”が語るプロレスの未来とは？

坂田 亘

世の中に対してさまざまな“仕掛け”を展開してきた『ハッスル』。その中でも坂田亘といえば小池栄子さんとの結婚でワイドショーを賑わせ、世間に広くその存在が浸透しているプロレスラーの代表だ。そこで“世間に届いたハッスラー”坂田に「プロレスと世間」をテーマに直撃！　俺様キャラ全開で独自の理論を展開する“小池のダンナ”の声に耳を傾けろ！　3、2、1、ワッタル、ワッタル！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／金山フヒト

――すいません、先日の披露宴はご招待していただいたのに欠席してしまって。

坂田　いや、いいよ。でも、ガンツが来てくれたでしょ？

――堀江が代わりに行かせていただきました。かなり盛大な披露宴だったようで。

坂田　いやいや。

――よくよく考えると、プロレスラーが地上波放送つきの結婚披露宴をやるのって、これで最後のような気がします。

坂田　それはわからんだろ。まあ、これは嫁さん（小池栄子）の力が多分にっていうか、嫁さんの知名度にテレビ局も乗っかったっていうか。でも、いやらしい言い方をすれば、これは俺しかできないわけだし。

――まあ、そうですよね。

坂田　これ、嫌味だよね。だって俺しかできないもん！

――ククククク。

坂田　うん、俺しかできないもん。

――あ、3回も言いますか！（笑）。

坂田　まあ、そんなもんでレスラーの基準とか決めたくないけど。

――でも、その世間の土俵に上がれるレスラーって、けっこう限られてくるわけじゃないですか。

坂田　まあ、そうだよなあ……。上がりたくてもっていうか、みんな上がりたいはずなんだけど、そういう欲を殺してるところはあるよね。「俺はこういうことはやらない」とか、縮こまった雰囲気を感じる。プロレスや格闘技ってメジャーになれるはずなのに、自ら下に向かってるっていうか。

――そんなプロレス界と比べて、ボクシングでは亀田興毅と内藤大助が……。

坂田　（さえぎって）映像は観てないんだけど、なんかいろいろ渦巻いてんでしょ？　だからプロレス団体の人たちも、自分たちがやってきた手法をさ、ボクシングにうまく取られちゃって。いまのプロレス業界はへんに凝りすぎちゃって、なんか。

――こだわりがコアな方向に行ってますね。わかりづらい方向に。

坂田　そうそう、もっとシンプルに考えればいいと思うけど。

――さっき坂田さんが言っていた〝欲〟という部分でいうと、常に貪欲じゃないと、何かチャンスがあったときにガッと噛みつけないですよね。

坂田　そうでしょ？　だって、ホントはステーキ食いたいはずなのに「マクドでいいや」とかだろ。もちろん、マクドが悪いってわけじゃないけど、もっといいモン食えるだろ！　って。

――街に出たらマクドだったら、すぐに探せちゃうわけですもんね。

坂田　そうなんだよ。だから、100人のキャバ嬢と付き合うよりさ、一人のタレントと付き合ったほうがそれは価値あるよ！

――ダハハハハハハハ！　披露宴を済ませたばかりとは思えない発言ですねぇ（笑）。でも、坂田さんの場合は100人のキャバ嬢と付き合いつつ……、という感じがしないでもないですけど。

坂田　ああ、俺様は全部いくから。

――いやあ、素晴らしいです（笑）。

坂田　だろぉ？

――クックックックッ。坂田さん、この業界で話が合う人いないんじゃないですか？

坂田　全然、合わない。

――じつは友人でもある魔娑斗さんとは話は合います？

坂田　魔娑斗はね、あいつが言ってることもわかるし、なんかやっぱかわいい。あいつは凄くかわいい。

――いろんな人から「なんで魔娑斗は坂田

「100人のキャバ嬢と
一人のタレントと付き合う
それが俺の

坂田　（さえぎって）映像は観てないんだけど、なんかいろいろ渦巻いてんでしょ？　だからプロレス団体の人たちも、自分たち

つは凄くかわいい。

――いろんな人から「なんで魔娑斗は坂田

なんかと付き合ってるんだろう？」って話をよく聞くんですけど。

坂田　あ、そうなんだ（笑）。そもそも嫁さん同士のつながりなんだけど。そういう意味では、たとえばレスラーだとか、総合の格闘家と話してるより、魔裟斗と話してるほうがよっぽど話がスウィングしてるから。

――……あの〜、坂田さんが勝手にそう思ってるわけじゃないですよね？

坂田　何言ってんだよ！（怒）。たぶんね、あいつはあいつで楽しんでると思うよ。

――どこがほかのレスラーと違います？

坂田　ん？

――いや、ほかのプロレスラーや格闘家との考え方の違いっていうと。

坂田　そこはシンプル。

――あまり難しく考えない。

坂田　深く考えることは俺もあるけど、わざわざ自分からややこしくすることはない。イスが10個並んでたら、俺とか魔裟斗は迷わず真ん中に座るな。

――いまの時代、真ん中に座るよりもちょっと端に座ったほうが目立つんじゃないかとか、そういうひねり方をしがちですよね。

坂田　それって、目立つと思ってやるの？

――あとは真ん中に座ることへの恥ずかしさもあるんでしょうね。

WATARU SAKATA

レスラーとか総合の格闘家よりも魔裟斗のほうが話がスウィングする

坂田　ふ〜ん。端に座らなきゃいけないヤツが真ん中に座ってるっていう現状もあるけどな。『ｋａｍｉｐｒｏ』を含めて、『週プロ』もさ、もっとそういう……なんだろうなあ、ジャーナリストだったらジャーナリストらしく、もっとシンプルに見て、批評できてこそジャーナリストでしょ？

――ジャ、ジャーナリストですか⁉（笑）。

坂田　まあ、もっとシンプルにやったほうがいいんじゃないかなと思うけど。いまさら何も言うつもりもないけどな。

――なんで『週プロ』と『ハッスル』は仲悪いんですかね。

坂田　そりゃ俺と山口（日昇）さんが嫌いなんじゃない？

――どうして嫌いなんですかね？

坂田　いや、知らない。

――決定的な原因があるわけでもなく。

坂田　わかんねえなあ……。『ｋａｍｉｐｒｏ』もハッスルはあんまりだし、〝月刊ＤＲＥＡＭ〟みたいになってるからね、いま。

――そうですか（笑）。『ハッスル』に関していえば、取り上げ方は考えなきゃいけないんですよね。

坂田　どういう意味で？

――う〜ん、『ハッスル』をほめるにしてもけなすにしても、なんか、とてつもない遠慮がありますよね。マット界に限らず、どんなにジャンルにも、マスコミと取材対象者は〝共犯関係〟を結んでるところはあるじゃないですか。ウチとノアにしたって、お互いに触らないで頑張りましょうという勝手な〝共犯関係〟があるわけで（笑）。ただ、『ハッスル』の場合は、ウチがどう噛んでいくのかがハッキリしてないですよね。だから甘くもなく厳しくもなく、ただただ鋭くないだけ。こないだの7・27横浜文体も、いろいろ声を聞く中で、ウチの編集部の感想が一番ノンビリしてる感じがしましたね。

坂田　なるほどね。あのさ、入籍したときに『ｋａｍｉｐｒｏ』のインタビューで言

7月24日に盛大に行なわれた坂田と小池栄子さんの結婚披露宴。この模様はゴールデンタイムのバラエティ番組『ドリーム・プレス社』（TBS系列）で放送。ちなみに二人が交際をスタートしたのは02年、愛のキューピッドとなったのは"ハッスル・キング"こと故・橋本真也さんだった。

緊急特集 世間と闘うとは何か？

ったと思うんだけど、「いずれプロレスマスコミもみんな俺に感謝することになる」って。

——言ってましたね。天下を獲る！　と。

坂田　俺、ホントに思ってるからな！（キッパリ）。だからマスコミとの関係はそうなのって、俺の頑張りがまだ足りないんだな、と。自分でも足りないと思うし、「まだまだこんなもんじゃねえ！」と思ってるし。

——坂田さんって、よく「食わしてやる」って言われてるじゃないですか。食わせるプロレスラー像ってどういうイメージですか？

坂田　直接的に何か自分が恩恵を受けたとか、そういうことはないけども、でも唯一多少の……接点というか、話したことがあるぐらいだけど、その中で天下を獲った感がある人っていうと、やっぱアントニオ猪木しかいなかったから。

——じゃあ、いまのプロレスマスコミがイメージする〝食わせるレスラー〟って、なんとなくでも理解できますか？

坂田　わかんないな。ただ一つ思うのは、自分たちでいじれないレスラーはレスラーじゃないと思ってるんじゃない？　媚びてきたりとか、そういうディスカッションができるヤツらじゃないと取り上げる気がないのかな、と。

——「私は○○選手を応援してま〜す！」というラブレターを、選手に向けて書いてるマスコミが多いですよね。

坂田　そんな感じだな。俺、いま『ハッスル』しか出てないから、会場でダイレクトに感じたりはしないんだけど、身近に感じられるヤツしか応援しないみたいなさ。

——ただ、マスコミはいいとして、坂田さんのキャラやスタンスだと、ファンの応援は受けないような気がするんですけど。

坂田　それは自分でも感じる。

——あ、感じますか。

坂田　凄く感じる。だけど首根っこつかまえて「おまえらちゃんと観たほうがいいぞ！」っていう気はあっても、ファンに媚びる気はない。媚びて振り向いてもらうプロレスラーなんて、意味ねえだろ。

——それって、具体的に言うと、スポーツ新聞の見出しになったり、イベントの看板レスラーになりたいってことですよね。現時点のプロレス界で、見出しになるレスラーって誰ですか？

坂田　…………………。

『ハッスル』の普及に誰よりも尽力した“キャプテン・ハッスル”小川直也。04年には清原和博らスポーツ選手や、当時自民党幹事長の安倍晋三がハッスルポーズをするなどブームとなり、その年の流行語大賞にノミネートされる。しかし、いま『ハッスル』のリングに小川の姿はない……。

——考え込みますか（笑）。

坂田　考えちゃうなあ……。いないよね。寂しいよね。それは自分も含めてだけど、やっぱ会ってエネルギー感じるヤツは写真からだってエネルギーを感じるんだと思う。扱うほうもそれを敏感に感じられるかどうかっていうのはあると思うけどな。

——いまのプロレスって、なかなか世間からジャッジされる瞬間ってないですよね。

坂田　うん、去年の大晦日で最後じゃないか。でも、いまも含めて、そこも〝おおいなる実験〟なんだと思うんだ。失礼かもしれないけど、インリン様はある意味でイージーじゃない？　簡単に一見さんを持ってこれるでしょ。

——そこでインリン様を使うのは楽ではありますね。

坂田　インリン様を作り上げるスタッフにしてみれば、もの凄く大変な作業だと思うけど、でもイージーだったじゃん。

——そう考えると、マニアックなファンに対しての髙田総統もイージーですね。

坂田　イージーだけど、イージーと思われてないところが凄いじゃん、髙田総統は。

——いや、髙田総統の〝名人芸〟はイージーじゃないんですが、何があっても髙田総統に任せられる部分には……。

坂田　ああ、俺たちの中で最後は髙田総統っていうのは、絶対に安心できるところがあるね。だからこそ、このままじゃいけないと思ってるよ。俺が背負わなきゃなんないんだってね。

——かつて小川さんと橋本さんが『ハッスル』でやってた頃は、まだ元気だった新日本プロレスであったり、『週プロ』だったりにボールを投げていたところがあったじゃないですか。で、HGや和泉元彌が出てきた頃は、世間に向けて投げていた。いまの『ハッスル』は、どこにボールを投げるのかに興味があります。

坂田　そういう意味でいう〝対世間〟っていうのは、まったくできてないよね、いまは。

——〝対世間〟じゃなくても、投げてる相手がわかれば、たぶんそこに向かって感情

実験的なアプローチの数々
『ハッスル』が試みた“仕掛け”

その1　かつてないキャラ変更！

『ハッスル』では選手たちがおもいきったキャラ変更に取り組んできた。髙田総統が初登場したときには、その風貌の“変化”に度肝を抜かれたモノだ。“デンジャラスK”として寡黙なキャラだった川田利明も、いまや“モンスターK”として、試合のみならず歌に踊りに奮戦中！

その2　各界有名人の電撃参戦！

ファイティング・オペラの舞台には、先日引退したインリン様をはじめ、元読売巨人軍のクロマティ、五輪体操銀メダリストの池谷幸雄とさまざまな有名人が参戦。とくに話題になったのは和泉元彌！　ワイドショーにも連日取り上げられ、お茶の間に『ハッスル』の名が浸透！

その3　まさかの地上波放送の獲得！

一般認知度を上げる最大の役割をはたすものといえば地上波放送。『ハッスル』は昨年大晦日にはテレビ東京系でゴールデンタイム放映される快挙を達成！　また、昨年10月から今年3月までは、髙田総統の秋葉原降臨など、実験的な企画満載の『どハッスル!!』がレギュラー放送された。

緊急特集
世間と闘うとは何か?

坂田亘

移入できる土壌は『ハッスル』にあると思うんです。なんか、きっかけがほしいですね。『ハッスル』って、自分で自分のハードルをメチャクチャ上げてきているところはあるじゃないですか。

坂田　去年なんて11月に『ハッスル・マニア』をやって、そのあと大晦日でしょ。みんな出しきっちゃった感はある。だから、なんだろうなあ……。ちょっと安定してるように見えちゃう俺たちがいるとしたら、それはすなわち"敵がいない"ってことかもしれないな。

——敵も作ろうと思って作れるもんじゃないですからね。

坂田　そうなんだよね。

——さっき言ったボールを投げるっていうのは、敵に投げるわけですからね。そう考えると、なんですかね、いまの『ハッスル』が意識しなきゃいけないものって。

坂田　それがね、わかんないよね。

——業界内の選手や団体じゃなく、とんでもないモノに嫉妬してほしいですねぇ。坂田さんが最近嫉妬したものってないですか?

坂田　嫉妬?　う〜ん…………。嫉妬……。

——最近気になるジャンルはあります?

坂田　ジャンル……ちょっとあっても、最近ますます一過性になってきてて。嫉妬ね…………。そうだね。不景気だから(ポツリと)。

——なんですか、いきなり不景気って(笑)。

坂田　夢がないんだって。たとえば30万、40万もらって満足してるレスラーが多いっていうかさ。

——坂田さんの野望が大きすぎるんじゃないですか?(笑)。

坂田　それはね、たまに自分でも思う。

——あ、自分で思いますか!(笑)。

坂田　うん。俺って、バカなのかなと思ったりするけど、でも、たぶん俺はこういう生き方しかできないし、死ぬまでこのままだろうし。レスラーも一般の人もそうなんだけど、いまの時代ってさ、生き残ることと勝ち残ることを一緒くたにしちゃってるんだよね。それ、違うからね。生き残ることなんて誰でもできるよ、給料下がったって、ギャラもらえなくたって、それでやってればさ。勝ち残るのとはわけが違う。

——坂田さんは勝ち残りたいタイプ。

坂田　俺は絶対に生き残ろうとなんて思わない。

——そういえば、小川さんも『ハッスル』で勝ち残ろうと思ってたと思うんですよね。

坂田　そうね。

——小川さんのやったことって凄かったと思いますよ。あれこそ世間と闘ってたなって感じしますけどね。

坂田　俺なんか、常に小川さんが『ハッスル』でやっていたことを意識してる部分っていうのは凄くあって、いい意味でも悪い意味でも見ているところはあるよね。『ハッスル』の小川さんには、勝ち残ろうとしている男の凄味はあったよな。

さかた・わたる■1973年3月11日、愛知県出身。前田日明率いるリングスで94年にデビュー。『DEEP』やPRIDEなどで活躍後、ZERO-ONEなどプロレスのリングでも大暴れ。現在は『ハッスル』でハッスル軍をリードする兄貴的ポジション。現在、ハッスルGP2008に出場中。8.23大阪大会で越中詩郎と対戦する。175cm、93kg。

いまの『ハッスル』が安定しているように見えるのは"敵"がいないからかもしれない

——もしかして、いまのプロレスがもの足りないと思ってるのは、勝ち残ろうとしているプロレスがあまり見えないのかもしれませんね。

坂田　うん、そうだね。ほかのプロレスラーが俺みたいに思ってるヤツがいるのかどうかはわからないけど。もしかしたらオレの敵は、生き残ろうとしているプロレスかもしれないな。

——なるほど。よくわかりました。

坂田　で、『kamipro』はどう思ってんだよ?　いつまでもDREAMを扱ってる場合じゃねえぞ!

——そうですねぇ。……『ハッスル』には、生き残ってほしいです(笑)。

坂田　あ、そう。まあ、いいや。いずれ俺に感謝する日がくるからな!

【08年8月7日/都内・某所にて収録】

結論
生き残ることより勝ち残ることを考えろ!

kamipro SHOPPING

通販やってます!

夢に向かって再発進!
青木真也のフンドシTシャツ大好評!

青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL イエロー]¥3,150(税込)

KamiproマスクTシャツ[☆]
[S・M・X・XL ホワイト×レッド]¥3,990(税込)
M.Lサイズ売り切れ

"殺し"キャップ
[フリー ネイビー×ホワイト]
¥3,150(税込)

I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブルー]¥3,990(税込)

マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,150(税込)

インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990(税込)

100号記念特製
巨大バスタオル
[タテ132cmヨコ68cm ブルー×オレンジ]
¥3,150(税込)

インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M・X・XL ホワイト]¥3,990(税込)
Lサイズ売り切れ

インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990(税込)

インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M・X・XL グレー]¥3,990(税込)
Lサイズ売り切れ

モンスター°Cマスク
[FREE ブラック×イエロー]
¥5,250(税込)

赤鬼蜘蛛マスク
[FREE レッド]
¥5,250(税込)

ニセHGマスク
[FREE ブラック]
¥7,350(税込)

MONSTER in SUMMER Tシャツ
[XS・M・L・XL ホワイト×ミント/ピンク×グレー]
¥3,990(税込)

ハッスルGP Tシャツ
[XS・M・L・XL ネイビー/カーキ]¥3,990(税込)

MONSTER°C Tシャツ
[140・XS・M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

[販売元]ダブルクロス

『kamipro』通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください)
- 代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

[『kamipro Hand』でご注文の場合]
詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

[電話でご注文の場合]
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797
(平日13:00～19:00)

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

※価格はすべて税込みです

ケータイサイトで
セール実施中!
いますぐアクセス!!
★非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo　iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索
au　トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank　メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM　趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

トップグラドルに

問う！

『戦極』はほしのあきになれんのか!?

世間

知ってました？　あの、ほしのあきが『戦極』マニアだってこと。3月の旗揚げ戦、そして6月の『第三陣』も会場で観戦、リング上の闘いに釘づけとなっていたのだ。ある意味、格闘家やプロレスラーよりもはるかに知名度の高い、ほしのあきが観た『戦極』の魅力とは!?　トップグラドルに問う！　『戦極』は世間になれんのか!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／タイコウクニヨシ　試合写真／乾普也

シャキーン！

なんと！　ほしのあきは

戦極マニアだった!!

『戦極』みて、ほっし〜の♥』

AKI HOSHINO

聞き手／阿修羅チミロ　撮影／タイコウクニヨシ　試合写真／乾普也

——日本を代表するトップグラビアアイドルのほしのあきさんを『戦極』の会場で何度かお見かけしまして、「なんで『戦極』に、ほしのさんが?」と、あまりにも気になって取材に来てしまいました!

ほしの　私は吉田秀彦さんと友だちなので、PRIDE時代から観に行ってるんですよ。〝ヒデ兄（にい）〟の出てる試合は応援しに行こうと思って。

——ひ、ヒデ兄!　そういえばブログとかで吉田選手のことを「兄貴分」と書かれたりしてましたよね。

ほしの　ウフフフ。そうなんですよ。

——ヒデ兄とは、どういった経緯で知り合ったんですか?

ほしの　数年前に、ヒデ兄の後輩の結婚式の二次会があったんですけど、私の友だちがヒデ兄の事務所の人と知り合いで、たまたま電話したら「いま二次会やってるからおいでよ」って言われて、そこで仲よくなったのが初めてで。

——結婚式の二次会で知り合った、と。

ほしの　そういうのもあって大会を観に行くようになって。だから、あんまり格闘技とか詳しくないんですけど……大丈夫ですか?（かわいらしく）

——まったく問題ないです!　じゃあ、PRIDE時代からヒデ兄の試合はだいたい観てるんですね。

ほしの　毎回観に行って応援してたんですけど。ヒデ兄から「俺のTシャツ着て応援しろ!」って言われたんで着て応援したら負けちゃって、「おまえが着たから負けたんだ」とか言うんですよ!（笑）。

——ひどいこと言いますね（笑）。そんなヒデ兄も38歳になって、最近年齢を気にする発言が多くなってるんですけど、〝最年長グラドル〟として活躍する、ほしのさんからエールをお願いします!

緊急特集
世間と闘うとは何か?

私は吉田秀彦さんと友だちなので〝ヒデ兄〟の出てる試合は応援しに行ってます

ほしの　最近は「オヤジを応援してください」っていつも言ってますもんね。でも年齢はいってるかもしれないけど、そのぶん経験も凄い積んでるし、身体もドンドン引き締まってきたりしてるから、体力的な面では、そこまで衰えてないんじゃないかなと思って。やっぱり、頑張ってほしいなと思いますよね。

——頑張って、ほっし～の、と。6月の『戦極～第三陣～』ではバックステージで五味選手と一緒に写真を撮ってましたよね。

ほしの　そうなんですよ!　バックステージで「はじめまして」だったんですけど。「ブログ用に写真いいですか?」って聞いたら快く「いいですよ」って言ってくれて。うしろに五味選手のポスターが貼ってあったんで、その前でちゃんと取らせてもらいました。一応、宣伝も兼ねて（笑）。

——さすがです!　五味選手の試合も何度か観てるんですか?

ほしの　何回か観たことあります。前回観に行ったときは「あ、もう終わっちゃったの?」みたいな感じで（笑）。今月も観に行きたいなと思ってたんですけど……。

——今月は五味選手がメインの『戦極～第四陣～』がありますけど、行けなさそうな感じですか?

ほしの　そうなんです。ちょっとお仕事で行けないかな、みたいな感じなんで。

——それは残念です。何度か観て『戦極』にはどういうイメージを持たれてます?

ほしの　う～ん。まだそんなに知られてないんじゃないですか?

——正直、まだ世間に届いているとは言えないですね。だからこそ、ほしのさんみたいなトップグラドルが『戦極』みて、ほっし～の」なんて言ったら興味を持つ人も

増えるんじゃないかな、と。

ほしの　いやいやいや。でも、やっぱり男同士の闘いって、観てるほうも燃え上がってくるっていうか。音とかも凄いし、観てて凄いカッコいいなと思いますよね。

——ただ、ほしのさんは全盛時のPRIDEも観てるみたいなんでわかると思うんですけど、最近の格闘技界って、ちょっと元気がないんですよ。

ほしの　あ、そうなんだ。そういえば、PRIDEとかって、お客さんの熱気が凄かったですよね。

——それこそ、ほしのさんと同年代の女性とかも、もっと観てくれるようになるには、どうすればいいのかなって。

ほしの　でもカッコいい選手もたくさんいますし、こないだも五味さんと闘うために！　って若い男の子たち何人かリングに上がったじゃないですか。

——優勝者が五味選手と闘えるトーナメントが8月から始まって、それに出場する北岡悟選手、横田一則選手、光岡映二選手たちがリング上で挨拶をしてましたけど、ほしのさんに言わせると「若い男の子たち」ですか（笑）。

ほしの　若くてかわいらしい感じで。ああいう子たちが出てると女の子のファンも増えるだろうし。女の子はそういう目線で観に行って好きになってもいいだろうし、男の人は格闘技が好きで観に行くので、両方イケるんじゃないかなって。

——タレント仲間とか、ほしのさんの周りで格闘技に興味ある人っています？

ほしの　たくさんいますよ。磯山さやかちゃんも、この前『戦極』でばったり会って、「偶然!!」って手を振ったりして（笑）。

——いそっちは以前、格闘技のイベントにかかわったりもしてましたからね。

（写真左）『戦極』でのジョシュ戦、モーリス戦だけではなくPRIDE時代も“ヒデ兄”と慕う吉田秀彦の応援に訪れていたというほしのあき。次回はゼヒ、対談でもお願いしたいところです。（写真右）ほしのあきいわく「若くてかわいらしい」と高評価だったのが、6.8『戦極～第三陣～』で発表されたライト級グランプリ参戦決定選手。グランプリ優勝者は五味隆典との対戦権が得られるということでリングに上がった北岡、光岡、横田、ダムはすでに気合い充分。しかし、戦極ポーズTシャツを着て意気込みを語ったドゥエイン・ラドウィッグは、その後、地元の大会への出場を優先したためグランプリ参戦とともに「勝ったら戦極ポーズをやるよ」との約束も消えてしまった……。

ほしのあき

ほしの　名倉（潤）さんとかもいつもいますね。

——名倉さんもヒデ兄ファミリーですからね。リング上から呼びかけられたりしたこともありましたし（笑）。

ほしの　女の子も格闘技がどうこうっていうよりも、カッコいい選手がいるから行くって人も多いですよ。最初はそこからでも、観てるとだんだんハマると思うし。私も詳しくはわからないけど、観てておもしろいって思うんで。ただやっぱり、怖い部分も凄いあるんですよ。

——たとえば、どんなところですか？

ほしの　音とか、血とか飛ぶと「うわっ！」って手で顔を隠しちゃうけど、でも隙間から観ちゃう感じで（笑）。それもまた楽しいかなって。

——怖いけど観ちゃう、と。格闘技といえば、いまはボクシングは亀田兄弟や内藤大助選手の活躍とかで話題を集めてますけど、ご覧になったりします？

ほしの　知ってますけど、そんなに観てないかな。でも昔、ジムでボクササイズはやってたことがあるんですよ！　身体を引き締めるためにやってたんですけど。

——じゃあ、どちらかといえば総合格闘技のほうが好きなんですか？

ほしの　もともと〝闘い〟が好きなのかもしれない。ボクシングも昔は好きでよく観に行ってましたよ。後楽園ホールも行きましたし、大きいところも行きますし。しかも全部プライベート（笑）。仕事では行ったことないんで。

——そんなに行かれてましたか。ほしのさんは芸能界で長く活躍されてますけど、電話番をしたりと下積みの時期もありつつ、いろいろ模索しながら、いまトップグラドルという座を勝ち取ったってところがあるじゃないですか。

ほしの　そうですねぇ～。けっこういろんなことをしてきましたから（笑）。

——ある意味、プロレスラーや格闘家も同じようなところがあって、新弟子として下積み生活を経て、いろいろキャラクターを変えたりしながら成功を狙ったりするんですけども。

ほしの　そのへんは芸能界と一緒ですよね。それに私、プロレスの仕事もしたことありますよ。WEWっていうところで、亡くなっちゃいましたけど、冬木（弘道）さんの秘書で何回か出てました。

——意外と知られてないですけど、そうなんですよね。一時期はネットとかで「これはほしのあきじゃないか？」みたいに騒ぎになってましたね（笑）。

ほしの　それは私です（笑）。そのお話をいただいたときプロレスのことはまったくわからなかったけど、「凄い楽しそう！」って。知らないことだらけで、ビックリすることもたくさんありましたけど、おもしろかったですよ。

——そんな、ほしのさんは〝生涯グラドル〟と宣言されてますけど、やり始めた頃はいろいろ葛藤もあったみたいですね。

ほしの　そうですね。何年か前までは私も含めてグラビアの仕事は戸惑いながらやってた人が多いと思うんですよ。

——グラビアを卒業して、女優とかに転向する人って、いまだに多いですからね。

ほしの　ですよね。でも、私は続けていくうちに「観られることが楽しい！」って思えたときがあって、そこからすべてが変わって、グラビアに誇りを持って仕事をするようになったんです。

——吹っきれた瞬間というか、覚悟を決めた瞬間はあったんですか？

ほしの　どこがきっかけでっていうのはわかんないんですけど、覚悟という意味では、グラビアの仕事は〝名前を売るための最終手段〟として選んだっていうのが私の中であるんですよ。

――グラビアは最終手段！　ほしのさんいわく〝冬眠期〟が2～3年あったみたいですけど、そこから脱出して、世間の人を振り向かせるためにグラビアの仕事を選んだってことですね。

ほしの　そうですね。一回覚悟を決めたら、「まずは名前を知ってもらわなきゃ」と思って、いろんなことをしましたね。

――具体的にはどういった努力を？

ほしの　とりあえず、全部の雑誌の表紙に出たいっていうのがあったので、名前を覚えてもらうために、マネージャーと一緒に何カ月も出版社を回ったりしましたし。最初の頃はさっぱりでしたけど、根気強く通って徐々にお仕事をいただけるようになって。まあ、毎日暇だったからっていうのもあるんですけど（笑）

――いやいやいや。ほかにもいろいろ努力してたみたいですよね。コンビニでポーズの勉強をしたり（笑）。

ほしの　そうそう。男性誌を立ち読みしてポーズの研究とかよくしてましたよ。いま思えば、ちょっと恥ずかしいですけど（笑）。

――でも、ほしのさんも多くの人と同じように、グラビアを卒業しようと思ったこともあったみたいですね？

ほしの　〝最終手段〟と言いながらも、私もグラビアは通過点にする予定だったんです（笑）。でも、いまはそれがホントに好きになって、喜んでくれる人も多いので〝生涯グラドル〟として、いけるところまでいこうかなって。

――いっちゃってください（笑）。話を聞いてて思ったんですけど、格闘家とかプロレスラーって、「アイツには負けちゃいそうだからやりたくない」とか、「確実に勝てる相手とやりたい」って感じで、たとえば地上波で名前を売るチャンスがあっても嫌がったりする人が多いんですよ。

ほしの　へぇ～。そうなんですか？

――そういう人たちに、ほしのさんの言葉を聞かせてやりたいというか（笑）。

ほしの　でも仕事内容が全然違いますからね。私は痛みはまったくないんで（笑）。でも、格闘技のことはよくわからないですけど、「ここは名前を売るチャンスだ」って思ったら、多少のリスクがあっても、こっちからつかみにいかないとチャンスなんてすぐに逃げちゃいますからね。

――まあ、そうですよね。

ほしの　雑誌のグラビアもテレビも一緒、やっぱり、こういう仕事をしていて「いろんな人に見てもらいたい」っていうのが一番大きいし、それが喜びでもあるので。

――〝プロ〟ならば「わかる人だけに伝わればいい」って意識じゃダメですよね。

ほしの　そうですよね。ただ、それで満足しちゃう人もいると思うんですよ。私も最初は男性のファンがいるだけで満足してたんで。でもテレビによく出るようになってからは、イベントなんかでも女性の方とか恋人同士で来てくれたりするんですよ。それが凄い嬉しくって。

――ほしのさんのイベントに彼女を連れて行くっていうのも凄いですけどね（笑）。

ほしの　普通だったらヤキモチやくんじゃないかなと思うんですけど、彼女のほうも嬉しそうにしてくれたりして。そういうのが凄い幸せですね。

――人前に出る商売なら、やっぱり、多くの人に評価してもらいたいっていうのは当然ありますよね。

試合ですか？　いやいや、私は痛いの嫌いなんでダメです（笑）

ほしの　もちろん。嫌われるよりは評価してもらったほうがいいですから。嫌われるでもなく、相手にされないっていうのが一番怖いですけど（笑）。

――〝プロ〟としては、まだ嫌われてるってほうが認識されてるわけですし、価値はありますからね。それって芸能界だけじゃなく、プロレスや格闘技界にも言えることだと思います。

ほしの　そう言われると……いろいろ共通点もあるかもしれない（笑）。

――そういう意味でも、ウチの雑誌的には、ほしのさんって、一流の〝プロレスラー〟だと思うんですよ！

ほしの　プロレスラー!?　あららら、ありがとうございます（笑）。

――ちなみに、インリン様のように「私も闘いたい」と思ったことはあります？

ほしの　いやいや、痛いの嫌いなんでダメですね。男兄弟で育ったんで、ケンカはよくしてましたけど……、観て楽しむので充分です（笑）。

――ちょっと残念です（笑）。ちなみに先日は小池さんと坂田選手の披露宴にも出席されてましたけど、周りは格闘家とお付き合いされてる方とか多いですよね。

ほしの　あ、確かにそうかもしれない。

――井上康生さんと結婚する東原亜希さんや、魔裟斗夫人の矢沢心さん、あと、秋山成勲選手と交際されてるSHIHOさんとも付き合いが古いみたいですし。

ほしの　そうそう、なんか多いんですよね。でも、私はないかなぁ……。

――それは何か理由でもあるんですか？

ほしの　やっぱり、試合で負けたときとか、ボコボコになった顔のときに、あきは

職権乱用!?
チョロが戦極ポーズを伝授!

すでに戦極ポーズの存在すら忘れている人が多いと思うので、ほしのさんの力を借りて、もう一度おさらい。まずは「一」!

次は両手を顔の横で大きく開いて「十」を表現。やはり、トップグラドルがやると単純なポーズ一つとってもかわいらしい!

続いては胸の前で腕をクロスして「百」! ちょっと無理があるが、クロスした両腕を左右の下に広げつつその勢いで……。

まずは右手でシュートサインをキメて前に突き出し「戦極ッ!!」。う～ん、それにしても、ほしのさんがやるとやっぱ違うわ!

最後に左手もシュートサインをキメて「戦極ッ!!」。これで戦極ポーズの完成だ。ほしのさんにもどっかでやってほっし～の!

どう接していいかわからないから、奥さんとか彼女とか凄いなって思うし。まあ、触れないのかもしれないですけど。

――まったく触れないわけにもいかないでしょうし（笑）。

ほしの　ヒデ兄は別で、負けたときも「大丈夫？　顔、ボッコボコだよ！」とか言えるけど（笑）、それが彼氏とかだったら、どうなんだろうって。心配になっちゃうんで無理ですね（キッパリ）。なんかあったとき守ってくれそうだから、カッコいいとは思いますけどね。

――いまの発言を読んで残念がってる格闘家も多いと思います（笑）。

ほしの　いやいやいや（笑）。

――以前、素敵なコスプレでプロ野球の始球式に登場してましたけど、『戦極』に限らず、プロレス・格闘技関係で、なんらかのかたちでの登場を期待してます！

ほしの　そうですね〜。ホントは、ヒデ兄の試合のときにいろいろやりたいなとは思ってて。前もちょっとそういう話になったんですけど。

――あ、そうなんですか！　おそらくヒデ兄の試合は9月か10月ぐらいにはあると思うので、そのときは、ちょっぴり期待して……、いいかな？

ほしの　いいともっ！（笑）。

――ありがとうございます（笑）。

ほしの　まあ、どうなるかはわかんないですけど、そのときは、またよろしくお願いします！　……でも、8月の大会も行きたいんだけどなぁ。

【08年8月4日／都内・新宿「スタジオアルタ」控室にて収録】

AKI HOSHINO

ほしの・あき■本名および女優としての名前は星野亜希。1977年3月14日、東京都出身。言わずと知れたトップグラビアアイドル。『笑っていいとも!』（フジテレビ系列）、『どうぶつ奇想天外!』（TBS系列）などバラエティ番組を中心にテレビでも大活躍。ちなみに今回の取材は『いいとも』終了後の控室で収録。一緒に写っているのは愛犬のあずきちゃんで〜す。
ブログ→http://ameblo.jp/hoshino--aki/

グラドル的結論

胸もいいけど注目すべきは彼女の覚悟

「お前ら、まだ夢(DREAM)を見ているのか！」から半年――。

『戦極』の頭脳が〝シャキーン！〟と宣言！

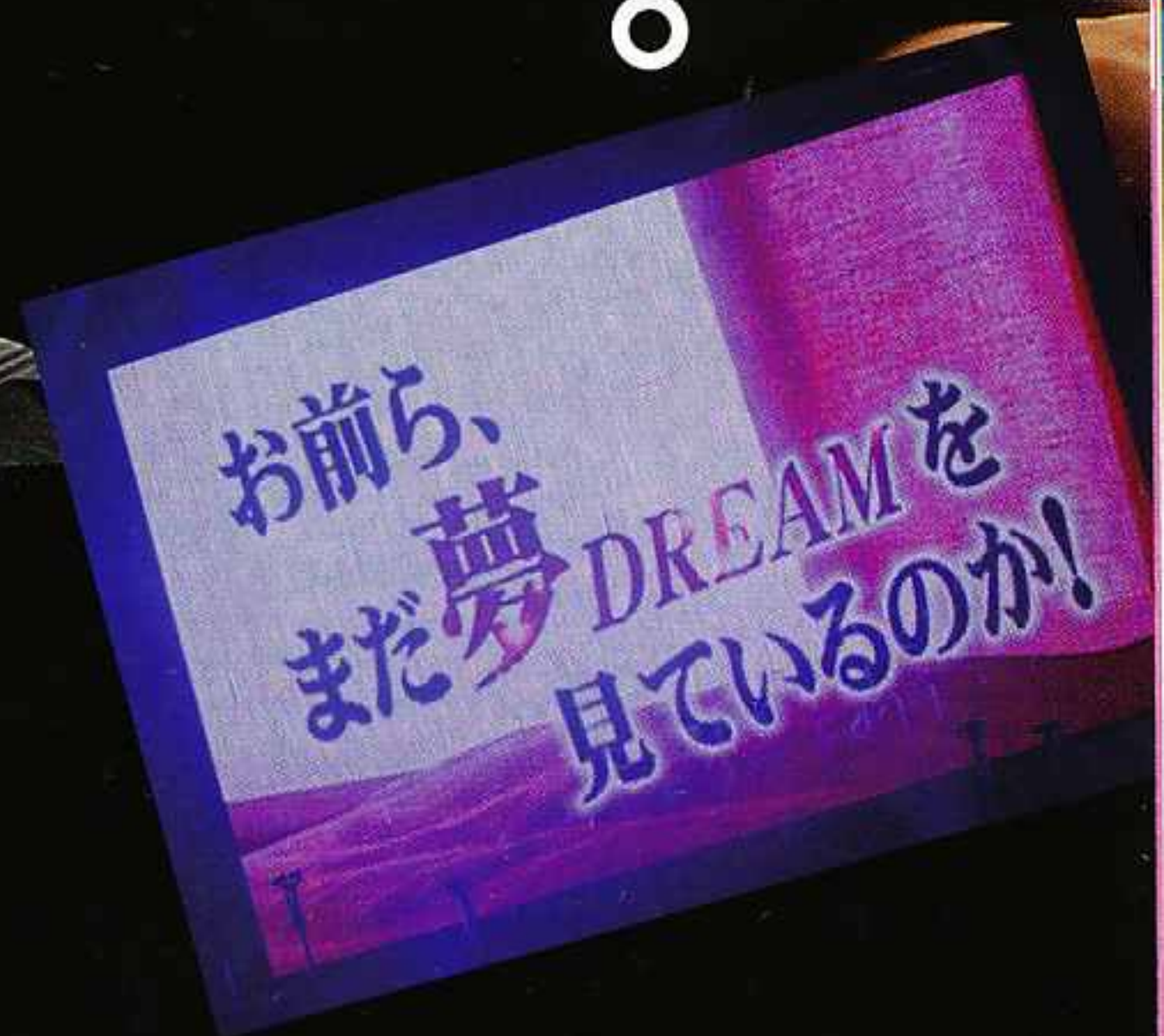
「この夏、『戦極』は変わります！」

『戦極』広報

國保尊弘

TAKAHIRO KOKUHO

今年3月の旗揚げ以来、すでに3大会を開催している『戦極』。これまでの『戦極』は、煽りVや〝シャキーン！〟、戦極ポーズなど、正直、試合以外の部分に注目が集まってしまっていたが、國保広報は「8月大会から『戦極』は変わります」と何やら自信ありげだ。世間と闘うため、『戦極』はどこへ向かおうとしているのか!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾普也、Josh Hedges (UFC)

――『戦極〜第四陣〜』を前に、「『戦極』は世間とどう闘っていくのか?」というテーマで今回は話を聞かせてもらえればと思ってます。よろしくお願いします!

國保 よろしくお願いします。でも、どうなんですかね? まだ『戦極』は世間に届いてるとは言えない状態なので(笑)。

――そのへんも含め、『戦極』はどこへ向かっているのか? 世間とどう向き合おうとしているのか、というところを広報の立場から話していただければな、と。

國保 わかりました。

――これまで3大会行なってきたわけですが、手応えは感じてますか?

國保 徐々に浸透してきてるなっていう感はありますね。最初はホントにイベントの作り方とか、まとめ方とか手探りでやってきましたけど、だいぶわかってきたことも多いですし。ただ、3大会やってみて、『戦極』らしさというのが、なかなか出し方が難しいというか(苦笑)。

――まあ、答えがあるわけでもないですしね。でも、なんなんですかね? 『戦極』らしさっていうのは(笑)。

國保 僕らなりにはコンセプトを持ってやってるんですけど、『戦極』を浸透させるっていう意味では、なかなかさせられないっていうのもありますし。『kamipro』さんにも『戦極』ポーズとTシャツまで作っていただいて、頑張ってはもらったんですけど(笑)。

――『戦極』を少しでも普及できればと思って作ってみたんですけど、残念ながら、世間どころか業界的にも浸透してるとは言いがたい状況ですね(笑)。

國保 でもTシャツのほうは増版されたみたいじゃないですか(笑)。

――おかげさまで(笑)。やり方次第では『ハッスル』ポーズのように世間に届く可能性もあるかと思って、今回登場してもらった〝『戦極』マニア〟のほしのさんにもポーズを伝授しておきました(笑)。

國保 ありがとうございます(笑)。私的には『戦極』ポーズも会場を一体化させるという意味では非常にありだとは思うんですけど、我々が選手に強制するということもできないですからね。

――まあ、そうでしょうね(笑)。

國保 ただまあ、『戦極』ポーズではないんですが、8月大会からは少し目にわかる『戦極』らしさというか、もう少し『戦極』のコンセプトをグッと凝縮したものを提供しようと考えています。

――目にわかる『戦極』らしさですか?

今回、國保広報にインタビューしたのは戦極ポーズ考案者、阿修羅チョロ。『第二陣』ではメインで勝利したジョシュ・バーネットがポーズをキメるも『第三陣』では、すでになかったことに。Tシャツを販売したまではよかったが、頼みの綱のジョシュは10月に『アフリクション』参戦が決まり、戦極ポーズはおそらく消滅!?

國保 今回観ただけでは、もしかしたらわからないかもしれないですが、第四陣、第五陣と続けて観ていくことによって「あ〜、こういうことだったんだ」って、わかってもらえるんじゃないかな、と。

――何やら自信がありそうですね。具体的に目に見える部分というと、やはり演出面を変えていくってことですか?

國保 そうですね。まあでも、よく皆さんは「演出、演出」とこだわりを非常に持ってますけど、極論ですが、演出があったら試合がなくてもいいのか、と。

――試合がなくなったら困りますね(笑)。でも、旗揚げ戦では、「お前ら、まだ夢(DREAM)を見ているのか!」という挑発的な煽り映像を作ったり、第二陣ではミラーボールにディスコサウンドを流しまくったりと、いろんな意味で『戦極』の演出って注目度は高いんですけど。

國保 まあ、そういった部分に関しては試行錯誤の部分もありますし。いろんなこともやりながらも、やはり何よりも必要であり重要なのは試合ですからね。

――まあ、そうなりますよね。

國保 演出っていうのはリング上の闘いを光らせるための付属であって、なきゃいけないっていうものではないと思うんですよ。やはり一番重要なのは、いかに闘う者同士を光らせることができるかということだと思ってるので、そのために不必要なところは省いてしまおうと。

――ほぉ〜。

國保 そして、もう一度、初心に戻って、『戦極』は日本から発信したイベントですから、〝和〟というものを強調して、『戦極』という象徴が何かというものを打ち出していこうと思っています。それに対して、毎回何かが変わっていく、と。

――ちょっとイメージが湧きにくいですけど、これまで以上に〝和〟を強調していく、と。演出と言えば、第二陣のラウンド終了10秒前の〝シャキーン!〟は評判がよかったと思うんですけど、あれはなぜ、なくなってしまったんですか?

國保 同じようなことをよく言われるんですけど、選手がわかりづらいかな、と。あの音がゴングだと思っちゃう可能性があるんですよね。もしかしたら極めそうなところで〝シャキーン!〟という音でパッと手を離してしまったり、そういうことがあると困りますから。

――まあ、可能性はありますよね。

國保 競技面で問題が出てきてしまうんであれば、一度ちょっとクローズしようと。まあ、どっかで「シャキーン!」っていうのはまた使えると思うんですよね。

――期待してます(笑)。話題を変えますが、ここ最近のマット界はPRIDE全盛の数年前に比べると、世間にあまり届いていない状態じゃないですか?

國保 まあ、そうですよね。

――谷川(貞治)さんも言ってましたけど、唯一、総合格闘技で地上波のゴールデンタイムで放送しているDREAMも思ったように視聴率も伸びていないということで、いまの数字が続くようなら放送自体が

どっかで「シャキーン!」っていうのはまた使えると思うんです

うな世界的なメジャーなイベントにしていきたい

なくなる可能性もある、と。そのへんに関してはどうお考えですか？

國保　地上波というのは多くの人に総合格闘技というものを知らせる最大の手段になりますからね。そういう意味ではDREAMさんにはゼヒ20パーセントという数字を狙えるようなイベントを作ってもらいたいですね。そうするとそれが我々にも跳ね返ってくるでしょうし。

――『戦極』でも旗揚げ当初から地上波中継を目指して動いていたみたいですが、現状では難しそうな感じですか？

國保　ちょっとまだ多くを語れないところもあるんですが、なんらかのかたちで地上波での放送というのは考えています。

――そうですか。やはり、地上波放送というのは『戦極』にとって必要なものだと？

國保　そうですね。先ほども言ったように、地上波での放送というのは、世間に『戦極』というものを知ってもらう最大の手段になると思いますから。まあ、年内中にはなんらかのかたちで、できるものがあるかなと思ってます。

――期待してます。『戦極』には吉田選手、藤田選手、五味選手、ガイジンでもジョシュやホジャー・グレイシーなどビッグネームが揃ってるじゃないですか？　でも、それが現状では、まだうまく活かしきれていないイメージがあるんですよ。

國保　それはあるかもしれないですね。

――これまで『戦極』では大会場中心に興行を行なってきたわけですけど、正直、集客的には苦戦している部分もあるわけじゃないですか。木下（直哉）社長も、プロモーションの部分がまだうまく展開できていない、と言っていたこともありますが、そのへんはいかがでしょう？

國保　プロモーションという部分では、先ほど言ったように地上波がない中で非常に難しいところはあるんですけども、ターゲットをすべてに広げるというよりも、まずコア層に対して観てもらいたいな、と。コアな人が来て喜んでもらえるようなイベントを作りたいと思っています。

――今回発表されたライト級グランプリのエントリー選手のプロフィールを見ると、みんな凄い実績ですし、それこそコア層にはビンビンに届くかもしれないですけど、正直、知名度の部分ではちょっと弱い部分もあると思うんですよ。

國保　まだ日本に来たことがないとか、来たとしても大きな大会には出ていなかったという部分で知名度がないということですよね。それはあるかもしれませんけど、それこそDREAMさんのように視聴率を獲りにいくんだったら、知名度というのは非常に大切だと思うんですよ。

――そうですよね。國保さんはJ―ROCKの代表として芸能や音楽関係のお仕事もされてるわけで、視聴率だとかテレビ事情なども詳しいと思うんですが。

國保　詳しいというほどでもないですけど。ただ、我々の現状で言うと、いまは視聴率を獲りにいくのが目的ではなく、いかに格闘技を好きな人が喜んでくれるイベントを作っていくかですから。

――地上波放送は目指しつつ、現時点でのメインのターゲットはコア層だと？

國保　もちろん、地上波が決まればイベントの作り方も当然変わっていくでしょうけど、現状では、まず格闘技好きの人に満足してもらえるイベントを作って、そこから波及するかたちで世間に届くようになっていくのがベストではありますよ。実際に今回のライト級グランプリに出てきた選手たちは世界のどこのイベントに出ても恥ずかしくない選手たちですから。各メジャー団体のチャンピオン、しかも現役のチャンピオンも何人も出てますので、コア層には満足してもらえる選手たちを揃えられたと自負しています。

――IFL王者のライアン・シュルツ選手やケージ・フォース王者の廣田瑞人選手の参戦も決まりましたからね。同時期にDREAMでもライト級グランプリが開催されたわけですけど、ご覧になってどう思われました？　やっぱり、比較して観るファンも多いと思うんですが。

國保　なるほど。まだちょっと全部を観れてないんですが、やはりいままでPRIDEで活躍した選手であるとか、日本で知名度のある選手たちが出れば視聴率は上がると思うんですけれども……、なんて言ったらいいかな？　難しいね（笑）。

――難しいですか（笑）。

國保　たとえば、今回ウチのトーナメントに出る選手がそのトーナメントに出て闘えないかといったら、おそらくそれなりの成績を残すと思うんですよ。

――今回『戦極』のトーナメントに出場が決まった横田選手もケガがなければDREAMのトーナメントに参戦の話もありましたし、優勝したヨアキム選手に光岡選手は勝ってたりしてますからね。

國保　そういうのもありますし、コア層が観たら、おそらく素晴らしくおもしろいトーナメントになると思います。コア層に限らず、ちょっとコアな人、その人たちに連れてこられたお客さん、PPVで観た方にも満足していただけるような、いい選手が揃ったと思うので、DREAMのファンにも観てもらいたいですね。

――現時点での『戦極』とDREAMの違いってどこだと思います？

國保　やはり、地上波の一般層に向けているのか、コアなところに向けてるのかっていうターゲットも一つの違いだと思いますね。あとはマッチメイクにも当然違いは出てくるでしょうし。

――テレビ局がつくとマッチメイクにもいろいろ影響があるって言いますからね。

國保　そうですね。逆に言うと、テレビ局がついてないぶん『戦極』ではテレビ局側の意向はゼロなわけで、ホントに見せたいカードを見せることも可能ですから。

――『戦極』として、見せたいカードを実現できているという自負はあります？

國保　やれる範囲ではやれてると思っています。まあ、テレビ局側の意向はないにしても、それ以外でいろいろと難しいこともありますけどね（苦笑）。

――DREAMが放送されているTBSでは、ボクシングの内藤大助選手が防衛したあとリング上に亀田興毅選手が乱入したことで、いろいろと問題になってますけど、ああいう仕掛けというか、話題作り的なものはどう思います？

國保　もちろん、やり方次第だと思いますけど、注目を集めたり、お客さんを喜ばせる手段としてはいいと思いますね。

――たとえば、世間を巻き込むために、あ

こくほ・たかひろ■『戦極』の広報を務めながら、吉田秀彦、中村和裕といった格闘家、高橋尚成、入来祐作といったプロ野球選手、レーシングドライバーの神子島みか、スカッシュの松井千夏などなど、さまざまなジャンルのスポーツ選手のマネージメント業務を中心とする株式会社J-ROCK代表の顔も持つ実業家。
HPアドレス→http://www.sengoku-official.com/

あいう仕掛け的なものを『戦極』で取り入れようという考えはないですか？

國保　それもありだと思うんですけど、やはり一番力を入れなきゃいけなくて、一番見せたいところは選手たちのリアルなファイトですから。その延長線上にすべてがあるという考えですね。

——そうですか。あと、『戦極』のウリとしては、柔道界やレスリング界との強力なパイプだと思うんですけど、北京オリンピック後には何人か狙っている選手がいるんじゃないですか？

國保　何人かはいますよ。実際、今回の北京オリンピックのメダル候補の中でも「ゼヒ総合に」と言ってくれてる選手は二桁はいますから。

——エッ、そんなにいるんですか？

國保　我々は柔道、レスリングに対しては非常に近いところにいますし、各国のラインというのがありますから。北京オリンピックで、いい結果を出した選手を『戦極』のリングに上げたいとは思ってます。

——期待してます。8月大会は〝ロード・トゥ・五味〟トーナメント、そしてメインでは五味さんが登場とライト級の色が強い大会ですけど、正直、主催者側としては五味さんもトーナメントに出したかったというのはあるんじゃないですか？

國保　そうですね。16人のトーナメントだったら出てもらおうと思ってたんですよ。ホントはもう少し出したい選手も具体的に何人かいたんですけど、16人にはちょっと満たなかったというか。

——結局は半分の8人トーナメントに落ちついたっていうことですか。

國保　まあ、そうですね。それに16人のトーナメントをやってしまうと、単純に年末かニューイヤーで考えている五味選手とのチャンピオンシップまでに優勝者が決まらないというのもあって（笑）。

——それは困りますよね（笑）。でも、〝ロード・トゥ・五味〟のトーナメントと同日のメインが五味選手ということで、もし五味選手が負けたらどうするんだっていうのもありますよね。

國保　まあ、リアルな勝負という中では勝ち負けっていうのはどうしても出てきますからね。五味選手が勝って挑戦者を待ち受けるっていうのが一番いいパターンですけど、もしスーファン選手が勝ったら次に五味選手とチャンピオンシップを開くと。そういう考えもありますから。

——いろんなパターンを想定しているわけですね。

國保　そうですね。それこそ世間を巻き込むというところまで持っていくためには五味選手だけではなく、日本人、ガイジン含めて新しいスターを作っていかなきゃいけないですからね。そのためには、いままで日本や世界で育ってきた選手に頼るだけではダメだと思うんで。

PRIDE消滅後はUFCに参戦していた中村和裕だったが、LYOTO、ソクジュと連敗を喫し、UFCからは一時撤退。すぐさま9.28『戦極～第五陣～』代々木大会への出陣が決定したカズは新婚ホヤホヤで大会前にもパパになる予定だ。標的をミドル級グランプリに絞ったカズは『戦極』のリングで"シャキーン!"と輝けんのか?

『戦極』をUFCや、かつてのPRIDEのような 世界

——世界のMMA界のトップイベントのUFCがWOWOWでの放送が再開されますが、それに関してはどう思います？

國保　いいことだと思いますよ。ただ、UFCとかアメリカのMMAの大会はどちらかというとコア向けにやっているイベントが多いですから。日本で言われるような演出というのは、ほぼないですし。当然、照明や音楽とかはありますけど。

——煽り映像とかもシンプルなものが多いですからね。

國保　ですよね。そういう意味では、日本にいて、いまのMMAの象徴でもあり、日本とは違うスタイルのUFCを楽しめるっていうのはいいことだと思いますね。いまは「日本の格闘技はこうじゃなきゃいけない」っていうのが、どうもファンの中にあるような気がして。

——これまでの『戦極』の3大会っていうのは、もしかしたら、そういうファンに応えようとしていたところもあるんじゃないですか？　演出面はPRIDEっぽい感じでなければいけないとか。

國保　それはあるかもしれないな。どうしても日本発の総合格闘技というとPRIDEのイメージが強いので、UFCを放送することによって格闘技にはいろんなかたちがあるんだっていうことをわかってもらいたいっていうのはありますね。その結果、相乗効果で『戦極』にも興味を持ってもらえたらいいかな、と。

——将来的な展望として、『戦極』をどういうイベントにしていきたいというイメージは具体的にあります？

國保　やるからには、UFCやかつてのPRIDEのような世界を代表するイベントにしていきたいと思ってますよ。もちろん、すぐにというのは難しいと思いますけど、『戦極』をメジャーなイベントにしていきたいっていうのはありますね。

——『戦極』がメジャーになるには、あとどれぐらいかかりますかね？

國保　まあ、具体的には言えないですけど、なるべく早く世間の皆さまに『戦極』というイベントを認識してもらえるところまで持っていきたいですね。ただ、国内だけでやってるぶんには、いまのUFCには到底追いつかないと思いますけども。

——PPVであったり興行のシステムであったり、日本のやり方とは違う部分も多々ありますからね。

國保　全然違いますから。『戦極』としても少しずつ海外へ向けて発信をしていかないとUFCにはなりえないでしょうね。

——では結論として、『戦極』として目指すべきところは、リアルな闘いを中心に、世間に届くメジャーなイベントにしていくってことでよろしいでしょうか？

國保　そうですね。まあ、いまは地道な努力が必要な時期だとは思ってますけど。あとは『kamipro』さんの協力次第じゃないかな（笑）。

——そうなんですか（笑）。じゃあ、最後に『戦極』ポーズで締めましょうか？

國保　いえ、僕は遠慮しておきます（笑）。

【08年8月1日／都内・『J－ROCK』にて収録】

リアルな結論
もちろん『戦極』も地上波はほっし～の

緊急特集
世間と闘うとは何か?

純・格闘家はどう自分をアピールするべきか

『戦極』ライト級トーナメント・エントリーファイター

横田一則

KAZUNORI YOKOTA

**7月24日に『戦極』ライト級トーナメントの出場選手が発表された！
そのエントリーファイターの一人が、この横田一則である。
五味隆典にしつこく対戦要求し“ビッグマウス”を演出している横田だが、
はたして“ビッグマウス”は横田の本性なのか？　本インタビューでは横田という一人の男から、
純・格闘家はどう自分をアピールするべきかというお題について考える！**

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

純・格闘家が有名になるためにはどうしたらいいのか？　世界的にも中・軽量級がビジネスとして確立されつつあるいまだからこそ、選手間の競争は激化し、また、独自の個性が求められている。

　ちょっと前だったら、修斗やDEEPのチャンピオンという肩書きは非常に有効だったはずだが、ファンも関係者もある意味で慣れてしまったところがある（線引きするなら、川尻達也が最後じゃないか？）。要するに新鮮さがなかったりするのだ。"実力派"という売り出し方にしたって、下からサバイブしてくるヤツはみんな実力派だろう。チャンスは増えたが、そのぶんハードルは高くなっている。

　DEEPの元チャンピオンで、実力派、『戦極』でのメジャーデビューを控える横田一則という格闘家は、自分をどう売り出そうと考えているのか？

――ウチの阿修羅チョロ記者から横田さんは「ビッグマウスでおもしろい！」という推薦をいただいております。

横田　そうですか。まあ、プロとして、キャラも多少作らないといけないのかなって。

――それで横田さんの昔のインタビューを読ませていただきました。中でも印象に残ったのは、シュートボクシングの試合で強豪に勝ったのに取材が全然ないことがきっかけで、ビッグマウスに変身したというエピソードなんです。

横田　無敗でDEEPのベルト獲ったし、SBでファディル・シャバリ選手に勝ったんだからもういいだろう！　って。

――そのファディル・シャバリという選手はめっぽう強いそうですね。

横田　アルバート・クラウス選手にも勝った選手です。だからアピールしていかなきゃいけないのかなって、自分から。

――そのとき『格通』さんや『ゴン格』さんの取材はなかったんですか？

横田　多少。

――"多少"って、1ページとかですか？

横田　そんな感じです。

――それはイラつきますね（笑）。

横田　プロレスラーじゃないけど、どんどん自分から言わなきゃダメかなって。

――でも、『kamipro.com』でのインタビューをよく読むと、ズバリ言ってあまりビッグマウスじゃないですよね、横田さんって（笑）。

横田　ああ、それは前回の試合でデカイことばかり言いすぎて、目の前の敵がまったく見えてなかったんで（DEEPでハン・スーファンにKO負け）。なんか「五味さん、五味さん」言いすぎて、油断したっていうか。

――目の前の敵を見据えつつ、ビッグマウスに振る舞うというわけにはいかないもんですか？

横田　いや、そういう方向で行こうと思うんですけど、この前は言いすぎたなって。

――でも、ほら、ビックマウスですから（笑）。多少は言いすぎないと。

横田　そうなんですよね〜。プロレスじゃないですけど、プロレスってパフォーマンスで盛り上げるじゃないですか。格闘技にしてもアピールしないとそういうふうにならないのかなって。

――ビッグマウスに変身して以降、取材って増えてますか？

横田　多少はきましたね。ただ、負けちゃったんで、またパタッと止まったんですけど。ま、それは自分のミスなんで。

――あたりまえですけど、ビッグマウスでも勝敗が伴なわないといけない、と。

横田　そうですね。今回のトーナメントは、普通にやれば絶対に優勝できると思うんで。ただ、トーナメントっていうことで、弱気なこと言うのはイヤなんですけど、このあいだのDREAMじゃないですけど、やっぱりリザーブでちょっとやった選手が上がってきたりとか、やっぱ不利じゃないですか。ワンマッチでやっていけば自分は勝つ自信はあります。でも、トーナメントなんで、光岡（映二）選手も言ってたけど、いかんせん運で左右されるところはあると思うんですよ。

――横田さん、けっこう繊細ですね。

横田　いろいろ考えちゃうんですよね。

――そこはビッグマウスというより、GRABAKAイズムだなあって感じですけど。郷野（聡寛）さんも繊細ですよね、ボスの菊田（早苗）さんも。

横田　そう。みんな細かいです（苦笑）。

5.19DEEPでハン・スーファンにベルトを奪われる前まで「五味とやりたい！」とビッグマウスを演出した横田だが、7.24『戦極』のカード発表記者会見では「油断せずに必ず勝つという意識をもって闘いたい」と謙虚な姿勢に。この振る舞いは、ビッグマウスキャラからさらに一皮むけた証拠なのか!?

――逆にビッグマウスにしないほうがよかったなという気持ちはありませんか？

横田　やっぱ、負けたときは思いましたね。そこに小さい穴があったら入りたいみたいな。

――たとえば、ビッグマウスじゃなかったら、どういう感じになってたんですかね。

横田　負けなかったんじゃないですか？

――じゃあ、ビッグマウスはやめたほうがいいですよ！（笑）。

横田　そこは難しいなって（笑）。逆に調子に乗っちゃったっていうか。ビッグマウスで言っちゃったから、圧倒的な勝ち方をしなくちゃなんないかなって。打撃で勝負したかったんですけど、寝技に入ったときにアームロックが極まってるのに自分から手を離しちゃったりして、調子に乗りすぎましたね。いや、ビデオで見直してもやっぱナメてるなって。ホントにヒドくて。

――お話をまとめると、いまの横田さんは"ビッグマウス白帯"って感じですかね。

横田　そんな感じですね（苦笑）。

――あと横田さんの発言で気になったのは、川尻さんや石田さんや青木さんと闘っても意味がない、五味さんを倒さないとみんなに認められないという主張ですね。

横田　いま青木選手がDREAMで頑張ってますけど、青木選手も強いと思うんですけど、やっぱり五味選手が不動の位置にいると思うんですよね。最終的な目標としてUFCに行きたいというのがあるんですけど、その前に倒さないといけないのは五味選手ですね。先輩とかファンとかに言

だからアピールしていかなきゃいけないのかなって、自分から

横田一則

われたのは、やっぱり「五味を倒さないとダメでしょ」っていう。

—ただ、五味さんは、いまのところ日本人選手との対決にはあまり乗り気じゃなさそうですね。

横田　日本人に負けたら地位が落ちますからね。俺も実際、日本人に負けたら名前が落ちるだろうなって。やっぱり、勝った日本人を雑誌もテレビも取り上げると思うんで。

—横田さん、けっこう細かいところまで気にしますねぇ。

横田　でも、それは周りから言われるんですよね。俺はべつに気にしてなかったんですけど、周りから日本人に負けるってことは、こうなっちゃうよって。

—そんなに言われるんですか？

横田　みんな言ってますよ。

—それってあくまでケースバイケースですし、選手自身はあんまり気にしないほうがいいと思うんですけど。

横田　けど、実際そうだと思うんですよね。ボクシングでも日本人とやるのと外国人とタイトルマッチをやるのでは全然違うと思うんですよ。

—そうですか。そういう発言ってある意味で勇気がいりますよね。

横田　なんでですか？

—普通は「俺は誰とでも闘うぜ！」という感じでアピールしたほうが好印象じゃないですか。

横田　ああ、べつに日本人と闘いたくないわけじゃないですよ。この試合は負けられないなって、凄い考えながらやってるんで。

—なるほど。話は変わりますが、DREAMのライト級GPはご覧になりました？

横田　観ました。日本人の有名どころが出てたじゃないですか。で、外国人もみんなが知ってるヨアキム（・ハンセン）選手とかJZ（カルバン）選手とかだから華やかに見えますけど、今回の『戦極』のライト級トーナメントも強いですよ！　意外と浸透してないですけど、外国人はかなり強いですよ。

—その強さがあんまり伝わっていない歯がゆさってありますか？

横田　そこは逆にチャンスで、俺がそこを食っちゃえば上がっていけるし。五味選手に勝っちゃえば一気にガッといけると思うんで。やっぱ五味選手に勝ったら取材が殺到すると思うし。

—もしもですよ、五味さんが明日にでも引退することになったらどうします？

横田　でも五味選手がいるから、俺も『戦極』に出るんで（笑）。

—いや、〝打倒・五味隆典〟がいま横田さんの中で100パーセントの価値観ですよね。それがなくなった瞬間、そのモチベーションはどこへ向かうのか？　という。

横田　そうですねぇ……。『戦極』さんで活躍して、それからUFCに行くと思います。最強を求めにいきたいですね。ある程度、日本で知名度を売ってからUFCに行きたいと思ってるんで。

—なるほど。つまり、飛び級をはたすための五味隆典という存在なんですね。

よこた・かずのり■1978年4月3日、千葉県出身。04年9月『DEMOLITION』でデビュー。その後、DEEPを主戦場に勝利を重ね、デビューからわずか8戦目で帯谷信弘を破りDEEPライト級チャンピオンに君臨。9戦負けなしの状態で防衛戦を闘ったが、なんと10戦目にしてハン・スーファン相手に初黒星。8月24日の『戦極』ライト級トーナメントでは、五味隆典への挑戦権をかけて優勝を目指す。172cm、75kg。

わかりますよ。俺、郷野さんのバックダンサーやってましたから

横田　五味選手がいないとなると、いまは青木選手が頑張ってるから青木選手とやりたいってなるかもしれないですけど。

—なるほど。いまのところ五味さんを倒すのが、自分を売り出すのに一番わかりやすいということなんですね。

横田　一番おいしいですよね。

—じゃあ、五味さんと○○さんだったらどっちがおいしいですか？

横田　う〜ん、テレビ的には○○選手なんでしょうけど、やっぱり強さを求めたいので、五味選手です。

—でも、世間的には○○さんに勝ったほうがわかりやすいのかもしれませんよね。

横田　それはわかりますよ、勝つだけじゃ意味ないってことは。そうなんだよなあ。

—方法論はたくさんありますよね。たとえば郷野さんみたいに……。

横田　（さえぎって）わかりますよ。俺、郷野さんのバックダンサーをやってましたから（笑）。

—あ、そうだったんですか（笑）。

横田　ああいうのはアリだと思うんですよ。一格闘家で強くありたいですけど、エンターテイナーでもありたいと思ってるんで。たとえば、宇野選手とか須藤元気さんとかKID選手って、エンターテイナーとしての華もあると思うんですよ。だから、強くておもしろくないと。内藤（大助）選手もそうじゃないですか。

—内藤選手には、亀田三兄弟というきっかけがありましたよね。

横田　そうですよね。でも、亀田選手って凄いキライなんですよ。こないだリングに上がったじゃないですか。あれはエンターテイナーとしてはいいと思うけど、ボクサーとしての地位もよくわからないし、ちょっといまは違うんじゃないかって。

—いまの世間の風ってけっこう冷たいですからね。

横田　そうそう。

—あの乱入は「演出じゃないのか？」って騒がれてますけど、演出じゃなかったら逆に問題でしょって（笑）。

横田　でも、ああいうヒールっぽいのはいいですけどね。秋山選手も強いと思うんですけど、ヒールっていうのがいいですよね。そういうキャラというか。ヌルヌルやったのは絶対によくないと思うけど、あれはあれでキャラになってるじゃないですか。

—そう考えると横田さんのビッグマウスはまだまだキャラになってないですね。

横田　だから「これだ！」っていうのを作らないといけないなって。いや……、ハゲネタで押そうと思ったんですけど。

—ハゲネタで！　でも、そんなに薄くはないような……。

横田　いや、今日取材だっていうんで、髪を切ってきたんですよね。

—あ、そうなんですか？（笑）。

横田　俺、ブラックマヨネーズの小杉さんみたいなんですよ。中途半端ハゲなんで。

—気にしてるんですね。

横田　意外と。……やっぱりハゲネタで売るしかないのかなあ。

—いや、それは違うと思いますし、こんなオチはマズイですよ！（笑）。とりあえず目の前のGP、期待しています！

【08年8月1日／都内・GRABAKA大久保ジムにて収録】

結論

方向性は決まってませんが、「ハゲ」ではないと思います

巻末ダメ押し
再登場!!

「レミーガも会うたびにいっつもなんかくれるんです」

「トコロはいつでもボクに特別なDVDをくれるんだ」

所さんの友情タッグ第二弾!!

所英男×レミギウス・モリカビュチス

前号のバナナマン・日村勇紀に続き、またまた所英男の友情タッグ対談が実現!
今回は06年4月5日K-1MAX魔裟斗戦以来の来日となった、旧友レミギウス・モリカビュチス。
以前、『kamipro』で一度対談を掲載したことがあった二人だが、
月日は流れて約2年、二人のあいだにはどんなことが起こっていたのか。
ついでに、本文中での"アサイージュース事件"から二人の信頼の深さまで読み取るべし!

聞き手/松下ミワ　撮影/梅木麗子　試合写真/乾晋也　写真協力/©ZST

トコロがおいしいと言ったものならボクは信じて飲むだけだよ（レミ）

――今日は前号の所英男のお友だち対談第二段というわけで、ひさびさの来日となったレミギウスとの対談が実現しました！

所 ……（聞かずに、メニューを見ながら）レミーガは何か注文する？

レミギウス NO……、ちょっと今日はお腹の調子がよくないから、ボクは何も頼まなくていいよ。

所 あ、じゃあボクはカプチーノと、アサイージュースを二つと……（と、注文し続ける）。

――そんなに飲みますか（笑）。ま、それはいいとして、そもそもレミギウスさんはかなりひさびさの来日だと思うんですが、この約2年ものあいだ、いったい何をされてたんでしょうか？

レミギウス ああ、ホントにひさしぶりだよね。06年4月のK-1MAX魔裟斗戦が最後の来日だったと思うけど、そのあとちょっと大きな手術をしてたんだ。背骨の軟骨が一本出てて、たぶんヘルニアか何かだったと思うんだけど、しばらくどの医者がいいのか、どういう手術をしたらいいかということを相談してたんだ。

――それで手術に踏み切った、と。

レミギウス そのあとはリハビリをやってて、本当にどん底から這い上がる感じだったね。試合に向けてのトレーニングができるようになったのは、じつは今年の春からなんだ。

――そんなことがあったんですか……。

[ここで注文したカプチーノとアサイージュースが到着]

所 はい（と言って、レミギウスにアサイージュースを差し出す）。

――ん？ 所さん、レミーガはお腹の具合がよくないから飲めないいんじゃないんでしたっけ？

所 （無視して）ディス・ジュース・アー・ベリー・グッド・ヘルシー！

レミギウス ……？

所 ディス・イズ・アサイー！

レミギウス ……オ、オウ（といって、飲みだす）。

――無茶させますね、明日試合なのに（笑）。

レミギウス ゴク、ゴク、ゴク……。

――大丈夫ですか⁉

所 うまい？

レミギウス ……ン、ン。オーケー（複雑な表情で）。

――ワハハハハ！ ひさびさに会って、しかも試合直前にもかかわらず、また素晴らしい洗礼ですね（笑）。

レミギウス フフフフフ。いや、逆にありがたいと思ってるよ。トコロがおいしいと言ったものだったら、ボクはそれを信じて飲むだけだ。べつにへんな匂いだからって、そんなに気にしてないよ（笑）。

所 僕、じつは家でもまとめてアサイーを買ってるんですよ。だから飲んだほうがいいかなって。

レミギウス それと、たぶん明日はブラジル人（アンドレ・ジダ）との試合だから、トコロはきっとブラジル人の秘密を教えてくれようとしたんだろうね！

――いやあ、レミギウスさんはビッグハートですねえ。

所 でも、じつはレミーガとは魔裟斗戦のあとも会ってるんですよ。

レミギウス たしか一昨年の11月だったよね。リトアニアでの大会のときにトコロが来てくれたんだ。そのときはボクのセコンドにもついてくれたよね？

所 普通、日本ではあまりセコンドは頼まれないいんですけど。

――そうですか（笑）。

レミギウス だから、それが最後にトコロと会ったときになるのかな。でも、トコロはMMAの世界で凄く有名人だから、なんだかひさびさに会ったという気もしないいんだよ。ただ、ボク自身、絶対に日本に戻ってきたいと思ってたし、日本でトコロに会いたいとも思ってたから、今日は本当に嬉しいよ。

――逆に所さんはひさびさにお会いしてどうですか？

所 ボクもひさびさに会った感じはしないですけど、それでも嬉しいですね、戻ってきてくれて。

――それで、所さんとレミギウスさんの対談なんですけど、じつは前にも一度『kamipro』で収録させていただいたんですよね。

所 あ、覚えてます。ちょうど、レミーガが魔裟斗戦で来日したときじゃないですか？

――そうです、そうです。その際に、所さんがレミギウスさんによく特別なDVDをプレゼントされてるというお話があったんですが、レミギウスさんはそれはご覧になりました？

レミギウス ……フフフフフ。ああ、観たよ（笑）。トコロはいつでもボクに特別秘密なDVDをくれるんだ。それがボクにとっても〝極秘トレーニング〟になってるから、凄く役に立ってるよ。

――役に立ってましたか（笑）。逆に、所さんが特別なプレゼントをいただいたりすることは？

所 あ、いまもこれをもらいました（首から下げてるストラップを手に取って）。レミーガって、会うたびにいっつもなんかくれるんです。Tシャツとかもよくもらったりしますし。

レミギウス トコロがいつも素晴らしいものをくれるから、ボクもお返しがしたいんだよ。

――へえ～。プレゼント交換もそうですけど、二人でやりとりする場合はいつもどうやってコミュニケーションを図ってるんですか？

レミギウス ときには英語でしゃべったり、あとはボディランゲージでしゃべったりするけど、トコロとはそれだけで充分心がつながっているし、理解し合えてると思ってるよ。

――所さんも、ちゃんと理解してるんでしょうか？

Hideo TOKORO × Remigijus MORKEVICIUS

04年11月20日、リトアニアでのMMA大会にて、所vsダリウス、レミギウスvsダニー・ベルゲンが行なわれたときの一枚。二人とも142ページの写真の表情と顔がまったく同じなのがおもしろい。

所　ま、だいたい理解できます（当然のように）。

――ホントですか⁉

所　それに、レミーガとはもう同志だと思ってるんで、あんまり言葉は関係ないですね。しかも、レミーガは特別やさしいし、紳士なので。

――ちなみに、レミギウスさんは所さんみたいに、ほかにも仲がいい日本人ファイターっています？

レミギウス　ボクは日本人のファイターが本当に好きで、山本KIDをはじめリスペクトしている選手はたくさんいるけど、正直、ほかのファイターとコンタクトをとる機会はほとんどないんだ。だから、ここまで親しくできるのは、やっぱりトコロぐらいしかいないよ。彼は特別な存在なんだ。

――なるほど。で、前回対談をしたときというのはお二人が『HERO'S』で大ブレイクしたときにお話をうかがったんですが、去年『HERO'S』はなくなってしまったんですよ。それについてはどう思いますか？

レミギウス　うーん、その質問はちょっと答えるのが難しいね。でも、いまボクはK－1で闘って、トコロはDREAMで闘っている。そこは道が分かれちゃったんだけど、ボク自身ケガをしたせいもあったから、いまはできればK－1とかキック系の試合に集中しようと思ってるところなんだけど。

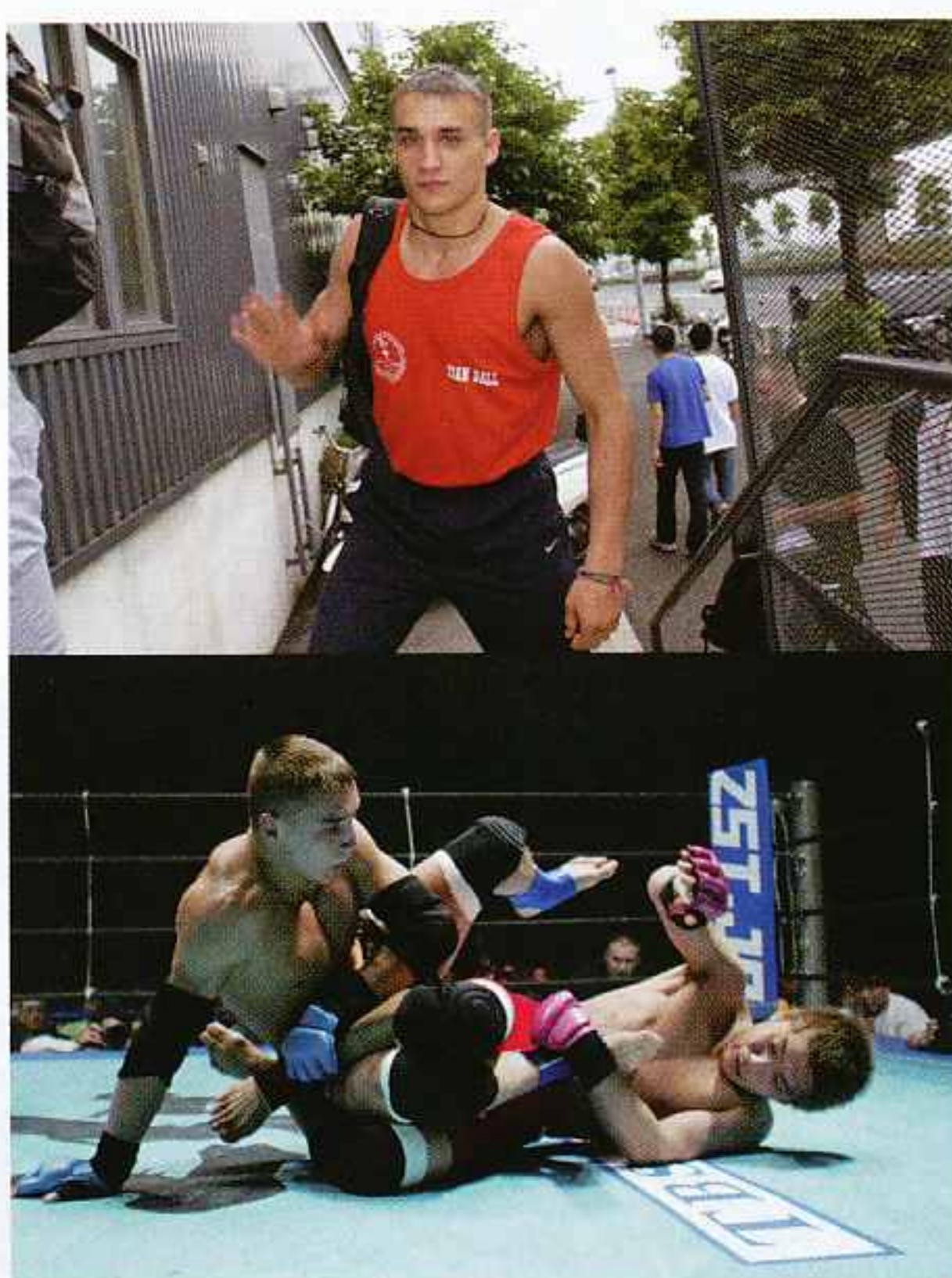
所　そうですね。正直、ケガのこともあるんで、いまは得意分野だけを伸ばしていくのもいいんじゃないかなと思います。あとは、僕のセコンドについてもらえればなって（笑）。

レミギウス　フフフフフ。OK！　まあZSTもそうだけど、『HERO'S』以外の大会もあるから、トコロにはいくらでも協力するよ。

――同じ質問になるんですけど、所さんは『HERO'S』という舞台で一躍大スターになったと思うんですけど、そのリングがなくなったことについてはどう思いますか？

所　うーん。正直、やっぱ寂しいですけど、そんなことを言ったところで何も始まらないとは思ってます。だから、この状態を受け入れてるという感じです。まあ、ファンの方にとっては凄くいいことですよね。PRIDEと『HERO'S』が一緒になって、いままで実現しなかったカードがたくさん観られるんで。

――その点、宇野選手なんかは「『HERO'S』の宇野薫です！」という自己紹介の仕方をしてたと思うんですけど、やっぱり同じ思いというのは？

所　……ありますね。ありますけど、まあ、まだ僕がそんなことを言える立場じゃないのかなって。いまは『HERO'S』のおかげでここまでやってこれたという思いがあるんで、僕もいつか恩返しができればいいなとは思ってます。

03.6.1『ZST.3』では所英男とレミギウスが初対決！　試合はレミギウスが強烈なヒザ蹴りで1ラウンド1分45秒KO勝ち。しかし、04.5.5『ZST.5』での再戦では所が1ラウンド3分30秒で三角絞めでの一本勝利。いずれも二人の対決は好勝負の枠を外れないのだ。

レミギウス　でも、『DREAM・4』でのトコロの試合を観たら、ボクはそう言ってもいいんじゃないかって思ったよ。ネットで観たかぎりでは、本当に素晴らしい活躍だったと思うんだけど。

――ほう！　レミギウスさんは所さんの試合は逐一チェックしてる感じなんですか？

レミギウス　全部の試合をチェックしているわけじゃないんだけど、ファンがサイトにアップしている画像だったり、あとは同じ道場生が教えてくれたりする場合もあるしね。

所　でも、レミギウスが戻ってきてくれて本当に嬉しいですよ。というか、けっこうあぁいう大舞台って一人じゃ心細かったんで。

レミギウス　そうかな？　でも、ボクはここ1、2年ぐらいトコロの試合を観たり、「勝った！」っていう知らせを聞いたときは、凄く励まされてたよ。とくに前回のダレン・ウエノヤマ戦は凄くそう感じた。そのときボク自身はまだコンディションが悪くて、トレーニングもできてない状態だったんだけど、あの日のトコロは凄くコンディションが良さそうに見えたし、実際の試合も素晴らしかったので凄くパワーをもらって嬉しかった。

所　本当に？（照れながら）。

レミギウス　だから、やっぱり関係が近い人間がどこかで苦しんでたら心が痛いし、いい結果が出たら嬉しいし。そういうもんなんじゃないのかな。

――逆に所さんがレミギウスさんからパワーをもらうことってありますか？

所　やっぱりレミーガのK－1での快進撃を観てたらたまらなかったですね。僕も頑張ろうと思いましたし。だって結局、頂点の魔裟斗さんとの試合まで昇り詰めたじゃないですか。同じZSTに出てた人間として、本当に誇らしかったですよ。

レミギウス　それはボクも同じで、いろんなところからトコロの噂を聞くと凄く誇りに思うよ。それに、ジムでトコロの試合を観たりすると、道場生同士みんなで討論になるんだ。

――討論といいますと？

レミギウス　つまり、「トコロはここが凄い！」とか「この技が一番素晴らしいんだ」とか、言い合いになるんだ。「もっと強いヤツとやれるんじゃないか」とか「コイツとの試合を観たい！」とかね。そうなると、みんなトコロをよく知ってるボクに意見を求めてきたりするんだ。

所　へえ～、そうなんすか（照れながら）。

――ちなみに、所さんについて道場生に解説するときに、その性格的な部分ではどういうふうに紹介してるんですか？

レミギウス　そうだねぇ。凄く人間らしくて、フレンドリーで、決して傲慢になったりしないし、凄く付き合いやすい。みんなにはそういうふうに紹介しているよ。

所　クックックック。

――あのー、ちょっとほめすぎなんじゃないでしょうか？

レミギウス　そう？　言おうと思えばもっといいこと言えるよ！（笑）。

所　じゃあ、もうちょっとお願いします（真剣に）。

――それは個人的にお願いします。で、先ほどK－1とDREAMでお二人の道が分かれてしまったという話がありましたが、かつて『HERO'S』で見せてくれたお二人の快進撃というのをファンはもう一度観たいと思ってると思うんですよ。

レミギウス　それはもちろん！

――そういう意味でいうと、所さんはいまKID戦を目指してDREAMのリングで活躍されてるんですけど、レミギウスさんはそれはご存知でした？

レミギウス　え？　そうなの⁉　KIDと闘いたいと言ってるなんて、いま知ったよ。でも、ボクも魔裟斗と対戦するときに、周りは「魔裟斗と闘うなんて、まだ早いよ」とか「やめとけ」とか、そういう冷たいことを言われたりしたけど、ボクは一生懸命闘った。それと同じで、トコロがKIDとやるにしても、ボクは本当に応援したいと思っているし、そもそもボクが思うに、トコロとKIDは同じくらいのレベルにあると思うんだけどね。

所　……（黙って聞き入る）。

――反対に、所さんはレミギウスが誰と闘うのが一番おもしろそうだと思いますか？

所　誰っていうよりも、僕は大晦日、レミーガと一緒に試合ができたらいいなって思ってるんですよ。

レミギウス　それはいいね！　ボクもそうしたいよ。

所　なので、そうできるように、ボク自身もっと頑張らないとなって思ってます。

レミギウス　これは個人的な話だけど、大きい手術を受けたんで、そのぶんこれから稼がないといけないしね！　なんて言ったって、手術代だけで2年ぶんのギャラが飛んでしまったんだから。

所　そ、そんなにかかったの⁉

――所さんはこれまでそんなに大きい手術ってありました？

所　いや、ないですね。今日の練習でヒジを擦りむいたくらいです。

――ありがとうございます（笑）。では、最後の質問になりますが、お二人が会わないあいだに所さんはなんと30歳になってしまったんですけど、まだ25歳のレミギウスさんは将来どんな30歳になりたいと思いますか？

所　ハハハハ、凄い質問ですねえ。

レミギウス　むむ？　所はもう30歳なのか⁉（眉をひそめて）。

――ワハハハハ！　素敵なリアクションですね。

レミギウス　まあ、ボクもずっと若いつもりでここまできたけど、気づいたらもう25歳だからねえ。でも、これからも何歳になっても若々しさを忘れずに生きたいとは思ってるよ。たとえ、30歳になったとしてもね。

所　はー、うらやましいです。

レミギウス　ハッハッハッハ。10歳とか20歳も違うんだったら話は違ってくるけど、5歳差なんて、そんなに問題じゃないんじゃない？　でも、トコロはこれからもっと先生っぽくシリアスに振る舞ったほうがいいかもね（笑）。

所　それはジョークだよね？

――ちなみに、30歳になってしまった所さんは、それ以前はどんな30歳になりたかったですか？

所　ええっと、想像つかなかったです。正直、いまでも実感ないんですけど。でも、もうじき31歳なんで……、とにかく頑張ります！

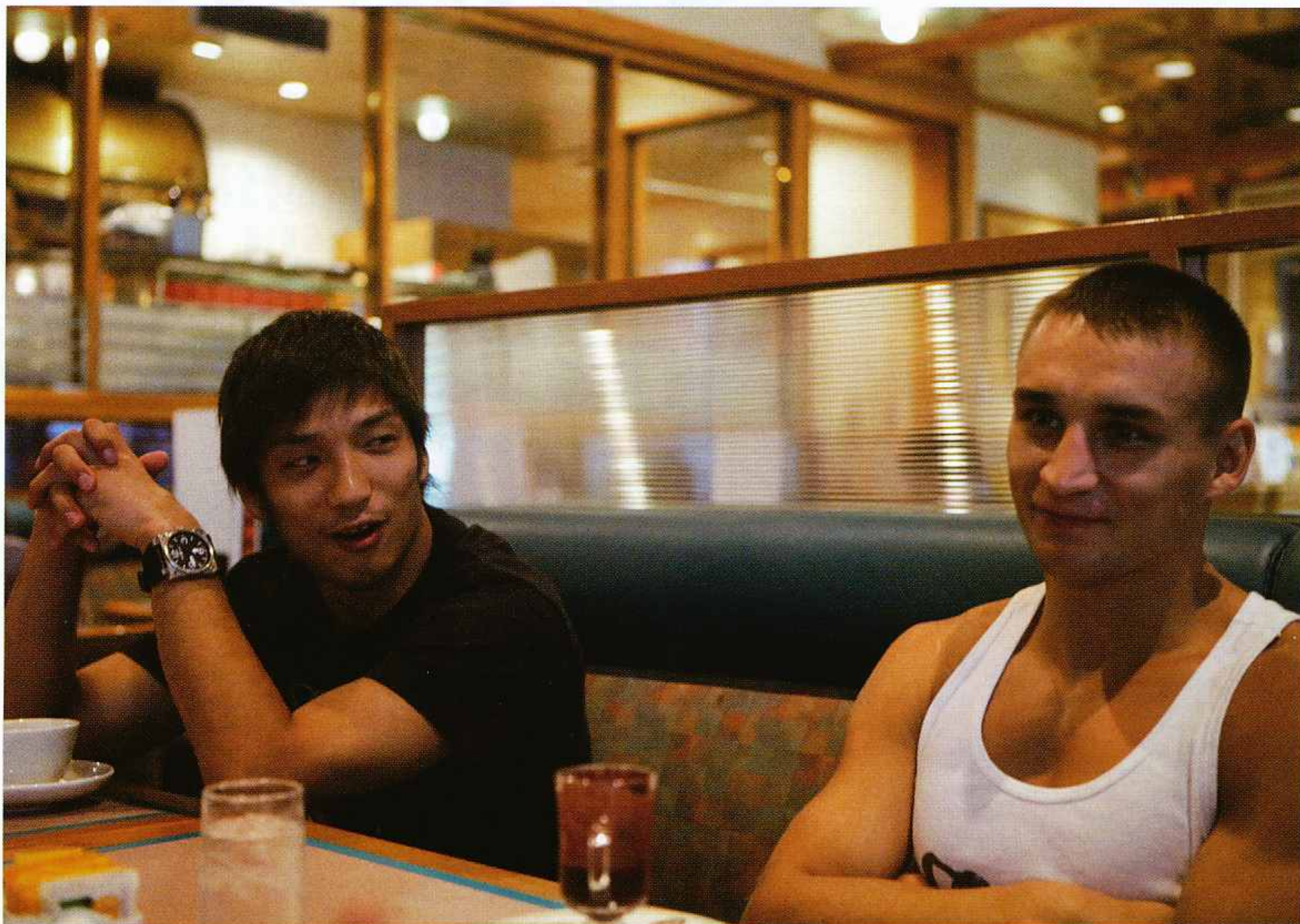
――というわけで、ひさびさの再会となった所×レミギウスの友情対談でした！

レミギウス　あ！　そういえば、トコロ。このあいだのZSTのタッグマッチを観せてくれよ。DVDはないのか？

所　あ、それなら……（といいながら、二人仲良く遠くのほうへ去っていく）。

【08年7月6日／都内某所・ロイヤルホストにて収録】

ボクもずっと若いつもりできたけど気づいたらもう25歳だからねえ（レミ）

正直、いまでも実感ないんですけどでも、もうじき31歳なんで……（所）

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。本拠地である『ZST』には旗揚げ戦から参戦し、7.6『HERO'S』ミドル級トーナメント1回戦で地上波デビュー。DREAMでは本来の体重である63キロで登場。現在、2戦負けなしである。170cm、62.9kg。

REMIGIJUS MORKEVICIUS■1982年8月10日、リトアニア出身。『ZST.2』で初来日。その後、ZSTでの活躍が目に留まり、05年7月に『HERO'S』の大舞台へ。08年7月7日のK-1MAXアンドレ・ジダ戦では敗れたものの、今後もMAXを中心に活躍が期待される。168cm、66kg。

Hideo TOKORO × Remigijus MORKEVICIUS

アメリカLOVEなグッズがズラリ！

当たったら歓喜のムーンウォーク!!

「す・ん・ご・い・で・す・ネッ」

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は2008年9月20日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事＆その理由⑥つまらなかった記事＆その理由⑦アメリカの好きなところは?⑧アメリカの嫌いなところは?

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「セックス&ドラッグ&シュートファイティング」係まで

※締切は2008年9月19日（金）当日消印有効

kamipro 126 応募券 Who's BAD!?

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

2名様

所ジョージ＆所英男サイン色紙

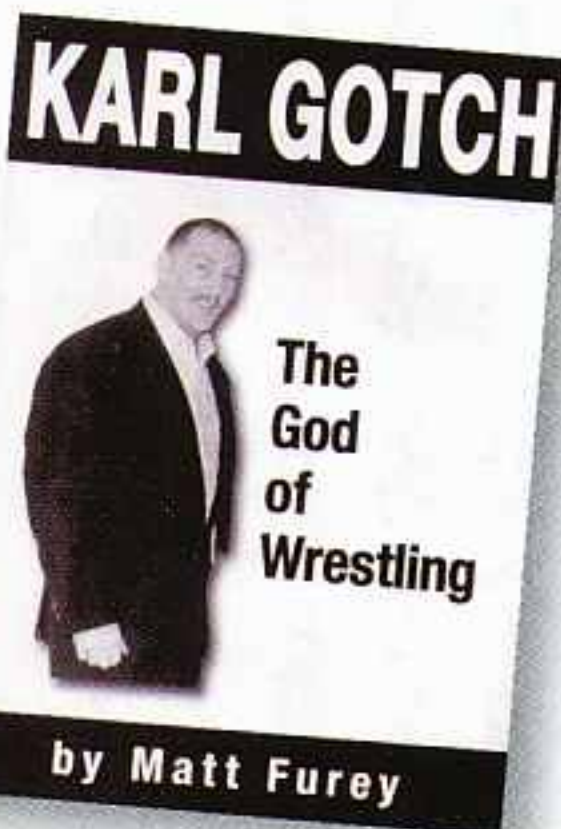
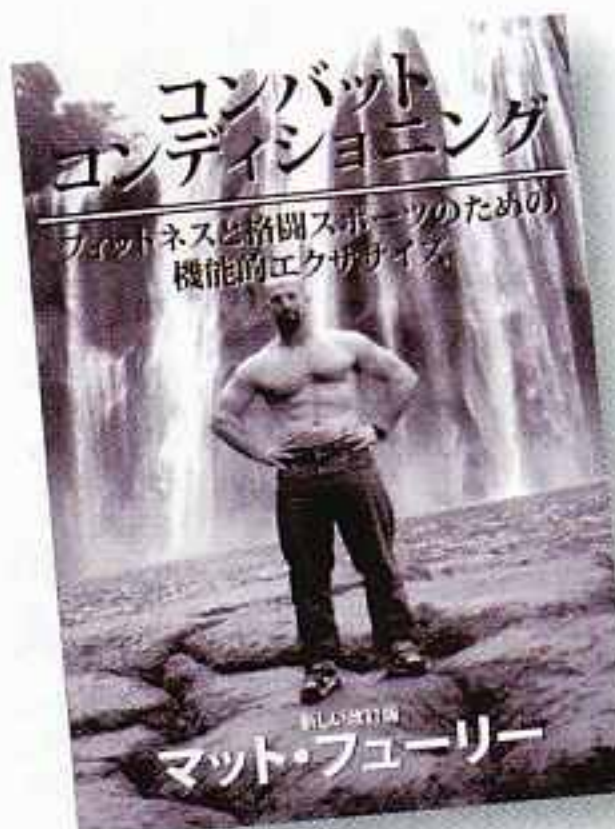
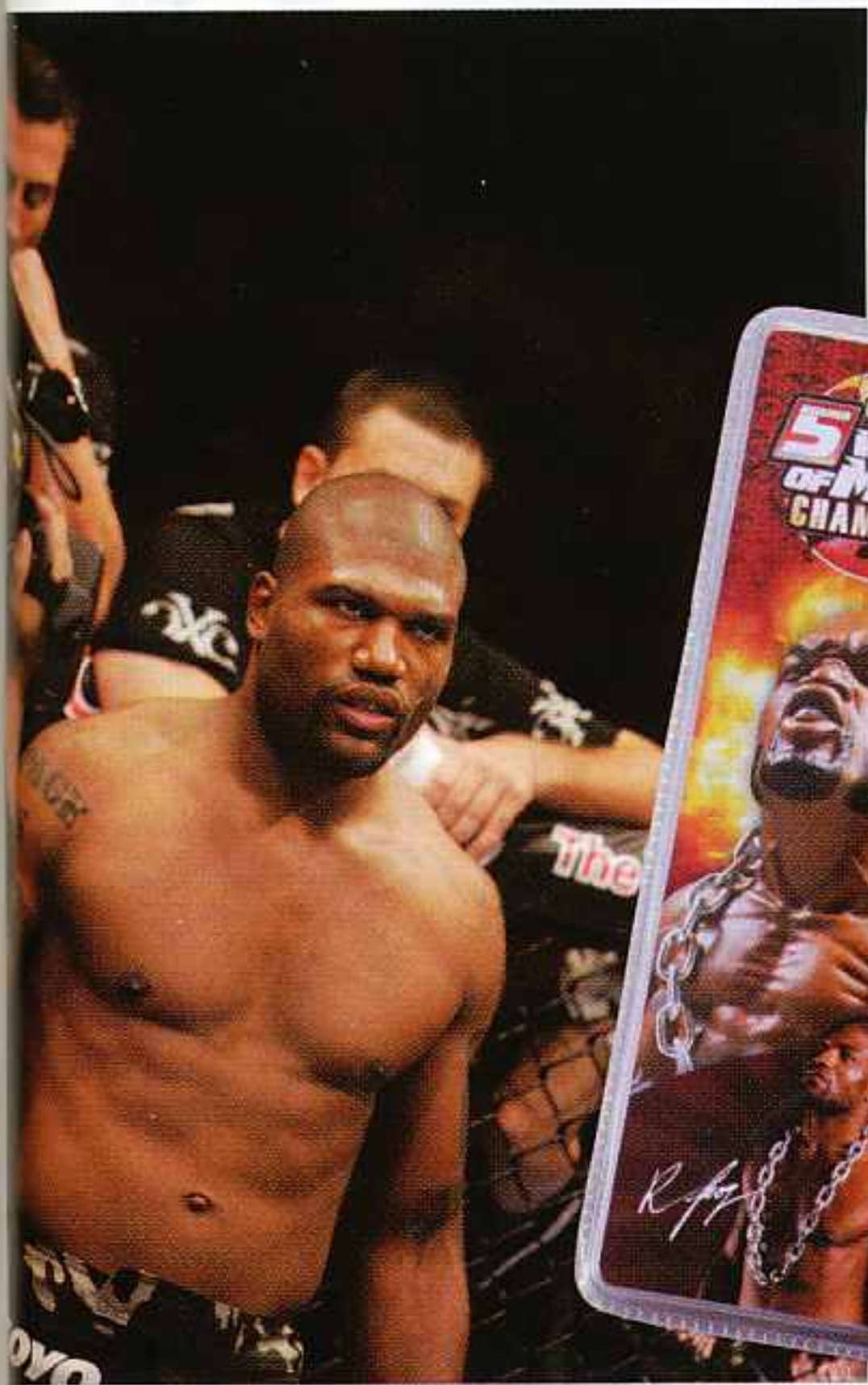
リニューアルを記念して実現した、今号の夢のダブル所さん対談ではアメリカについておおいに語り合った、二人の超貴重なサイン色紙を2名様にプレゼント。

AMERICA

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンフィギュア

［$19.95］

アメリカ現地から直送!! 7.5『UFC86』のグリフィン戦では、優位に試合を進めながら、惜しくも判定で敗れた第7代UFCライトヘビー級王者・ジャクソンのフィギュアを放出!!

セットで1名様

コンバットコンディショニング＆カール・ゴッチの真実

［マット・フューリー（著）／¥4,700］

カール・ゴッチの弟子である、マット・フューリーがゴッチ直伝のどこでもできるトレーニング法を書いた本『コンバットコンディショニング』を『カール・ゴッチの真実』と1名様に。

マット・フューリー ジャパン■080-5015-0550

DREAM

1名様

DREAMオフィシャルトートバッグ

［ホワイト／¥2,100（税込）］

アルバレスにジャカレイ、メイヘムなど、強豪ファイターも続々登場！ 大晦日へ向け、さらなる盛り上がりは必至なDREAMの持ち歩き便利なトートバッグ。

2名様

『DREAM.5』オフィシャルパンフレット

［¥2,100（税込）］

表紙はライト級GPファイナリストたちがズラリと勢揃い！ コピーにもあるように"終わりは始まり"な記念碑的大会になった『DREAM.5』のパンフレットを2名様に。

1名様

『DREAM.5』大会記念Tシャツ

［ホワイト／¥4,200（税込）］

ライト級GP決勝ラウンドは名勝負続出で最高にヒートアップ！ リザーバーのハンセンが優勝するという衝撃的な結末を迎えた『DREAM.5』の大会記念Tシャツを提供。

BACK

1名様

DREAMアカウントTシャツ

［ネイビー／¥4,200（税込）］

9.23に開催される『DREAM.6』ではミドル級GP決勝ラウンドのほかに、今号本誌でも大活躍の所英男の参戦も決定！ DREAMのアカウントTシャツを1名様にプレゼント！

DREAM■http://www.dreamofficial.com/

HUSTLE

サイン入り

サイン入りボノちゃんTシャツ

1名様

［ブラック／¥3,990（税込）］

すっかり独り立ちし、ボノちゃん部屋も開設。部屋衆3人で『羞恥心』を振り付けつきで熱唱など、さらに人気上昇中！　ボノちゃんのTシャツをサインつきで提供します。

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

SENGOKU& AKI HOSHINO

ほしのあきサイン色紙

ヒデ兄サイコー！　今号のインタビューでは『戦極』について熱く語ってくれながらも、かわいらしさも満点だったほしのあきさんの貴重なサイン色紙を２名様にプレゼント！

サイン入り

ほしのあきサイン入り 一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ

1名様

［ブラック／¥3,990（税込）］

あの戦極ポーズをTシャツにした『戦極!! 戦極!! Tシャツ』をなんと、こともあろうに天下のグラビアアイドル・ほしのあきさんのサインを入れて提供！　絶対、ほっし～の！

戦極■http://www.sengoku-official.com/pc/

HARDCORE CHOCOLATE

BACK

1名様

鼠先輩Tシャツ

［パープル／¥5,040（税込）］

『kamipro』も出店した『T-SHIRTS LOVE SUMMIT』を主催した人気ブランド、ハードコアチョコレートから『ハッスル』にも出演し人気急上昇中の鼠先輩のTシャツが登場だ。

ハードコアチョコレート■http://blog.core-choco.com/

ART JUNKIE

火祭り2008 Tシャツ

［ブルー／¥3,990（税込）］

ART JUNKIEからは先日、壮絶な激闘を制し、田中将斗が前人未踏の3連覇をはたした、ZERO1・MAXの"夏の風物詩"『火祭り2008』の公式Tシャツを1名様にプレゼント。

1名様

BACK

BACK

1名様

アルティメットボーイTシャツ

［オーシャンブルー／¥3,990（税込）］

同じくART JUNKIEから、腕のタトゥーがちょいワルなMMAキャラの究極少年、アルティメットボーイTシャツのオーシャンブルーカラーを1名様にプレゼント。

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

PANCRASE

BACK

1名様

北岡悟 フロックマ Tシャツ

［ホワイト／¥3,675（税込）］

ウェブサイト『kamipro.com』でも『戦極～第四陣～』のライト級GPに向け意気込みをたっぷりと語ってくれた、北岡悟のかわいいフロックマTシャツがコレだ！

PANCRASE■http://www.pancrase.co.jp/

QUEST

各1名様

牛を一撃で倒した男 大山倍達

［46分／¥6,800（税込）］

空手最強神話を作った極真空手の総裁、"ゴッドハンド"大山倍達の猛牛との伝説の決闘を収録。そのほか石割り、巻きワラ突きなど史上初公開の映像が満載!!

新極真会 第25回全日本ウェイト制空手道選手権大会 ［220分／¥5,880（税込）］

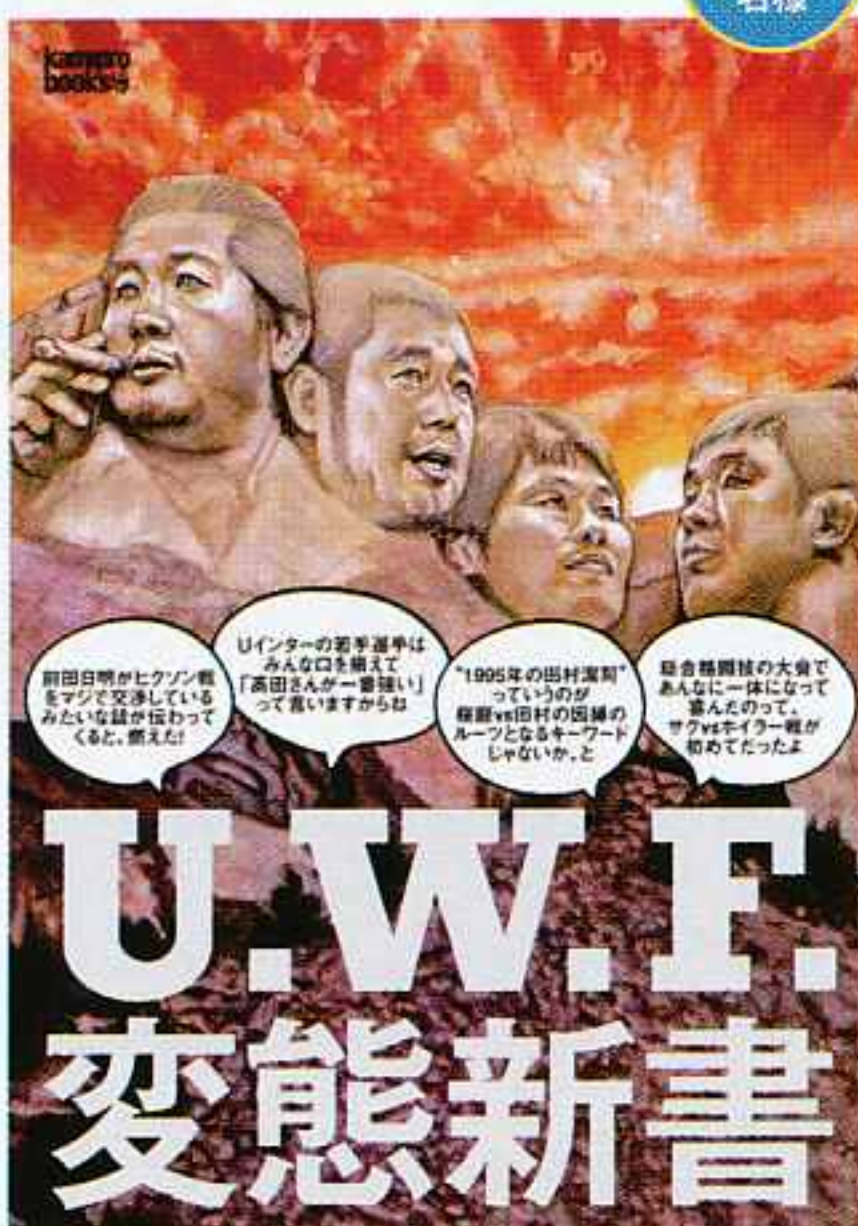
長谷川一幸 誰にでもできる極真カラテ 入門編 vol.2 ［84分／¥5,880（税込）］

極真空手全集「基本」スペシャル ［150分／¥5,880（税込）］

修斗ブラジル2007 ［142分予定／¥5,880（税込）］

QUEST■http://www.queststation.com/

BOOKS

2名様

U.W.F.変態新書

［エンターブレイン／¥1,680（税込）］

本誌の大人気企画で、UWFによって人生を狂わされた変態たちの究極の雑談、『変態座談会』を単行本化した一冊。本誌には掲載されていない「プロレス座談会」も特別収録。

エンターブレイン■http://www.enterbrain.co.jp/

REVERSAL

各1名様

LIGHTNING STAR Tシャツ

［ホワイト＆ブラック／¥4,200（税込）］

人気格闘ウェアブランドreversalからは、DEEP女子ライト級王者MIKUのモデルTシャツをプレゼント！　女性でも男性でもオシャレに着こなせるかわいいデザインです。

CHARGE BOTTLE

［ホワイト／¥3,675（税込）］

同じくreversalからスポーツ、アウトドア、仕事の合間の一服とさまざまな場面で人気のチャージボトルが到着！　ザックにも着用可能で丈夫で軽量な人気商品。

リバーサル ベアブリック

こちらもreversalから、限定生産の非売品「リバーサル ベアブリック」が登場！　ただいまこのベアブリックのキャンペーンも実施中。詳しくはホームページをチェック!!

reversal■http://www.rvddw.com/

kamipro 紙のプロレス

No.126
2008年9月3日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎（祝! 夫人ご懐妊のため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登"読者ペイジ"ジャクソン

編集次長（無念）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
大甲邦喜
金山フヒト

勘定&衣料部
ニュー林様

名演技
入江ジョーカー（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"増刷手配中"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川"はらぺこ"奈津子
宮沢"ゲット・バック"美奈

編集チアマダム
廣橋"蔵王"久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-6690-0647まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

大リニューアル第二弾は……、

こんな人が出てきそうな特集です!

特集イメージモデル＝津谷章嘉

NEXT ISSUE

ミドル級グランプリ決勝&開幕戦の行方は!?
9.23『DREAM.6』&9.28『戦極～第五陣～』情報も満載!
No.127は9月19日（金）発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れます。オリャ。